令和2年度

病院年報

第18号





高槻赤十字病院

理 念 ------

私たちは人道・博愛の赤十字精神に基づき、高度で安全な医療を提供し、地域の人々が誇りにする病院となるよう 努めます。

方 針 ---

- 1. 患者さんの人権と意思を尊重し、患者さん中心の医療をおこないます。
- 2. 一人ひとりの患者さんを全職員が支援する、チーム 医療をおこないます。
- 3. 患者さんのホームドクターと緊密に連携し、地域で 完結する医療をおこないます。
- 4. 常に向上心と研究心をもち、最高最善の医療が実現できるように努めます。
- 5. 健全な病院経営と地域に貢献できる医療従事者の育成に努めます。
- 6. 災害救護活動をはじめとする赤十字にかせられた使命を果たします。

患者さんの権利の尊重

- 1. 患者さんは個人として常にその人格を尊重される権利があります。
- 2. 患者さんは良質な医療を平等に受ける権利があります。
- 3. 患者さんは自分が受ける治療や検査の効果や危険性、他の治療法の有無等について、分かりやすい説明を受ける権利があります。
- 4. 患者さんは自分が受ける治療計画を立てる過程に参加し、自分の意見を表明し、自己決定する権利があります。医療機関を選択し、転院・退院する権利があります。
- 5. 患者さんは自分が受けている医療について知る権利があります。
- 6. 患者さんは自分の情報を自分の承諾無くして第三者に開示されない権利があります。

看護部の理念・・・・・・・・・・・

赤十字の理念に基づき、療養生活支援の専門家として、根拠に 基づいた安心・安全な看護を提供し、看護の対象者がその人な りの生活ができるよう支援します。

令和2年度病院年報出版にあたり

令和2年度(2020.4~2021.3)版病院年報がまとまりました。高槻赤十字病院のホームページにアップしています(http://www.takatsuki.jrc.or.jp)。

さて、病院年報は、その年度を振り返り、自己検証し、将来への発展的展開 を図るものです。今年も振り返ってみると様々な事がありました。

今年は何と言っても、新型コロナとの戦いが全てでした。そして今なおこの 戦いは続いています。対策本部を設置し、PCR検査機器を他院に先駆けていち 早く5月に導入、検査課は獅子奮迅の活躍でした。また、新型コロナの重点医療 機関として、9病棟をコロナ専用病棟にいたしました。

人事の面から、看護部長、事務部長が新たに着任されました。院長統括補佐が本社から派遣されました。また、呼吸器センター長をはじめとする人事もタイムリーに発令されました。病床管理室を院長直轄とし、入退院調整を強化いたしました。

一方、本部管理病院として病院経営がきわめて難しくなりましたが、今後の 進む方向性について本社の了解を獲得することができました。コロナの影響も あり、単月での減価償却前黒字を達成し、年度決算でのキャッシュフロー黒字 化がみえてきたことは幸いでした。

高槻赤十字病院は、日本赤十字社の一員として、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減し、生命と健康を守り、 人間の尊重を確保する赤十字の 人道の実践を通じ、地域の人々に誇りにしていただける病院となることを基本 としています。

この年報は、これらのことを実行していく上での基盤となります。今後とも この年報の精度を上げて、広く周知していくようにしたいものです。

> 令和4年度3月末日 院長 古川 福実

目 次

I	病	院の沿革	
	病	院の沿革	1
Π	病	院の現況	
	1.	病院の特色	5
	2.	施設の概要	6
	3.	各種法律に基づく医療制度指定・承認	6
	4.	各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況	7
	5.	診療体系	8
	6.	配置図	12
	7.	付近見取図	13
	8.	主な施設・機器	14
	9.	年 表 (沿革)	17
	10.	整備医療器械備品	20
Ш	組組	織及び職員	
	1.	高槻赤十字病院組織図	21
	2.	幹部職員	22
	3.	職員現況表	23
	4.	職種別・年齢別・職員構成表	23
	5.	会議及び委員会	24
IV	統	計	
	1.	令和元年度実績表 2	25
	2.	入院患者数	26
	3.	入院稼働額	27
	4.	入院単価	28
	5.	外来患者数	29
	6.	外来稼働額	30
	7.	外来単価	31
	8.	科別患者構成比	57
	9.	診療科年齢別構成表	58
	10.	救急患者数	59

	11.	剖検件数	60
	12.	紹介率・逆紹介率	61
	13.	食事別給食数	62
	14.	栄養指導件数	63
	15.	手術件数	64
	16.	分娩件数	65
	17.	特定保健指導	66
	18.	医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について	67
	19.	病院利益(損失)	68
V	退	院患者疾病統計	
	1.	月別退院患者数	69
	2.	科別·月別退院患者数 ·····	70
	3.	科別·転帰別退院患者数 ·····	71
	4.	疾病大分類別·性別退院患者数 ······	72
	5.	疾病大分類別·診療科別退院患者数 ······	73
	6.	疾病大分類別·転帰別退院患者数 ······	74
	7.	科別死亡数および剖検数	75
VI	診療	療科・部門別活動実績	
	糖质	尿病・内分泌・生活習慣病科	76
	緩和	和ケア科	79
	血剂	夜腫瘍内科	80
	循环	環器科	81
	消化	化器科・消化器内視鏡センター	82
	神紀	経内科	85
	呼呼	吸器外科	86
	呼呼	吸器科	87
	小	児科	91
	外	A	92
	脳	神経外科	95
	整	形外科	96
	形	戏外科	97
	皮质	いた	00
	1241	書科	フフ
		胃科	

	眼 科	104
	耳鼻咽喉科	105
	放射線科 及び 核医学科	106
	麻酔科	109
	救急部	111
	医療技術部	114
	薬剤部	118
	検査部	124
	病理診断科部	127
	看護部	128
	医療社会事業部	144
	医療安全推進室	157
	教育研修推進室	160
	事務部	161
VII	委員会活動	
	委員会	163
VII	誌上・講演発表	
	誌 上	208
	講演	216

I 病院の沿革

I. 病院の沿革

当院は、昭和16年11月2日、「日本赤十字社大阪支部病院分院阿武野勝景園」として誕生しました。 日本赤十字社大阪支部は、大正から昭和にかけて蔓延し、「亡国病」とまでいわれた結核の予防と治療 という国家的見地に立って、昭和10年頃から大規模な結核療養所の建設を計画していました。この計 画を知った東洋紡績株式会社からの寄付金を基金とし、各方面からの援助も得て、昭和15年6月より大規模な建設工事が始まりました。

生駒連峰を望み、北摂平野を見下ろす、林間景勝の地(当時の三島郡阿武野村、土室・奈佐原・塚原の三大字にわたる地域)にちなみ「阿武野勝景園」と命名され、敷地は約20万坪、近世式木造平屋建、一部2階建71棟、134室、250床を有し、非常時には400床の収容が可能な結核療養所が完成しました。しかしながら、竣工式の一ヵ月後の12月8日に太平洋戦争が始まり、当院も時代の大きな渦に飲み込まれて行くこととなりました。

昭和17年5月20日からは「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として、軍患者を収容することとなり、 昭和20年6月6日以降は「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍所属となり475名の 傷病兵を受け入れ救護にあたりました。

終戦後の昭和20年11月30日、軍病院は解除され、12月1日からは「大阪赤十字病院阿武野勝景園」 として軍患者以外の一般診療を開始し、昭和22年9月1日には、分院から昇格し「大阪阿武野赤十 字病院」と改称し独立しました。

戦後の厳しい状況下にあっても、患者の食糧や燃料の欠乏を補うため、農作業や薪炭作りの勤労奉 仕にあたり、また府下の有力大病院が結束して結成した結核病院協会に参画する一方、近接地域に結 核相談部を開設して巡回診療を実施するなど、事業進展に最大限の努力を行った時代でもありました。

戦後20年を経て高度経済成長の時代の中、千里丘陵での万国博覧会の開催と相まって高槻市、茨木市などは京阪神のベッドタウンとして大きな発展を見せはじめました。病院の周辺においても宅地造成が進み、隣接地域に約3000戸の公団住宅が建つなど目ざましいものがありました。住民の地域医療に対する渇望に応えることが求められるようになり、時を同じくして結核患者の急速な減少が見られるようになったことから、一般各科の診療を開始し、総合病院への転換を図ることになりました。

昭和45年1月1日、病院名を現在の「高槻赤十字病院」に改称し、同年2月より第一次病院整備事業として外来診療棟を中心とした、一般科患者の入院設備も有する鉄筋コンクリート造り、地下1階地上3階の新館において診療を開始しました。とはいえ、当院の設立のいきさつもあり、この時点では、一般病床99床に対し、結核病床は559床でした。

新薬の開発など、結核の予防と治療は飛躍的に進歩しました。結核患者の減少傾向は一層加速し、 懸命な経営改善への取り組みにも関わらず財政は悪化の一途をたどることとなり、ますます一般病床 への移行が重要な課題となってきました。

昭和53年10月31日、鉄筋コンクリート6階建て、延床面積22,991㎡の新病棟の完成により、 二次にわたった病院整備事業は一つの区切りを迎えることができました。この新病棟の完成により同年11月21日より名実ともに総合病院としての診療業務が開始されました。この時、一般病床322床、結核病床197床、合計519床と一般病床が結核病床を上回ることとなりました。その後も結核患者の減少と疾病構造の多様化に対応するため、結核病床の削減と一般病床の開設を順次行い、昭和61年2 月には、一般病床 454 床、結核病床 65 床に、そして平成 9 年 3 月末には、この 65 床も廃止し、厚 生省(当時)の結核患者収容モデル事業による陰圧室の病床(6 床)を設置することにより、一般病 床 446 床、結核病床 0 床の病院となりました。

地域医療への取り組みでは、平成4年4月の医療法改定を受けて、平成8年7月には「高槻赤十字訪問看護ステーション」を開設、平成10年10月には「開放型病院」認定、平成11年8月には介護保険法の制定により「高槻赤十字病院居宅介護支援事業所」を設置するなど、訪問看護の充実、在宅介護支援、地域診療所との連携を図りつつ、地域住民への医療サービスの提供に努めてきました。

こうした中、がんの増加とそれを受けての終末期医療の充実を求める声の高まりを受けて、平成 14年5月に緩和ケア病棟『Lakeside Home』(20 床)を尾広池の辺に開設しました。豊かな自然環境を生かした癒しの空間が特徴であり、「第1回癒しと安らぎの環境賞」の最優秀賞(ホスピス部門)を受賞しました。

また、当院の病院機能等への評価・格付けに関するところでは、平成 11 年 4 月には「臨床研修病院」の指定を受け、研修医の育成に貢献するとともに、平成 14 年 12 月には「地域がん診療拠点病院」に指定され、地域のがん診療の中核を担うこととなり、更に平成 16 年 2 月には第三者による医療機関の評価である「病院機能評価(Ver.3.1 一般病院 B)」の認定を受けました。

また、医療の I T化が叫ばれる中、平成 17 年 11 月に電子カルテシステムを稼働することができました。

医療機器の高度化・医療のIT化に伴い、安定した電力供給は必要不可欠なものとなり、環境保全・省エネルギー・省コストとともに、商用電力との併用による電力の二重化により、万一の際にも一定の電力が確保できるように、自家発電装置以外の発電設備としてガスコージェネレーションシステムを平成18年6月から稼動させました。

更に平成17年度にはこれらと並行し、老朽化・狭隘化という問題を抱えていた手術室を新たに外来 正面玄関前に新築移転することになり、2階部分にバイオクリーンルーム2室を含む計7室の手術室、 1階部分には生理機能検査室と外科の外来診察室、更には緩和ケア病棟や高槻市街が眼下に広がる場 所に『外来化学療法室』を持つ新手術棟・外来棟が平成18年3月に竣工しました。

続いて平成 18 年 10 月には、旧手術室を内視鏡室・血液浄化療法室などに改修するとともに、眼科・整形外科を中心に外来部門も整備改修し、診療機能の整備とアメニティの向上にも努めました。併せて病院建物全体の耐震補強工事を行い、万一の際にも赤十字病院としての医療機能を保持できるようにしました。

この病棟改修、手術棟・内視鏡室の新設・改修、外来部門の整備にあわせ、診療機能・管理体制の充実にも努めました。平成 16 年 4 月には、それまで皮膚科の中に含まれていた形成外科部門を独立した診療科として標榜するとともに、呼吸器科についても呼吸器科(呼吸器アレルギー内科)と呼吸器外科に分科し、それぞれの専門性を発揮できる体制としました。続いて平成 18 年 7 月には、「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」「緩和ケア科部」「血液・腫瘍内科部」「消化器外科部」「乳腺外科部」「がん統合治療科部」を院内標榜し、患者により分かりやすい診療体制をめざしました。同時に、院長直属の機関として「医療安全推進室」を設置、専任リスクマネジャーを配置し、複雑化する医療への安全管理と患者への安心の提供のために専門に取り組む体制を強化しました。平成 19 年 2 月には、患者・家族のがんに関する不安や悩みの相談に応え、各種の要望に迅速かつ適切に対応するために、『がん相

談支援センター』を設置しました。

この目まぐるしい病院運営の中にありながら、平成 18 年 11 月には、全国の赤十字病院が集う『第 42 回日本赤十字社医学会総会』を「地域の人々が感動し、誇りにする病院」をメインテーマに、当院の主催で国立京都国際会館にて開催し、全国から様々な職種が集い、1,000 名余りの参加を得て大成功を収めることができました。

近年急性期病院としての必須の機能であり、長年の懸案であった ICU について、施設基準としての特定集中治療室管理料は届出しないものの、その機能を十分に持った 6 床を平成 19 年 10 月に 3 病棟の一画に開設することができました。

また、看護師確保対策として"看護職員が働きやすい職場を作り上げる"を主軸とした、院内保育所(高槻日赤保育園『すくすく』)と病児保育室を院内に開設するなどの対策を施し、看護師の採用を積極的に行うことで平成20年2月には念願の7対1入院基本料を算定できるようになりました。

更に同年7月にはDPC対象病院として承認されました。厚生労働省では平成15年4月より大学病院などを中心とした「特定機能病院」で診断群分類別包括支払(DPC)と呼ばれる診療報酬の包括評価制度を導入し、以後徐々にその対象を広げ、当院でも導入の必要性を認めた事から、平成17年1月、事務部内に「診療情報管理課」を設置し、平成18年より"DPC準備病院"として調査データの提出を厚生労働省に対して行ってまいりました。

平成20年度より導入を進めてきた「放射線治療装置リニアック」も平成22年度4月には文部科学省の認可が下り、同年10月には厚生労働省"高エネルギー放射線治療"の稼働が許可され放射線治療を開始。翌年2月には正式に施設基準として認可され、大阪府がん診療拠点病院として癌治療に対する近代医療を提供することが可能となりました。

平成23年11月25日、医療機能の役割分担と連携、自院の役割の明確化と地域医療への貢献を主旨とし、予ねてより計画していた「地域医療支援病院」を取得。救急、紹介、特殊な技術を要する高機能外来など、急性期を中心とした医療提供体制を構築することができました。

平成24年2月には、より高度な内視鏡検査・治療に対応するため、消化器内視鏡センターを開設。また平成24年8月には緩和ケア診療科を開設し、緩和サポートチームが入院・外来を問わず患者のさまざまな苦痛の緩和、ご家族の抱える負担や気がかりへの関わり、治療方針や治療の場の選択にかかる意思決定などの支援を行い、ホスピスを提供する緩和ケア病棟と合わせ、緩和ケアにおける診療機能を充実させました。

平成26年1月26日には高槻市制70周年記念事業高槻市全域大防災訓練が開催され、当院から救護班として25名が参加、消防や各機関と連携して災害救護活動を実施し、赤十字病院としての使命を果たしました。

病院機能評価としては平成 16 年において病院機能評価 Ver.3.1 の認定、平成 21 年において病院機能評価 Ver.5.0 の認定を受けてから 5 年が経過し、平成 26 年 3 月に機能種別版評価項目 3 rd G:V er.1.0 の医療機関として改めて認定されました。

平成 26 年度から新たに「医療の質の評価を継続的に向上させる事業」Q I プロジェクトに参加を開始し、他の参加病院から医療の質改善の事例やノウハウを学ぶなど、病院経営や運営管理に生かす動きを行っています。

平成26年7月から患者支援センターを開設し、地域医療の中核病院としてかかりつけ医である開業医の先生方や回復期医療・福祉関連施設との連携を図り、地域における良質な医療を提供できる体制を確保し、紹介患者増加に努めています。

平成 26 年 7 月 26 日には医療の現場を知ってもらうことを目的として地域の中学生・高校生を対象にブラックジャックセミナー(手術体験セミナー)を開催し、地域社会への医療教育の貢献を行いました。

平成 26 年 8 月にはフェイスブック (SNS) を開設、11 月には病院診療科案内の冊子を初めて発行するなど様々な病院情報を発信し、広報戦略を展開させました。

平成27年3月から新たに眼科二次救急当直を毎週木曜日に開始し、医業収益の増収を図るとともに、 地域に必要とされる医療提供を行っています。

平成29年9月にJR摂津富田~病院間にてシャトルバスの運行を開始、また平成30年6月には IR 総持寺駅へ運行エリアを拡大し、病院へのアクセス改善を行っています。

平成30年12月には無菌治療室を9床(個室1室、4人部屋2室)増床、これまでの個室3室を合わせ合計12床とし、免疫機能が低下した造血幹細胞移植やがん化学療法の患者さんの入院受入体制を充実させました。

平成31年4月に電子カルテシステムを更新し、業務の効率化、迅速化を図りました。

令和元年5月には老朽化及び大阪府北部地震による損傷のため使用が困難な2病棟を8病棟に移動し、新たにレディース病棟としてリニューアルオープンし、新入院患者の増加を図りました。令和3年3月には、老朽化及び大阪府北部地震による損傷のため使用が困難な2病棟及び休棟となっていました4病棟併せて104床分を返還し、ダウンサイジングすることで、当院の身の丈にあった病床数335床へ変更となりました。

今後も赤十字の使命として災害救護活動をもとに、災害医療対応も地域と共同して推進し「人道・博愛」の精神に基づいた、安全・安心な医療を提供するとともに、さらなる急性期医療提供体制の強化と"継続と変革"を高いレベルで補完し、永続的な発展を行える医療機関として日々邁進していきます。

Ⅱ 病院の現況

1. 病院の特色

医療機能

- ◎ 大阪府より『地域医療支援病院』に承認され、地域医療連携室を通じ、登録医の先生方との連携を密にし、地域に根差した病院として尽力しています。また、地域の登録医からの入院用に『開放病床』を49床設置しています。
- ◎ 大阪府より『がん診療拠点病院』の指定を受けており、地域のがん診療の中心的役割を担っています。また、『がん相談支援センター』の設置、平成22年10月には『放射線治療装置リニアック』の導入を行い、医療機能充実に努めています。
- ◎『2次救急告示病院』として地域の救急医療に貢献しています。
- ◎ 三島地区における『大阪府災害医療協力病院』として災害発生時の医療体制の提供を担っており、 大規模災害時や救急時に対応できるように、ヘリコプターが離発着できるヘリポート用グラウン ドを有しています。
- ◎ DPC対象病院として、平成20年7月より包括請求を実施しています。
- ◎ 看護体制を整備し、『急性期一般入院料1』を取得しています。
- ◎『光・水・緑』豊かな環境を生かした『緩和ケア病棟』を開設し、がん患者のケア施設として、 身体的苦痛だけでなく、孤独感や不安を軽減し、患者さんがその人らしく尊厳を持って生きるこ とのできる環境を提供しています。
- ◎ HCUを設置し、さらなる急性期医療の充実に努めています。
- ◎ 院長直属の組織として『医療安全推進室』を設置し、専任リスクマネージャーのもと、医療安全の推進に取り組んでいます。
- ◎ 一部の診療科はセンター化を行っており、より専門的な臓器別診療科や特殊外来の充実に努めています。
- ◎ 患者さんやそのご家族が住み慣れた地域で療養生活が継続できるよう他職種による協同支援体制を目的とした患者支援センターを開設しています。

その他

- ◎ 厚生労働省の臨床研修病院『基幹型臨床研修病院』として、また京都大学や大阪医科大学の臨床 研修協力病院(施設)として、医師の初期研修の場として貢献しています。
- ◎ 電子カルテシステムを運用しており、診療情報の共有、医療の質の向上に努めています。
- ◎ 看護職員等の労働環境改善のために、『院内保育所』や『病児保育所』を開設しています。
- ◎ 医師職員の労働環境改善のため『医師事務補助職員』の導入を行っています。

2. 施設の概要

病 院

所 在 地 高槻市阿武野一丁目1番1号

敷地58,841.39㎡建物建築面積11,242.47㎡建物延床面積30,154.96㎡

付属施設

訪問看護ステーション

所 在 地 高槻市阿武野一丁目1番1号

3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認

保険医療取扱機関臨床研修指定病院

国民健康保険療養取扱機関 大阪府災害医療協力病院

当災保険指定病院 母体保護法指定病院

生活保護法指定病院

救急告示病院 第二種感染症指定医療機関

大阪府肝炎専門医療機関
公害健康被害補償法公害医療機関

児童福祉法医療給付指定医療機関原子爆弾被爆者医療指定機関

大阪府がん診療拠点病院 地域医療支援病院

難病指定医療機関 小児慢性特定疾病指定医療機関

4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況

担当診療科	名称
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
内科	日本内科学会認定医制度教育病院
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	日本糖尿病学会認定教育施設
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	日本内分泌学会認定教育施設
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	日本老年医学会認定施設
緩 和 ケ ア 科 緩和ケア診療科	日本緩和医療学会認定研修施設
血 液・腫 瘍 内 科	日本血液学会認定血液研修施設
循 環 器 科	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
消 化 器 科	日本消化器病学会専門医制度認定施設
消 化 器 科	日本消化器内視鏡学会専門医指導施設
呼 吸 器 外 科	呼吸器外科專門医合同委員会呼吸器外科專門医制度基幹施設
呼 吸 器 外 科	日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設
呼吸器外科 呼吸器科	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
呼 吸 器 科	日本呼吸器学会認定施設
呼 吸 器 科	日本アレルギー学会認定教育施設
外科	日本外科学会外科専門医制度修練施設
外科	National Clinical Database 施設会員
消化器外科	日本食道学会全国登録認定施設
乳 腺 外 科	日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
乳 腺 外 科放 射 線 科	日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設
整形外科	日本整形外科学会専門医制度研修施設
形 成 外 科	日本形成外科学会教育関連施設
皮 膚 科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
皮 膚 科	日本アレルギー学会認定教育研修施設
泌 尿 器 科	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設
産 婦 人 科	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
産 婦 人 科	日本周産期·新生児医学会周産期専門医制度暫定研修施設(補完研修施設)
眼科	日本眼科学会専門医制度研修施設
耳 鼻 咽 喉 科	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
麻 酔 科	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
病 理 診 断 科	日本病理学会研修認定施設 B
病 理 診 断 科	日本臨床細胞学会教育研修施設
薬 剤 部	日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
薬 剤 部	日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
薬 剤 部	日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
栄 養 課	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設

5. 診療体系

診療科目 25科

内 科 (内科、緩和ケア科)

糖尿病・内分泌・代謝内科(糖尿病・内分泌・生活習慣病科)

血 液 内 科 (血液・腫瘍内科)

脳 神 経 内 科 消 化 器 内 科 循 環 器 内 科 呼 吸 器 内 科 呼 吸 器 外 科

外 科 (血管外科) 消化器外科 脳神経外科 整 形 外科

産婦人科小児科眼科皮膚科形成外科

耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 泌尿器科 放射線科 麻酔科

病理診断科 乳腺外科 美容皮膚科

専門外来

内 科 リウマチ・膠原病外来、緩和ケア

糖尿病・内分泌・代謝内科 糖尿病・内分泌外来、フットケア外来

血 液 内 科 血液外来、移植後外来(造血幹)

脳 神 経 内 科 神経内科外来

消 化 器 内 科 消化器外来

循 環 器 内 科 循環器外来

呼 吸 器 内 科 睡眠時無呼吸外来、禁煙外来、ほっとひといき看護外来

呼吸器外科

外 科 消化器外来、乳腺外来、ストマ外来

脳神経外科

整 形 外 科 脊椎外来、肩外来、リウマチ外来

産 婦 人 科 子宮癌検診

小 児 科 心臓外来、ダウン症候群・神経外来、乳児健診、1カ月健診、

小児アトピー性皮膚炎外来

眼 科 緑内障外来、ロービジョン外来、網膜外来、眼形成外来

皮 膚 科 美容皮膚科外来、褥瘡外来

形 成 外 科 レーザー外来

耳鼻咽喉科 めまい外来

リハビリテーション科 身障診断

泌 尿 器 科 排尿ケア外来

病 棟

許可病床 3 病棟 36床 5 病棟 58床 58 床 6 病棟 7 病棟 49 床 8 病棟 52 床 9 病棟 56床 緩和ケア病棟 20 床 HCU 6床

計 335 床 (3/31 末現在)

施設基準

基本診療科

一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1)

総合入院体制加算3

救急医療管理加算

診療録管理体制加算1

医師事務作業補助体制加算2(20対1)

急性期看護補助体制加算(50対1)

看護職員夜間配置加算(16対1配置加算1)

重症者等療養環境特別加算

無菌治療室管理加算1

無菌治療室管理加算2

栄養サポートチーム加算

医療安全対策加算1

感染防止対策加算1

患者サポート体制充実加算

褥瘡ハイリスク患者ケア加算

ハイリスク妊娠管理加算

後発医薬品使用体制加算1

病棟薬剤業務実施加算

データ提出加算2イ

入退院支援加算1 (入院時支援加算·総合機能評価加算)

認知症ケア加算1

せん妄ハイリスク患者ケア加算

精神疾患診療体制加算

地域医療体制確保加算

ハイケアユニット入院医療管理料 1

小児入院医療管理料4

緩和ケア病棟入院料2

特掲診療料

外来栄養食事指導料の注2

心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算

糖尿病合併症管理料

がん性疼痛緩和指導管理料

がん患者指導管理料イ

がん患者指導管理料ロ

がん患者指導管理料ハ

移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)

糖尿病透析予防指導管理料

院内トリアージ実施料

夜間休日救急搬送医学管理料の注3に揚げる救急搬送看護体制加算

外来放射線照射診療料

ニコチン依存症管理料

開放型病院共同指導料

がん治療連携計画策定料

肝炎インターフェロン治療計画料

薬剤管理指導料

医療機器安全管理料 1

在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料

在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算

持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定

骨髄微小残存病変量測定

BRCA1/2遺伝子検査

HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)

検体検査管理加算(I)

検体検査管理加算(Ⅳ)

時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト

ヘッドアップティルト試験

小児食物アレルギー負荷検査

画像診断管理加算2

CT撮影及びMRI撮影

冠動脈CT撮影加算

心臓MRI撮影加算

乳房MR I 撮影加算

小児鎮静下 MRI 撮影加算

抗悪性腫瘍剤処方管理加算

外来化学療法加算1

連携充実加算

無菌製剤処理料

心大血管疾患リハビリテーション料(I)

脳血管疾患等リハビリテーション料(I)

運動器リハビリテーション料(I)

呼吸器リハビリテーション料(I)

がん患者リハビリテーション料

集団コミュニケーション療法料

人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)

導入期加算1

透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算

下肢末梢動脈疾患指導管理加算

脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術

緑内障手術 (緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの))

緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)

乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)

乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)

食道縫合術 (穿孔、損傷) (内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、 胃瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、腎 (腎盂) 腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、 腟腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術

大動脈バルーンパンピンク*法(IABP法)

体外衝擊波胆石破砕術

腹腔鏡下肝切除術

腹腔鏡下膵腫瘍摘出術

腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術

早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術

体外衝擊波腎·尿管結石破砕術

腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術

人工尿道括約筋植込・置換術

腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術

胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)(医科点数表第2章 第10部手術の通則の16に掲げる手術)

輸血管理料 I

輸血適正使用加算

自己生体組織接着剤作成術

人工肛門·人工膀胱造設術前処置加算

胃瘻増設時嚥下機能評価加算

麻酔管理料(I)

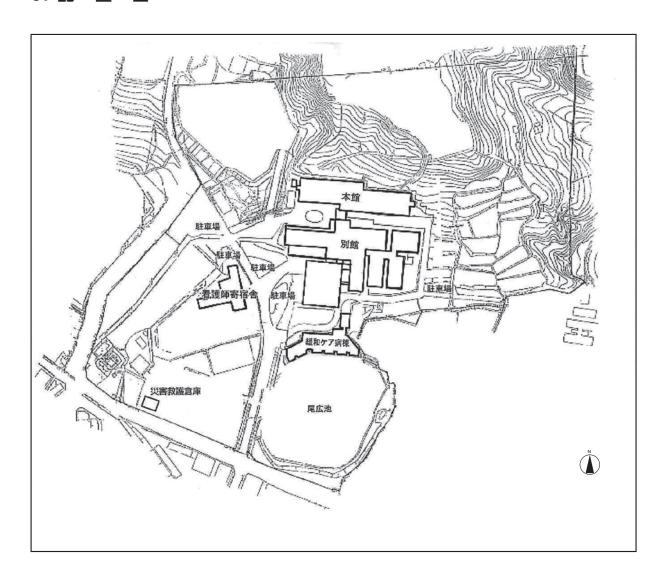
高エネルギー放射線治療

病理診断管理加算1

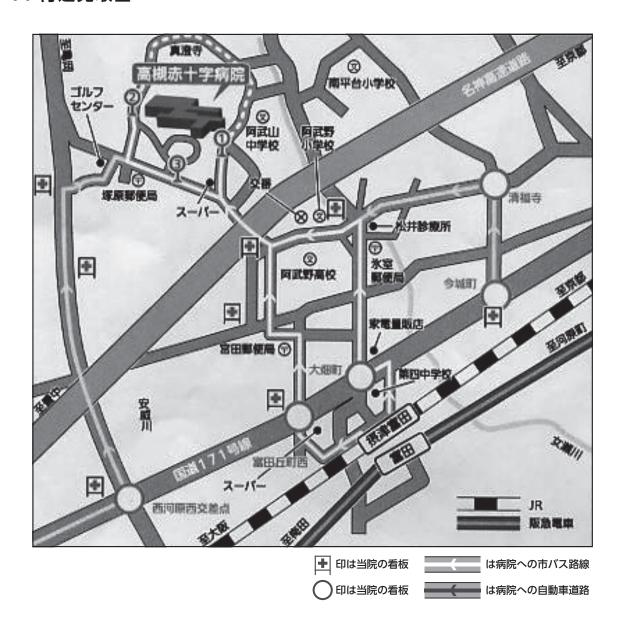
悪性腫瘍病理組織標本加算

(令和3年3月31日現在)

6. 配 置 図



7. 付近見取図



8. 主な施設・機器

医療用リニアック Clinac iX

東芝 マルチスライス CT Aguilion64&8

X線アンギオグラフィシステム Infinix Celeve-i

吸収補正用 CT 付き 核医学診断撮影装置 (RI)

ICU にかかる医療用機器

GE 超音波診断装置 Vivid E9

多目的デジタル X 線 TV システム

泌尿器科用 X 線テレビ装置 UROVISION II

眼科用手術顕微鏡

超音波診断装置

据置型デジタル式汎用 X 線透視診断装置 EXAVISTA 一式

ユヤマ 注射薬自動払出機

網膜硝子体手術器械コンステレーションビジョンシステム

東芝フルデジタル超音波診断装置 Xario

デジタル超音波診断装置 HI VISION Preirus

内視鏡ビデオシステム EVIS LUCERA SPECTRUM

内視鏡ファイリングシステム SolemioEndo

山田医療照明 スカイルックス ゼニス A 型

臨床用ポリグラフ

マルチカラースキャンレーザー光凝固装置 MC-500Vixi

東芝 外科用 X 線装置

ホルタ心電図解析システム

外科用 X 線装置

サクラ精器 高圧蒸気滅菌装置

PillCam カプセル内視鏡画像診断システム・

冨士フィルムメディカル ダブルバルーン内視鏡

AutoVue

ベッドサイドモニタ6台

ハイビジョンカメラシステム

瑞穂医科 分離式電動手術台

シラス HD-OCT

超音波診断装置 ARIETTA70

バーサパルスセレクト 30W(ホルミウムレーザー)

ミズホ 分離式電動手術台 整形用

体外衝擊波結石波砕装置 (ESWL)

患者監視装置 WEP-5208

全身麻酔器 Apollo

ドレーゲル 全身麻酔装置

Q スイッチルビーレーザー IB101

オリンパス内視鏡外科手術システム

診断用 X 線撮影システム RADIOTEX

CUSA EXcel

白内障手術装置インフィニティビジョンシステム

ICG 付眼底カメラ+無散瞳システム

VIO3 5 ソケットモデル (超音波切開装置)

移動型手術台 MEERA

山田医療照明 スペースラブリブラ TV カメラシステム CD/DVD/BD ディスク発行システム

ウォッシャーディスインフェクター ダブル

患者監視装置

532 レーザー眼科光凝固装置 ピュアポイント

電動油圧手術台

ミズホ マイクロサージャリー手術台

内視鏡システム VISERA PRO

電動油圧手術台

単票式薬袋プリンター

超音波診断装置 Nemio XG

補助循環装置システム バイオコンソール等

レスピロニクス 終夜睡眠ポリグラフ検査装置

超音波診断装置 X300 Premium Edition

超音波画像診断装置 SonoSite M-Turbo

リトクラスト2

眼底カメラ接続取込端末一式

フィリップス 経食道用オムニプレーンⅢセクター型トランスデューサー

核医学ワークステーション

患者監視装置

血液浄化装置

感染防止機能付 クリオスタット

眼科用 ヤグレーザー手術装置 YC-1800

喘息診断測定システム

輪液ポンプ・シリンジポンプ

超音波診断装置 Prosound α 6

医用テレメーター(送信機4台付)

携带型超音波診断装置

電子スパイロメータ

SonoSite MicroMaxx(携帯型超音波診断装置)

CV5030 カバーガラス自動封入装置

IABP 駆動装置 corart

大腸細径ビデオスコープ

インフィニティモニタリングシステム デルタ XL

モニタリングシステム

トレッドミル一式

セントラルモニター MU-960R

超音波診断装置 PROSOUND-6

産婦人科外来ビデオシステム

IABP 駆動装置 コラート BP

回診用 X 線撮影装置 MobleArt Lumina

眼底観察システム Resight700

ニプロ 個人用 HDF 装置

超音波診断装置 SONOVISTA FX premium edition

超音波画像診断装置 SonoSite M-Turbo

炭酸ガスレーザー手術装置 レーザリー

気管支ビデオスコープ

大研 ステリキープ手洗いユニット

ステリキープ手洗いユニット

内臓脂肪測定装置 DualScan

人工呼吸器 ハミルトン C1

回診用X線撮影装置

気管支ビデオスコープ

エアウェイマネジメントモバイルスコープビデオスコープ2台

回診用 X 線撮影装置 MobileArt Evolution MX7 version

眼科用冷凍手術システム

オートレンズメーター LM1800PD

角膜形状屈折力解析装置 OPD-Scan Ⅲ (中古品)

ハンフリーフィールドアナライザー

スリットランプ カメラ監視装置システム

スペキュラーマイクロスコープ

光学式眼軸長測定装置

外科用 X 線テレビシステム

診察台

VIO3 5 ソケットモデル (超音波切開装置)

治療用電気手術器 Valleylab FT10

リューザブルエンドスコープショート

生物顕微鏡

超音波診断装置

ビーライン BeeFiles for HFA(800 シリーズ)

血液保冷庫

フラットパネル デジタルラジオグラフィー AeroDR 一式

フラットパネル画像ワークステーション 一式

フラットパネル大林製長尺用撮影台

フラットパネル島津製立位撮影台

クリンパーティション

感染対策空気清浄ユニット NRC-601D

医用テレメータ WEP-1450(12 人用)

クリンパーティション

心電計一式(心電計・トレッドミル・エアロモニタ)

回診用 X 線撮影装置 MobileArt Evolution

CO2 センサキット

OuantStudio5 リアルタイム PCR システム 96 ウェル PC 付パッケージ

酸素ブレンダ

感染対策空気清浄ユニット NRC-601D

人工呼吸器 HAMILTON-C1

COOL-TIP RFA ジェネレーター

超音波診断装置 Viamo SV7

送信機 ZS-630P

医用テレメータ (12 人用)WEP-1450

次亜塩素酸空間除菌脱臭機 ジアイーノ F-JDL50-W(寄付)7式

外科用 X 線テレビシステム OPESCOPE ACTENO

安全キャビネット BHG-T701 II A2-G

搬送用モニタ BSM-1763

ハイブリッド高速冷却遠心機 一式

2 クランクキャッチベッド KB-655C

壁掛け縦型モニター 55BDL4050D/11

自動遺伝子装置 TRCReady-80 一式

エクスケアバイク RG-EM400

送信機 ZS-630P

ベッドサイドモニタ PVM-4763-Q20 他

気管支ビデオスコープ BF-Q290

メラ遠心血液ポンプシステム (拡張ユニット付) 一式 テルモ 無菌接合装置 TSCD

ECU4 バンドルセット ECU4B1000 他 一式

内視鏡用診察台 EX-ESD

気管支ビデオスコープ

そのサージジェネレーター(超音波切開装置)

小林メディカル 電気メス 5000

パワープロ・システム スモールハンドピース等

体成分分析装置 InBody

フクダ 呼気凝縮液採取装置 エコスクリーン

インバータ式コードレス移動型 X 線装置

心電計 (解析機能付)

トンプソン リトラクタ (開創器)

視覚誘発反応測定装置 (ERG)

超低温フリーザー

オリンパス システム生物顕微鏡

人工呼吸器 Infinity EvitaV500

人工呼吸器 HAMILTON-C2

ドレーゲル 人工呼吸器 Savina

フィリップス成人用人工呼吸器 V60 ベンチレータ Auto-Track+

ビジランスヘモダイナミックモニター (心拍出量測定装置)

ハイスピードドリルプリマド2一式

ビデオ縦隔鏡セット

ドレーゲル 人工呼吸器 Savina

パワープロエアーミニドライバー

骨塩量測定装置ダイクロマスキャン Dichroma Scan

電動マイクロドリルシステム

超音波画像診断装置

キュリーメータ

睡眠評価装置 ソムノスクリーン BT-plus

メラ高頻度ジェットベンチレータ

個人用透析装置 NCU-12

セントラルモニター WEP-5204

ソニー製 ZEISS 眼科手術顕微鏡用カメラ装置一式

心電計

電動診察イス

自動浸透圧測定装置オズモステーション

自動血球洗浄遠心機 MC450

ジンマー HALL50 シングルトリガーハンドピース一式

グライドスコープビデオ咽頭鏡システム

血液ガス分析装置 ラピッドポイント 500

日本光電 解析機能付心電計

ステリルガードⅢ

デフィブリレータ (除細動器) TEC-5631

ジンマー ATS2000 タニケットシステム

メディサームⅢ (高・低体温維持装置)

ディブリレーター (除細動器) TEC-5631

システム生物顕微鏡

ウレテロレノスコープセット 6FR 841-420

タカラベルモント 外科用手術台

トーイツ アクトカルディオグラフ

個人用透析装置 NCU-12

ポータブル気管支ファイバースコープ

フロア型冷却遠心機

メドトロニック XPS マイクロシステム

レッグ CPM L4KD-100 ベッドサイドモニタ ヘモクロン レスポンス (血液凝固計) ベッドサイドモニター OES ヒステロファイバースコープ イソメディカル 脊椎外科用手術フレーム 集細胞遠心装置 サイトスピン 4 ジンマー パワープロエアーオシレーター 喉頭ファイバースコープ クボタ ユニバーサル冷却遠心機 ライカ 滑走式ミクロトーム ベットサイドモニタ PVM-2701 バイオメディカルペースメーカーテスタ ジンマー M パワー 2 スターナムソーハンドピース一式 MRI 室用パルスオキシメータ ガンブロ 個人用逆浸透精製水システム CPM ユニット レッグ用 KSメジャー ベッドサイドモニタ ケイセイ メッシュダーマートーム (形成外科) 日本光電 生体情報モニタ 東機貿 サーティファイアー FA テストシステム ヒラタニ 器械展開台 平山製作所 新高圧滅菌器 ベッドサイドモニタ フィリップス自動体外式徐細動器 ハートスタート 自己血回収装置セルセーバー5+(中古品) ヘッドライトシステム(呼吸器外科) ストレートショット M4 ハンドピース デスフルラン用気化器 Drager D-Vapor-desflurane タンゴ M2 ECG ボード付システム 運動負荷血圧計 TangoM2 エルマン サージトロン EMC(フットスイッチ付) 付属品除く 生体情報モニタ Vital Sensor S 光学視管 12°Φ 4mm フジレスピロニクス 簡易睡眠検査装置 スターダストⅡ 黄疸計 サカセ オーダーリングカート レビテーター NIOX MINO(一酸化窒素ガス分析装置) ミニメド 620G インスリンポンプキット 一酸化窒素ガス分析装置ナイオックス NIOX VERO ヒラサワ テーハー式ウィークリー恒温器 体外式ペースメーカー 薬用冷蔵ショーケース ニコン 顕微鏡用デジタルカメラ シャワーストレッチャー

流量計付ブレンダー アイケア手持眼圧計 全自動錠剤分包機 散薬監査システム

全自動散薬分包機 (2 枚円盤タイプ) 抗がん薬調製支援システム 病院版ピッキングサポートシステム 一包化錠剤仕分け装置 注射薬自動払出装置 スーチャーカッター デジタルマンモグラフィ CAD ドレーゲル人工呼吸器 Savina300 メラ 改良モース開胸器 0452008500 Synergy Resection シェーバーコンソール 一式 Synergy RF コンソール 一式 超音波診断装置 Aplio a Verfia ベッドサイドモニタ PVM-4761 一式 自動染色装置 AUTOSTAINER XL ベッドサイドモニタ BSM-3562-Q21 一式 (BIS モニタ付) カラービデオプリンター レビテーター I-LHPAMUR 623-003-01 他 一式 個人用多用途透析装置 TYPE E他一式 心電計 ECG-2450 超音波診断装置 EPIQ Elite DS 誘発電位検査装置 Neuropack S3 医用テレメータ (8人用) WEP-1450 一式 セントラルモニタ CNS-6101 一式 陰圧排気 / 空気清浄機ユニット 眼科用手術台メプロ 4J 全身用 X 線 CT 装置 Aquilion Prime SP/i Edition 心臓マッサージシステム Ver.3.1 LUCAS Ⅲ 点滴作業台 ブルー 心電計 ECG-2450 センテックデジタルモニターシステム クリンパーティション ドレーゲル人工呼吸器 Savina300 一式 ハイエンドクリニカルフローサイトメーター NAVIOS EX 2レーザー6カラー 陰圧式エアーテント NP-45 血圧脈波検査装置 FORM-5 ハイローストレッチャー KK-728 フリーズ NF-75HC (冷凍庫) 薬用保冷庫 FMS-650L 陰圧ブース CL-905 他 一式 HEPA フィルター付パーテーション(清浄供給タイプ) HEPA フィルター付パーテーション (除染除去タイプ) 自動遺伝子装置 TRCReady-80 一式 高精細 2M カラーモニタ 加温加湿フロージェネレーター Airvo2 一式

9. 年 表(沿革)

```
昭和15年 6月 8日
             療養所起工式並びに地鎮祭。
昭和16年11月 2日
            日本赤十字社大阪支部病院分院「阿武野勝景園」竣工。
昭和17年 5月20日
             「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として軍患者を収容。
昭和18年 1月 1日
             日本赤十字社支部病院管理規則により「大阪赤十字病院阿武野分院」
             に改称。
昭和20年 6月 6日
             「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍属となる。
     11月30日
            軍病院を解除。
     12月 1日
            大阪赤十字病院分院阿武野勝景園として一般診療開始。
昭和22年 9月 1日
             分院より昇格(独立)大阪阿武野赤十字病院と称す。
昭和23年 6月 9日
            大阪阿武山赤十字病院と改称。
昭和26年11月 1日
            完全看護制度実施。
昭和27年 5月 6日
             医療社会事業部を新設。
     10月15日 勝景園神社を阿武山神社と改称。
     11月20日 中央材料室開設。
昭和34年 4月10日
            病院機関紙として「阿武山ニュース」(現:日赤たかつき) 創刊号発行。
            手術棟(鉄筋コンクリート平屋建)竣工。
     11月 5日
昭和35年 1月18日
            北朝鮮帰還列車添乗派遣を開始。
昭和44年12月 5日
            病院第一次増改築工事竣工式。
昭和45年 1月 1日
            高槻赤十字病院と改称。
      2月 2日
            新館開設、一般外来及び入院診療開始。
             (一般99床、結核559床)
昭和45年 9月 1日
           大阪府労災指定病院に承認。
            大阪府救急指定病院に指定。
     11月 3日
昭和47年 2月 1日 一般病棟(新館)「特類看護」の承認。
昭和49年12月 3日 看護婦寄宿舎(鉄筋コンクリート4階建)竣工式。
            耳鼻咽喉科の診療開始、総合病院となる。
昭和52年 7月 1日
     10月31日 病院第二次増改築工事竣工式。医療法による許可病床を
             421床とする。(一般224床、結核197床)
            理学診療科部 (現:リハビリテーション科部) 新設。
     12月 1日
昭和54年 1月
            放射線科部にRI検査を新設。
昭和55年 4月16日
            1病棟開設、定床37床。医療法による許可病床458床。
             (一般261床、結核197床)
      4月16日
            全身用東芝CT-60A型スキャナー導入。
昭和58年 8月17日 障害等級2・3級の小児転地療養事業(健康回復キャンプ)実施。
             8病棟(結核病棟)を閉鎖、一般科病棟に転換、実働病床
昭和61年 2月24日
             375床(一般310床、結核65床)。
昭和62年 5月11日 上の池(溜池)を埋立て、駐車場用地とする。
昭和63年 4月 1日
            理学診療科(現:リハビリテーション科)に作業療法室を開設。
平成 3年11月 5日 創立50周年記念祝賀会開催。
平成 4年10月 1日 麻酔科部の設置。
     12月18日 外来增改築工事完成。
平成 5年 9月 1日 総合リハビリテーション承認施設。
平成 6年10月21日 許可病床数、519床より511床へ変更。
```

```
平成 7年 1月17日
            兵庫県南部地震(阪神・淡路大地震)による被災者救護活動開始。
      8月 1日
             高槻赤十字訪問看護ステーション開所式。
平成 8年 9月 2日
            「MRI棟|増改築工事完成。病院構造設備使用許可。
平成 9年 3月31日
             結核病棟廃止。(一般病床446床、結核0床)
平成10年10月 1日
             開放型病院の指定。(12床)
             (平成11年6月~ 40床、平成13年10月~ 49床)
             剖検慰霊祭を以後毎年実施。
     11月26日
平成11年 4月 1日
             厚生省臨床研修病院の指定。
      8月31日
             指定居宅介護支援事業者となる。
平成12年 1月 1日
             院外処方箋の実施。
      8月21日
             アレルギー科の診療を開始する。
     10月 1日
            病診連携係(現:地域医療連携課)設置。
平成13年 3月 1日
            産婦人科病棟全面改修。
      4月 1日
             脳神経外科開設。
      7月 9日 7病棟全面改修。48床(血液内科、透析、外科、化学療法)運用開始。
平成14年 5月 7日 緩和ケア病棟開設。(全室20床)
             業務委託による診療材料の定数管理(SPD)実施。
     10月 1日
             駐車ゲートシステム導入、外来患者以外の駐車有料化実施。
     10月15日
     12月 9日
            地域がん診療拠点病院の指定を得る。
             業務委託による検査室共同運営(FMS)実施。
平成15年 1月
      7月 1日
            一般病棟1群入院基本料1許可。(2対1看護)
平成16年 2月16日
             病院機能評価 Ver.3.1(一般病院種別B)認定。
            形成外科、呼吸器外科の開設。(アレルギー科の廃止)
      4月 1日
     12月 7日
            4・5・6・8・9病棟の改修終了
             MRI装置入れ替え実施。
平成17年 1月 1日
             診療情報管理課設置。
             事務部総務課に医療安全係設置。
            亜急性期病床開設(20床)
      1月 4日
      3月 1日
            救急部設置。
     10月27日 NST運用開始。
     11月 1日
            雷子カルテ稼動。
平成18年 3月27日 新手術棟完成 竣工式。
             (1階外科外来・生理検査部門/2階手術室・中央材料室)
             ガスコージェネレーションシステム運用開始
平成18年 6月 1日
平成18年 7月 1日
             「医療安全推進室」設置、「癌統合治療科部」設置。
             「第一内科」を「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」と「緩和ケア科部」
             に分科。「第二内科部」を「血液・腫瘍内科部」に名称変更、「第一外
             科部」を「消化器外科部」に名称変更、第二外科部」を「乳腺外科部」
             に名称変更。
平成18年10月
             全手術部門及び外来改造工事、病院建物(本館・別館)の耐震工事、
             並びに3病棟改修工事完了。
平成18年10月20日 マルチスライス CT 64列の導入。
平成18年11月16日 第42回日本赤十字社医学会総会主催(於国立京都国際会館)。
平成18年12月16日 日本人間ドック学会「人間ドック健診施設機能評価」認定。
平成19年 1月 4日 院内保育所高槻日赤保育園『すくすく』開園。
```

```
平成19年 2月 1日 がん相談支援センター室設置。
             病児保育室を委託開設。
平成19年 4月 1日
             「医療技術部」を新設(臨床工学技術課、栄養課を設置)。
             医療社会事業部地域医療連携課内に「がん相談支援センター室係」を
             新設。
平成19年 7月 1日
            教育研修推進室設置。
平成19年10月 1日 ICU(院内基準)開設。
平成20年 2月 1日
             一般病棟7対1入院基本料施設基準届出受理。
平成20年 2月 8日
            地域がん診療連携拠点病院の指定更新。
平成20年 6月 1日
            週休二日制実施。
平成20年 7月 1日
             DPC対象病院として請求開始。
             放射線画像等フィルムレス運用開始。
平成21年 2月16日
             病院機能評価 Ver.5.0 認定
平成21年 8月15日
             兵庫県佐用町の台風9号水害による被災者救援活動のため、
             医療救援班を派遣。
             X線アンギオ装置(血管造影装置)の入れ替え実施。
平成22年 3月15日
平成22年 3月
             災害救護倉庫の整備。
平成22年 4月 1日
            事務部医療安全課設置。
             エコロジーガーデン設置。
平成22年 6月
平成22年10月
             患者・家族向け図書コーナー設置。
平成22年10月 1日 放射線治療システム「リニアック」導入完了・治療開始。
平成23年 3月15日
             東日本大震災により、宮城県庁前・岩手県山田町へ医療救護班を派遣
             (3/15 \sim 5/26).
平成23年 3月30日
             震災により石巻赤十字病院支援派遣(3/30~4/4・5/9~5/14)。
平成23年 4月 1日
             神経内科開設。
平成23年11月25日
            地域医療支援病院に承認される。
平成24年 2月 1日
            消化器内視鏡センター開設。
平成24年 8月 1日
            緩和ケア診療科開設。
平成24年12月 1日
            医療社会事業部地域連携推進課設置。
平成25年 4月 1日 事務部研修課設置。
平成26年 3月 7日
             機能種別版日評価項目 3 rdG: V er.1.0 認定。
平成26年 7月
             患者支援センター開設。
平成26年 9月
             病理診断科標榜。
平成28年 3月
             消化器外科標榜。
平成29年 9月 1日 病院~JR 摂津富田駅間でシャトルバス運行開始。
平成30年 1月
             糖尿病・内分泌内科、血液内科標榜。
平成30年 4月
             事務部人事課設置。
平成30年 6月
             シャトルバスの運行をJR総持寺駅へ拡大。
平成30年12月
             無菌治療室を9床増設(合計12床)。
平成31年 4月
             電子カルテシステムの更新
令和元年 5月
             病棟の再編成実施。2病棟を8病棟に移動し、レディース病棟として
             運用。
令和元年11月
             乳腺外科、美容皮膚科標榜。
令和元年 2月
             駐車場リニューアル。(駐車スペース増加、一般駐車場全面舗装)
令和2年4月
             病床管理室設置
```

2病棟、4病棟病床返還。医療法による許可病床335床。

令和3年3月

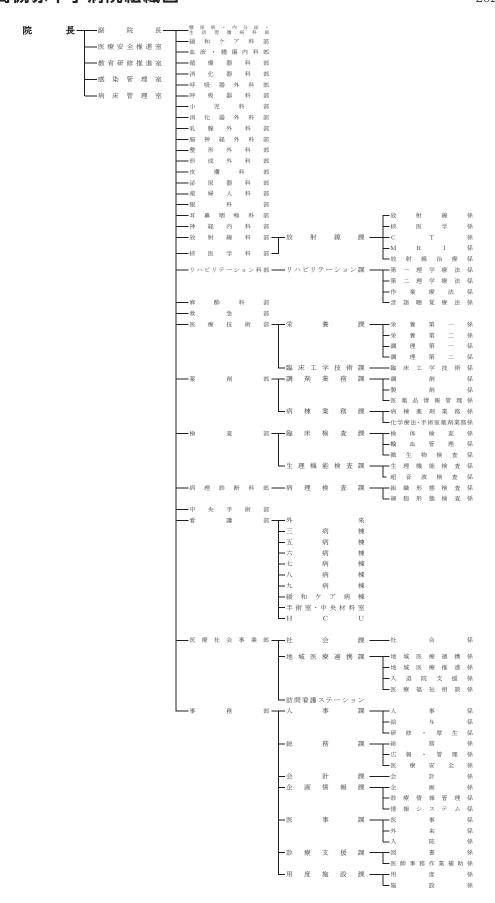
10. 整備医療器械備品

メーカー名	固定資産名	規格型式
Panasonic	【治験】ノートハ°ソコン LET'S NOTE QV8	CF-QV8WRYQP
Panasonic	次亜塩素酸空間除菌脱臭機 ジアイーノ F-JDL50-W(寄付) 7式	F-JDL50-W
アズワン	点滴作業台 ブルー	BT18-3LB
オリンパス	気管支ビデオスコープ BF-Q290	BF-Q290
キヤノンメディカルシステムズ(株) (旧東芝メディカルシステムズ)	超音波診断装置 Viamo SV7	Viamo SV7
キヤノンメディカルシステムズ(株)	全身用X線CT装置 Aquilion Prime SP/i Edition	TSX-303B/6I
(旧東芝メディカルシステムズ) コヴィディエン	COOL-TIP RFAジェネレーター	999905P20N
サーモフィッシャー	QuantStudio5 リアルタイプPCRシステム	
サイエンティフィック(株)	96ウェル PC付パッケージ	QS5-96S-TIP
ストライカー タカラベルモント	心臓マッサージシステムVer.3.1 LUCASⅢ 内視鏡用診察台 EX-ESD	99576-000067 EX-ESD
タカラベルモント	限科用手術台メプロ 4	DR-140J
ドレーゲル	ドレーゲル 人工呼吸器Savina300 一式	savina300
パシフィックメディコ(株)	酸素ブレンダ	PMB-7000
パラマウントベッド	酸系 ノレンタ ハイローストレッチャー KK-728	KK-728
フィリップス	超音波診断装置 EPIQ Elite DS	EPIQ Elite DS
ベックマン・コールター	ハイエンドクリニカルフローサイトメーター NAVIOS EX 2レーザー6カラー	NAVIOS EX
ホーザン(株)	陰圧ブース CL-905他 一式	CL-905他
ライオン事務器	シュレッダー シュレッドギア 匠花 shohka55	SHO-55
(株)島津製作所	回診用X線撮影装置 MobileArt Evolution	MobileArt Evolution
(株)島津製作所	外科用X線テレビシステム OPESCOPE ACTENO	OPESCOPE ACTENO
泉工医科工業	メラ遠心血液ポンプシステム(拡張ユニット付) 一式	HAS-CFP他
其の他	ハイブリッド高速冷却遠心機 一式	6200
其の他	2クランクキャッチベッド KB-655C	KB-655C
其の他	壁掛け縦型モニター 55BDL4050D/11	55BDL4050D/11
其の他	自動遺伝子装置 TRCReady-80 一式	TRCReady-80
其の他	エクスケアバイク RG-EM400	RG-EM400
其の他	ECU4 バンドルセット ECU4B1000他 一式	ECU4B1000他
其の他	診察券発行機 DP-3000A	DP-3000A
其の他	診察券発行機 DP-3000M	DP-3000M
其の他	陰圧排気/空気清浄機ユニット	PFF-0141-PDH
其の他	センテックデジタルモニターシステム	
其の他	陰圧式エアーテント NP-45	NP-45
其の他	血圧脈波検査装置 FORM-5	FORM-5
其の他	可動式パーテーション KX-ZC12	KX-ZC12
其の他	HEPAフィルター付パーテーション(清浄供給タイプ)	CPT-9015CL
其の他	HEPAフィルター付パーテーション(除染除去タイプ)	CPT-9015SF
其の他	高精細2Mカラーモニタ	RadiForce RX250
其の他	加温加湿フロージェネレーター Airvo2 一式	
東ソー	自動遺伝子装置 TRCReady-80 一式	TRCReady-80
日機装	個人用多用途透析装置 TYPE E他 一式	TYPE E
日本エアーテック	クリンパーティション	ACP-897CH
日本エアーテック	クリンパーティション	ACP-897AH
日本エアーテック	安全キャビネット BHG-T701IIA2-G	BHG-T701IIA2-G
日本フリーザー(株)	フリーズ NF-75HC(冷凍庫)	NF-75HC
日本医化器械製作所	感染対策空気清浄ユニット NRC-601D	NRC-601D
日本光電工業	医用テレメータ WEP-1450(12人用)	WEP-1450
日本光電工業	心電計一式(心電計・トレッドミル・エアロモニタ)	ECG-2450
日本光電工業	CO2センサキット	TG-920P
日本光電工業	人工呼吸器 HAMILTON-C1	HAMILTON-C1
日本光電工業	送信機 ZS-630P	送信機 ZS-630P
日本光電工業	医用テレメータ(12人用)WEP-1450	WEP-1450 PVM-4763×4
日本光電工業	搬送用モニタ BSM-1763	BSM-1763
日本光電工業	送信機 ZS-630P	送信機 ZS-630P
日本光電工業	ベッドサイドモニタ PVM-4763-Q20他	PVM-4763-Q20他
日本光電工業	心電計 ECG-2450	ECG-2450
日本光電工業	誘発電位検査装置 Neuropack S3	Neuropack S3
日本光電工業	医用テレメータ(8人用)WEP-1450 一式	WEP-1450
日本光電工業	セントラルモニタ CNS-6101 一式	CNS-6101
日本光電工業	心電計 ECG-2450	ECG-2450
福島工業(株)	薬用保冷庫 FMS-650L	FMS-650L
ITT FFG N- (NIX	NOVIEW IND COOL	1 1 110 0001

Ⅲ組織及び職員

2020.4.1

1. 高槻赤十字病院組織図



2. 幹部職員 (令和2年度末現在)

院 長 副 院 長 副 院 長 事 務 部 長 看 護 部 長 糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 P 緩 和 ケ 科 長 液・腫 血 瘍 内 科 部 長 循 科 長 環 器 部 長 消 化 器 科 部 呼 吸 器 外 科 部 長 呼 吸 器 科 部 長 児 小 科 部 長 消 化 器 外 科 部 長 外 部 長 乳 腺 科 科 部 神 経 外 脳 長(兼) 整 外 形 科 部 長 形 成 外 科 部 長 皮 膚 科 長(兼) 部 泌 尿 器 科 部 長 部 長(兼) 産 婦 人 科 眼 科 部 長 (兼) 耳 咽 喉 科 部 長(兼) 鼻 部 神 科 長(兼) 放 射 線 科 部 長 医 学 科 部 核 長 リハビリテーション科部長(兼) 麻 酔 科 部 長 麻 科 • 手 術 部 長 長 救 部 急 医 療 技 術 部 長(兼) 薬 剤 部 長 検 査 部 長(兼) 検 査 部 付 部 長 病 理 診 断 科 部 長 中 央 手 部 長(兼) 術 看 長 護 副 部 看 護 副 部 長 護 部 看 副 長 医 療 社 会 事 業 長 社 会 課 長 域 医 療 連 携 地 課 長 副 長 事 務 部 事 務 部 付 課 長 事 部 長 務 付 課 長 人 事 課 総 務 課 長(兼) 会 課 計 長 企 画 情 報 課 長 医 事 課 長 診 長 療 支 援 課

用

度

施

設

課

長

古 Ш 福 実 玉 田 尚 平 松 子 昌 松 田 好 正 岸 恵 美 子 至寿佳 金 橋 典 夫 本 之 安 齋 尚 大 中 玄 彦 樹 神 田 直 菅 理 晴 英 夫 北 片 博 視 Ш 恒 松 郎 林 弘 小 稔 平 子 松 昌 文 德 Щ 人 子 田 辺 敦 福 実 古 Ш 六 車 光 英 平 松 昌 子 平 松 昌 子 古 Ш 福 実 尚 玉 田 男 後 藤 公 室 正 樹 Щ 玉 田 尚 宇 田 るみ子 澤 井 俊 幸 文 雄 岡 本 古 Ш 福 実 小 島 晃 福 実 古 Ш 藤 田 修 治 千 渡 邉 尋 平 松 昌 子 原 田 かおる 西 ひろみ 髙 橋 晶 子 欠 濵 田 健 司 悟 渡 部 # 幸 酒 美 高 利 明 日 亨 木野村 平 俊 田 介

※令和3年1月1日付で事務部長が兼務

酒 井

片 岡

杉 Ш

浦 手

眞清水

萩原

美 幸 夫

幹

Z 矢

裕

大 介

悟

子

会計決算書より(令和3年3月31日現在)

3. 職員現況表

							1)	护	9			院						
	医	薬	放	検	理	作	言	臨	視	管 管	助	看	准	看	医	事	そ	小
			射	査	学	業	語	床	能	理			看	護	療 技	務	の 他	
区分		剤	線	+±	療	療	聴	上学	訓	理栄	産	護	護	B+h	術補	職	職	
			技	技	法	法	覚	技	練	養			碊	助	助	地	相以	
	師	師	師	師	\pm	士	士	師	士	士士	師	師	師	手	者	員	員	計
常剪	77.0	22.0	18.0	19.0	12.0	4.0	2.0	9.0	1.0	7.0	4.0	273.0		26.0		64.0	15.0	553.0
非常勤	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	17.7		3.0		2.6	7.5	41.5
計	85.7	22.0	18.0	19.0	12.0	4.0	2.0	9.0	2.0	7.0	5.0	290.7	0.0	29.0	0.0	66.6	22.5	594.5

	② 病	院(医療	索社会事	業)	
	看	管	事	医	小
		理		療	
			務	社	
区分	護	栄		会	
		養	職	事	
		Dec.		業	
	師	±	員	司	計
常 勤	2.0		11.0	5.0	18.0
非 常 勤			0.9		0.9
計	2.0	0.0	11.9	5.0	18.9

3	訪問看	護ステ-	ーション	/
	事	看	理	小
	務		学	
区分		護	療	
	職		法	
	員	師	±	計
常 勤	1.0	5.0	1.0	7.0
非 常 勤	0.0	0.3	0.0	0.3
計	1.0	5.3	1.0	7.3

総合	計
	1
	+
区分	2
	+
	3
常 勤	578.0
非 常 勤	42.7
計	620.7

4. 職種別·年齢別·職員構成表

		30 才未満	30 才~ 40 才未満	40 才~ 50 才未満	50 才~ 55 才未満	55 才~ 60 才未満	60 才~ 62 才未満	62 才~ 65 才未満	65 才以上	≣t
— 般	男	2	8	11	3	7	1	0	1	33
般 職 (一)	女	8	11	24	4	2	2	1	0	52
般	男	0	1	3	1	2	2	1	0	10
般 職 (二)	女	1	0	16	12	8	2	3	1	43
医療職(一)	男	7	19	10	7	7	2	3	4	59
職 (一)	女	5	6	4	1	1	1	1		19
医療職二	男	10	17	17	1	3	1			49
(二)	女	11	20	12	4	2				49
医療職三	男	7	6	2	1	2				18
(三)	女	51	65	99	42	31	3	3	2	296
計	男	26	51	43	13	21	6	4	5	169
<u> </u>	女	76	102	155	63	44	8	8	3	459
										628

(令和2年3月31日現在)

5. 会議及び委員会

◎ 会 議

4 役会議 病院連絡会議

◎委 員 会

DPC・診療記録管理委員会 HCU運営委員会

ICT委員会

SPD・診療材料購入審査委員会

キャンサーボード委員会

ハラスメント防止委員会

医事紛争処理委員会

医療安全管理委員会

院内感染防止対策委員会

救急委員会

健診事業運用委員会

研修管理委員会

広報委員会

治験審査委員会

図書委員会

地域医療連携運営委員会

AST 委員会

保険委員会

防火防災・災害対策委員会

輸血療法委員会

臨床検査適正化委員会

褥瘡委員会

患者サービス向上委員会

新病院新築移転構想検討委員会

日当直体制検討委員会

NST委員会

がん診療関連機能充実委員会

クリニカルパス委員会

業務改善委員会

医療ガス安全管理委員会

医療事故調査委員会

化学療法委員会

給食委員会

研修運営委員会

個人情報保護委員会

購買委員会

手術室運営委員会

地域医療支援病院運営委員会

認知症ケアサポート委員会

病床管理運営委員会

放射線安全委員会

薬事委員会

倫理委員会

労働安全衛生委員会

電子カルテ委員会

血液浄化療法委員会

臨床倫理委員会

医療放射線管理委員会

IV 統 計

1. 令和2年度実績表

				\ ا	迟			4	交	 		抽
		患者延数	1日平均	在院日数	診療稼働額	診療単価	患者延数	1日平均	通院日数	診療稼働額	診療単価	診療稼動額
K	本	1,125	3.1	7.5	43,441,970	38,615.1	2,714	11.2	1.6	97,616,952	35,967.9	141,058,922
糖・内	△ 代	4,892	13.4	15.2	210,400,604	43,009.1	9,662	39.8	151.0	133,704,059	13,838.1	344,104,663
月	内科	13,675	37.5	32.7	1,267,425,648	92,681.9	6,200	25.5	77.5	603,641,713	97,361.6	1,871,067,361
冒臘	内科	0	0.0		0	0.0	1,926	7.9	275.1	43,128,404	22,392.7	43,128,404
消化器	器内科	15,176	41.6	8.3	782,018,315	51,529.9	14,370	59.1	16.9	288,204,712	20,056.0	1,070,223,027
循環器	器内科	10,225	28.0	14.9	621,104,364	60,743.7	11,963	49.2	34.7	117,208,255	9,797.6	738,312,619
脳神総	経内科	0	0.0		0	0.0	2,162	8.9	33.3	10,792,705	4,992.0	10,792,705
呼吸器	器内科	14,090	38.6	13.2	921,503,119	65,401.2	13,002	53.5	22.6	488,276,325	37,553.9	1,409,779,444
呼吸器	器外科	2,212	6.1	14.7	201,137,400	90,930.1	2,974	12.2	424.9	131,989,028	44,381.0	333,126,428
太	本	695'9	18.0	12.9	462,480,525	70,403.5	9,441	38.9	33.7	262,698,429	27,825.3	725,178,954
脳神総	経外科	0	0.0		0	0.0	1,029	4.2	10.2	11,965,004	11,627.8	11,965,004
整形	外科	11,382	31.2	19.2	661,707,575	58,136.3	10,774	44.3	14.9	80,531,301	7,474.6	742,238,876
雇婦	人 科	223	0.6	8.7	18,879,240	84,660.3	2,056	8.5	21.9	16,948,966	8,243.7	35,828,206
小师	児 科	485	1.3	6.5	22,626,205	46,652.0	1,382	5.7	5.9	14,091,505	10,196.5	36,717,710
胎	科	902	1.9	1.0	85,493,792	121,096.0	8,324	34.3	22.1	100,200,479	12,037.5	185,694,271
皮膚	膚 科	904	2.5	8.1	38,951,920	43,088.4	8,426	34.7	28.9	47,593,176	5,648.4	86,545,096
形成	外 科	1,358	3.7	14.2	73,008,014	53,761.4	2,757	11.3	10.7	24,178,985	8,770.0	97,186,999
回曹田	咽 喉 科	0	0.0		0	#DIN/0i	2,015	8.3	14.9	11,272,161	5,594.1	11,272,161
リハビリテ	リハビリテーション科	0	0.0		79,523	0.0	4,416	18.2	4,416.0	23,251,110	5,265.2	23,330,633
彩	器 科	2,271	6.2	7.2	137,214,282	60,420.2	8,373	34.5	28.3	134,345,757	16,045.1	271,560,039
緩和	ケア	5,624	15.4	31.6	362,438,993	64,445.1	138	9.0	3.6	1,825,882	13,231.0	364,264,875
放射	寸 線	0	0.0		0	0.0	1,348	5.5	1.3	0	0.0	0
ь В	9 年	0	0.0		69,638	#DIN/0i	3,105	12.8	79.6	25,301,791	8,148.7	25,371,429
4 0	盂	90,917	249.1	13.3	5,909,981,127	65,004.1	128,557	529.0	16.9	2,668,766,699	20,759.4	8,578,747,826
量	年度	103,431	282.6	12.8	6,060,147,569	58,591.2	141,120	583.1	17.6	2,684,646,280	19,023.9	8,744,793,849
開	減率	-12.1%	-11.9%	4.0%	-2.5%	10.9%	-8.9%	-9.3%	-3.6%	%9:0-	9.1%	-1.9%

※その他は、救急科とリウマチ・膠原病とドック・健診を足したものです。

2. 入院患者数

3 月	93	493	1,203		1,452	1,083		1,455	150	266		996	0	39	53	113	152			208	469			8,504	274.3	8,446	272.5	0.7%
2 月	105	419	1,005		1,023	809		1,201	268	431		915	15	18	36	22	42			177	448			6,934	247.6	8,555	295.0	-18.9%
1月	103	402	1,000	0	1,113	865	0	1,336	142	422	0	1,083	32	7	7	45	43	0	0	134	360	0	0	7,094	228.8	8,699	280.6	-18.5%
12 月	82	400	1,126	0	1,180	917	0	1,390	173	542	0	1,156	40	63	26	74	134	0	0	210	544	0	0	8,057	259.9	8,745	282.1	-7.9%
11 月	22	503	1,188	0	1,247	860	0	1,112	162	626	0	1,245	21	1	93	49	110	0	0	165	517	0	0	7,964	265.5	8,282	276.1	-3.8%
10 周	73	530	1,274	0	1,627	848	0	1,004	155	296	0	1,314	0	55	135	54	173	0	0	238	512	0	0	8,588	277.0	8,313	268.2	3.3%
日 6	96	469	1,151	0	1,575	638	0	1,117	205	524	0	937	9	71	20	85	201	0	0	184	449	0	0	7,758	258.6	8,376	279.2	-7.4%
8 周	109	425	1,123	0	1,254	862	0	1,169	122	644	0	827	19	51	88	168	138	0	0	199	532	0	0	7,730	249.4	968'8	287.0	-13.1%
7 月	125	475	1,179	0	1,066	1,010	0	1,062	190	581	0	848	10	69	71	9/	89	0	0	280	475	0	0	7,606	245.4	9,083	293.0	-16.3%
6 月	102	332	1,075	0	1,147	631	0	915	174	949	0	791	13	38	44	102	112	0	0	166	445	0	0	6,733	224.4	8,550	285.0	-21.3%
5 月	114	271	1,234	0	1,155	206	0	1,134	216	463	0	556	23	45	10	45	84	0	0	132	414	0	0	6,803	219.5	8,736	281.8	-22.1%
4 月	89	173	1,117	0	1,337	795	0	1,195	255	528	0	744	35	18	93	71	80	0	0	178	459	0	0	7,146	238.2	8,750	291.7	-18.3%
福	1,125	4,892	13,675	0	15,176	10,225	0	14,090	2,212	6,569	0	11,382	223	485	200	904	1,358	0	0	2,271	5,624	0	0	90,917	249.1	103,431	282.6	-12.1%
	松	¥	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	ョン科	本	F	灓	争	盂	稏	殸	拉	掛
		•	K	K	K	K	~	K	文		圣女	女	\prec	ייח		(None	女	图	 ツ ш	器	ヤ	+	_		計		計	نحه
		€.	烀	主	化器	淵器	神経	吸器	吸器		神経	光	账	르		鲃	沿	鼻	١Ь	送	足	玉	9			井	Ш	黨
	€	舞	目	XII	浜	匔	溋	皆	皆	女	溋	翻	世	÷	兴	赵	光	퍼	リハビリ	漈	쬻	赵	4	⟨□	-	諨	-	興

3. 入院稼働額

	仙	4 月	5 周	日 9	7 月	8 周	日 6	10 周	11 月	12 月	1 月	2 月	3 周
松	43,441,970	1,958,920	7,362,178	3,458,850	7,095,473	3,179,610	3,412,190	3,770,535	1,563,970	2,589,012	3,282,714	3,720,652	2,047,866
糖・内・代	210,400,604	8,261,500	14,619,111	15,348,684	19,875,144	15,724,686	21,483,518	22,558,063	19,627,609	18,397,111	14,362,657	21,739,260	18,403,261
自液内科	1,267,425,648	112,971,337	124,291,312	100,028,629	113,010,442	104,275,869	99,122,539	132,401,634	98,597,874	105,642,989	82,918,406	82,907,722	111,256,895
腎臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	782,018,315	63,871,655	52,344,850	58,719,391	50,808,649	61,883,450	78,207,127	91,169,016	62,019,993	65,003,953	54,902,851	61,254,244	81,833,136
循環器内科	621,104,364	45,945,600	47,410,578	42,568,235	59,480,162	55,899,921	36,792,085	54,831,115	47,492,842	64,040,848	47,125,229	50,818,603	68,699,146
脳神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器内科	921,503,119	55,907,614	56,956,215	47,279,027	50,973,401	83,262,997	74,094,268	53,303,625	82,630,667	106,266,827	108,453,318	101,060,412	101,314,748
呼吸器外科	201,137,400	20,438,107	19,090,956	16,864,836	22,582,602	10,198,980	20,568,454	9,698,085	14,014,334	19,683,342	12,425,926	20,871,806	14,699,972
外科	462,480,525	38,462,647	30,471,865	45,489,233	39,605,872	40,371,785	38,410,242	42,966,906	42,349,796	36,283,058	34,844,831	32,925,206	40,299,084
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	661,707,575	43,679,422	36,267,092	49,716,790	51,134,399	45,877,639	56,957,457	79,572,863	64,543,340	71,871,404	45,554,952	54,569,875	61,962,342
産 婦 人 科	18,879,240	3,636,270	2,383,610	1,289,510	1,455,860	1,687,020	271,080	0	2,310,430	1,800,150	947,650	1,934,420	1,163,240
小 児 科	22,626,205	948,620	2,022,195	2,014,065	2,818,635	1,956,045	2,982,230	2,313,715	394,570	3,497,480	283,560	1,108,190	2,286,900
眼科	85,493,792	10,304,554	966,482	5,221,662	8,971,322	11,669,986	6,919,852	15,062,600	10,843,658	2,327,326	1,267,676	5,389,306	6,549,368
皮膚科	38,951,920	2,871,120	1,998,650	4,376,832	3,303,008	7,210,687	2,798,093	1,878,950	2,334,160	4,049,370	1,578,094	972,900	5,580,056
形成外科	73,008,014	4,462,971	2,742,070	6,578,639	4,571,076	7,686,134	10,717,357	9,045,440	5,519,483	7,516,280	1,650,210	3,614,026	8,904,328
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハと、リテーションを斗	79,523	0	79,523	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	137,214,282	10,173,080	7,208,336	9,057,240	15,888,554	10,068,630	13,203,968	16,369,926	10,026,900	11,478,490	8,393,724	11,626,608	13,718,826
緩和ケア	362,438,993	29,435,945	29,777,220	28,123,742	33,063,709	36,128,244	29,213,584	31,985,506	33,982,359	33,439,192	23,619,794	24,444,390	29,225,308
放射線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その色	69,638	59,664	9,974	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
包	5,909,981,127	453,389,026	436,002,217	436,135,365	484,638,308	497,081,683	495,154,044	566,927,979	498,251,985	553,886,832	441,611,592	478,957,620	567,944,476

510,561,069

-3.4%

-14.5%

2.4%

-1.4%

5.2%

-1.7%

-8.6%

-13.7%

495,431,131

-6.8%

-2.5%

516,802,487 495,833,905

505,458,889 541,146,542

496,654,922 14.1%

505,591,035 470,879,101

505,100,519 530,003,716

6,060,147,569 486,684,253

度 率

年 減

温 埋

4. 入院単価

## 38(515.1 28(8076) 64580.2 33310.3 56/75.8 29170.7 35.543.6 51.651.2 28(435.8 31.573.3 31.871.0 35.434.8 22. ##・Po·代 43.00.1 47/754.3 53.945.1 46.231.0 41.442.4 36.999.3 45.00.1 42.652.4 390.01.1 45.992.8 35.738.0 51.883.7 37. ## Po·代 43.00.1 47/754.3 53.945.1 46.231.0 41.442.4 36.999.3 45.00.1 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.		## 40	4 月	5 月	日 9	7 月	8 周	日 6	10 周	11 月	12 月	1月	2 月	3 月
接替 3 2.6619 101.732 39.049.3 55.82A 36.99.3 45.80A 42.80A 42.80A 35.0A 42.80A 3		38,615.1	28,807.6	64,580.5	33,910.3		29,170.7	5,543.	51,651.2	28,435.8		31,871.0	35,434.8	22,020.1
勝り	· €	43,009.1	47,754.3	53,945.1	46,231.0	41,842.4	36,999.3	45,807.1	42,562.4	39,021.1	45,992.8	35,728.0	51,883.7	37,329.1
	液	92,681.9	101,138.2	100,722.3	93,049.9	95,852.8	92,854.7	86,118.6	103,925.9	82,994.8	93,821.5	82,918.4	82,495.2	92,482.9
##報	臓内	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
機能分料 60.743.7 57.793.2 52.2719 67.461.5 58.991.2 64.849.1 57.667.8 64.569.3 55.2424 69.837.3 54.480.0 62.010 62.00	消化器内科	51,529.9	47,772.4	45,320.2	51,193.9	47,662.9	49,348.8	49,655.3	56,035.0	49,735.4	55,088.1	49,328.7	59,877.1	56,358.9
we	循環器内科	60,743.7	57,793.2	52,271.9	67,461.5	58,891.2	64,849.1	57,667.8	64,659.3	55,224.2	69,837.3	54,480.0	62,816.6	63,434.1
	脳神経外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	呼吸器内科	65,401.2	46,784.6	50,225.9	51,671.1	47,997.6	71,225.8	66,333.3	53,091.3	74,308.2	76,451.0	81,177.6	84,146.9	69,632.1
#報酬 対 70,403.5 72,845.9 65,814.0 70,416.8 68,168.5 62,689.1 73,302.0 70,092.1 67,551.4 66,942.9 82,570.7 76,392.6	呼吸器外科	90,930.1	80,149.4	88,384.1	96,924.3	118,855.8	83,598.2	100,333.9	62,568.3	86,508.2	113,776.5	87,506.5	77,879.9	97,999.8
# 接		70,403.5	72,845.9	65,814.0	70,416.8	68,168.5	62,689.1	73,302.0	72,092.1	67,651.4	66,942.9	82,570.7	76,392.6	71,199.8
	脳神経外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
操	形文	58,136.3	58,708.9	65,228.6	62,853.1	60,300.0	55,474.8	60,787.0	60,557.7	51,842.0	62,172.5	42,063.7	59,639.2	64,143.2
12 42 46,652.0 52,701.1 44,937.7 53,001.7 40,849.8 38,353.8 42,003.2 42,067.5 35,870.0 55,515.6 40,508.6 61,566.1 49,702.9 42,086.1 42,080.1	学	84,660.3	103,893.4	103,635.2	99,193.1	145,586.0	88,790.5	45,180.0	#DIV/0i	110,020.5	45,003.8	29,614.1	128,961.3	129,248.9
121,096.0 110,801.7 96,648.2 118,674.1 126,356.6 132,613.5 138,397.0 111,574.8 16,598.5 89,512.5 181,096.6 149,702.9 43,088.4 40,438.3 44,414.4 42,910.1 43,460.6 42,920.8 32,918.7 34,795.4 47,635.9 54,721.2 35,068.8 44,222.7 53,761.4 55,787.1 58,737.8 51,360.4 55,696.6 53,320.2 52,285.8 50,177.1 56,091.6 38,377.0 86,048.2 53,761.4 55,787.1 60,0 0.0 <th>띰</th> <th>46,652.0</th> <th>52,701.1</th> <th>44,937.7</th> <th>53,001.7</th> <th>40,849.8</th> <th>38,353.8</th> <th>42,003.2</th> <th>42,067.5</th> <th>35,870.0</th> <th>55,515.6</th> <th>40,508.6</th> <th>61,566.1</th> <th>58,638.5</th>	띰	46,652.0	52,701.1	44,937.7	53,001.7	40,849.8	38,353.8	42,003.2	42,067.5	35,870.0	55,515.6	40,508.6	61,566.1	58,638.5
43.088.4 40,438.3 44,414.4 42,910.1 43,460.6 42,920.8 32,918.7 34,795.4 47,635.9 54,721.2 35,068.8 44,222.7 53,761.4 55,787.1 32,643.7 58,737.8 51,360.4 55,696.6 53,320.2 52,285.8 50,177.1 56,091.6 38,377.0 86,048.2 0.00 0.0		121,096.0	110,801.7	96,648.2	118,674.1	126,356.6	132,613.5	138,397.0	111,574.8	116,598.5	89,512.5	181,096.6	149,702.9	123,573.0
53,761.4 55,787.1 32,643.7 58,737.8 51,360.4 55,696.6 53,320.2 52,285.8 50,177.1 56,091.6 38,377.0 86,048.2 0.0	ლ	43,088.4	40,438.3	44,414.4	42,910.1	43,460.6	42,920.8	32,918.7	34,795.4	47,635.9	54,721.2	35,068.8	44,222.7	49,381.0
4 4 4 6	成外	53,761.4	55,787.1	32,643.7	58,737.8	51,360.4	9.969,55	53,320.2	52,285.8	50,177.1	56,091.6	38,377.0	86,048.2	58,581.1
60,420.2 57,152.1 54,608.6 54,561.7 56,744.8 50,596.1 71,760.7 68,781.2 60,769.1 54,659.5 62,639.7 65,687.1 4,4445.1 60,420.2 57,152.1 54,608.6 54,561.7 56,744.8 50,596.1 71,760.7 68,781.2 60,769.1 54,659.5 62,639.7 65,687.1 4,4445.1 64,130.6 0.0 0.		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
成 器 料 60,420.2 57,152.1 54,608.6 54,561.7 56,744.8 50,596.1 71,760.7 68,781.2 60,769.1 54,659.5 62,639.7 65,687.1 利 子 万 64,445.1 64,130.6 71,925.7 63,199.4 69,607.8 67,910.2 65,063.7 62,471.7 65,729.9 61,469.1 65,610.5 54,563.4 財 公 10 0.0	リハと、リテーション系斗	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
利 方 万 64,445.1 64,130.6 71,925.7 63,199.4 69,607.8 67,910.2 65,063.7 62,471.7 65,729.9 61,469.1 65,610.5 54,563.4 財 線 地 上間//0 1 0.0 <th>路器</th> <th>60,420.2</th> <th>57,152.1</th> <th>54,608.6</th> <th>54,561.7</th> <th>56,744.8</th> <th>50,596.1</th> <th>71,760.7</th> <th>68,781.2</th> <th>60,769.1</th> <th>54,659.5</th> <th>62,639.7</th> <th>65,687.1</th> <th>62,955.9</th>	路器	60,420.2	57,152.1	54,608.6	54,561.7	56,744.8	50,596.1	71,760.7	68,781.2	60,769.1	54,659.5	62,639.7	65,687.1	62,955.9
射線線0.0<	和ケ	64,445.1	64,130.6	71,925.7	63,199.4	8.209,69	67,910.2	65,063.7	62,471.7	65,729.9	61,469.1	65,610.5	54,563.4	62,314.1
の 他 を 0.00 他 を 0.00 他 を 0.00 他 を 0.00 は 2.00 で 0.00 他 を 0.00 は 2.00 に 0.00 他 で 0.00 で 0	射	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
65,004.1 63,446.5 64,089.7 64,775.8 63,717.9 64,305.5 63,825.0 66,014.0 62,563.0 68,746.0 62,251.4 69,073.8	0	#DIV/0i	#DIN/0i	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		65,004.1	63,446.5	64,089.7	64,775.8	63,717.9	64,305.5	63,825.0	66,014.0	62,563.0	68,746.0	62,251.4	69,073.8	66,785.6

10.5% 60,450.0

19.2% 57,958.4

59,409.4 4.8%

61,880.7 11.1%

61,031.0 2.5%

59,744.4 10.5%

56,217.7 13.5%

56,833.5 13.1%

9.2% 58,351.2

%9.6

13.0%

14.1%

10.9%

5. 外来患者数

3 周	312	940	581	157	1,468	1,209	198	1,187	287	974	106	1,203	196	170	772	815	289	223	349	759	8	161	211	12,575	546.7	11,193	533.0	12.3%
2 月	265	765	493	128	1,083	913	165	1,027	278	810	77	863	140	93	649	604	204	214	314	909	8	109	259	10,066	559.2	10,486	582.6	-4.0%
1月	283	812	530	151	1,050	1,002	138	1,124	296	699	99	885	136	103	269	640	168	101	296	200	16	106	385	10,226	538.2	11,798	670.9	-13.3%
12 月	355	871	572	164	1,159	1,028	197	1,094	238	811	89	941	174	133	629	724	275	163	385	771	13	118	204	11,158	557.9	12,160	608.0	-8.2%
11 月	292	783	502	157	1,246	984	197	1,118	227	785	108	856	160	138	736	718	226	173	375	657	16	122	186	10,762	566.4	11,700	585.0	-8.0%
10 周	191	874	266	180	1,410	1,090	190	1,173	191	698	96	984	177	122	829	773	240	195	426	791	11	120	176	11,674	530.6	12,430	591.9	-6.1%
日 6	202	815	536	168	1,322	971	201	1,094	258	825	66	927	183	120	721	730	289	168	415	764	8	107	213	11,136	556.8	11,682	614.8	-4.7%
8 周	273	733	456	150	1,194	922	197	1,040	242	750	89	922	177	134	750	725	236	169	383	626	11	95	181	10,434	521.7	11,736	558.9	-11.1%
7 月	195	895	520	173	1,293	1,008	202	1,113	271	824	83	936	178	104	711	768	238	179	385	755	7	116	204	11,158	531.3	12,644	574.7	-11.8%
日 9	104	750	499	169	1,243	1,014	171	1,036	262	992	87	883	225	6	635	732	243	148	377	229	12	107	791	11,028	501.3	11,972	598.6	%6:2-
5 周	113	640	464	159	913	809	150	606	198	647	28	714	168	85	260	282	161	119	355	619	15	83	138	8,664	481.3	11,496	574.8	-24.6%
4 月	129	784	481	170	686	1,013	156	1,087	226	711	92	099	142	83	713	610	188	163	356	649	13	104	157	9,676	460.8	11,823	563.0	-18.2%
盂	2,714	9,662	6,200	1,926	14,370	11,963	2,162	13,002	2,974	9,441	1,029	10,774	2,056	1,382	8,324	8,426	2,757	2,015	4,416	8,373	138	1,348	3,105	128,557	529.0	141,120	583.1	-8.9%
	承	¥	本	本	承	本	菜	本	本	本	本	菜	菜	本	本	本	松	잝	ン型	松	Γ.	燊	争	盂	전	囤	拉	掛
		· ∉	K	K	器	器	然	器	器外		経外	女	\prec	三三		櫮	女	园 喉	デーショ	器	4	湿	6		計	卅	計	減
			授	主	行	嘂	世	俗	俗		世	光	歌				沿	櫮	リハビリき	巡	星				Ш		Ш	
	K	報	目	监	浜	匔	溋	占	皆	女	溋	翻	世	÷	留	赵	光	世	J.	渓	웷	投	₩	∜ □	_	温	_	型

6. 外来稼働額

	#= (□	4 月	5 月	日 9	7 月	服 8	日 6	10 月	11 月	12 月	1 田	2 月	3 周
内	97,616,952	4,839,929	4,328,010	5,419,645	8,057,843	8,674,129	7,491,097	7,889,643	9,856,977	11,040,304	9,319,378	8,963,430	11,736,567
糖・内・代	133,704,059	11,005,827	8,790,650	9,921,778	12,327,854	9,452,096	11,534,878	11,848,088	11,957,852	11,802,792	11,267,192	10,600,314	13,194,738
日液内科	603,641,713	41,375,843	42,350,994	45,460,990	43,890,017	37,893,661	56,539,616	64,985,692	57,688,532	52,252,027	56,514,482	46,699,319	57,990,540
腎臓内科	43,128,404	4,092,262	3,581,802	3,768,824	3,947,510	3,461,470	3,842,300	3,746,920	3,473,270	3,612,930	3,387,096	2,753,070	3,460,950
消化器内科	288,204,712	17,750,068	16,485,762	22,624,125	22,250,883	21,834,568	24,625,152	25,009,778	24,347,752	27,087,842	24,950,653	28,233,268	33,004,861
循環器科	117,208,255	9,292,006	7,675,581	10,161,638	9,529,416	9,325,649	9,149,266	10,351,650	9,928,482	10,140,188	9,415,478	9,109,577	13,129,324
脳神経内科	10,792,705	716,506	784,863	1,196,193	1,242,042	1,120,720	670,275	893,358	1,176,180	1,143,520	511,714	532,666	804,668
呼吸器内科	488,276,325	39,695,989	35,216,895	43,795,311	39,288,834	43,486,276	42,292,918	45,752,993	39,597,645	41,891,207	38,394,233	37,106,311	41,757,713
呼吸器外科	131,989,028	10,768,254	8,118,654	10,768,134	10,095,888	11,634,624	11,233,942	13,216,480	9,374,744	11,505,068	12,512,328	11,577,404	11,183,508
外科	262,698,429	21,015,232	18,868,181	20,673,564	22,626,845	20,217,025	22,529,463	24,261,087	22,407,339	22,133,920	19,732,392	21,809,601	26,423,780
脳神経外科	11,965,004	1,039,076	743,428	933,700	802,766	656,840	1,355,025	1,375,159	1,361,763	1,023,659	645,234	911,984	1,116,370
整形外科	80,531,301	4,642,765	5,415,210	6,453,988	6,680,945	7,114,879	6,535,298	7,522,596	6,197,383	7,531,103	6,905,890	6,232,632	9,298,612
雇婦人科	16,948,966	1,236,240	1,209,172	1,800,915	1,523,675	1,447,109	1,505,504	1,798,464	1,276,571	1,268,150	1,068,318	1,321,880	1,492,968
小 児 科	14,091,505	487,479	525,095	602,883	714,968	1,412,628	1,289,923	1,281,884	1,589,100	1,533,062	1,246,183	1,260,882	2,147,418
眼科	100,200,479	10,604,168	099'996'6	7,906,993	8,935,093	8,438,200	8,239,690	7,846,642	7,106,339	8,296,950	6,443,992	6,891,948	9,523,804
皮膚科	47,593,176	4,805,880	2,415,668	3,400,871	5,659,130	3,983,276	2,417,105	5,970,763	2,881,651	4,155,484	3,665,607	3,335,430	4,902,311
形成外科	24,178,985	1,243,017	1,010,282	1,999,446	2,501,654	2,312,017	3,066,655	1,879,632	1,824,598	2,423,795	1,492,052	2,114,125	2,311,712
耳鼻咽喉科	11,272,161	821,268	462,214	1,042,185	1,215,867	1,012,100	945,588	897,404	857,694	958,915	567,536	1,208,144	1,283,246
リハと、リテーション科学	23,251,110	1,943,887	2,048,651	1,946,312	2,094,537	2,114,637	2,346,993	2,234,591	2,068,376	1,987,259	1,379,299	1,453,520	1,633,048
泌尿器科	134,345,757	11,557,939	10,535,451	11,501,390	12,749,936	11,654,258	12,705,924	12,685,620	10,457,790	11,672,145	10,381,992	8,433,222	10,010,090
緩和ケア	1,825,882	170,804	117,484	164,314	159,900	198,034	163,630	116,788	172,844	117,510	199,940	79,880	164,754
放射線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	25,301,791	1,651,926	1,320,566	2,126,632	1,861,038	2,208,017	2,535,810	1,973,802	2,575,270	2,321,930	1,523,036	2,757,114	2,446,650
抽	2,668,766,699	200,756,365	181,971,273	213,669,831	218,156,641	209,652,213	233,016,052	253,539,034	228,178,152	235,899,760	221,524,025	213,385,721	259,017,632

217,492,405

202,878,376 5.2%

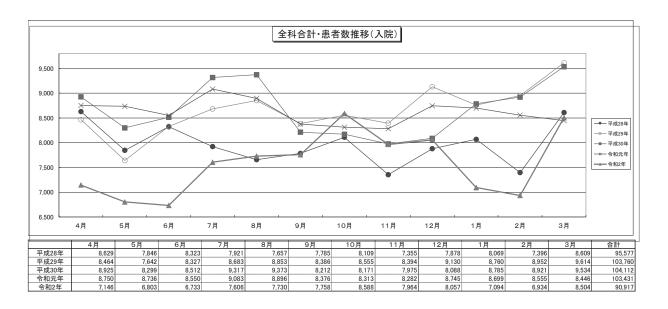
239,615,368

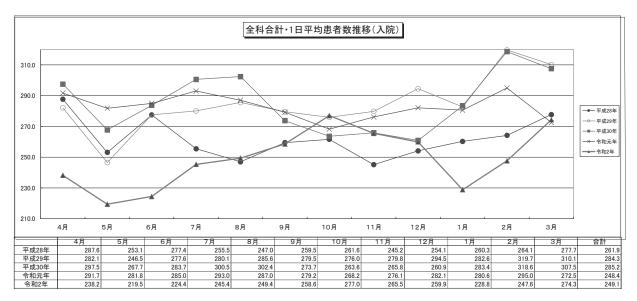
7. 外来単価

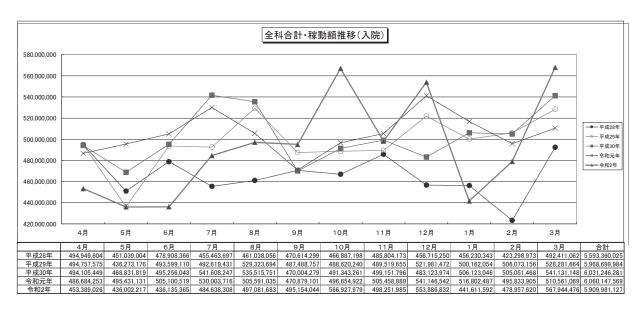
	福	4 月	5 月	目 9	7 月	8 周	日 6	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 周
本	35,967.9	37,518.8	38,301.0	52,112.0	41,322.3	31,773.4	37,084.6	41,307.0	33,756.8	31,099.4	32,930.7	33,824.3	37,617.2
糖・内・代	13,838.1	14,038.0	13,735.4	13,229.0	13,774.1	12,895.1	14,153.2	13,556.2	15,271.8	13,550.9	13,875.9	13,856.6	14,037.0
自液内科	97,361.6	86,020.5	91,273.7	91,104.2	84,403.9	83,100.1	105,484.4	114,815.7	114,917.4	91,349.7	106,631.1	94,724.8	99,811.6
腎臓内科	22,392.7	24,072.1	22,527.1	22,300.7	22,818.0	23,076.5	22,870.8	20,816.2	22,122.7	22,030.1	22,431.1	21,508.4	22,044.3
消化器内科	20,056.0	17,947.5	18,056.7	18,201.2	17,208.7	18,286.9	18,627.2	17,737.4	19,540.7	23,371.7	23,762.5	26,069.5	22,482.9
循環器科	9,797.6	9,172.8	9,487.7	10,021.3	9,453.8	10,114.6	9,422.5	9,496.9	10,089.9	9,864.0	9,396.7	9,977.6	10,859.7
脳神経内科	4,992.0	4,593.0	5,232.4	6,995.3	6,148.7	5,688.9	3,334.7	4,701.9	5,970.5	5,804.7	3,708.1	3,228.3	4,064.0
呼吸器内科	37,553.9	36,518.8	38,742.5	42,273.5	35,299.9	41,813.7	38,659.0	39,005.1	35,418.3	38,291.8	34,158.6	36,130.8	35,179.2
呼吸器外科	44,381.0	47,647.1	41,003.3	41,099.7	37,254.2	48,077.0	43,542.4	69,196.2	41,298.4	48,340.6	42,271.4	41,645.3	38,966.9
外科	27,825.3	29,557.3	29,162.6	26,989.0	27,459.8	26,956.0	27,308.4	27,918.4	28,544.4	27,292.1	29,495.4	26,925.4	27,129.1
脳神経外科	11,627.8	11,294.3	12,817.7	10,732.2	9,671.9	9,659.4	13,687.1	14,324.6	12,608.9	11,501.8	9,776.3	11,843.9	10,531.8
整形外科	7,474.6	7,034.5	7,584.3	7,309.2	7,137.8	7,716.8	7,049.9	7,644.9	7,239.9	8,003.3	7,803.3	7,222.1	7,729.5
雇婦人科	8,243.7	8,705.9	7,197.5	8,004.1	8,560.0	8,175.8	8,226.8	10,160.8	7,978.6	7,288.2	7,855.3	9,442.0	7,617.2
小 児 科	10,196.5	5,873.2	6,177.6	6,215.3	6,874.7	10,542.0	10,749.4	10,507.2	11,515.2	11,526.8	12,098.9	13,557.9	12,631.9
眼科	12,037.5	14,872.6	17,797.6	12,452.0	12,566.9	11,250.9	11,428.1	9,465.2	9,655.4	12,219.4	11,325.1	10,619.3	12,336.5
皮膚科	5,648.4	7,878.5	4,115.3	4,646.0	7,368.7	5,494.2	3,311.1	7,724.1	4,013.4	5,739.6	5,727.5	5,522.2	6,015.1
形成外科	8,770.0	6,611.8	6,275.0	8,228.2	10,511.2	6,796.7	10,611.3	7,831.8	8,073.4	8,813.8	8,881.3	10,363.4	7,999.0
耳鼻咽喉科	5,594.1	5,038.5	3,884.2	7,041.8	6,792.6	5,988.8	5,628.5	4,602.1	4,957.8	5,882.9	5,619.2	5,645.5	5,754.5
リハと、リテーション系斗	5,265.2	5,460.4	5,770.8	5,162.6	5,440.4	5,521.2	5,655.4	5,245.5	5,515.7	5,161.7	4,659.8	4,629.0	4,679.2
泌尿器科	16,045.1	17,808.8	17,020.1	16,988.8	16,887.3	18,617.0	16,630.8	16,037.4	15,917.5	15,139.0	14,831.4	13,939.2	13,188.5
緩和ケア	13,231.0	13,138.8	7,832.3	13,692.8	22,842.9	18,003.1	20,453.8	10,617.1	10,802.8	9,039.2	12,496.3	9,985.0	20,594.3
放射線	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その色	8,148.7	10,521.8	9,569.3	2,688.5	9,122.7	12,199.0	11,905.2	11,214.8	13,845.5	11,382.0	3,955.9	10,645.2	11,595.5
福	20,759.4	20,747.9	21,003.1	19,375.2	19,551.6	20,093.2	20,924.6	21,718.3	21,202.2	21,141.8	21,662.8	21,198.7	20,597.8

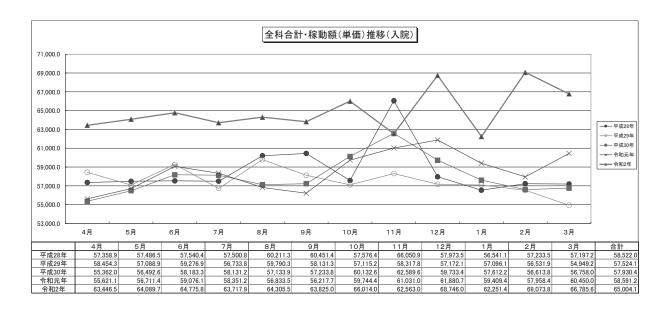
19,431.1

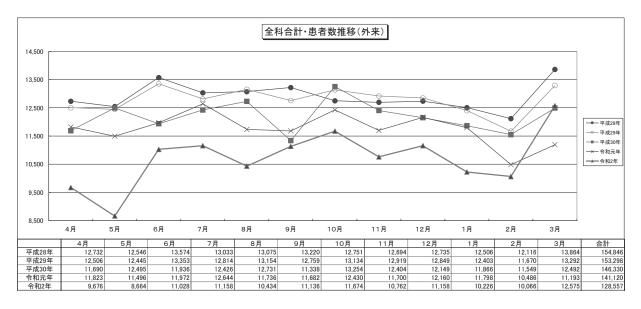
19,347.5

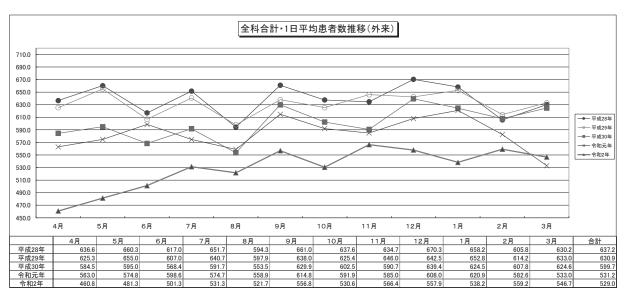


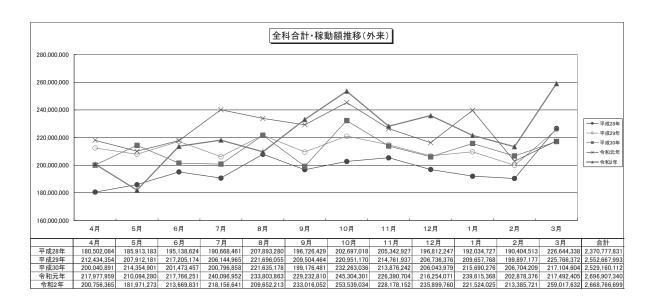


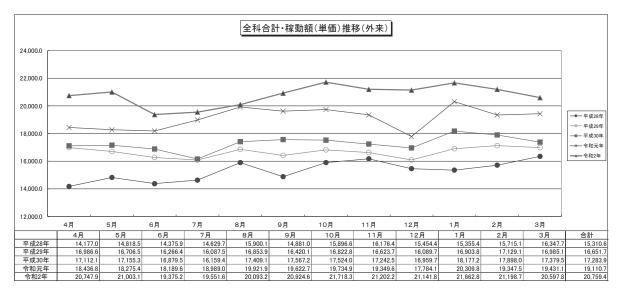


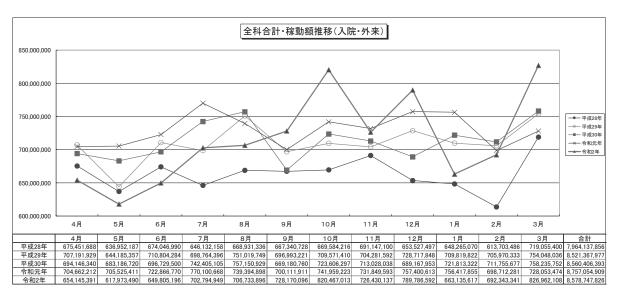


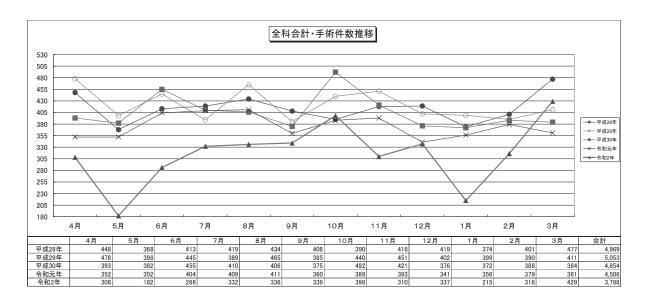


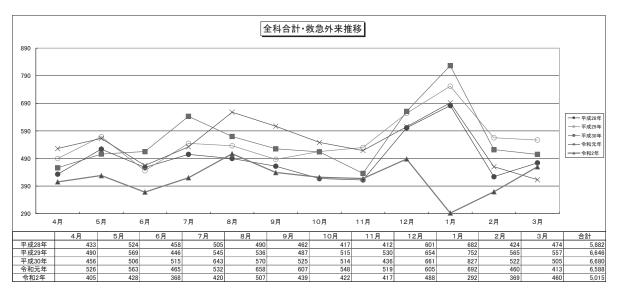


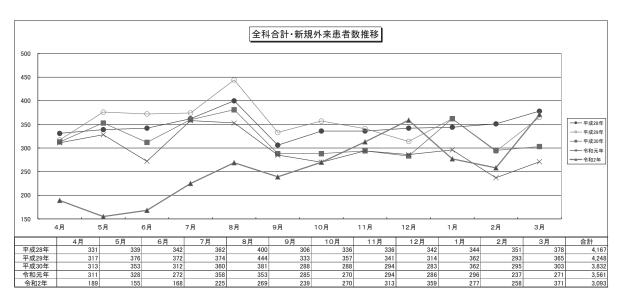






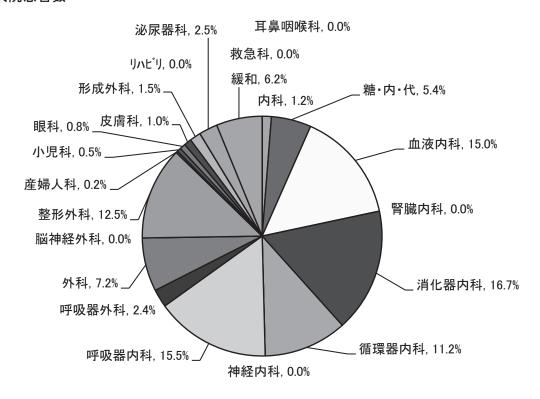




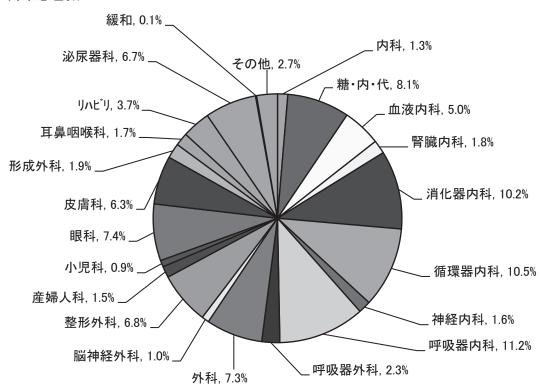


8. 科別患者構成比

入院患者数



外来患者数



※その他は、放射線科と救急科とリウマチ・膠原病とドック・健診を足したものです。

9. 診療科年齡別構成表

#= 40	0 483	0	0 706	0 11,382	16 6,569	53 4,892	0 13,658	5 15,174	10,231	3 1,116	14,114	0 2,212	0 2,271	904	0 1,358	0 223	0 5,624	0	90,917	1000%
100-					1			7											176	%00
66-06	8		19	1,045	381	132	346	1,729	1,688	146	1,479	35	247	42	0	0	678		7,970	% α
80-89	11		166	4,121	1,450	1,104	3,632	4,596	4,024	517	5,233	491	029	250	200	17	2,093		28,575	31.7%
70-79	ĸ		341	3,472	3,037	1,918	5,531	5,571	2,931	165	4,315	942	896	249	677	78	2,121		32,319	35 5%
69-09	0		140	1,063	937	658	1,598	1,685	926	130	1,942	290	240	132	77	14	526		10,708	11 8%
50-59	ĸ		18	720	436	570	1,220	844	449	16	611	77	75	9/	271	49	142		5,577	7 9
40-49	170		17	069	187	321	490	432	136	99	366	6	34	112	33	63	64		3,190	د 70 د
30-39	0		0	29	59	108	257	112	80	89	42	18	2	16	19	0	0		922	%6 U
20-29	0		-	92	37	28	521	102	0	2	74	40	16	6	7	2	0		915	1 0%
10-19	51		0	114	29	0	63	28	0	c	48	10	19	12	63	0	0		440	O 5%
6 -0	242		4	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0		271	%E O
診療科	小 児 科	耳鼻咽喉科	眼科	整形外科	本	糖尿病・内分泌・代謝内科	田 液 内 科	消化器内科	循環器內科	松	呼吸器内科	呼吸器外科	泌尿器科	皮 膚 科	形成外科	産 婦 人 科	緩和ケア科	救 急 科	4	High High High High High High High High

10. 救急患者数

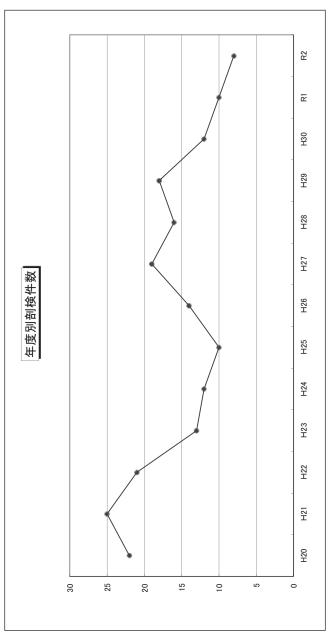
令和2年度月別件数

		4月	5月	6月	7月	8月	日6	10月	11月	12月	1月	2月	3月	和
1	R01年度	210	140	155	188	219	186	162	172	162	151	159	157	2,061
	R02年度	207	144	160	158	172	146	148	159	173	98	130	183	1,866
1年8月4月	R01年度	247	371	243	285	356	349	322	291	372	446	243	200	3,725
대티가	R02年度	154	237	154	207	275	231	204	192	242	172	180	217	2,465
岩井	R01年度	69	52	29	29	83	72	64	26	71	95	28	26	802
¥1¥	R02年度	44	47	54	55	61	62	70	99	73	34	59	59	684
1	R01年度	526	563	465	532	658	209	548	519	909	692	460	413	6,588
	R02年度	405	428	368	420	208	439	422	417	488	292	369	459	5,015
1	R01年度	17.5	18.2	15.5	17.2	21.2	20.2	17.7	17.3	19.5	22.3	16.4	13.3	18.0
平均	R02年度	13.5	13.8	12.3	13.5	16.4	14.6	13.6	13.9	15.7	9.4	13.2	14.8	13.7

令和2年度診療科別件数

		9	D.	2	7	4	ω	2	0	_
和	7,06	1,866	3,725	2,465	802	684	6,588	5,01	18.0	13.7
救急	2	3	11	7	_		14	11	0.0	0.0
放射線	2	_	-	3	0	0	3	4	0.0	0.0
緩和	11	9	5	2	0	0	16	8	0.0	0.0
泌尿器	29	48	155	162	28	48	272	258	0.7	0.7
マブ くン	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
耳鼻科	18	22	22	40	=	20	98	82	0.2	0.2
形成	30	16	57	52	9	80	93	9/	0.3	0.2
皮膚科	26	23	151	98	24	16	201	125	9.0	0.3
眼科	9	2	61	15	32	10	66	30	0.3	0.1
小児科	39	18	63	32	14	6	116	59	0.3	0.2
産婦人	3	4	17	9	2	2	25	12	0.1	0.0
整形	302	229	496	368	61	64	859	199	2.4	1.8
脳神経 外 科	23	20	27	27	4	3	54	20	0.1	0.1
外科	51	71	253	196	35	29	339	296	6.0	0.8
呼吸器外科	6	3	12	1	-	-	22	15	0.1	0.0
呼吸器 内 科	243	258	367	272	75	71	685	601	1.9	1.6
数 数 数 数	13	12	16	17	2	2	31	31	0.1	0.1
循環器 内 科	243	215	205	153	84	64	532	432	1.5	1.2
消化器 内 科	453	260	829	338	153	134	1,435	732	3.9	2.0
層内	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
相 松 茶 茶	25	34	32	30	2	2	62	69	0.2	0.2
糖·内·代	2	14	80	12	2	-	15	27	0.0	0.1
内科	498	604	902	636	229	196	1,629	1,436	4.5	3.9
	R01年度	R02年度	R01年度	R02年度	R01年度	R02年度	R01年度	R02年度	R01年度	R02年度
	七里七		中国	お同分	岩	¥ ¥	4	<u> </u>	1	计

11. 剖検件数



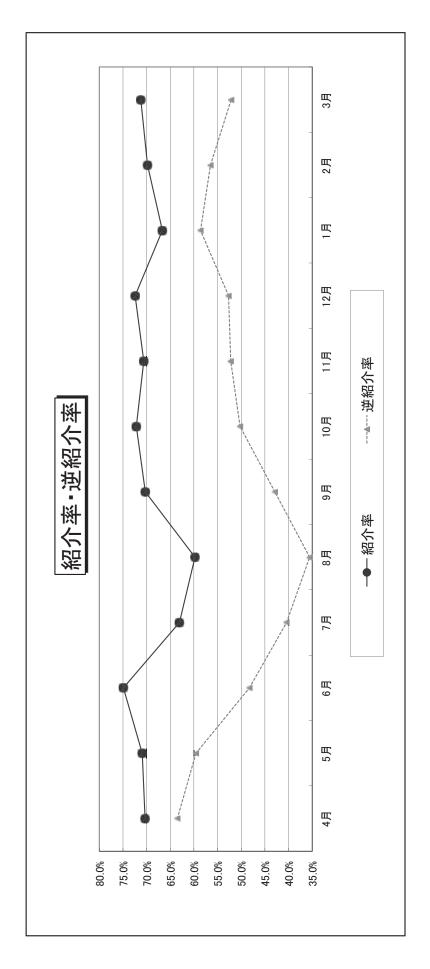
	T
R2	8
R1	10
H30	12
Н 29	18
H 28	16
H 27	19
Н 26	14
Н 25	10
H 24	12
H 23	13
Н 22	21
H 21	25
H20	22
年度	件数

令和2年度科別剖検数

恒	8	389	2.1%
救急			
緩和		189	%0.0
彩页器		1	0.0% 0.0%
リハビリ テーション科			
画面			
形成			
皮膚			
留			
小児			
産婦		1	%0.0
整形		2	%0.0 %0.0
脳神経			
外科		10	%0:0
四外		3	%0.0 %0.0
日内	2	74	2.7%
神経内			
比器 循環器 神経内		29	%0.0
消化器		37	%0.0
日	9	36	16.7%
糖·内· 代		2	0.0% 0.0% 16.7% 0.0% 0.0%
本本		5	%0.0
	数	数	ト
	换	Ţ	楔
	噩	死	噩

12. 紹介率・逆紹介率

	80	20	77	%	2%
一	6,880	4,770	3,477	%8:69	%9.05
3月	827	589	431	71.2%	52.1%
2月	570	398	322	88.69	26.5%
1月	570	380	334	%2'99	28.6%
12月	653	473	344	72.4%	52.7%
11月	636	449	332	%9.07	52.2%
10月	611	441	307	72.2%	50.2%
日6	522	390	238	70.3%	42.9%
8月	594	355	211	29.8%	35.5%
7月	574	362	232	63.1%	40.4%
日9	518	388	250	74.9%	48.3%
5月	361	256	215	%6.07	29.6%
4月	411	289	261	70.3%	63.5%
令和2年度	初診患者数	紹介患者数	逆紹介患者	格介格	逆紹介率



13. 食事別給食数

食事別給食数

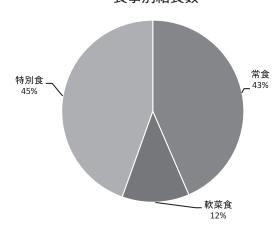
	常食	軟菜食	特別食	濃厚流動食	合 計
延食数	82,928	22,757	84,868	7276	197,829
一日平均	227	62	233	20	542

特別食内訳

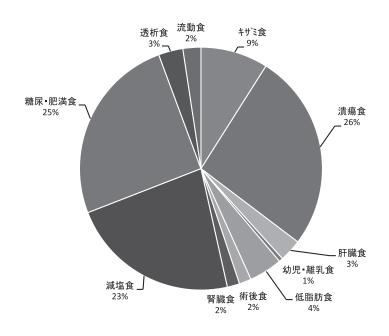
	キザミ食	潰瘍食	肝臓食	幼児・離乳食	低脂肪食	術後食	腎臓食	減塩食
延食数	7,628	22,345	2,521	451	3,764	1,367	1,395	19,171
一日平均	21	61	7	1	10	4	4	53

	糖尿・肥満食	透析食	濃厚流動食	その他	合計
延食数	21,429	2,765	2,032	0	84,868
一日平均	59	8	6	0	233

食事別給食数



特別食内訳

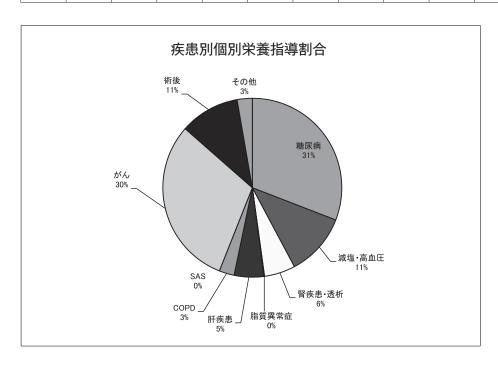


14. 栄養指導件数(令和2年度)

	入院					外	 来		指	·····································
	指	導	カンファ	ァレンス	個	別	集	₫	合	計
指導月	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	29	29	19	12	13	13	0	0	42	42
5月	28	28	17	14	8	8	0	0	36	36
6月	37	37	30	21	10	10	0	0	47	47
7月	44	44	30	21	14	14	0	0	58	58
8月	43	43	30	24	2	2	0	0	45	45
9月	32	32	23	19	8	8	0	0	40	40
10月	51	51	40	30	13	13	0	0	64	64
11月	43	43	31	25	10	10	0	0	53	53
12月	51	51	27	20	10	10	0	0	61	61
1月	36	36	17	16	49	49	0	0	85	85
2月	33	33	33	33	55	55	0	0	88	88
3月	54	54	31	31	59	59	0	0	113	113
合計	481	481	328	266	251	251	0	0	732	732
月平均	40.1	40.1	27.3	22.2	20.9	20.9	0.0	0.0	61.0	61.0

疾患別個別栄養指導件数(複数の制限の指示は主指示事項をカウントする)

	糖尿病	減塩・ 高血圧	腎疾患 ・透析	脂質異 常症	肝疾患	COPD	SAS	がん	術後	その他	合計
延数	226	83	41	1	39	20	0	223	79	20	732
月平均	19	7	3	0	3	2	0	19	7	2	61



15. 手術件数

恒	4,969	5,053	4,854	4,506	3,788
その他	22	26	25	45	21
泌尿器	295	265	273	309	252
耳鼻 咽喉科	303	273	61	33	16
形成外科	602	617	584	542	484
皮膚科	19	39	41	23	25
眼科	872	923	1130	923	673
小児科				2	_
産婦人 科	173	130	128	93	36
整形外科	069	069	639	576	550
脳神経 外科	6	16	12	10	_
外科	292	592	540	570	457
呼吸器 外科	113	121	122	102	81
呼吸器 內科	4	3	2	2	5
循環器 内科	396	336	315	268	212
消化器和内科	786	964	932	972	946
腎臓内科				25	15
自然不及				2	10
糖· 内 代				4	
尽	9/	58	20	2	3
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度

※その他は、リハビリテーション科と救急科を足したものです。

16. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について

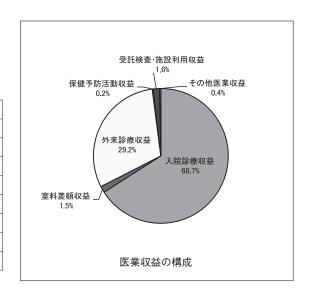
(令和2年度医療施設特別会計決算額より)

医業収益の構成

損益計算書収益の部より、医業収益科目の構成比率

(単位:円)

項目	金額	構成比率
入院診療収益	5,766,798,219	66.2%
室料差額収益	132,923,440	1.5%
外来診療収益	2,664,214,690	30.6%
保健予防活動収益	15,576,364	0.2%
受託検査・施設利用収益	137,051,000	1.6%
その他の医業収益	26,827,285	0.3%
保険等査定減(※入院 + 外来診療収益比)	-26,898,904	(-0.3%)
合計	8,716,492,094	

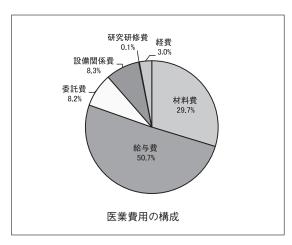


医業費用の構成

損益計算書費用の部より、医業費用科目の構成比率

(単位:円)

項目	金額	構成比率
材料費	2,708,907,196	29.7%
給与費	4,620,761,425	50.7%
委託費	745,648,165	8.2%
設備関係費	754,978,710	8.3%
研究研修費	12,943,401	0.1%
経費	273,807,602	3.0%
合計	9,117,046,499	

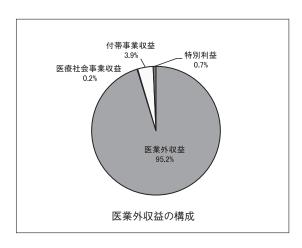


医業外収益の構成

損益計算書収益の部より、医業外収益科目の構成比率

(単位:円)

項目	金額	構成比率
医業外収益	1,377,609,203	95.2%
医療社会事業収益	2,301,601	0.2%
付帯事業収益	56,190,085	3.9%
特別利益	10,208,960	0.7%
合計	1,446,309,849	

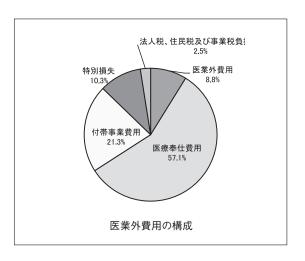


医業外費用の構成

損益計算書費用の部より、医業外費用科目の構成比率

(単位:円)

項目	金額	構成比率
医業外費用	19,487,952	8.8%
医療奉仕費用	125,807,195	57.1%
付帯事業費用	47,017,764	21.3%
特別損失	22,656,775	10.3%
法人税、住民税及び事業税負担額	5,491,834	2.5%
合計	220,461,520	



17. 病院利益(損失)

(単位:円)

総利益	10,162,801,943
総費用	9,337,508,019
病院利益(損失)	825,293,924

18. 令和 2 年度 年間購入雑誌一覧

	洋 雑 誌
(m	子)
1	Emargency Medicine Report
2	Journal of Orthopaedic Science
(電	- 子ジャーナル)
3	Advances in anatomic pathology
4	Anesthesiology
5	Annals of Thoracic Surgery
6	American Journal of Surgical Pathology
7	Anesthesia and Analgesia
8	Annals of Surgery
9	Blood
10	Biology of Blood and Marrow Transplantation
11	Bone & Joint Journal (UK)
12	Circulation
13	Critical Care Medicine
14	Diseases of the Colon and Rectum
15	European Respiratory Journal
16	Journal of the American College of Cardiology
17	Journal of Arthroplasty
18	Journal of Bone and Joint Surgery (American Volume)
19	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery
20	Journal of Urology
21	Lancet Respiratory Medicine
22	Ne w England Journal of Medicine
23	Plastic and Reconstructive Surgery
24	RETINA
25	Urology

	和雑誌			
(#	(冊子)			
1	Clinical Research Professionals			
2	JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION			
3	Lisa			
4	あたらしい眼科			
5	医事業務			
6	胃と腸			
7	薬事			
8	エキスパートナース			
9	看護研究			
10	看護			
11	看護展望			
12	作業療法ジャーナル			
13	呼吸器ジャーナル			
14	消化器内視鏡			
15	総合リハビリテーション			
16	ナーシングビジネス			
17	保険診療			
18	みんなの呼吸器 Respica			
19	薬局			
20	理学療法ジャーナル			
21	臨床消化器内科			

文献検索・データベース

MEDLINE with Full Text (EBSCO)		
CINAHL with Full Text (EBSCO)		
The Cochrane Library		
Dyna Med		
医学中央雑誌 web 版		
メディカルオンライン		

19. 医療社会事業年報(2020年度)

1. ケース件数 《年度実人数》

	入院 / 外来	人数
	入院	1,311 人
年度実人数	外来	535 人
	計	1,846 人

物フケーフ	入院	525人
だりが一人	外来	46 人
合計		571 人

2. 延べ人数	
延人数	8,291 人

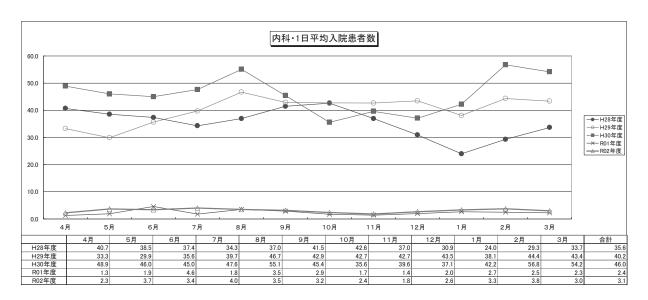
3. 新ケースの紹介経路(実件数)	
区分	件数
医師	363件
看護職	787 件
リハビリ職	5件
その他院内職員	22 件
本人	142件
家族・親戚縁者	161件
院外関係機関(者)	340件
近隣者・知人	1 件
ソーシャルワーカー	9件
その他	2件
合計	1,832件

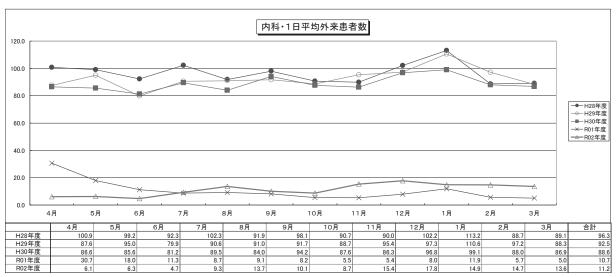
4. 問題 (延べ人数)		
区分	件数	
家族関係の問題	25 件	
介護・療養生活上の問題	1,183 件	
経済に関する問題	108 件	
日常生活上の問題	216 件	
就労・職場の問題	2件	
教育の問題	0 件	
医療の確保に関する問題	678 件	
人権に関わる問題	5件	
心理・情緒的問題	4 件	
制度活用に関する問題	121件	
その他	24 件	
合計	2,366	

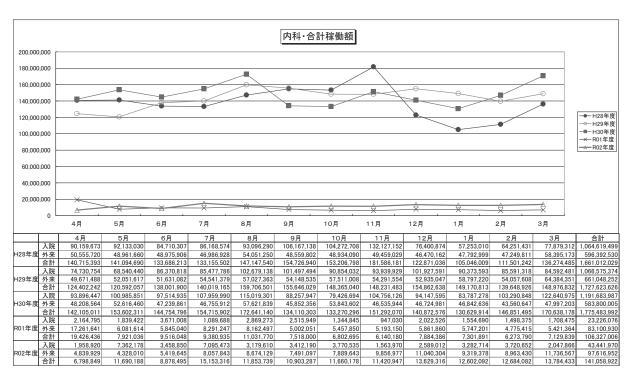
5. 援助方法 (延べ回数)		
方法		回数
= + + +	本人	2,047 🛮
面接	家族	1,409 🗆
電話	本人	57 🛽
电面	家族	2,148 🗆
訪問	家庭	0 🗆
可问	その他	11 🗆
同行・同伴・代行		5 🗆
文章・FAX		1,946 🗉
情報収集		531 🗆
院内協議・院内カンファレンス		4,711 🗆
院外協議・院外カンファレンス		6,968 🗆
合同カンファレンス		73 🛭
合計		19,906 🛭

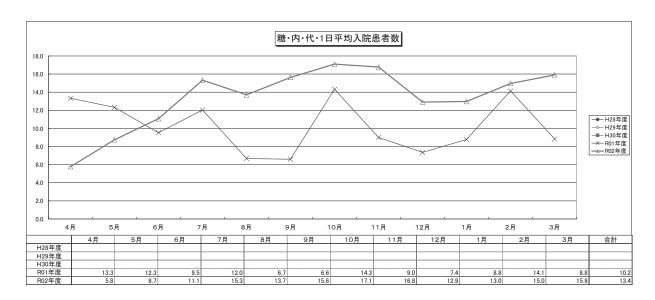
6. 相談援助内容(延べ件数)	
内容	件数
1、家族関係に関すること	55 件
2、在宅介護・地域生活に関すること	2,862 件
3、療養生活に関すること	535 件
4、経済的問題に関すること	163 件
5、就労・職場環境に関すること	1 件
6、就学・教育環境に関すること	0 件
7、虐待・暴力・人権に関わること	4 件
8、受診・受療に関すること	579 件
9、転院に関すること	3,152件
10、他施設利用に関すること	1,201 件
11、心理・情緒的問題に関すること	2件
12、他福祉関係法利用に関すること	474 件
13、その他	58件
合計	9,086 件

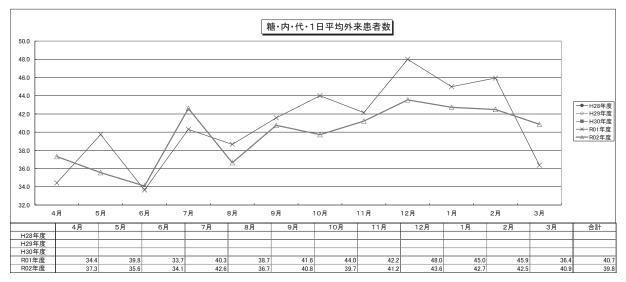
7. 介入の時期 (実人数)	
区分	人数
1、受診	15人
2、外来継続	254 人
3、入院時	50人
4、入院継続	792人
5、退院期	722人
6、その他	49 人
合計	1,882人

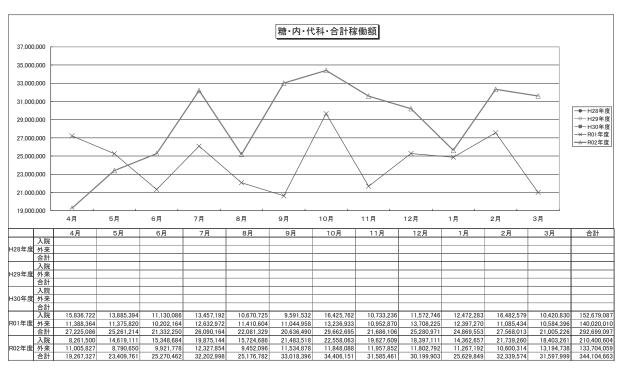


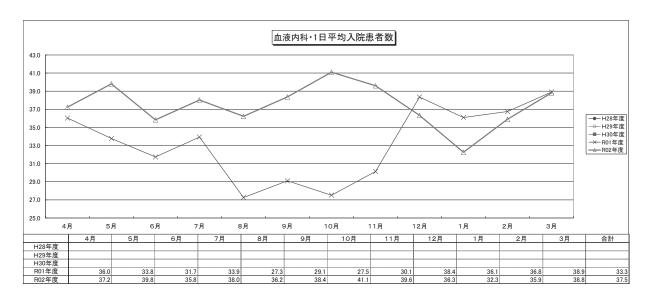


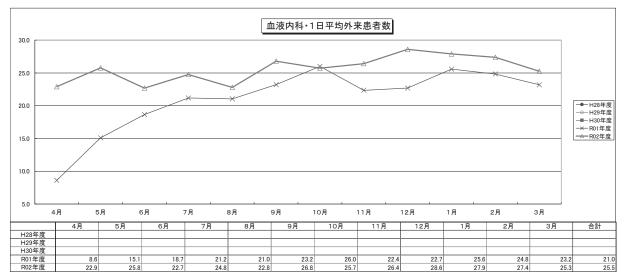


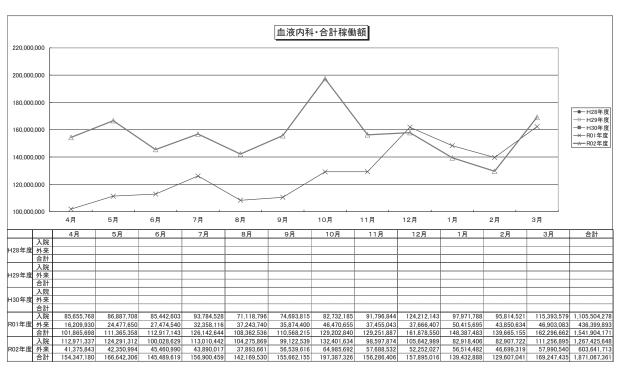


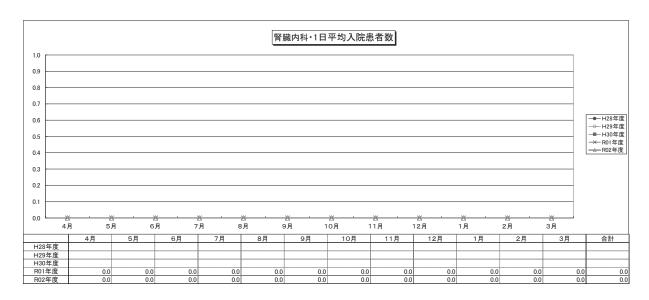


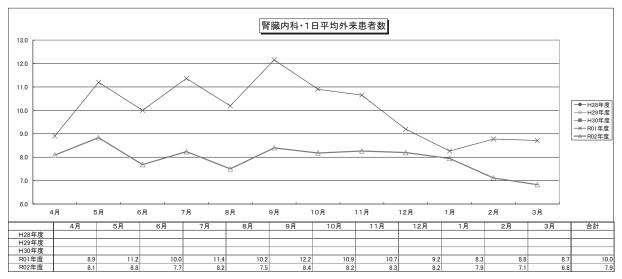


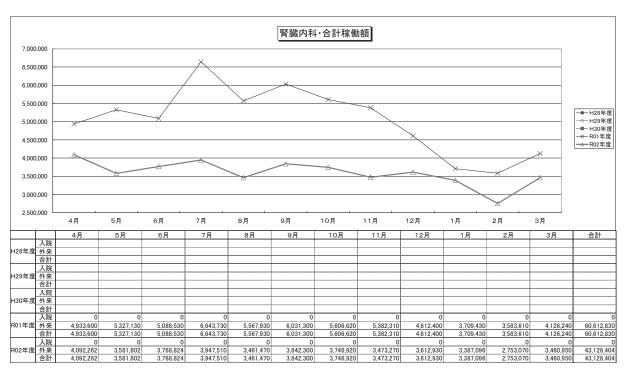


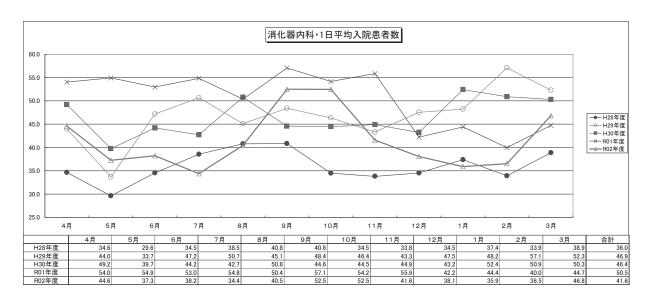


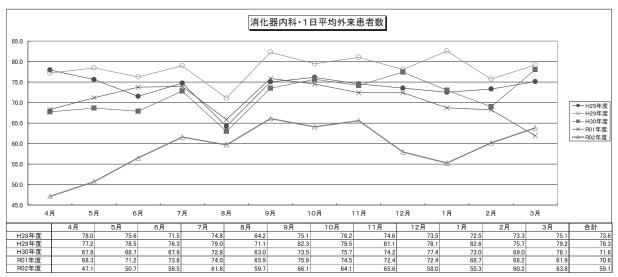


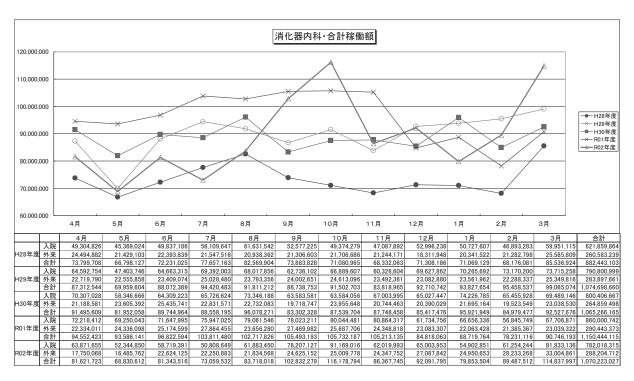


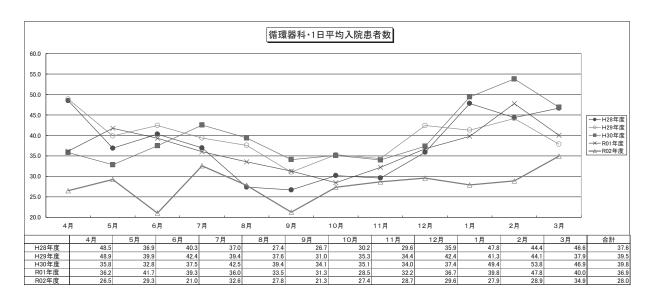


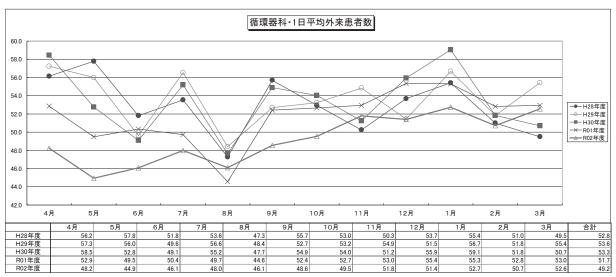


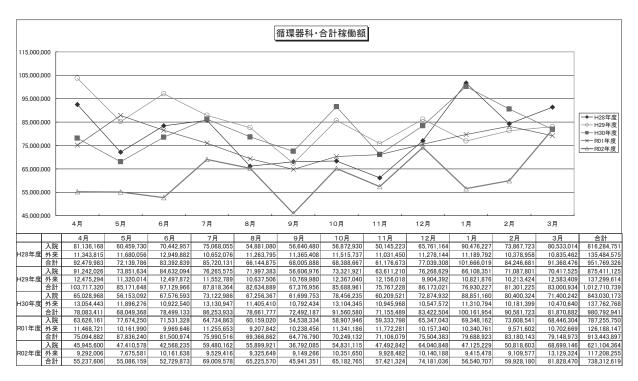


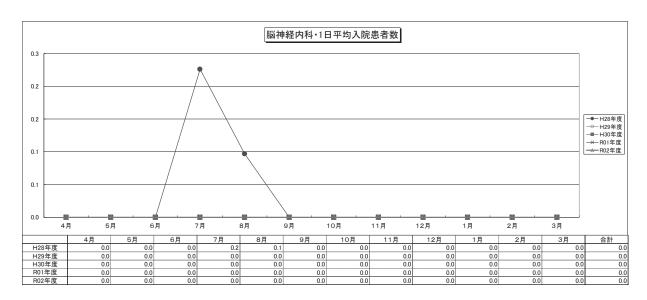


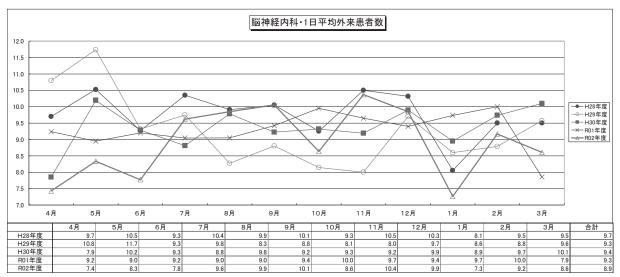


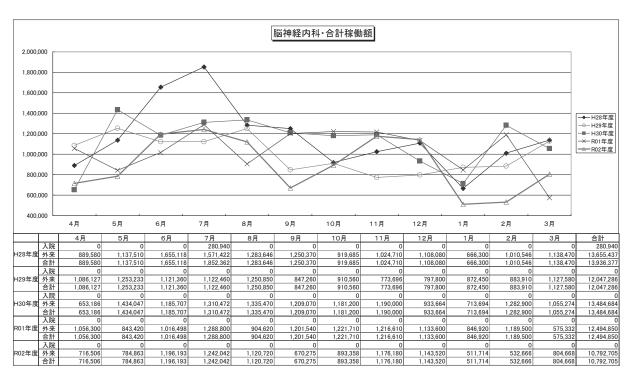


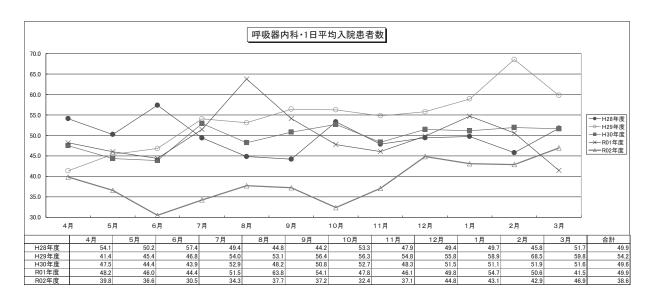


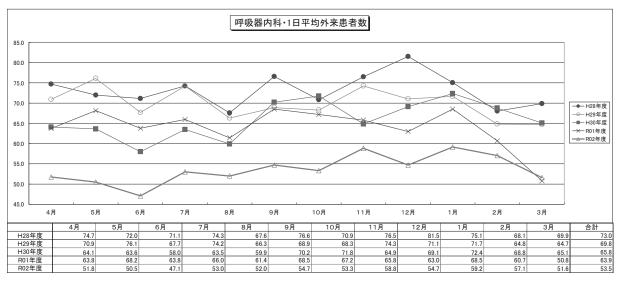


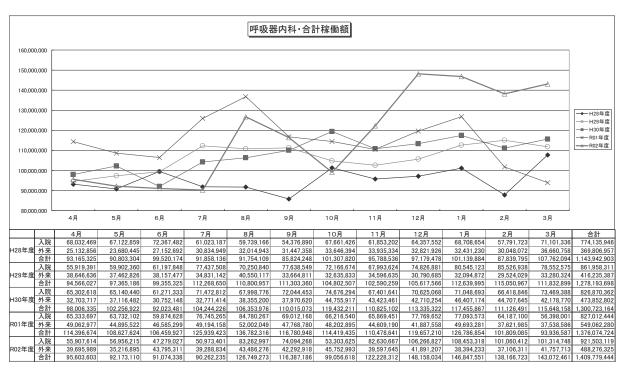


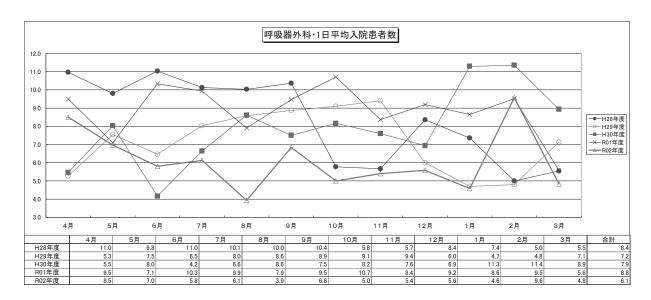


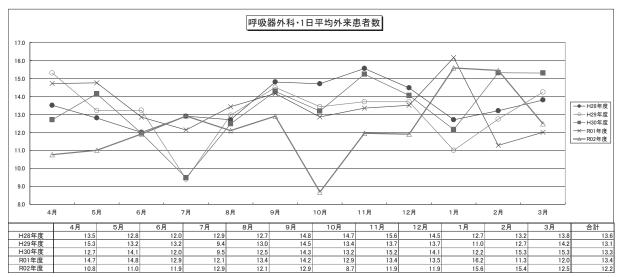


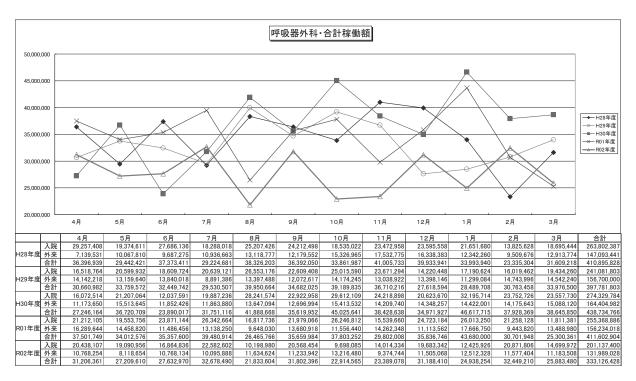


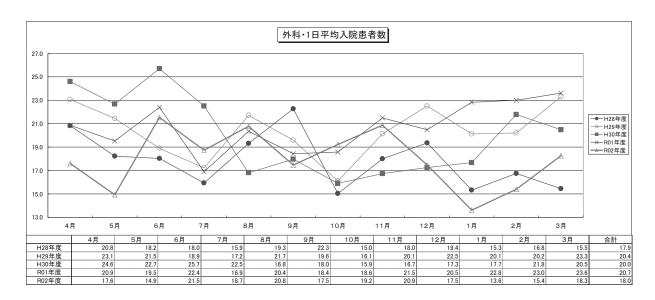


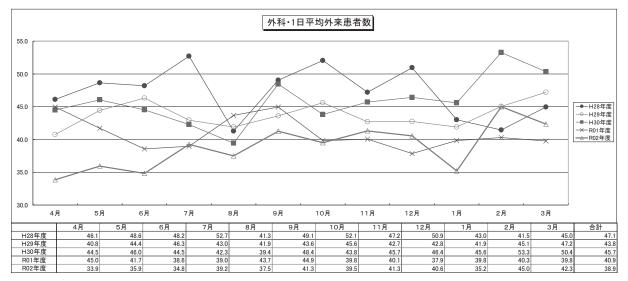


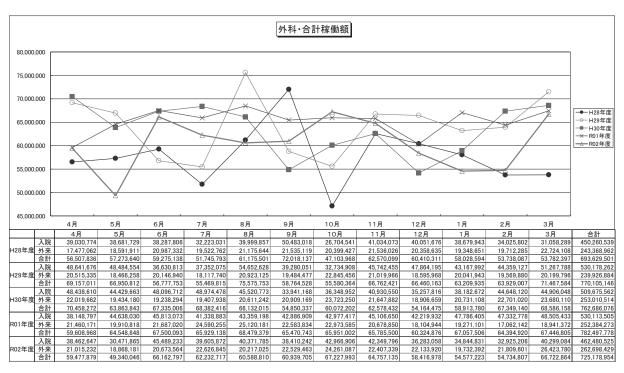


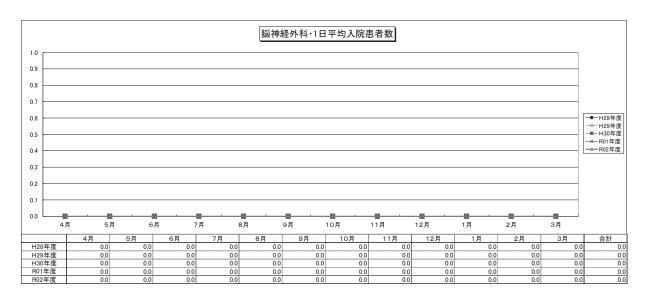


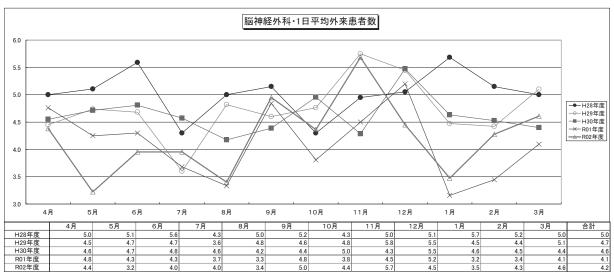


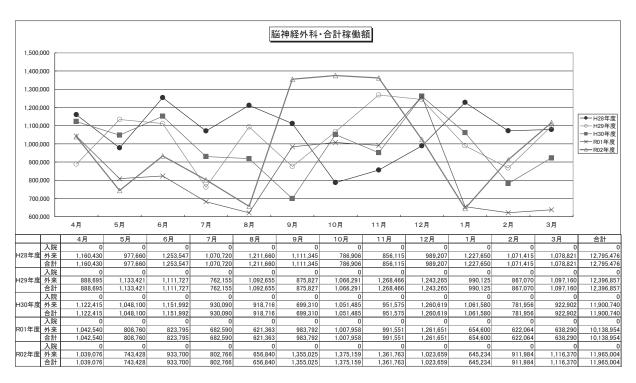


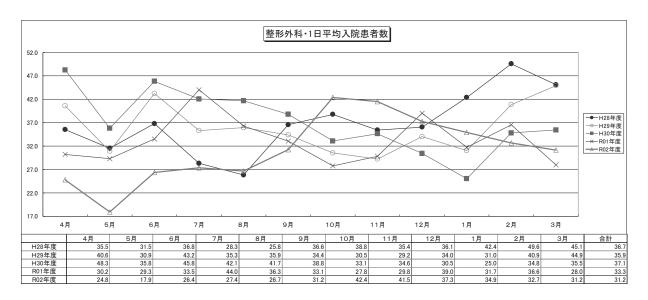


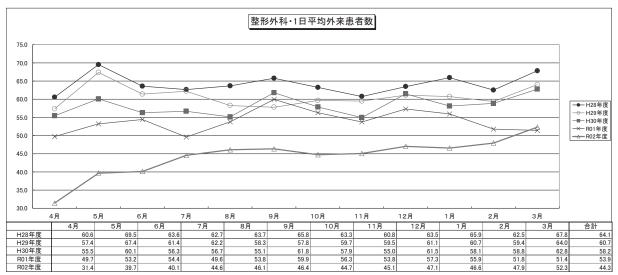


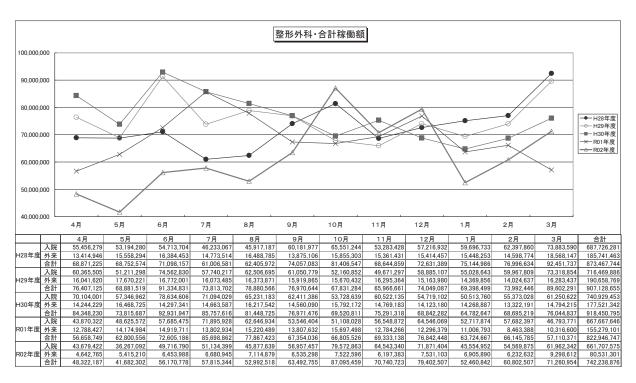


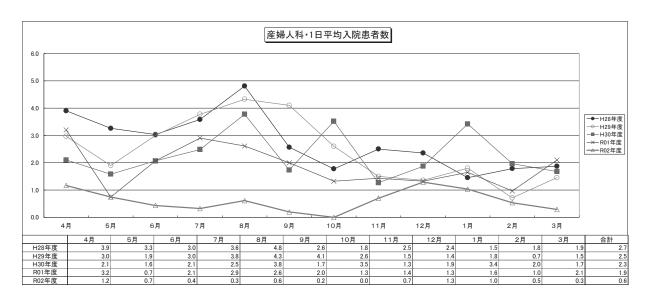


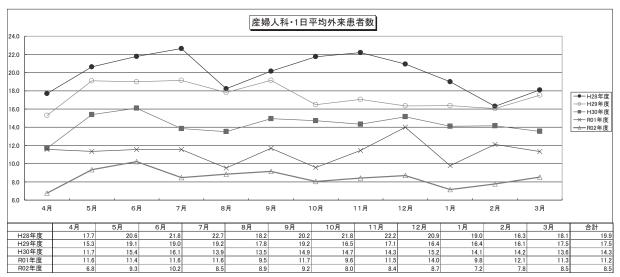


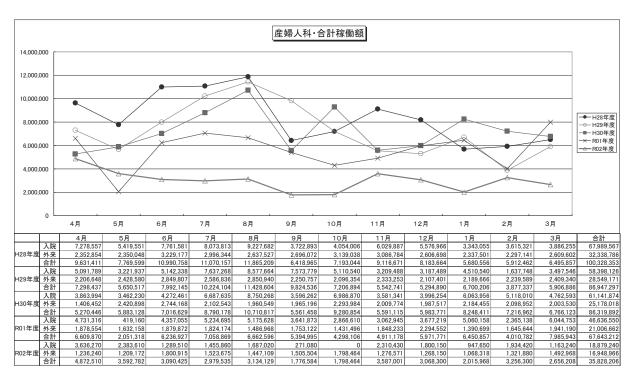


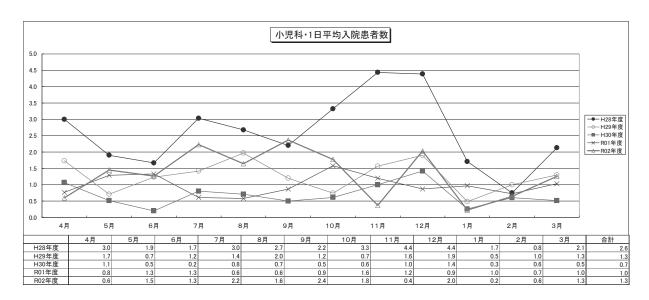


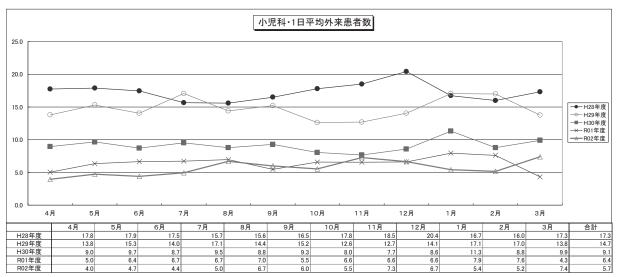


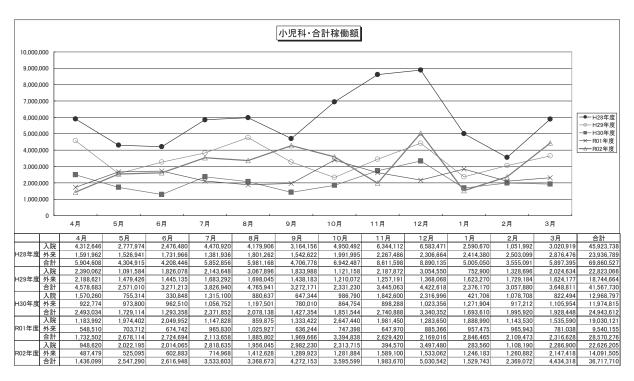


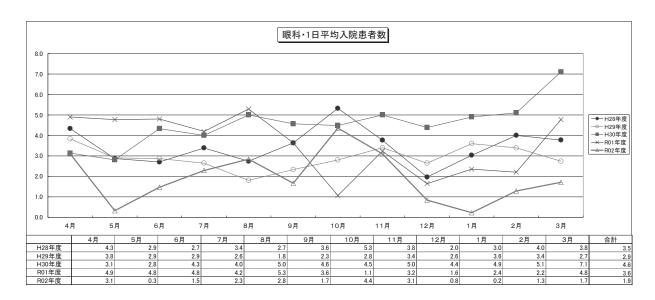


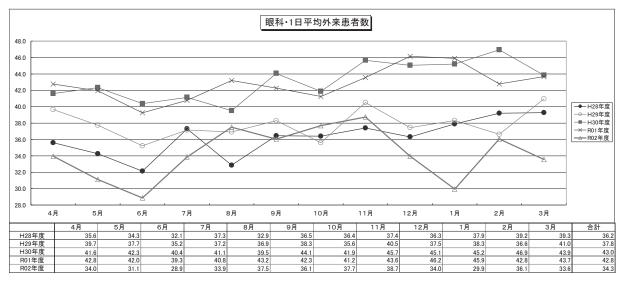


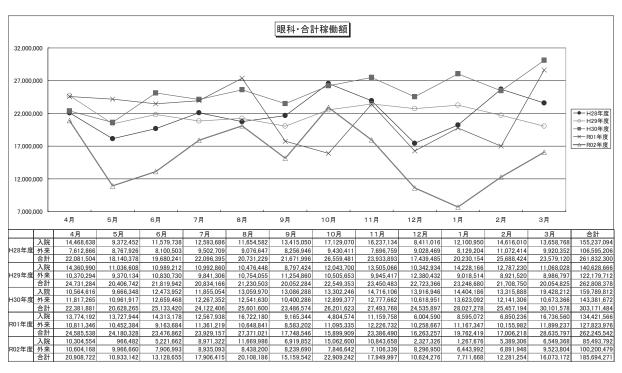


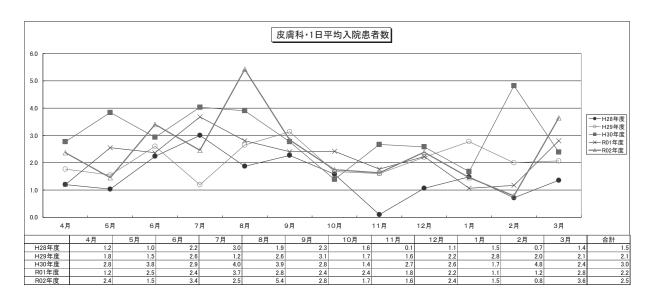


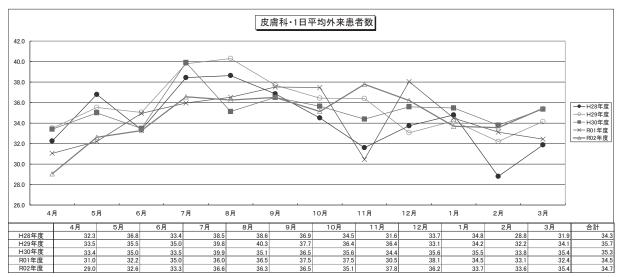


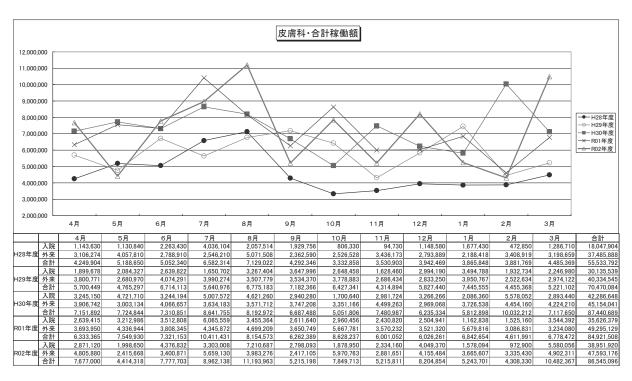


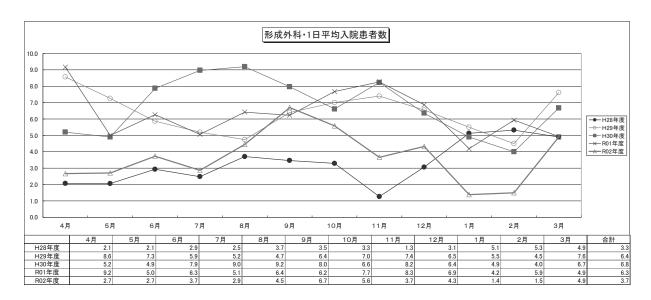


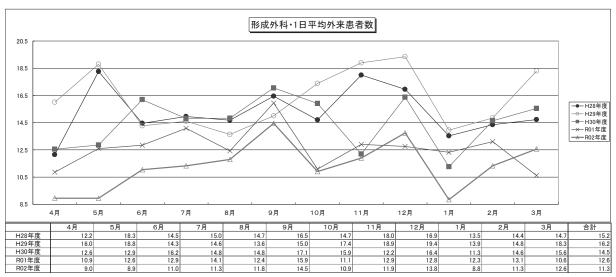


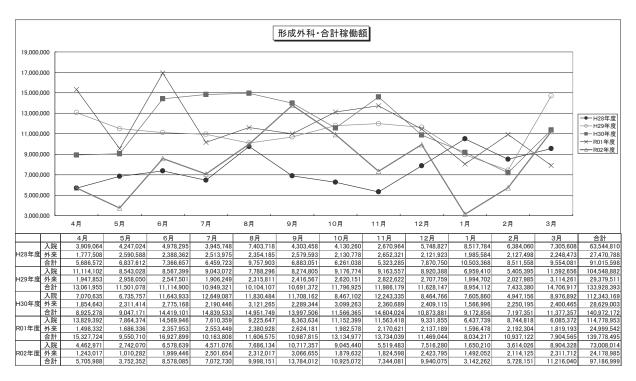


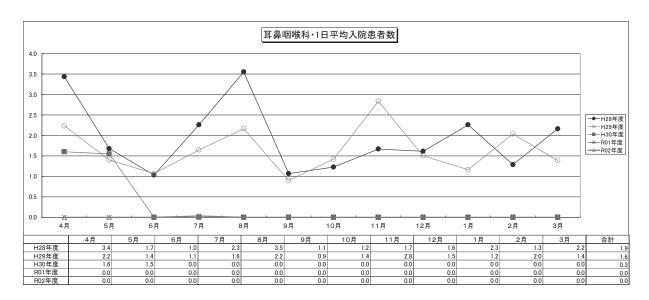


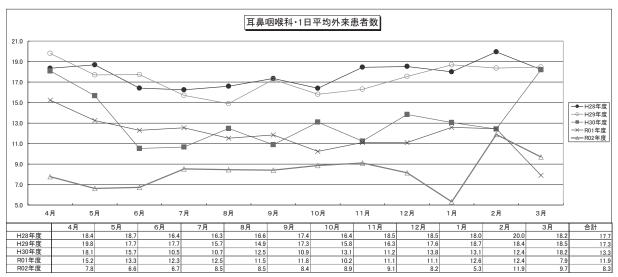


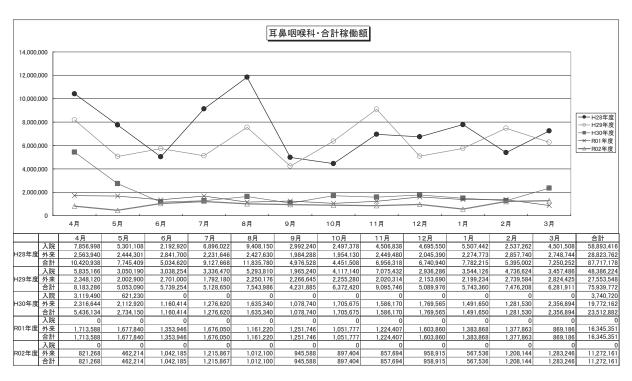


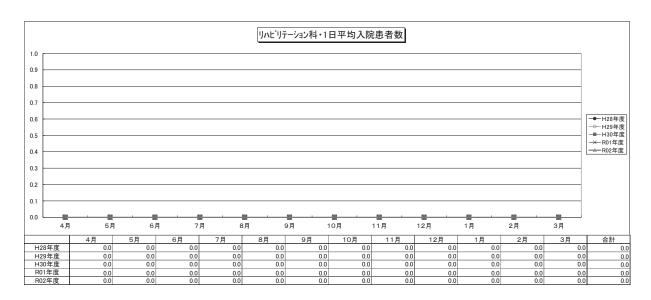


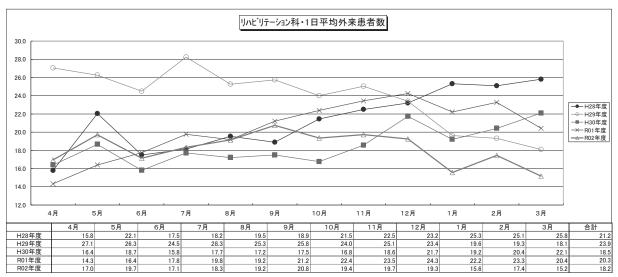


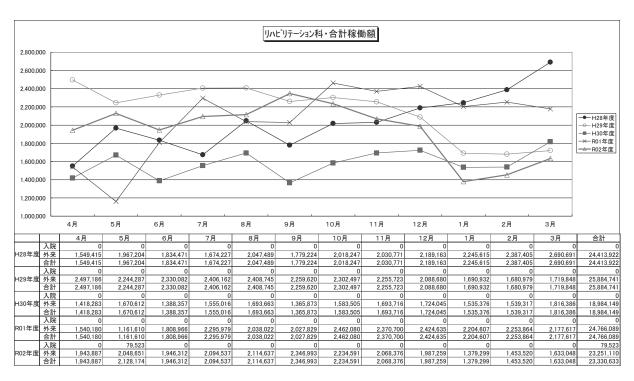


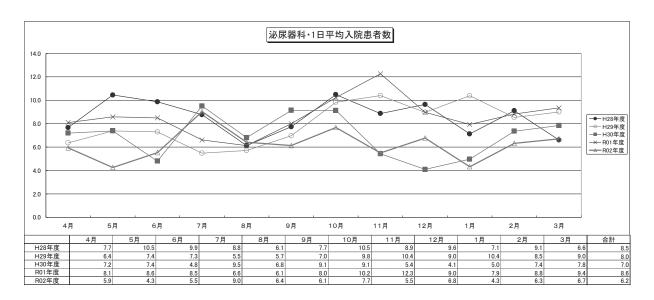


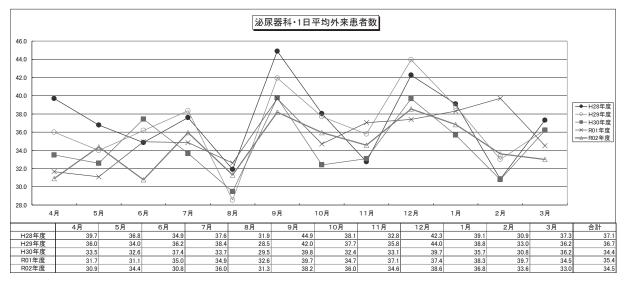


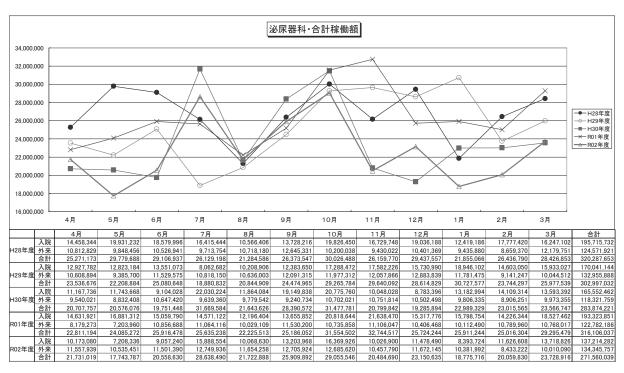


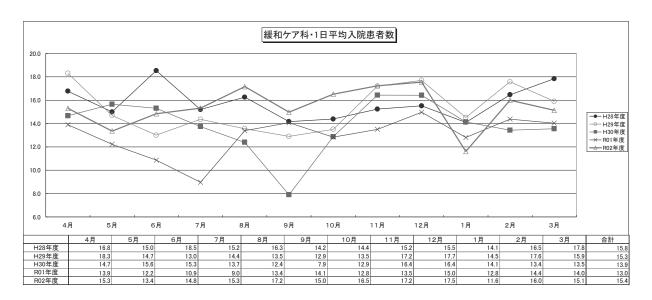


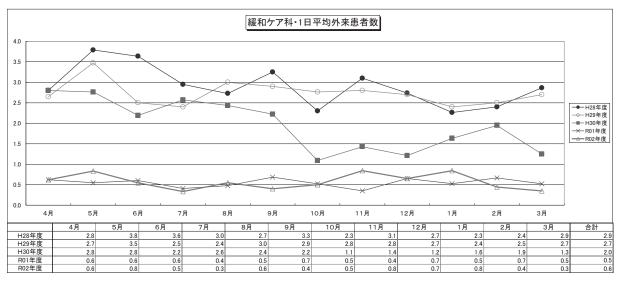


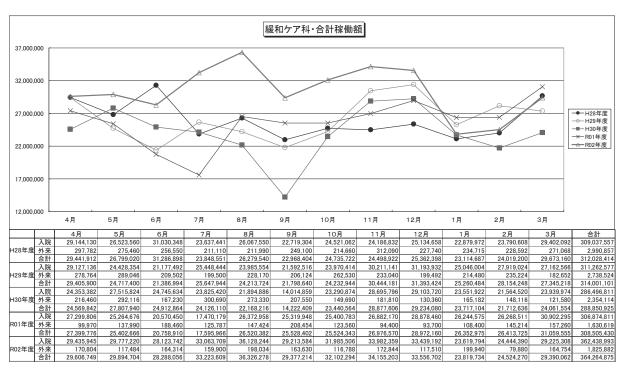












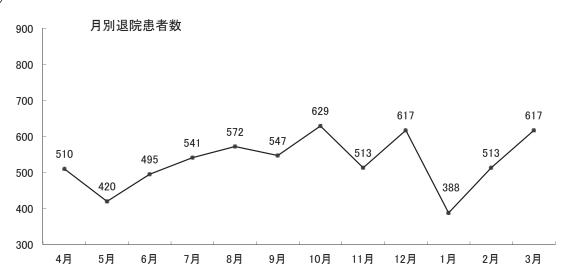
V 退院患者疾病統計

1. 月別退院患者数

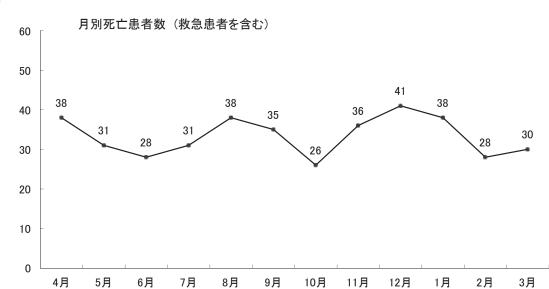
1		(١
(Ι	/	J

月性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	310	250	313	318	351	309	351	305	338	202	307	356	3,710
女	200	170	182	223	221	238	278	208	279	186	206	261	2,652
合 計	510	420	495	541	572	547	629	513	617	388	513	617	6,362

(人)







2. 科別・月別退院患者数

(人)

																()()
診療	科名		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	尿病・ 活 習			15	17	24	23	34	22	32	31	27	23	22	34	304
Щ	液・腫	瘍内	科	36	36	36	42	37	38	45	35	42	33	32	43	455
緩	和]	科	21	19	21	24	21	23	14	15	21	10	12	16	217
消	化	器	科	113	110	127	124	134	173	170	121	144	87	139	160	1,602
循	環	器	科	62	50	50	61	58	48	59	49	74	45	58	61	675
呼	吸	器	科	74	74	71	78	93	87	83	78	121	84	89	93	1,025
呼	吸器	計 外	科	14	14	12	14	7	10	8	11	13	12	17	12	144
外			科	48	30	42	37	44	36	41	43	39	26	37	48	471
整	形	外	科	35	30	43	40	50	38	61	51	73	37	46	66	570
産	婦	人	科	5	3	2	1	4	1		2	1	1	2	2	24
小	児	Ī	科	4	6	5	7	3	5	5	2	8	1	6	8	60
眼			科	45	2	24	38	41	22	59	41	17	5	29	26	349
皮	盾	. China	科	8	5	12	12	18	10	6	5	6	3	1	13	99
形	成	外	科	5	6	8	8	4	11	12	6	9	4	4	12	89
耳	鼻咽	国 喉	科													0
泌	尿	器	科	25	18	18	32	24	23	34	23	22	17	19	23	278
合			計	510	420	495	541	572	547	629	513	617	388	513	617	6,362

3. 科別·転帰別退院患者数

(人)

転帰 診療科名	治癒	軽快	不変	悪化	死 亡	検 査	転 医	その他	合計
糖尿病・内分泌・ 生 活 習 慣 病 科	3	264	2		2	22	8	3	304
血液・腫瘍内科	9	361	1		41	2	34	7	455
緩和科		22	4	1	189		1		217
消化器科	91	1,360	3		37	46	60	5	1,602
循 環 器 科	11	576	1		29	8	50		675
呼 吸 器 科	92	569	3		74	200	84	3	1,025
呼吸器外科		138	1		3	1	1		144
外科		447			10		14		471
整形外科	2	396			2		170		570
産 婦 人 科		21	1		1		1		24
小 児 科	1	56					3		60
眼科		347	2						349
皮 膚 科		95				4			99
形 成 外 科		83					5	1	89
耳鼻咽喉科									0
泌 尿 器 科	5	219	2		1	44	7		278
合 計	214	4,954	20	1	389	327	438	19	6,362

4. 疾病大分類別・性別退院患者数

	性別	患	者 数	(人)	比率 (%)	平均在院
疾病大分类	Į (男	女	合 計	比争(%)	日数(日)
Ι	感染症および寄生虫症	110	104	214	3.4%	17.3
П	新生物	1,412	852	2,264	35.6%	13.5
Ш	血液および造血器並びに免疫障害	60	52	112	1.8%	39.2
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	173	119	292	4.6%	15.4
V	精神および行動の障害	2		2	0.0%	2.0
VI	神経系の疾患	66	35	101	1.6%	6.0
VII	眼および付属器の疾患	162	192	354	5.6%	2.1
VIII	耳および乳様突起の疾患	13	26	39	0.6%	4.9
IX	循環器系の疾患	379	231	610	9.6%	16.1
X	呼吸器系の疾患	369	181	550	8.6%	19.4
ΧI	消化器系の疾患	387	232	619	9.7%	11.6
ΧШ	皮膚および皮下組織の疾患	52	46	98	1.5%	14.9
ΧШ	筋骨格系および結合組織の疾患	91	101	192	3.0%	21.7
XIV	尿路性器系の疾患	143	100	243	3.8%	11.1
XV	妊娠、分娩および産褥	0	1	1	0.0%	2.0
X VI	周産期に発生した病態	0	0	0	0.0%	0.0
X VII	先天奇形、変形および染色体異常	1	4	5	0.1%	6.2
X VIII	症状、徴候および異常所見	5	6	11	0.2%	8.6
XIX	損傷および中毒	195	291	486	7.6%	17.7
XXI	保健サービス	4	2	6	0.1%	3.7
XXII	特殊目的用コード (原因不明の新たな疾患の暫定分類)	86	77	163	2.6%	14.6
	合 計	3,710	2,652	6,362	100.0%	14.4

5. 疾病大分類別·診療科別退院患者数

3

\cup	科名 疾病 大分類	糖内	血内	緩和	消化	循環	呼吸 [平・外	外科	整形	産婦	小児	眼科	皮膚	形成	曹	泌尿	↓ □
	感染症および寄生虫症	3	33	2	64	5	43	3	3	П		6		39	2		9	214
	新生物	17	275	203	988	-	303	107	259		18	П			33		161	2,264
	血液および造血器並びに免疫障害	4	70	3	16	3	9		4	П		4			-			112
	内分泌、栄養および代謝疾患	233	9		23	12	2	П	2	П		∞		-	3			292
	精神および行動の障害				2													2
	神経系の疾患	2	3		14	6	65			П		4						101
	眼および付属器の疾患				П								347		9			354
	耳および乳様突起の疾患	9	2		21	7	2		-									39
	循環器系の疾患	5	7	7	43	543	2		П	П					2		П	610
	呼吸器系の疾患	3	22	3	29	39	399	30	4	П		18					2	550
	消化器系の疾患	9	4	7	414	7			184	П								619
	皮膚および皮下組織の疾患	4	3		4	П	2		4	П		2		53	24			86
	筋骨格系および結合組織の疾患	3	П		13	4	10		П	152		9			2			192
	尿路性器系の疾患	10	12	П	47	33	15	Н	9		r.	5		-			107	243
	妊娠、分娩および産褥				-													
	周産期に発生した病態																	0
I	先天奇形、変形および染色体異常				П								П	П	2			5
I	症状、徴候および異常所見				П		10											11
	損傷および中毒	2	10	1	21	10	9	2	2	409		3	П	4	14		П	486
	保健サービス		9															9
	特殊目的用コード (原因不明の新たな疾患の暫定分類)	3	1		П	П	156			П								163
	一	304	455	217	1,602	675	1,025	144	471	570	24	09	349	66	68	0	278	6,362
1																		

6. 疾病大分類別·転帰別退院患者数

	一—————————————————————————————————————	织	操	幽	軟	K	刻	刪	7	死	1	横 横	12.1	刺	困	6	金	111
疾病	疾病大分類	件数	割合	件数	割	件数	都合	件数	割	件数	割合	件数書	割合	件数	割合	件数	型	iiii
I	感染症および寄生虫症	10	4.7%	149	%9.69		%0.0		%0.0	15	7.0%	15 7	7.0%	25 1	11.7%		%0.0	214
п	新生物	32	1.4%	1,727	76.3%	11	0.5%	-	%0.0	243	10.7%	208	9.2%	37	1.6%	77	0.2%	2,264
Ħ	血液および造血器並びに免疫障害	1	%6.0	87	77.7%		%0.0		%0.0	15	13.4%	3 2	2.7%	9	5.4%		%0.0	112
N	内分泌、栄養および代謝疾患	4	1.4%	262	%2.68	2	0.7%		%0.0		%0.0	12 4	4.1%	6	3.1%	3	1.0%	292
>	精神および行動の障害	1	20.0%	П	20.0%		%0.0		%0.0		%0.0	0	%0.0		%0.0		%0.0	2
M	神経系の疾患	5	2.0%	36	35.6%		1.0%		%0.0		%0.0	50 49	49.5%	∞	7.9%	-	1.0%	101
IIA	眼および付属器の疾患		%0.0	352	99.4%	2	%9.0		%0.0		%0.0	0	%0.0		%0.0		%0.0	354
III/	耳および乳様突起の疾患	7	17.9%	32	82.1%		%0.0		%0.0		%0.0	0	%0.0		%0.0		%0.0	39
M	循環器系の疾患	5	0.8%	522	85.6%	П	0.2%		%0.0	27	4.4%	8	1.3%	47	7.7%		%0.0	610
×	呼吸器系の疾患	30	5.5%	394	71.6%	П	0.2%		%0.0	59	10.7%	11 2	2.0%	53	%9.6	2	0.4%	550
XI	消化器系の疾患	24	3.9%	554	89.5%		0.2%		%0.0	7	1.1%	11	1.8%	20	3.2%	2	0.3%	619
ΙХ	皮膚および皮下組織の疾患		%0.0	06	91.8%		%0.0		%0.0		%0.0	4	4.1%	4	4.1%		%0.0	86
ЖШ	筋骨格系および結合組織の疾患	1	0.5%	156	81.3%		%0.0		%0.0	3	1.6%)	%0.0	32 1	16.7%		%0.0	192
XIV	尿路性器系の疾患	18	7.4%	201	82.7%	П	0.4%		%0.0	5	2.1%	0	%0.0	18	7.4%		%0.0	243
XV	妊娠、分娩および産褥	1	100.0%		%0.0		%0.0		%0.0		%0.0	0	%0.0		%0.0		%0.0	П
XWI	周産期に発生した病態		%0.0		%0.0		%0.0		%0.0		%0.0)	%0.0		%0.0		%0.0	0
XM	先天奇形、変形および染色体異常	1	20.0%	4	%0.08		%0.0		%0.0		%0.0)	0.0%		%0.0		%0.0	5
XVⅢ	症状、徴候および異常所見		0.0%	9	54.5%		%0.0		%0.0		%0.0	4 36	36.4%		9.1%		%0.0	11
XIX	損傷および中毒	8	1.6%	330	%6.79		%0.0		%0.0	4	%8.0	1 0	0.2%	143 2	29.4%		%0.0	486
XXI	保健サービス		%0.0		%0.0		%0.0		%0.0		%0.0	0	0.0%		%0.0	9	100.0%	9
XXII	特殊目的用コード (原因不明の新たな疾患の暫定分類)	99	40.5%	51	31.3%		%0.0		%0.0	11	%2.9	0	0.0%	35 2	21.5%		%0.0	163
	√ □	214	3.4%	4,954	%6.77	20	0.3%	ī	%0.0	389	6.1%	327 5	5.1%	438	%6.9	19	0.3%	6,362

7. 科別死亡数および剖検数

禾	斗		名	死亡	数(人)	剖	検	数(人)		剖核	全	率 (%)
	尿 病・ 活 習	内分價病	泌・ i 科		3							0.0
血	液・腫	瘍 卢	对		40			(5			15.0
緩	和		科		188							0.0
消	化	器	科		37							0.0
循	環	器	科		29							0.0
呼	吸	器	科		75			:	2			2.7
呼	吸器	\$ 外	科		3							0.0
外			科		11							0.0
整	形	外	科		2							0.0
産	婦	人	科		1							0.0
小	児	Ĺ	科									0.0
眼			科									0.0
皮	膚		科									0.0
形	成	外	科									0.0
耳	鼻 呕	喉	科									0.0
泌	尿	器	科		1							0.0
救	急	外	来		10							0.0
合			計		400			(3			2.0

^{*} 救急外来患者を含む為、退院患者死亡数(転帰)とは異なる

Ⅵ 診療科·部門別活動実績

糖 尿 病 ・ 内 分 泌 ・ 生 活 習 慣 病 科

<スタッフ>

常 勤 金子至寿佳(部 長)

本橋 和也(医員)

非常勤 徳本 信介(医 師)

大杉 友顕(医師)

上羽 瑤子 (医 師)

<令和2年度活動実績>

1. 糖尿・代謝疾患

1-1. 地域の糖尿病医療の基幹病院

糖尿病患者における心血管病変、脳血管病変、そしてがんのスクリーニングについては 20 年前 から当院の糖尿病診療にメディカルチェックとして盛り込み実績を蓄積、現在生活習慣病で進め られている糖尿科と循環器科との連携をすでに先取りし確立できている。

2007年より高槻市医師会主導糖尿病地域連携パスの運営委員および小委員会(糖尿病)の委員長の任命を受け、全国に先駆けて立ち上げ稼働、この当院における糖尿病患者のメディカルチェックを地域連携パスの中に盛り込み浸透することに貢献した。当地域での糖尿病パスは全国的にも評価いただき、東京での日本医師会糖尿病対策会議、糖尿病総会シンポジウム、アメリカ糖尿病学会、国際内分泌学会、大阪府医師会で紹介、関係紙にも寄稿し他地域での連携パス構築の際の参考となった。2018年からは毎年11月の世界糖尿病デイには、高槻市医師会主催で高槻市保健所健康づくり課とともに小委員会を中心にJR高槻駅横アルプラザにて糖尿病啓発イベントを開催している。

1-2. 一般診療

チーム医療を基本とし指導を治療の中心においている。

入院患者については、患者とその家族を交えたチームカンファレンスを行い 20 年以上が経過している。外来患者について、専任看護師・専任栄養士による糖尿病腎症透析予防指導、その成果を得ることができている。

1 型糖尿病ではカーボカウント、持続血糖モニタリングそしてインスリンポンプを使用し専門的治療を提供、2 型糖尿病、肝性糖尿病、膵性糖尿病、ステロイド性糖尿病や特殊な糖尿病(妊娠糖尿病、MODY、内分泌疾患に伴う2次性糖尿病ミトコンドリア異常症、Werner 症候群など)など専門医としてすべてのタイプの糖尿病を網羅しかかりつけ医と連携パスを通じて地域の糖尿病診療を先導する役割を担っている。遺伝子異常など特殊な糖尿病については京都大学と連携し遺伝子検査を行っている。全国講演の演者、依頼に基づき執筆を行い糖尿病の知識向上に貢献している。

1-3. 他科との連携

・大小血管症について眼科・循環器科・腎臓内科との連携以外に、糖尿病はがん罹患率も上昇させるため、糖尿病診療を目的に受診する患者さんからがんを積極的にスクリーニングし、安全に手

術を終えるためにも術前の糖尿病に関わる大小血管症の評価、そして周術・化学療法の血糖管理 に専門的に携わる。

- ・糖尿病患者では骨折率も上昇する。救急入院時からの術前合併症評価、血糖管理にも対応し整形 外科と連携している。また予定手術については術前の糖尿病に関わる大小血管症の評価を担う。
- ・各地域において医師、薬剤師、看護師そして栄養士ほか医療関係者を対象に、糖尿病専門講演の 依頼に応じて講演を行っている。
- ・世界をリードする治験にも多く参加し、新規糖尿病薬について全国的なオピニオンリーダーの演者として役割を果たしている。
- ・2017年より日本糖尿病学会 第4次「対糖尿病5ヵ年計画」作成委員を務める。

治療内容(令和2年度)

糖尿病患者に対する外来栄養指導・フットケア外来・透析予防指導32件49件

・糖尿病患者に対する自己注射外来導入・教育入院実施件数262件(延べ導入件数 3814件)・教育入院実施件数163件(およそ13泊14日で施行)

・インスリン等自己注射実施患者数・インスリンポンプ療法(CSII)使用者5人

2. 内分泌疾患

地域における内分泌代謝疾患の専門診療を担っている。甲状腺疾患および副腎疾患を中心に、 電解質異常を契機に見つかる内分泌異常や稀なため見過ごされがちな内分泌疾患を見い出し適切 に診断し専門的治療を地域に提供、貢献している。

•副腎

地域で唯一副腎静脈サンプリングを 10 年前から行っている。手術が必要なクッシング症候群や原発性アルドステロン症は、当院泌尿器科に依頼、腹腔鏡下手術を行っていただいている。手術標本については専門的な診断が必要であるため東北大学と提携することで診断の質を維持し、副腎疾患については当地域では重要な役割を担っている。

- ・甲状腺疾患 (バセドウ病・橋本病、甲状腺腫瘍など)・副甲状腺疾患
- 一般的な甲状腺疾患の以外に、甲状腺眼症のステロイドパルス治療+球後放射線治療など専門的な治療を行っている。甲状腺腫瘍については耳鼻科と協力して FNA を行い地域の診療所の依頼に対し役割を果たしている。

見逃されやすい副甲状腺疾患については尿路結石や血清 Ca 血症異常を契機に診断し手術に送っている。

・脳下垂体疾患についての精査、加療を行っている。

症例内容(令和2年度)

- ·副腎腫瘍
- ・原発性アルドステロン症
- ・クッシング症候群
- ・副腎静脈サンプリング

7件

- · 副甲状腺亢進症、副甲状腺腫瘍
- ・副甲状腺腫瘍による副甲状腺機能亢進症の手術に至った件数 4件

3. 臨床研究・臨床試験

- ・世界的に重要な新規薬剤の治験を主に請け負い、世界共同治験に参加を続けている。日本の治験 を先導し全国規模の教育講演の演者の招聘をうけている。
- ・海外における治験スタイルを当院でも推し進めることを目指している。すなわちレジデント時代から治験を経験し、臨床的立場から新薬の開発に携わることを教育する。若手医師も臨床研究を経験しグローバルな視点と責任、そして公的に発表していくという臨床研究の基本を育てることを目指している。

論文発表 英語論文 4 本 (Peer-reviewed 雑誌)、国内雑誌 4 本

教育:

- 日本内科学会認定医、日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
- 日本糖尿病学会認定専門医・指導医、近畿支部評議員
- 日本内分泌学会認定内分泌代謝専門医・指導医
- 日本老年病学会認定専門医・指導医・評議員
- 日本内科学会認定医制度教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、
- 日本老年医学会認定教育施設

研修医教育では、まず「いかなる時も患者さんに対して正直で誠実であること。|。

そのうえで、日常的に覚えることではなく、考える力を身につけることを意識して教育を行っている。一般内科診療を土台に、専門性の教育を行うことを目指す。また 1、2 年目研修医には学会発表を通じて症例をまとめることと発表の重要性を学んでいただいている。国内だけにとどまることなく積極的に行い当院での臨床を国際学会で報告、情報収集を行い最新の診療を心がけている。

緩和ケア科

<スタッフ>

橋本 典夫 (緩和ケア科部長)

金村 誠哲 (緩和ケア科副部長)

スタッフに関しては平成30年9月より2名体制となっている。

<令和2年度活動実績>

日本ホスピス緩和ケア協会による「ホスピス緩和ケア病棟における質向上の取り組み認証制度」 に認定されており継続的に施設評価されている。また日本緩和医療学会の認定研修施設にも引き 続き認定され研修教育活動も継続している。

令和2年度に関しては病院全体としてコロナ感染症蔓延のため紹介患者数はかなり減少し、入院患者数は減少していた。しかしながら緩和ケア病棟に関してはスタッフ減員にもかかわらず、入院延べ患者数は5406名と令和元年度の4754名から13%もの増加となった。

コロナ感染症蔓延のため本館は面会禁止の状態ではあるが、当院緩和ケア病棟は独立型であり 全室個室の特徴を生かし、時間や人数制限はあるが面会可能としており患者さんご家族さんのケ ア向上に役立った。ただ面会希望のご家族への検温含めた対応やコロナ診療班としての参加、コ ロナ重症患者対応のための休日のオンコール対応などスタッフの業務量は増加し、また入院患者 数も増加したため多忙を極めた。

学会・研究会活動としては、地域の緩和ケアネットワークの勉強会として、「緩和ケアを語る会」の世話人として参加し、地域での在宅医との「顔の見える関係づくり」に努めた。また大阪府指定がん診療連携拠点病院として三島圏域がん研究会の幹事としての活動を行った。

<令和3年度活動目標>

できるだけ多くの患者に良質な緩和ケアを提供するため、

- 1. 緩和ケア病棟の病床稼働率を維持する
- 2. 待機患者、待機日数を短縮する
- 3. 地域の医師と連携を図り、バックアップの役割を担う
- 4. 学会・研究活動の充実
- 5. 緩和ケア研修会の開催

血液腫瘍内科

<スタッフ>

田嶌 政郎(名誉院長):血液内科安齋 尚之(部長) :血液内科岡田 睦実(副部長) :血液内科坂本宗一郎(副部長) :血液内科恩田 佳幸(副部長) :血液内科丹羽 涼太郎(常勤) :血液内科

<令和2年度活動実績>

病床数 30 床

入院症例数 174 例 (新患 91 例) 悪性リンパ腫 47 例 (新患 21 例) 急性白血病 38 例 (新患 23 例) 多発性骨髄腫 20 例 (新患 11 例) 骨髓異形成症候群 33 例 (新患 13 例) 再生不良性貧血など 15 例 (新患 7 例) 特発性血小板減少性紫斑病 11 例 (新患 9 例) その他 10件(新患 7例)

造血幹細胞移植件数 19 件 自家移植 4 件

同種移植 15件(臍帯血13件、血縁2件)

当科では、白血病・リンパ腫・骨髄腫などの造血器腫瘍の他、貧血・血小板減少症などの診療を行っており、血液内科医に加え、がん化学療法認定看護師をはじめとした看護師スタッフ、がん専門薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、臨床心理士等がチームとなり安心して治療に専念できる環境を整えている。同種造血幹細胞移植は HLA が完全一致した血縁者からの移植がスタンダードですが、血縁に一致ドナーが見つからなければ、非血縁者間移植を行ないます。原疾患のコントロールがうまくいかない場合には、強力な GVL 効果を期待して敢えて HLA が半分だけ一致した血縁の半合致移植を行うことが良くあり、このような HLA の異なった移植は、最近ではかなり安全に行えるようになってきています。当科では、同種移植は血縁と臍帯血を行っています。血縁は一致同胞と病状によっては、半合致移植を選択しています。非血縁に関しては、臍帯血を用いていますが、これは少人数のスタッフでも行いやすいこともありますが、臍帯血は他の移植ソースと比べて少なくとも同等以上の効果が得られ、今後の可能性も大きいと信じて取り組んでいます。当院の血液疾患は、高齢に偏り同種移植に関しても、年齢は70代までなら可能性を追求しています。積極的な治療となりにくい患者さんには、個々の症例に基づいて、初期の段階から緩和的治療を含めてきめ細やかな対応を心掛けていきたいと考えています。

循環器科

<スタッフ>

大中 玄彦 (部 長):循環器内科 (認定内科医、循環器専門医、心臓リハビリ指導士、

老年病専門医)

岡本 文雄(医 師):救急部部長(認定内科医、循環器専門医、救急科専門医)

木澤 隼(副部長):循環器内科(認定内科医、循環器専門医)

土居 裕幸(医 師):循環器内科(認定内科医) 平野 玄起(医 師):循環器内科(認定内科医) 李 剛至(医 師):循環器内科(認定内科医) 森 京子(医 師):循環器内科(認定内科医)

大塚 宏治(非常勤医師):循環器内科(内科専門医、循環器専門医)

片桐 直子(非常勤医師):循環器内科(認定内科医)

循環器疾患全体を扱い、高血圧、脂質代謝異常症などの生活習慣病から急性心筋梗塞、急性心不全、致死性不整脈疾患、心筋炎などの急性疾患まで幅広い疾患を診療し、一般的な生理検査機器や造影検査はもちろんのこと非侵襲的に冠動脈疾患や心筋疾患の評価が可能な RI 検査、64 列 CT 検査、MRI 検査機器を揃えている。さらに心筋梗塞や急性心不全などの緊急を要する患者の治療に対してはコメディカルスタッフの協力のもと 24 時間・365 日体制で診療にあたっている。また、当院は心臓リハビリテーション実施施設であり、年間 4 4 3 症例の心臓リハビリを介入し、病気の再憎悪で再入院の予防に努めている。外科領域においても大阪医科大学心臓血管外科との合同カンファレンスを行い重症患者の治療方針につき検討し、患者さんにとっての最適な治療を提供している。

<令和2年度活動実績>

外来患者延数 11,963 人 入院患者延数 10,225 人

心臓カテーテル検査・処置総数 : 106 件
 冠動脈インターベンション治療 : 158 件
 ペースメーカー植込み術 : 16 件
 末梢血管形成術 (含む透析シャントPTA): 3件
 I ABP施行件数 : 1件
 PCPS : 1件
 心臓リハビリテーション : 443 件

消化器科・消化器内視鏡センター

<部 長>

神田 直樹 (消化器内科部長・消化器内視鏡センター長)

<スタッフ>

玉田 尚(副院長)

山中 雄介(副部長)

吉岡 拓人(副部長)

吉見 宏平(救急部副部長兼任)

池田 宗弘

松村 大志郎

中森 翔平

矢倉 伊織

奥野 岳

黒川 直基

<異 動>

令和2年4月 黒川 直基(着任)

令和3年3月 黒川 直基(退任)

令和3年3月 奥野 岳(退任)

< 令和 2 年度活動実績 >

当院消化器科は日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会の認定指導施設で、2年度は下記の通りの検査・治療数を施行している。高度な検査・治療に対応するために開設した消化器内視鏡センターでは、指導医3人、専門医4人(指導医含む)、内視鏡技師資格をもつ看護師2人を有し、年間約5000件の内視鏡検査を行い、早期癌治療・胆道系処置・止血処置などの治療内視鏡も年間500件を越えている。

消化管の内視鏡治療では、早期胃癌の ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)は2年度55例、これまでに769例を施行、大腸腫瘍に対するESDも、先進医療の時から施設認可を取得し、2年度45例、これまでに378例と、いずれも北摂屈指の施行数となっている。これに加え、患者様が苦痛なく検査・処置を受けて頂けるよう最新鋭の経鼻内視鏡Olympus290Nを導入し、大腸内視鏡では積極的に鎮静下内視鏡を行うことで「痛くない大腸内視鏡」が可能となり、さらに挿入が困難な患者様にはカプセル内視鏡検査も実施可能な体制を整えている。

胆膵系の内視鏡検査・処置では、超音波内視鏡ガイド下穿刺 (EUS-FNA) システムを導入し、超音波内視鏡検査だけでなく、EUS-FNA による細胞診が可能となっている。

また、数年来、緊急内視鏡が増加し、2年度には、内視鏡的止血術は60例、緊急施行の多い内 視鏡的逆行性胆膵管造影(ERCP)も147例となっている。 さらに、外科と共同し胃粘膜下腫瘍の低侵襲治療である LECS(Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery= 腹腔鏡・内視鏡合同手術)も施行するなど、最先端の医療に取り組んでいる。

肝臓領域では、TACE(Transcatheter Arterial Chemo-Embolization= 肝動脈化学塞栓術)、RFA(radiofrequency abration= ラジオ波焼灼術)、抗がん剤治療を症例に応じて適切に施行し、C型肝炎に対するインターフェロンを使わない内服治療も積極的に行っている。

消化器癌の化学療法は、日進月歩で、様々な薬剤、レジメンが開発されており、切除不能消化器癌の平均生存期間も飛躍的に延長している。 当科では、消化器癌の化学療法も、外来化学療法室と協力し積極的かつ安全に施行している。

近年増加している消化器疾患として炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病)があり、生物 学製剤の使用が急増するなど治療法が著しく発展している分野だが、この領域についても専門医 が安全かつ効果的に治療を行っている。

また、学会活動も、医師・医療従事者が研鑽するために必要だが、当科では、日本内科学会・日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会の総会や地方会シンポジウム、日本超音波医学会などで積極的に発表を行っている。

< 令和 2 年度患者数 >

新規入院患者数 1,661 人、入院患者延数 15,176 人、外来患者延数 14,370 人

<令和2年度検査・処置症例数>

上部消化管内視鏡検査	2,726
下部消化管内視鏡検査	950
胃の内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	55 (開始から 769)
大腸の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	45 (開始から 378)
食道の内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	12 (開始から 94)
大腸ポリープ切除 (polypectomy/EMR)	513
内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP)/ 内視鏡的総胆管結石除去/ 内視鏡的胆管ドレナージ・ステント留置	147
超音波内視鏡	126 (EUS-FNA 22)
内視鏡的止血術	60
小腸カプセル内視鏡	19
小腸ダブルバルーン内視鏡	13

< 令和 3 年度活動目標 >

新規入院患者数・検査・処置数・化学療法数の増加を図り、それぞれの領域について質の高い医療を目標とする。当院はESDを積極的に行っており、特に実施施設基準の必要な大腸ESDも施行可能基準を満たしており、ますます症例数の増加を図っていく。また、消化管では、最先端のOlympus Lucera Eliteシリーズ内視鏡により、精緻な診断・治療を行い、胆道系処置についても、超音波内視鏡ガイド下穿刺細胞診 (EUS-FNA) が施行可能となり、症例数の増加を図っていく。また、導入が決まった最新の経鼻内視鏡 290Nにより「楽にうけられる上部消化管内視鏡」をアピールし、健診など含め上部消化管内視鏡の症例数も増加させるよう努める。一方、最近導入したカプセル内視鏡・バルーン小腸内視鏡の症例数の充実も図っていく。さらに、近年ニーズが高く、下部消化管内視鏡検査のオープン検査を増やしていく予定である。

また、消化器癌の化学療法の分野でも、様々な薬剤、レジメンが開発されており、それらを積極的かつ安全に施行していく。肝臓の分野においても、26 年度には genotype 1型に対し、C型肝炎のインターフェロンを使わない治療が保険適応になったが、27 年度には genotype 2型に対する薬剤も保険適応となり、これらも積極的に施行していく。肝臓癌治療においても、TACE だけでなく RFA 症例の増加も目標としており、また新規抗癌剤のレンバチニブの使用も開始するなど、放射線科や超音波検査室と連携して肝臓癌の早期発見に努めていく。

神経内科

<スタッフ>

玉田 尚(副院長兼部長)

中村 正孝 (非常勤医師)

小松 研一(非常勤医師)

井上 穣(非常勤医師)

細川 隆史(非常勤医師)

殿村 修一(非常勤医師)

酒巻 春日 (非常勤医師)

大井 和起 (非常勤医師)

月田 和人 (非常勤医師)

<臨 床>

脳梗塞症例については緊急の血栓溶解療法の適応でない症例について入院加療を行った。また 地域連携パスの一環として、脳梗塞パスも行い地域医療にもたずさわり、地域医療に貢献している。

<研 修>

騎馬戦型高齢化社会に向けて、近い将来脳梗塞は神経内科専門医のみならず内科系一般医も診療にあたる必要が出てくるため研修の一環として若手医師に担当としていただくシステムをとっている。

呼吸器外科

<スタッフ>

菅 理晴 (呼吸器外科部長):呼吸器外科專門医、胸部外科学会指導医

気管支鏡指導医、外科専門医、がん治療暫定教育医、

日本医師会認定産業医、CT 肺癌検診認定医

人間ドック認定医、遺伝学的検査アドバイザー

康 あんよん (医 師):

<特 色>

呼吸器センターとして呼吸器内科と協力しながら診断から治療までを包括的にかつ迅速に行っています。手術症例ではクリニカルパスを導入し、医療安全の向上や業務の効率化を図っています。手術は肺癌症例を含め完全胸腔鏡下手術を基本としています。また手術時の縦隔鏡検査や胸腔洗浄細胞診により、正確な病期診断・適切な治療方針の決定に努めています。術前~術後にはリハビリ科に呼吸リハビリを行って頂き、呼吸機能の改善・術後合併症の予防に努めています。当院は呼吸器外科専門医制度の関連施設、大阪府癌拠点病院であり、肺癌の治療では手術はもとより術前導入化学放射線治療や術後補助化学療法、再発癌に対する集学的治療も積極的に行い、治療成績の向上に努めています。

<令和2年度活動実績>

令和2年度は康医師(2児の育児中)と菅の2名体制で手術・病棟・外来業務を行いました。尚、COVID-19 感染拡大の影響で当科患者数も減少し、また菅は10月に左膝の手術を受けたため10-12月は診療を制限せざるをえませんでした。手術は京大から大学院生に応援に来てもらい、全体の90%以上を完全胸腔鏡下で行うことが出来ました。全手術件数は81件、全麻が79件で前年度から大幅に減少しました。手術の内訳は肺癌44件、転移性肺腫瘍6件、縦隔腫瘍3件、気胸14件などでした。化学療法は204件(入院化学療法:47件、外来化学療法:157件)施行しました。施行件数はやはり昨年度からは大きく減少しました。

<令和3年度の目標>

令和3年3月で康医師が退職し4月から一時的に菅の1人体制になりますが、6月からは大阪医大胸部外科より新たに呼吸器外科医師が赴任いたします。当科は少数精鋭ではありますが、地域医療機関との連携を強化し呼吸器内科と協力しながら地域の呼吸器(特に肺癌)診療のニーズに答えていきたいと思います。手術は引き続き完全胸腔鏡下手術を積極的に行い、より低侵襲で安全な術式を追求します。病院の経営状況が厳しい中ではありますが、新しいデバイスの導入や更なる術式の改良に取り組みたいと思います。呼吸器外科診療も急速に進歩していますので、EBMを基本としながらも最新の知見を速やかに導入し、患者さんに最適な医療を提供していきます。

呼吸器科

<スタッフ>

北 英夫 (部 長) S62 卒

京都大学臨床教授。京都大学医学博士

日本内科学会認定内科専門医・指導医・近畿支部評議員

日本呼吸器学会専門医・指導医・代議員

日本アレルギー学会専門医・指導医

日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医

日本癌治療認定機構がん治療認定医・

日本呼吸ケアリハビリテーション学会評議員

日本結核病学会 代議員

中村 保清(副部長)日本内科学会認定内科専門医 日本呼吸器学会専門医

日本アレルギー学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会指導医 ICD

深田 寛子(副部長)日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医

日本癌治療認定機構がん治療認定医、ICD

野溝 岳 (副部長 R3.7-)

京都大学医学博士 日本呼吸器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医

村山 恒俊(医 員)日本呼吸器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医

<非常勤医>

長谷川浩一 R3.7 から京都大学付属病院へ異動 当院は非常勤医となる。 京都大学医学博士日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医

<異 動>

鳳山 絢乃 (医 員) 日本呼吸器学会専門医 日本内科学会認定医

令和2年4月から 大阪回生病院へ

山本 晴香 (後期研修医) 令和3年4月 滋賀医科大学付属病院から当院へ赴任

<令和元年活動実績>

令和 2 年 3 月に出現した新型コロナウィルスパンデミックにより、呼吸器内科病棟はコロナ専用病棟となり、20201.7 までに計 257 人の患者を受け入れてきた。当院は軽症、中等症病床として、第 4 波時で最大 2 6 床の運用を行ってきたが、その多くを呼吸器内科が担当してきた。また、院内のクリニカルパスを作成し、治療の統一化マニュアル化を図ることにより内科を中心とした他科のDrや夜間休日の日当直、挿管チーム等の協力を得て、通常の呼吸器診療との両立を継続することが可能であった。

コロナ病棟 (9F)

延べ 257人 R3.7.26 時点

第4波においては重症患者もHCU(救急科)にて対応を行った。

外来は月曜から金曜までで、気管支鏡検査は火曜日、金曜日の午後2時から行っており、CTガイド下生検も月曜日の午後3時から行っている。月に1回、火曜日に近隣の医師と合同で公開カンファレンスを実施している。

・呼吸器科における外来患者数 (前年)

1日当たり平均 53.5 人/日(63.9) ×外来診察日:週5日間

・呼吸器科入院病床数・患者数・平均在院日数(前年)

呼吸器科入院病床数(定数) 54床

実際の入院患者数(平均) 31.9 人/日(49.9) COVID を除く

平均在院日数 13.2 日(14.2)

新入院 785 人 (1,135)

· 気管支鏡検査数 187 件

来呼吸器外科とともに呼吸器センターとして外科と内科の垣根をなくして診療にあたり、常に呼吸器内科全般の最新の治療を行えるように研鑽を積んでいる。慢性呼吸不全における在宅酸素療法は80例程度、在宅人工呼吸療法26例(NPPVを含む)睡眠時無呼吸症候群の夜間睡眠ポリグラフ検査(PSG) 年間80例、鼻CPAP年間30例程度導入しており、気管支喘息クリニカルパス入院例、慢性呼吸不全患者に対する包括的呼吸トレーニングプログラム入院等を行っているが、一般診療においてはPandemicの影響を受け、例年よりも減少を認めた。

肺癌診療については、大阪府がん診療拠点病院として他科や他職種と連携しながら治療効果と生活の質(QOL)の両立にも取り組んでいる。近年、PD-1 阻害薬、各種分子標的薬などの次々と新規薬剤が上市され、この分野の進歩は著しい。これらの薬剤を確実に安全に使用するため、副作用マネージメントを含めた院内クリニカルパスや薬剤師外来など他職種や他科とも連携して副作用対策にあたっている。また、今年度より保険診療となった遺伝子パネル検査についても、病理との緊密な連携により初診時の気管支鏡検査検体での施行が可能となっており precision medicine を実践している。また、標準治療終了時にも検体採取が可能であれば大阪国際がんセンター等のゲノム外来と連携し、パネル会議を経て、新たな治療に結び付いた症例も経験している。その他、気道閉塞を生じた手術不能の肺がんや食道がんに対して金属ステントの留置により QOLの改善を図っている。また、高槻市の肺がん検診の読影会への参加や多施設共同臨床研究にも積極的に参加をしている。

肺がん治療において早期からの緩和ケアが必須のものとなっている。がん診療に携わる医師のため緩和ケアの教育プログラムは全国で実施され、当科スタッフも全員修得済みである。診断時よりがん相談センター、院内緩和ケアチームと連携し、疼痛管理を中心とした支持療法のみならず、全人的苦痛に対応すべく取り組んでいる。また、患者さんのご希望に応じて、緩和ケア病棟の利用は言うまでもなく、社会ケースワーカーや退院調整看護師、地域医療連携室、訪問看護ステーション等と、地域の診療所と連携した在宅管理も行っており、終末期のへの体制も整備されてきている。

その他の多彩な呼吸器内科疾患についても確立された Up date な治療を心がけている。気管支喘息患者には吸入ステロイドを中心とした治療を行い、入院の必要な例にはクリニカルパスを用いた教育指導を行い、自己管理を目指している。外来では当院独自の外来喘息教育プログラムを作成し、看護師による 吸入指導とピークフローメータを用いた自己管理の指導を行い、更に吸入指導については近隣の薬局とも連携して行っている。また、H 24 年度よりはアレルギー性気道炎症の指標としての呼気NO測定や特殊な肺機能検査であるモストグラフを用いて症状だけに頼らず、客観的指標のよる喘息コントロール状態の評価に努めている。また、従来の吸入薬でコントロール不良の重症喘息にて対しては積極的に omalizumab や抗 IL5 抗体薬や抗 IL4/13 抗体薬などの分子標的薬を使用している。今後は気管支鏡による温熱療法もすでに全国で臨床導入されており、当院でも導入を検討していきたい。

外来初診で多い遷延性咳そうには診断のアルゴリズムを作成し、咳喘息の他、逆流性食道炎、 百日咳などの早期発見に留意している。

COPD を中心とした、慢性呼吸器疾患には肺機能検査や CT による早期発見と禁煙外来との連携による、禁煙指導、気管支拡張薬を中心とした治療を行っている。進展期にはリハビリテーション科、栄養科、薬剤部等とのチーム医療による、包括的リハピリテーションプログラム入院を行い、さらに、地域の診療所との連携による継続を図っている。また、H26年4月より慢性疾患専門看護師による HOT 患者を中心とした看護外来、ほっとひといき外来を開始し、慢性呼吸器疾患患者に対する、より包括的できめ細かな対応が可能になった。睡眠時無呼吸症候群に対しては、個室使用による PSG 検査、簡易睡眠モニターを実施し CPAP 治療、口腔内装具による治療を行い、耳鼻咽喉科、糖尿病、生活習慣病科、栄養科とも協力し、合併症、肥満に対する治療を行っている。また、循環器科と協力して心不全に伴う睡眠呼吸障害に対し、ASV (assisted-servo ventilation)による最新の呼吸管理を行っている。

そのほか、あらゆる呼吸器感染症について対応している。肺結核についてはモデル病床(3床)により、陰圧隔離をおこなっている(現在はコロナ対応のため閉鎖)。また、近年著増している非結核性抗酸菌症については従来の薬物治療のみならず、適応のある症例については手術治療も併用している。

また、間質性肺炎については HRCT や気管支鏡検査により、原因検索に努め、膠原病内科とも連携して診断治療にあたっている。肺線維症を中心とした慢性線維性肺臓炎については pirfenidone や nintedanib などの抗線維化薬を積極的に使用している。

急性呼吸不全、急性肺障害、慢性呼吸不全の急性増悪等に対しては、HCU において集中的な呼吸管理を行っており、挿管人工呼吸管理においては肺保護を考慮した低換気量による人工呼吸管理やリクルートメント手技などを行っている。また、問題となっている VAP(人工呼吸関連肺炎)対策として NPPV (non-invasive positive pressure ventilation) による呼吸管理のみならず、陰圧式の人工呼吸器を用いての管理などを試みている。また、最新の酸素療法である Nasal High Flow therapy もいち早く導入し、QOL に留意した酸素化の改善が可能となった。また、敗血症などにともなう急性肺障害や肺線維症などの間質性肺炎の急性増悪にたいしては、従来の薬物治療のみならず、血液濾過によるエンドトキシン吸着療法 (PMX-DHP) や ECMO を行い、救命率の向上を目指している。

市中肺炎、院内肺炎については診療ガイドラインを踏まえながらも地域の病院として個々の症例に応じた診療と当院での薬剤感受性を考慮した適切な抗菌剤の使用に努めている。

また、当科は京都大学の学生臨床実習の協力科であり、年間数名の学生実習とその他希望により他大学からの実習を数名受け入れている。

当科は研修医にとっては非常に実践的な環境であると考えられる。豊富な症例に対応していただき、基本的な診療技術と基本的治療を経験してもらい、多彩な呼吸器疾患に対応しなくてはならない呼吸器内科医として成長できる環境を提供できると考えている。また、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本内科学会、日本呼吸器内視鏡学会の認定施設として総会、地方会での症例報告、研究発表等を行っている。大阪府内、北摂地域を中心とした多くの研究会や講演会での世話人、座長、講演などを務めている。

<令和3年度活動目標>

本年も前半は新型コロナ感染パンデミックが続き、入院、外来、および院外の活動もかつてない抑制を受けているが、今後、ポストコロナ時代向けて新しい医療の形を模索しつつ、まずはコロナ前の状態まで回復をする事に努めていきたいと考えている。

小児科

<スタッフ>

片山 博視(部 長)

江口 英希(副部長 兼集中治療担当副部長)

中村 道子(医 師)

古川 福実(兼院長)

玉井 浩(非常勤医師)

<異 動>

なし

<令和2年度活動実績>

子どもたちが健やかな身体と心を保つことの出来る診療をモットーに北摂三島地域の基幹病院として、地域の開業医および他病院と連携を保ちながら小児科領域全般の診療に当たっています。また三島地区広域小児救急医療機関として積極的に救急車の受け入れを行っており、毎週水曜日には二次救急輪番病院として24時間小児科医が待機しています。

外来は月曜日から金曜日まで小児科領域の発達、疾病全般を幅広く行っています。 また専門外来は以下の通りです。

心臓外来 第1,3,5週の木曜日午後、および第2,4週の水曜日午後

ダウン症・神経外来第4週の水曜日午後小児アトピー性皮膚炎外来第2,4週の金曜日午後

アレルギー外来毎週月曜日午後乳幼児健診毎週月曜日午後

予防接種 毎週火曜日、水曜日、および第2,4週の木曜日午後

また救急は原則、全例、積極的に受け入れています。

外来患者数 1,544 人 (1日平均 6.4 人)

入院患者数 361人(新入院:85人、退院:84人) 在院日数:3.3日

◆救急

患者数 116人(時間内:39人、時間外:63人、深夜:14人)

外科

消化器外科

<スタッフ>

平松 昌子 (副院長) 大阪医科大学臨床教育教授・非常勤講師

日本外科学会専門医・指導医

日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医

日本臨床外科学会幹事・評議員

日本消化器内視鏡学会専門医

日本食道学会食道外科専門医・食道科認定医・評議員

日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医

日本腹部救急医学会評議員・暫定教育医 他

小林 稔弘 (消化器外科部長·乳腺外科部長)

日本外科学会専門医、日本乳癌学会専門医、日本消化器病専門医 検診マンモグラフィ読影認定医

恒松 一郎 (消化器外科部長)

日本外科学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医 日本外傷診療研究機構 IATEC 修了

鈴木 悠介(医 師)

サンフォード 舞子(医師)

園村 純(医師)

虫明 修(医師)

<異 動>

鈴木悠介令和2年8月31日退任サンフォード 舞子令和2年4月1日着任園村 純令和2年4月1日着任虫明 修令和2年9月1日着任

<令和2年度活動実績>

上部・下部消化管の悪性疾患に対してその大半を腹腔鏡下手術によって行い、胆石症や鼡径へルニア、虫垂炎などの良性疾患では単孔式腹腔鏡下手術を標準術式としている。食道癌に対しては北摂地域で数少ない食道外科専門医による腹臥位による完全胸腔鏡・腹腔鏡下の食道切除再建術を行い、食道胃接合部の癌に対しても低侵襲かつ根治性の高い手術を可能にした。cStage Iの胃癌に対しては幽門側胃切除・噴門側胃切除・胃全摘を問わず、切除・郭清から再建までの完全腹腔鏡下手術を行い、高度進行胃癌に対しては積極的な拡大手術や術前補助療法を併用して、根

治性の向上を目指す。大腸癌に対してはそのほとんどを腹腔鏡下手術で行い入院期間の短縮につなげた。ストマ外来では専門の医師と皮膚・排泄ケア認定看護師がケアに当たっている。肝癌に対しても腹腔鏡下手術を導入し、症例によっては単孔式での手術も行う。胆石症では単孔式腹腔鏡手術と内視鏡治療の併用によりほとんど傷のない治療を可能にした。当院は単孔式手術や4K内視鏡のような最新の技術を取り入れることで患者さまに質の高い医療を提供している。また、化学療法の分野においても最新のデータに基づいた治療の提供を外来化学療法室と連携して行っている。

また当院は大阪府がん診療拠点病院であり、治療法の決定に際してはガイドラインに沿った標準的治療法を提示することはもちろんのこと、個々の患者さまの背景やニーズにも配慮したオーダーメイドの治療も提供している。手術後・退院後も、担当医がかかりつけ医と密に連携をとりながらフォローアップを行い、抗癌剤治療はできるだけ外来通院で行えるように専門看護師を配置した外来化学療法室を完備している。さらには緩和ケア科による終末期医療まで、様々な職種がチームとなって、ひとりひとりの心に寄り添った治療を行っていくよう心がけている。

(主な手術件数)

食道切除再建術	3件	(うち鏡視下手術	2件)
胃切除	20 件	(うち鏡視下手術	11件)
胃全摘	6件	(うち鏡視下手術	2件)
結腸切除	27件	(うち鏡視下手術	20件)
直腸切除	18件	(うち鏡視下手術	15件)
肝切除	4件	(うち鏡視下手術	0件)
膵切除	5件	(うち鏡視下手術	0件)
胆のう摘出術	65 件	(うち鏡視下手術	53件)
虫垂切除	26 件	(うち鏡視下手術	26件)
鼠径ヘルニア	43件	(うち鏡視下手術	32件)

<令和3年度活動目標>

それぞれの患者さまのニーズや病態を理解しながら、これまで導入してきた新しい手技や最新の知見をもって質の高い外科治療を提供していく。また、他科や他職種を含めた勉強会やカンファレンスを通してチーム全体のスキルアップを図っていく。学会や研究会活動も積極的に行い、当院からも新たな情報発信を目指す。

乳腺外科

<スタッフ>

小林 稔弘(部長):乳腺外科 坂根 純奈 :乳腺外科

<令和2年度活動実績>

乳房に関する良性(腫瘤、乳腺炎、女性化乳房症など)から悪性(癌、肉腫)の各種疾患に対して診断、治療を行っている。

乳腺疾患に対応する検査手段は充実させており、MMG、US、CT、MRI などの画像診断を可能としている。特に MMG は検診で問題になる高濃度乳腺においても有効性が高いとされるトモシンセシス付きの最新鋭の機材を用いて、通常画像に加え、デジタル断層像を撮影できる体制を構築し活用している。不明瞭な病変の発見はもちろんだが、不要な追加検査を減らすことにも役立てている。

さらに検診発見の多い微小石灰化にも、最新デジタルステレオガイド装置を使用した吸引式針 生検で精密かつ時間短縮もなし得ている。

乳腺手術は56例を行い、乳癌症例の6割に温存手術を選択し、乳房切除術を選択する場合も、 形成外科との乳房再建術のオプションも提示して希望者に施行している。

良性疾患は観察可能な症例に無用な手術は出来るだけ行わないようにする一方、血性乳汁分泌 に対する乳管腺葉区域切除の様な特殊手術も手掛けている。

薬物治療も、化学療法、ホルモン療法、分子標的療法、免疫チェックポイント阻害剤などの本邦で適応のある薬剤は全て導入している。さらに多施設共同試験にも参加しての治験も行っている。

当院は外来化学療法室を有し、化学療法専門看護師、専門薬剤師とのチームで患者を支えるよう努力している。薬剤師外来もオープンし、治療前から施行中の副作用対策などを説明、相談を行い、医師へのフィードバックも行っている。

温存手術に欠かせない放射線治療も放射線治療専門医や専任放射線技師、看護師とも連携して行うことを可能としている。再発時の放射線治療にも積極的に取り組んでいる。

病理医の協力で、術中迅速病理検査でリンパ節転移の有無、断端診断を素早く行える体制を整えるとともに、希少例の発見などもあり、そのような場合は高次医療機関にコンサルテーションを 得たりしている。

緩和科医師、看護師、心理士とも連携し、癌と診断されたその日からでも緩和治療、がん相談、 心理的サポートが受けられる体制を構築し、日常的に運用している。

術後フォローも乳癌の場合、補助療法、観察が長期に及ぶ事情から、地域との連携を重視し、 かかりつけ医にお願いして病診連携していくことにも積極的に取り組んでいる。

<令和3年度活動目標>

地域がん拠点病院にふさわしい診断、治療体制を維持する。

最近の医療は過去に例を見ないほどの早さでダイナミックに変化しており、最新のゲノム関連の 知見からもたらされる診断、治療への応用、過去と一線を画す免疫関連治療などに顕著である。 当院においても遺伝子関連、免疫関連に対応できる体制づくりを各科横断的に整えていく。

化学療法室、薬剤部、放射線科などを含めた多職種が、臨床治療のみならず学会活動や地域と連携した公開講座の主催なども行い、当院の活動を内外に告知するべく努力したい。受診者に喜ばれ安心してもらえ、地域医療機関の信頼を得られるように努力する。

脳神経外科

<スタッフ>

平松 昌子(副院長兼脳神経外科部長)

青山 育弘(非常勤医師) 池田 直廉(非常勤医師)

<令和2年度活動実績>

週4回(月·火·水·金曜日)一般外来診療、救急患者受け入れ、入院患者のコンサルトなどを行った。 外来患者延べ数 1029人/年

整形外科

<スタッフ> *:日本整形外科専門医 #:日本リウマチ学会専門医

徳山 文人* (部 長): 脊椎外科、外傷および整形外科一般

日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

伊丹 康夫* (副部長):肩・肘関節外科、外傷および整形外科一般

吉村 柚木子 (医 師):整形外科一般 伊藤 英智 (医 師):整形外科一般

岸本 郁男*#(非常勤医師):大阪医科大学非常勤講師、股・膝関節外科、関節リウマチ

佐野 庸平 (非常勤医師) 市場 厚志 (非常勤医師)

<異 動>

吉村 柚木子令和2年4月着任、令和3年3月退任伊藤 英智令和2年4月着任、令和3年3月退任佐野 庸平令和2年4月着任、令和3年3月退任

市場 厚志 令和2年7月着任

<専門外来>

脊椎外来、肩・肘関節外来、股・膝関節外来、リウマチ外来、エコー外来、

<令和2年度活動実績>

2年度入院患者延べ数11,382人(1日平均31.2人)2年度外来患者延べ数10,774人(1日平均44.3人)

令和2年度の手術手技件数 計550件

当科は三島地区の地域基幹病院としての役割の一翼を担っており、救急外傷などに対する急性期治療、つまりは骨折を中心とする外傷疾患や一般整形外科疾患を多く扱っており、救急搬送要請には24時間対応している。スタッフは各症例に応じて高いレベルで非常にきめ細やかな診療を行っている。

Subspecialty としては当科数十年の歴史と伝統を持つ股・膝関節疾患に対する治療を継続しており、また脊椎脊髄病疾患、肩・肘関節を中心とする上肢の変性疾患やスポーツ外傷に対する治療など、専門性に富んだ医療を幅広い領域で行っている。各分野において経験豊富なエキスパートが揃っており、地域基幹病院として開業医の先生方からも多くのご紹介をいただいている。

人工関節外科の手術において膝ではより高い QOL をめざした人工関節の導入、股関節では低侵襲人工股関節置換術 (MIS-THA) を適応症例に施行し、筋肉や腱の切離が少ないこと、あるいは全く行わないことで患者の術後の疼痛コントロールや運動回復が早くなり、また術後リハビリ期間の短縮により早期の社会復帰や退院を可能にしている。

膝靭帯、半月板損傷などのスポーツ整形外科治療では、靭帯の解剖学的再建を行い、トップアスリートの膝損傷のスポーツ復帰を可能にしている。

脊椎脊髄病疾患に対しては、頸・胸・腰椎の各疾患による主に神経圧迫病変による疼痛や運動機能障害などを改善させる治療を行っており良好な成績をあげている。腰椎椎間板ヘルニアに対しては小侵襲手術である内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術(MED)を行っており、2cm 弱の小切開で数日~1週間程度の短期間での退院を可能にしており、腰部脊柱管狭窄症に対しても同様に内視鏡下椎弓切除術(MEL)を行っている。脊柱変形や不安定性の強い脊椎変性疾患に対する脊椎固定術も安定した成績を出しており、脊椎悪性腫瘍手術も手掛けている。しかしながら当科ではこれらの疾患に対しては保存治療を第一としており、MRIや造影検査、動態撮影などの検査にて評価を行い、その結果や症状により、また患者のニーズに応じて各種薬物治療、硬膜外ブロック、神経根ブロックなどを行っている。前述の様々な手術療法はこれらの治療が奏功しない場合に行うものであり、患者立脚型の治療を行うということで高い満足度を得ている。

肩関節、肘関節を中心とする上肢疾患については、アメリカ留学での研究で上肢の解剖やバイオメカニクスを熟知した伊丹副部長が担当をしている。こちらも投薬やブロック療法、リハビリ治療などでの保存治療を第一としているが、それらが奏功しない場合には、腱板断裂に対しては関節鏡視下腱板修復術を行い、断裂のシビアな症例に対しては筋膜移植による関節鏡視下上方関節包再建術やリバース型人工関節置換術も行っている。スポーツ外傷などによる反復性肩関節脱臼に対しては関節鏡視下関節唇修復術を行い、肩関節拘縮に対しては関節鏡視下関節受動術を行っている。さらに肘関節疾患に対しても上腕骨外上顆炎に対する関節鏡視下滑膜切除術を、肘関節拘縮に対して関節鏡視下関節受動術も行っている。いずれも小侵襲手術による高度な技術により良好な手術治療成績を収めている。

関節リウマチに対しては、患者の症状に合わせ様々な治療を行っている。関節リウマチの治療は treat to target (T2T) の概念を取りいれ MTX をアンカードラッグとして biologics を導入し、他科と院内連携および病診連携をはかり、安全で確実な治療を目指している。

骨粗鬆症に対しては骨塩定量や採血検査を行い、その結果により各種薬物療法を行い骨折が生じないための予防治療を積極的に行っている。また度重なる脊椎圧迫骨折などをはじめとする重症骨粗鬆症に対しては強力な薬物治療である PTH 製剤やデノスマブの投与を行うなど、骨粗鬆症治療にも力を入れている。

三島地区は超高齢者の人口比率が高く、救急患者の多くを占める大腿骨近位部骨折の患者に対して は他科との密な院内連携を図り、術後はチーム医療によりクリニカルパスの導入を行っている。

当科は急性期病院として新患患者や救急患者、開業医の先生方からの紹介患者を積極的に受け入れている。諸先生方のご協力のもと地域連携を強化して手術対象になる患者紹介を増やし、また先生方への逆紹介にも力を注いでおり、地域に密着し、より地域の役に立つ病院であるための努力を行っている。

形成外科

<スタッフ・専門分野>

櫛田 哲史 (副部長):日本形成外科専門医、臨床研修指導医、日本創傷外科学会専門医、

日本形成外科学会小児形成外科分野指導医

鈴木 健司 (非常勤):日本形成外科学会専門医、日本熱傷学会専門医、

日本創傷外科学会専門医、日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医

笹尾 卓史 (非常勤):日本形成外科専門医

田辺 敦子 (非常勤):日本形成外科学会領域指導医、日本形成外科専門医、

日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医、

日本美容外科専門医、日本形成外科学会小児形成外科分野指導医、

日本抗加齢医学会専門医、日本認定産業医、臨床研修指導医

<異 動>

令和3年3月31日 田辺 敦子 医師 退職

<令和2年度活動実績>

令和 2 年度 形成外科新患数 257 名

令和 2 年度 手術件数 484 件 (手術室使用件数 324 件)

<令和3年度活動目標>

当院形成外科は、日本形成外科学会認定施設であり、近隣施設から多数の患者様のご紹介を頂いています。

手術治療としては、皮膚・皮下腫瘍摘出術、顔面外傷・顔面骨折、眼瞼下垂症、傷跡の修正、 悪性腫瘍の切除とその後の再建等を中心に多く行っており、シミのレーザー治療などの自費診療 も行っています。今年度も地域医療に重点を置いた質の高い形成外科診療を行うよう努めます。

皮膚科

<スタッフ>

古川 福実 (院長兼部長)

奥野 愛香(副部長)

矢野 翔也 (常勤嘱託医師 2020 年 1 月~ 12 月)

園村 真美(常勤嘱託医師 2021年1月~)

<令和2年度活動実績>

令和2年度入院患者延べ数 904人 令和2年度外来患者延べ数 8,426人

- ・アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎、尋常性乾癬、水疱性類天疱瘡、尋常性ざ瘡などの炎症性皮膚疾患、白癬などの感染性皮膚疾患、陥入爪などの皮膚付属器疾患、褥瘡、下腿潰瘍、化学療法による皮膚障害、薬疹、蜂窩織炎、帯状疱疹、円形脱毛症などの診療を行っています。
- ・水曜日には古川院長による院長外来を行っております。SLE や強皮症などの膠原病、難治性アトピー性皮膚炎、難治性蕁麻疹の方などの診療をしています。プラケニルの標準化投与に努めております。
- ・美容皮膚科外来を開設し、肌画像カウンセリングシステム「re-Beau2」を使用し、治療前後や 経過を比較しながら、治療を行っております。老人性色素斑、母斑などレーザ治療が必要な場 合や光治療を行う場合は当院形成外科と連携し治療をしています。

肌画像診断システムre-Beau2 (レビュー) 撮影・説明がタブレットで操作可能





高槻赤十字病院皮膚科外来

2021年4月からは皮膚・形成外科センターとして体制を変更いたしました。皮膚科、美容皮膚科、 形成外科で構成されており、フェイシャルフォトセラピー(自費)を開始しております。 https://www.takatsuki.jrc.or.jp/branch/dermatology_center.html

- ・乾癬に対して、生物学的製剤治療の認証施設となっているため、難治症例に対して、レミケード、 ステラーラ、ヒュミラ、コセンティクス、トレムフィア、スキリージを使用しています。
- ・重症のアトピー性皮膚炎の適応のある方に、デュピクセント®®注射薬を投与しております。
- ・皮膚腫瘍に関しましては、ダーモスコピー、組織検査を併用して、早期に診断し、治療に手術 を要する場合は、当院形成外科と連携して手術しています。
- ・多汗症には、ボトックス注射やエクロックゲルを用いています。
- ・褥瘡に対しては、毎週月曜日午後に病棟の褥瘡回診と褥瘡外来を行っています。在宅かかりつ け医や施設からのご紹介が多く、皮膚・排泄ケア認定看護師と皮膚科医、形成外科医で症例そ れぞれに合った治療、予防ケアができるように努めています

泌尿器科

<スタッフ・異動>

六車 光英(部 長)

金谷 勲 (副部長)(令和2年9月30日退職)

高安 健太 (医 師)

<令和2年度活動実績>

令和2年度は永年勤続された金谷医師が令和2年9月30日付で退職され週2回外来のみの非常勤となり常勤医二人体制となった。また新型コロナの流行により新入院患者数が令和1年度335人から令和2年度274人、入院延患者数が令和1年度3154人から令和2年度2271人に減少し、外来延患者数は令和1年度8578人から令和2年度8373人の微減にとどまったが、初診患者数は令和1年度348人から令和2年度296人に減少した。手術件数も前年度に比べ減少し、令和2年度に手術室で行った手術の内訳は下記の通りであった。術式別に見ると腹腔鏡手術は前年度に比べて微増していたが、TUL、TURBT、TUEB、前立腺生検などの件数の多い手術が前年度に比べて減少していた。

副腎	腹腔鏡下副腎摘除術	2件
腎・尿管	腹腔鏡下腎摘除術	5件
	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	4件
	経尿道的尿管腫瘍摘出術	2件
	経皮的腎砕石術(PNL)	2件
	経尿道的尿路結石除去術(TUL)	32件
	経尿道的腎盂凝固止血術	1件
	尿管鏡	2件
	経皮的腎瘻造設・拡張術	3件
	尿管ステント留置術	2件(手術室施行例のみ)
膀胱	経尿道的膀胱腫瘍切除術(TURBT)	50件
	膀胱ランダム生検	3件
	経尿道的膀胱結石・異物摘出術	8件
	経尿道的電気凝固術	2件
	膀胱水圧拡張術	1件
前立腺	腹腔鏡下前立腺全摘除術	8件
	経尿道的前立腺核出術(TUEB)	8件
	経尿道的前立腺切除術(TURP)	3件
	前立腺生検	43 件
尿道	尿道狭窄内視鏡手術	2件
陰茎	包皮環状切除術	1件
	陰茎腫瘤切除術	1件
陰嚢	精巣捻転手術	3件
	陰嚢水腫・精液瘤手術	3件
	精索静脈瘤手術 (顕微鏡下)	1件

その他創縫合術1件腹部腫瘤生検1件

<令和3年度活動目標>

令和3年度は常勤医二人体制で新型コロナの流行も続くと思われるが、地域の中核病院として 泌尿器科疾患の診断と治療を地域内で完結できるよう努力し、入院患者数、手術件数を戻すよう にしたい。

産婦人科

<スタッフ>

平松 昌子(副院長兼部長)中村 路彦(副部長)

<異 動>

なし

<特 色>

婦人科の全般にわたり、総合的に診療を行っている。

子宮筋腫・卵巣腫瘍等の良性疾患から子宮癌・卵巣癌等の悪性疾患、更年期障害に渡るまで幅 広く診療を行っている。手術において良性疾患の場合は術式を患者と相談しながら決定している。 希望があれば腹腔鏡での手術も行っている。また子宮鏡検査は外来で行っており日帰りでの処置 を可能にしている。

また終末期医療においては当院の緩和医療チームと共同での管理を施行し、一人一人の患者の要望に応じながらの診療を心がけている。

眼 科

<スタッフ>

文 俊貴 (副部長) 滝 功一郎 (医 師) 奥村 峻大 (医 師)

<異 動>

文 俊貴 (副部長):令和3年3月退任 奥村 峻大(医 師):令和3年3月退任

<特 色>

眼科疾患全般の治療に対応しており、白内障や網膜硝子体疾患、眼形成、涙道疾患に対する手術治療に力を入れている。白内障手術に関しては、日帰りから入院まで患者様のニーズに幅広く対応し、乱視矯正眼内レンズや保険適応のある多焦点眼内レンズを用いた白内障手術も行っている。硝子体手術については最新の手術機器を用いた小切開硝子体手術を行い、眼瞼下垂の手術や涙道内視鏡を用いた涙道閉塞に対する治療も積極的に行っている。網膜硝子体疾患では加齢黄斑変性や網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫に対する抗 VEGF 薬硝子体注射も行っている。

<専門外来>

黄斑外来、緑内障外来、ロービジョン外来

<令和2年度活動実績>

手術統計(手術室)495件

<令和3年度の活動目標>

病診連携を上手く活用し、紹介患者数の増加と手術件数の増加を目標とする。

耳鼻咽喉科

<スタッフ>

古川 福実 (病院長兼部長)

田浦 晶子 (藍野大学教授):めまい

<異 動>

なし

<特 色>

北摂地区の中核病院の一つとして、紹介患者を受け入れている。しかし、ベットタウンが近く にあるため、直接当院を受診する軽症の患者も多く、一次診療、二次診療を併せ持った性格をもっ ている。

<診療実績>

外来は月、火、水、金。月曜、金曜は京都大学の応援を得て、二診体制である。第一から第三 水曜は田浦晶子藍野大学教授がめまい外来をしている。金曜午後には補聴器外来を設け、相談に のっている。他科入院中の院内紹介の患者も多い。血液内科より、悪性リンパ腫のリンパ節生検 の依頼が多いことが特徴です。

<令和3年度の活動目標>

今年度は外来、入院とも減少しました。これを少しでも回復させることが目標です。

放射線科及び核医学科

<スタッフ>

◆医 師

後藤 公男(部長) : 画像診断

山室 正樹(部長) : 核医学診断 + 画像診断

 的場
 直樹(副部長)
 : 画像診断

 今井
 雅夫(非常勤)
 : 面像診断

 中村
 清直(非常勤)
 : 放射線治療

 小野
 幸果(非常勤)
 : 放射線治療

◆診療放射線技師

松原 健夫 (課長兼核医学係長)

大嶋 浩嗣 (MRI 係長)

中村 義隆(放射線係長)

関本 淑徳(CT係長)

涌田 哲成(放射線治療係長)

西村 大樹・林 恵理子・松山 佳央・渡邊 良彦

石嵜 伸也・松下 あゆみ・在津 幸香里・柳田 泰祐

原 祥太郎・木戸口 尭史・村上 慎哉・中村 仁美

◆事務員

植松 恵美子

<施設認定、資格>

- ◆マンモグラフィ検診施設画像認定
- ◆検診マンモグラフィ撮影技術認定 林 恵理子 ・ 松下 あゆみ ・ 在津 幸香里 中村 仁美
- ◆第 1 種放射線取扱主任者 西村 大樹 · 木戸口 尭史
- ◆肺がん CT 検診認定技師

関本 淑徳

◆ X 線 CT 認定技師

関本 淑徳 ・ 松山 佳央

◆放射線管理士、放射線機器管理士、医療画像情報精度管理士、 放射線治療品質管理士、臨床実習指導教員 渡邊 良彦

◆放射線治療専門放射線技師

涌田 哲成 ・ 渡邊 良彦 ・ 石嵜 伸也

◆放射線治療品質管理士

涌田 哲成 ・ 石嵜 伸也

◆救急撮影認定技師

松山 佳央 · 原 祥太郎

<令和2年度活動実績>

◆研究発表、研修会開催実績

【院外】

※なし

【院内】

※ MRI の安全管理について

柳田 泰祐

※電離照射線障害防止規則改定について

松原 健夫

※医療安全活動 済生会茨木病院、水無瀬病院と Web ディスカッション

松原 健夫 · 大嶋 浩嗣

◆研修会・講習会・学会等への参加

※17名/14会 全てWeb開催(診療放射線技師のみ)

- ◆その他活動
 - ※ COVID-19 に関する放射線治療継続計画 (BCP) の策定
 - ※放射線業務従事者のための教育訓練
 - ※早期肺がん/肺転移オリゴ転移への定位放射線治療の開始
 - ※ RI 法に基づく定期検査及び定期確認の実施
 - ※放射線治療カンファレンス (第273~322回)
 - ※画像取り込み作業2台体制開始
 - ※画像診断加算 2 施設条件追加項目「MRI の安全管理について」 指針、マニュアル作成、講習受講し日本医学放射線学会認定施設登録
 - ※医療安全推進室活動、済生会茨木病院、水無瀬病院とミーティング
 - ※電離放射線障害防止規則改正における職業被ばく管理見直し
- ◆機器整備更新
 - ※移動型 X 線撮影装置 (新型コロナウィルス補助金)
 - ※ CT 装置 80 列 (新型コロナウィルス補助金)
 - ※手術室移動型透視装置
 - ※既読システム

◆放射線科部 + 核医学科部 検査件数

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
一般撮影	43,640	42,011	35,820
造影検査	781	809	665
マンモ	1,172	1,266	1,046
CT	10,325	10,728	10,802
MRI	3,802	3,916	3,823
RI	889	832	840
血管造影	502	418	480
放射線治療	135	153	143
骨密度	908	464	430

◆放射線科部 + 核医学科部 紹介検査件数

	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年度	令和 2 年度
CT	197	227	306	332	353
MRI	262	360	529	723	833
RI	104	133	170	163	219

<令和3年度活動目標、計画>

- ◆放射線科部+核医学科部
 - ※放射線業務従事者への教育訓練開催 (RI法)
 - ※ MRI 安全管理講習開催
 - ※医療被ばく正当性、最適化講習開催
 - ※職業被ばく管理強化(電離放射線障害防止規則)
 - 水晶体への職業被ばく防護強化
 - ※放射線治療件数增加活動

麻酔科

<スタッフ>

常勤:宇田 るみ子(部長)平成31年4月1日から

澤井 俊幸 (麻酔科・手術部長) 令和2年1月1日から

日下 仁美 (常勤医) 令和3年4月日から

<活動実績>

「令和2年8月から毎週水曜日午後二時から三時までペインクリニック外来で帯状疱疹後神経痛や術後慢性痛などを主に(院内紹介患者のみ)受け付けております。」

<令和2年度>

【合計】

手術件数 922(うち手術室内 922、手術室外 0)
----------------------------	---

【性別】

男性	女性	合計	
469	453	922	

旧分類【麻酔法】

A.全身麻酔(吸入)	765
B.全身麻酔 (TIVA)	6
C. 全身麻酔 (吸入)+ 硬・脊、伝麻	143
D. 全身麻酔 (TIVA)+ 硬・脊、伝麻	0
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔 (CSEA)	0
F. 硬膜外麻酔	2
G. 脊髄くも膜下麻酔	1
H. 伝達麻酔	1
X. その他	4
合計	922

[ASA PS]

予定 1	82	緊急 1E	19
2	538	2E	41
3	185	3E	52
4	2	4E	3
5	0	5E	0
6 (臓器摘出を受ける脳死患者が対象)	0	6E (臓器摘出を受ける脳死患者が対象)	0
小計	807	小計	115
合計		922	

【手術部位】

* · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
a.脳神経・脳血管	0
b.胸腔・縦隔	77
c.心臓・血管	0
d.胸腔+腹部	3
e . 上腹部内蔵	110
f . 下腹部内蔵	198
g . 分娩	0
h.頭頸部·咽喉部	25
k.胸壁・腹壁・会陰	89
m. 脊椎	66
n.股関節·四肢(含:末梢神経)	341
p.検査	1
q . MAC	0
r . ECT	0
x . その他	12
合計	922

旧分類【年齢構成】

	男性	女性	合計
A.~1ヶ月	0	0	0
B.~12ヶ月	0	0	0
C.~5歳	3	4	7
D.~18歳	23	13	36
E.~65歳	152	129	281
F.~85歳	262	250	512
G.86歳~	29	57	86
合計	469	453	922

【体位】

1. 仰臥位	458
2. 腹臥位	88
3. 側臥位	200
4. 切石位	172
5. 坐位	0
6. その他	4
合計	922

【偶発症例】

A. 危機的偶発症	1
B.神経系偶発症 (脳・脊髄)	0
C. その他の神経系偶発症	0
D.その他	0
合計	1

救急部

R2 (2020) 年度は、前年度の終わり頃から蔓延し始めた COVID-19 禍によって、大きな影響を受けた一年でした。例年にない対応を迫られた業務も多ければ、例年できた事ができなかった … という両面があり、前者としては多数の発熱者受診への対応が必要となり、元々狭い救急外来に空気清浄機や簡易テントなどを所狭しと配置、さらにスペースが足りずコンビニのイートインコーナーもお借りし続けています。コロナを見落とさないような注意も必要ですし、コロナを疑いすぎるあまり重篤な一般疾患を見落とさないようにも神経を遣う1年でした。数値的な実績は救急車搬入 2235 症例 (うち入院率 55.4%)、ウォークイン含め 5016 症例の診療実績は、昨年(救急車 2536 症例、ウォークイン合わせ 6588 症例)と比べて若干減少してしまいましたが、この年度は全国的に救急車出動が減少したことや、当院で院内クラスター発生で救急受入れ制限を行った時期があったことも勘案すると、致し方ないと感じております。

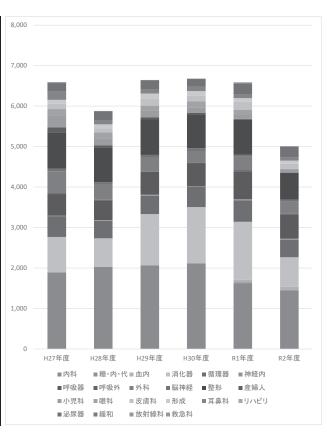
COVID-19 のために、地道に継続してきた、域連携機関や救急隊への営業活動、各種勉強会や親睦会、外部での災害救護訓練などは例年ほど活発に実施できませんでした。それでも ICLS (二次救命救急処置講習会) や院内の災害訓練などは感染対策を施して開催致しました。今後もウィズ〜ポストコロナ時代へ柔軟に対応しながら、当院の生き残り〜再生を目指して尽力したいと考えております。

年度別救急患者数

		H27年	H28年	H29年	H30年	R1年度	R2年度
救急患者数 -	時間内	1,432	1,444	1,759	1,904	2,060	1,867
	時間外	4,084	3,444	3,858	3,830	3,726	2,465
权心思有效	深夜	1,072	994	1,029	946	802	684
	合計	6,588	5,882	6,646	6,680	6,588	5,016
	時間内	663	692	854	924	935	927
(再掲) 救急患者数のうち	時間外	874	787	987	986	1,016	797
入院患者数	深夜	308	296	358	333	301	243
	合計	1,845	1,775	2,199	2,243	2,252	1,967
	時間内	979	944	1,019	1,121	1,072	1,000
(再掲) 救急患者数のうち	時間外	974	954	1,041	980	1,048	865
救急搬送	深夜	473	464	477	489	416	370
	合計	2,426	2,362	2,537	2,590	2,536	2,235
	時間内	525	496	592	627	600	580
(再掲②) 救急搬送のうち 入院患者	時間外	408	442	544	531	561	473
	深夜	208	204	248	245	224	185
	合計	1,141	1,142	1,384	1,403	1,385	1,238

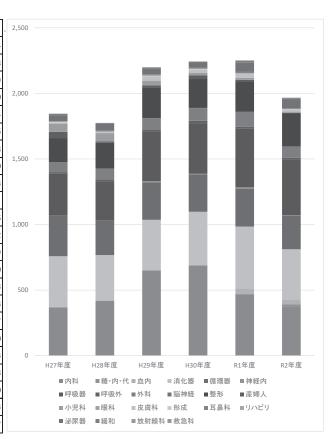
年度別救急患者数

救急患者	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
内科	1,893	2,025	2,061	2,113	1,629	1,437
糖・内・代					15	27
血内					62	69
消化器	874	708	1,272	1,392	1,435	732
循環器	515	434	450	496	532	432
神経内	11	20	28	17	31	31
呼吸器	533	476	564	552	685	601
呼吸外	24	22	18	32	22	15
外科	541	378	327	289	339	296
脳神経	62	54	75	70	54	50
整形	892	867	885	819	859	661
産婦人	129	43	48	58	25	12
小児科	295	177	152	132	116	59
眼科	158	148	131	144	99	30
皮膚科	131	94	167	143	201	125
形成	96	102	135	114	93	76
耳鼻科	203	98	108	105	86	82
リハビリ	0	0	0	0	0	0
泌尿器	213	228	215	200	272	258
緩和	18	8	10	4	16	8
放射線科					3	4
救急科					14	11
合計	6,588	5,882	6,646	6,680	6,588	5,016



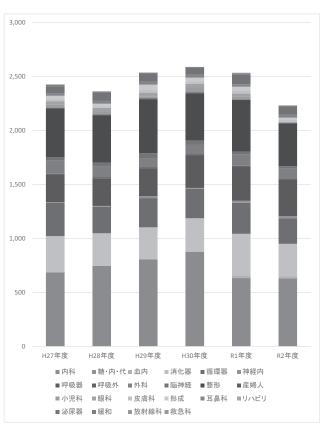
年度別救急患者うち入院数

救急患者入院	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
内科	369	419	650	689	468	374
糖・内・代					5	18
血内					41	39
消化器	389	348	386	408	471	380
循環器	314	261	287	286	289	254
神経内	0	1	8	4	10	5
呼吸器	316	302	378	383	446	428
呼吸外	12	12	12	21	16	10
外科	73	82	85	92	112	86
脳神経	3	1	4	6	4	1
整形	183	197	231	220	231	255
産婦人	48	11	20	28	10	2
小児科	62	59	34	20	14	9
眼科	2	6	4	2	0	0
皮膚科	6	7	26	21	31	13
形成	7	4	12	8	5	6
耳鼻科	3	6	9	10	11	7
リハビリ	0	0	0	0	0	0
泌尿器	41	52	43	41	70	66
緩和	17	7	10	4	16	8
放射線科					0	0
救急科					2	6
合計	1,845	1,775	2,199	2,243	2,252	1,967



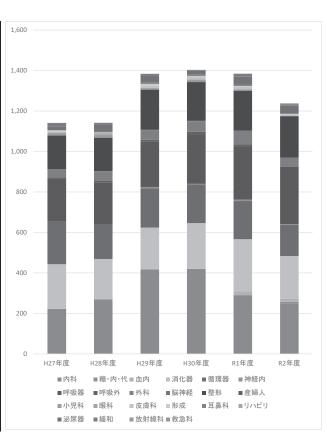
年度別救急搬送患者数 (再掲)

救急搬送	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	P1年度	R2年度
内科	687	748	808	878	633	624
糖・内・代	007	740	800	070	4	8
血内					21	19
消化器	335	301	296	310	385	300
循環器	310	244	271	272	288	236
神経内	6	9	17	9	18	20
呼吸器	256	252	259	300	314	340
呼吸外	6	11	7	13	10	4
外科	120	99	84	89	107	96
脳神経	32	38	47	38	24	24
整形	451	441	500	434	482	394
産婦人	9	5	11	10	2	4
小児科	32	33	17	46	30	5
眼科	28	30	34	35	25	8
皮膚科	19	12	24	22	31	16
形成	32	25	50	35	32	21
耳鼻科	25	30	34	27	23	27
リハビリ	0	0	0	0	0	0
泌尿器	62	76	69	68	87	76
緩和	16	8	9	4	15	8
放射線科					0	0
救急科					5	5
合計	2,426	2,362	2,537	2,590	2,536	2,235



年度別救急搬送患者うち入院数 (再掲)

救急搬送入院	山口左中	山の左曲	H29年度	山の左曲	D1左车	R2年度
内科	222	269	417	420	289	250
糖・内・代					2	7
血内					19	16
消化器	221	200	207	226	257	211
循環器	210	170	195	192	188	153
神経内	0	0	6	2	7	4
呼吸器	213	209	226	244	265	284
呼吸外	6	8	7	13	9	3
外科	39	46	45	52	66	42
脳神経	2	1	4	4	2	0
整形	165	165	197	190	196	204
産婦人	3	1	3	2	1	1
小児科	12	14	5	10	5	2
眼科	1	6	3	1	0	0
皮膚科	6	3	10	10	14	5
形成	5	2	9	7	4	3
耳鼻科	0	5	6	6	5	5
リハビリ	0	0	0	0	0	0
泌尿器	20	36	35	20	40	36
緩和	16	7	9	4	15	8
放射線科					0	0
救急科					1	4
合計	1,141	1,142	1,384	1,403	1,385	1,238



医療技術部

医療技術部は栄養課と臨床工学技術課で構成され、どちらも病院機能を維持するために重要な役割を担っています。栄養課はNSTをはじめとするチーム医療に貢献するとともに栄養管理と調理技術の習得を行っています。臨床工学技術課は血液浄化療法、循環器領域の補助、内視鏡領域の補助、医療機器の管理、手術室での物品管理やメンテナンス、透析やCGMの管理などを行い、質の高い安心安全な医療の提供を目指して技術と知識の向上に努めています。医療技術部は今後も医師や看護師とのチーム医療を実施し、患者様に効率的、効果的な医療技術を提供するとともに、病院経営にも参画していきたいと考えておりますのでご協力をお願いいたします。

院長兼医療技術部長 古川 福実

栄 養 課

<スタッフ>

◆管理栄養士

桑田 由起江(栄養課長・栄養第一係長事務取扱・NST 専従管理栄養士

NST 専門療法士・病態栄養専門管理栄養士がん病態栄養専門管理栄養士)

廣田 眞希 (栄養第2係長・緩和ケアサポートチーム専任管理栄養士

糖尿病療養指導士・病態栄養専門管理栄養士がん病態栄養専門管理栄養士)

南 美保子 (糖尿病療養指導士・健康運動指導士・糖尿病透析予防指導専任管理栄養士)

藤本 智子 (糖尿病療養指導士)

西岡 美穂 (糖尿病療養指導士・NST 専門療法士)・中村 やすこ

◆調理師

藤原 崇義 (調理第一係長)、小坂 重敏 (調理第二係長)

堀 隆二、岡 務、野々下 武志、草地 敦、井上 秀子、

平山 光一、櫻井 葉子、小川 辰夫、下田 剛史、玉野井 克也、野方 晴美

<異 動>

(入職) 令和2年4月 調理師 玉野井克也

令和2年7月 調理師 野方晴美

(退職) 令和2年8月 調理師 玉野井克也

令和3年1月 調理師 野々下武志

令和3年3月 調理師 井上秀子

令和3年3月 管理栄養士 廣田眞希

<令和2年活動実績>

給食管理においては、地産地消を心掛け安全で美味しい食事の提供を目標にしています。

入院患者様への食事の対応として、季節感を感じていただこうと行事食などを献立に取りいれ常食を提供している患者さんへは週7回選択メニューを実施。

2年度においてはCOVID-19対応にディスポ食器での食事提供の中、適温適時の食事提供を努力と工夫で乗り越えてきました。

栄養指導においては外来化学療法患者に対して指導を開始しました(令和2年1月~)。

<統計>栄養指導件数件 732 件/年 給食数 197,829 食/年 糖尿病透析予防指導 52 件/年 NST 介入延べ患者数 1,267 名/年 心臓リハビリテーションカンファレンス参加件数 594 件/年 糖尿病パスカンファレンス参加件数 319 件/年

<令和3年度活動目標>

多職種と連携し栄養指導が必要な患者さんの抽出を強化し栄養指導を実施する。 調理師栄養士ともに専門分野の知識、技能習得の強化。

臨床工学技術課

<スタッフ>

医 師

古川 福美 (医療技術部長)

臨床工学技士

竹下 勇一(臨床工学技術課課長)

吉村 忠(臨床工学技術課主任)

成瀬 大輝

福谷 伶芳

野々村美紅

森地 裕子

杉本 健太

野中 翔太

主事

兼田 泰子

臨床工学技術課は血液浄化装置、人工呼吸器、人工心肺装置などの『生命維持管理装置』を医師の指示のもと操作として治療のサポートをするほか、院内にある医療機器が安全に正しく使用できるように保守点検を行うなどの業務を担っています。医学的知識はもちろん、医療技術の進歩に伴い、高度化する様々な医療機器の知識、技能を持ち、スムーズな治療や検査が行えるように対応しています。

<令和2年度活動実績>

- 1. 血液浄化療法領域
 - ✓ 血液透析…66 症例、1,915 回
 - ✓ 持続緩徐式血液透析濾過…17症例、94回
 - ✓ 血漿交換療法…6 症例、22 回
 - ✓ エンドトキシン吸着療法…0回
 - ✓ GCAP、LCAP…1 症例、2回
 - ✓ 腹水濾過濃縮再静注法…8 症例、15 回

2. 血液疾患領域

- ✓ 末梢血幹細胞採取…4症例、6回
- ✓ 白血球除去療法…3症例、4回
- ✓ 顆粒球/リンパ球採取…0回
- ✓ 骨髄濃縮…1症例、1回
- 3. 循環器領域
 - ✓ CAG…105件
 - ✓ PCI…129件
 - ✓ IVUS…143 件
 - ✓ FFR…19件
 - ✓ シャント PTA…2件
 - ✓ 下肢 PTA…9 件
 - ✓ IVC フィルター…1件
 - ✓ IABP…2件
 - ✓ PCPS…1件
 - ✓ Permanent Pacemaker Implanted…17件
 - ✓ Permanent Pacemaker Exchange…8件
 - ✓ Temporary Pacemaker…5件
 - ✓ Pacemaker Implanted Pt(当院管理数)…214名
 - ✓ Pacemaker clinic(月2回)…延161回
 - ✓ 遠隔モニタリング登録患者数…117名

4. 腎生検施術補助

✓ 1件

5. 医療機器管理領域

- ✓ 人工呼吸器、輸液・シリンジポンプ、AED、ポータブルエコー、フットポンプなどの医療機器管理台数…1,187台
- ✓ 医療機器修理業務 院内・院外修理…243件に対応
- ✓ 医療機器、消耗品に関しての研修会の開催…4件
- ✓ 新規納品機器に関する研修会…4件

6. 手術室業務

- ✓ 麻酔器の使用前点検
- ✓ 医療機器などのトラブル対応
- ✓ 除細動器・無影灯点検

7. 内視鏡関連業務

- ✓ カプセル内視鏡 (小腸) …18件
- ✓ カプセル内視鏡 (大腸) …1 件

8. その他

- ✓ RFA···2件
- ✓ SAP データ処理…1 名

<令和3年度活動目標>

医療機器管理や、生命維持管理装置技術を習得し、患者の状態に合った治療が行えるよう努める。 医療安全への意識を強く持ち、安全・安心・安楽な治療が行えるよう努める。

薬剤部

<スタッフ>(役職・担当・資格は令和3年3月31日現在)

- 小島 一晃 (薬剤部長):麻薬管理者・治験薬管理者・医療安全推進室員・医薬品安全管理責任者・ 薬事委員会副委員長・治験審査委員会副委員長・化学療法委員会副委員長
 - · 日本医療薬学会 医療薬学指導薬剤師
 - · 日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
 - ·日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
 - ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 - ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
 - ・日本医療薬学会 がん指導薬剤師
- 美和 孝之 (薬剤副部長/調剤業務課長/医薬品情報管理係長):放射性医薬品管理者・医薬品情報管理業務責任者・調剤業務責任者・治験管理業務責任者・薬事委員会幹事・治験 審査委員会幹事
 - · 日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
 - ·日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
 - · 日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
 - ・日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
 - ・日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士
- 仲 忠士 (病棟業務課長):病棟薬剤業務責任者・外来化学療法業務責任者・実務実習指導責任者
 - ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
 - ・日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士
 - · 日本医療情報学会 医療情報技師
- 松本 弘誠 (調剤係長/製剤係長):実務実習指導担当·ICT/AST業務·病棟薬剤業務·調剤業務· 感染管理室員·AST委員会副委員長·薬事委員会書記
 - · 日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
 - ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 - ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
 - ·日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師
 - ·日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
- 中西 輝 (病棟薬剤業務係長):手術室業務責任者・ICT/AST 業務・NST 業務・病棟薬剤業務・ 調剤業務・薬事委員会書記
 - ·日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
 - · 日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士
- 小西 史子 (化学療法・手術室薬剤業務係長):部門リスクマネージャー・調剤業務・外来化学療 法業務・手術室業務・薬事委員会書記
 - · 日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
 - ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 - ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
 - ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師
 - · 日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士
 - ・日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト

山村裕佳子(薬剤師):調剤業務

安達 美里(薬剤師):【育休中】

・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

森川 智子(薬剤師):調剤業務 【時短勤務】

·日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師

・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

· 日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

濵武 清範 (薬剤師):病棟薬剤業務 (7病棟専従)

・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

岩井真里絵(薬剤師):病棟薬剤業務(5病棟専従)・緩和サポートチーム業務

・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

奥村 優介 (薬剤師):病棟薬剤業務 (9病棟専従)・ICT/AST 業務

・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

·日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

足立那々緒(薬剤師):注射業務・ICT/AST業務

・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

·日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

奥村 有香 (薬剤師):病棟薬剤業務・調剤業務・手術室業務

·日本循環器学会 心不全療養指導士

・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

松田ちひろ (薬剤師):【産休中】

・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

・日本臨床腫瘍薬学 X 外来がん治療認定薬剤師

通山 由香 (薬剤師):病棟薬剤業務 (緩和ケア病棟専任)・NST 業務・調剤業務

・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

・日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士

福井 美礼 (薬剤師):病棟薬剤業務 (6病棟専従)

・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

後藤 仁美 (薬剤師):外来化学療法業務・調剤業務

・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

·日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

宮西 將之 (薬剤師):病棟薬剤業務 (8病棟専従)

・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

野間 敏也 (薬剤師):外来化学療法業務・調剤業務

・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

橋本 浩明(薬剤師):【1月末退職】

林 愛華 (薬剤師):病棟薬剤業務 (3病棟専従)

兼行 佑奈 (薬剤師):調剤業務・手術室業務 【4月入職】

徳田 悦美(主 事):治験管理業務・治験審査委員会幹事補/書記 松本 明子(主 事):治験管理業務・治験審査委員会幹事補/書記 山地 祥恵 (業務員):調剤補助業務·発注業務 【4月入職】※

吉田 仁美(業務員):調剤補助業務・発注業務 【4月入職/退職】※

竹内 邦子 (業務員):調剤補助業務·発注業務 【6月入職】※ 中元真紀子 (業務員):調剤補助業務·発注業務 【6月入職】※

※エムシーヘルスケア社撤退による

<薬剤関連施設認定>

日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師研修施設

日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設

日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設

薬学教育協議会 実習生実務実習受入施設

<令和2年度活動実績>

【調剤室】

調剤室周辺業務を委託していた MCH 社の薬剤部門撤退による人員確保に苦渋した。下半期は 患者支援センター薬剤師の退職に伴い、疑義照会対応・検査薬交付を調剤室が担当。手術室早出 廃止等を含む業務整理を行い、少人数で調剤室を運営できる体制を整えた。

【病 棟】

病院経営上さらなる増収に向けた取り組みとして、COVID-19の影響で入院患者数が変動するため評価の指標を算定総数から患者 1 人当たりの算定数に変更し、病棟横断的に follow する薬剤師の業務内容の見直し行うことで、全体的に算定数を伸ばしやすい環境を整えた。

2020 年度は、新たに設定した目標値(患者 1 人当たりの算定数≥ 1.3、指導率≥ 85%)を達成し、 増収に繋がった。

【外 来】

下半期より連携充実加算の算定を開始し、同時に外来化学療法室の対象患者を全診療科に拡大。 治療計画書の交付や WEB 研修会を通して、がん化学療法における調剤薬局との連携を強化した。 これらの業務拡大に伴い、収益も下半期は大幅に増加した。

【医薬品情報】

COVID-19 感染症に対する抗ウイルス剤の新規導入や、国立国際医療研究センター等への症例 登録業務に追われた。さらに、医薬品の供給停止が相次ぎ、治療への影響を最小限に抑えるべく 医薬品確保に尽力した。COVID-19 対応と医薬品確保に東奔西走した 1 年であった。

【薬品管理】

前年度に引き続き、医薬品情報室が中心となり後発品への切替に取り組み、数量ベースで後発品使用割合は90%を超えた。半面、医薬品の流通不安定の影響で先発品に戻さざるを得ないケースも多発し、後発医薬品使用体制加算1の算定要件である85%の確保を当面の目標としたい。

【治験管理】

消化器科・呼吸器内科・乳腺外科など糖尿病以外の新規治験受託を伸ばすことができた。地域

医療支援病院としての役割分担上、一般薬の治験がクリニックに流れる傾向がより強くなった印象。今後、受託件数を伸ばすには、分子標的剤・生物学的製剤・抗癌剤など、難易度の高い治験の受託を検討する必要がある。

【リスク管理】

前年度から継続して、薬剤師の介入により患者さんの不利益が回避(プレアボイド)できた、 もしくは利益に繋がった事例を集積した。抗癌剤やハイリスク薬の投与に関するレポートが多く、 リスクマネジメントに大きく貢献している。

【学生実習】

1期(3ヶ月)3~4人×3期(年間10人)の薬学実習生を受け入れ、全部員総動員で指導に当たった。特に第3期実習生についてはCOVID-19第3波と重なり、自宅学習プログラムを急遽作成するなど、新たな実習形式を導入した。リモート実習プログラムの作成など、今後の課題は多い。大阪薬科大学・京都大学の体験学習、近隣中学生の体験学習など、学校関係の体験学習も積極的に受け入れ、外部に対する病院薬剤師業務の啓蒙活動にも注力した。

【統 計】令和2年度実績/()は令和元年度実績

1. 処方箋

<入院処方箋枚数>

入院投薬:通常処方 33,706 枚 (34,779 枚)

退院処方 5,008 枚 (5,794 枚)

異常時処方 21,049 枚 (21,864 枚)

入院注射:通常処方 72,508 枚 (77,482 枚)

化学療法 2,757 枚 (2,919 枚)

TPN処方 11,372 枚 (10,841 枚)

異常時処方 89,256 枚 (67,513 枚)

<外来処方箋枚数>

外来投薬:院内処方 4,440 枚 (4,963 枚)

院外処方 64,392 枚 (68,888 枚)

院外発行率 93.5% (93.3%)

一般名処方 47,757 枚 (46,914 枚)

外来注射:通常処方 9,944 枚 (11,566 枚)

化学療法 3.545 枚 (3.611 枚)

2. 注射薬無菌調製

<調製本数>

抗癌剤 : 7,318 本 (6,674 本) TPN・移植・その他: 5,212 本 (3,754 本) 合 計 : 12,530 本 (10,428 本) 3. 入院患者指導(薬剤管理指導料)

訪問件数: 15,193件・1,266.1件/月 (16,659件・1,388.3件/月)本体請求件数: 9,312件・ 776.0件/月 (9,027件・752.3件/月)退院指導請求件数: 2,065件・ 172.1件/月 (1,941件・161.8件/月)

患者指導率 : 88.7% (84.3%)

4. 外来患者指導(がん患者指導管理料・連携充実加算)

訪問件数 : 1,606 件 (1,440 件)がん患者指導管理料 : 569 件 (424 件)

連携充実加算 : 382件【12月新規算定開始】

5. 持参薬鑑別

取扱件数 : 5,723 件 (6734 件)

6. 疑義照会・プレアボイド報告

化学療法疑義照会 : 427 件・変更率 65.1% (292 件・変更率 81.3%)

プレアボイド報告 : 調剤担当者 68 件 (54 件) 病棟担当者 48 件 (31 件)

7. 治験業務

<新規受託件数>

治 験:6件 (6件)製造販売後調査:8件 (10件)副作用報告:1件 (0件)

<請求額>

治 験 : 47,879,874 円 (80,622,430 円) 製造販売後調査 : 2,183,740 円 (2,315,560 円) 副作用報告 : 28,080 円 (0 円) 合 計 : 50,091,694 円 (82,937,990 円)

8. 薬品管理

<採用薬品数>

投薬・その他: 608 品目・後発 35.4% (577 品目・後発 36.6%)注射薬: 434 品目・後発 31.8% (498 品目・後発 29.7%)

合 計 : 1042 品目※・後発 33.9% (1,075 品目・後発 33.4%) ※再計算

9. 薬剤関連 DPC 係数

病棟薬剤業務 : 0.0079 (0.0064)

後発医薬品使用体制 : 0.0014 ※ (0.0014) ※最高値

10. 薬学生実務実習

実務実習(11週間):10名(10名)

外部体験学習 : 0名※ (14名) ※ COVID-19の影響

<令和3年度の主な活動目標>

・入院・外来における患者指導業務を中心とした収益向上

- ・コロナ禍における能動的な自己研鑽
- ・将来目指すべき目標(専門分野・資格等)に向けた計画の実行

検査部

<スタッフ>

医 師

古川 福実 (院長兼検査部長)

藤田 修治 (検査第二部長)

臨床検査技師

荒木孝一郎(技師長職務代理)

吉田 桂(生理機能検査課長職務代理 超音波検査係長)

大西美穂子 (臨床検査課長職務代理 検体検査係長)

中村 直実(臨床検査課 輸血管理係長)

佐藤 裕司 (生理機能検査課 生理機能検査係長)

扇田 裕允 (臨床検査課 微生物検査係長)

今井翔太郎(臨床検査課 主任)

土井美都子 元原 浩子 坂野 絵美 村上かおり 奥洞 智太 森内 沙紀

亀山 雅貴 平岩 理雅 古川 理奈 駒井 裕子

視能訓練士

岡田 悠(生理機能検査課 主任)

山名 裕子 天田 瞳 舘 友香子

採血室看護師

宮地真奈美 木野 洋子 赤石 美智子 中岡 和代

検査アシスタント、受付 洗浄

田辺 智美 富木 貴子 久保田孝子

<異動、昇任>

臨床検査技師 荒木孝一郎 令和2年4月1日 技師長職務代理に就任 臨床検査技師 吉田 桂 令和2年4月1日 生理機能検査課長職務代理に就任

臨床検査技師 大西美穂子 令和2年4月1日 臨床検査課長職務代理に就任

臨床検査技師 今井翔太郎 令和2年4月1日 臨床検査課主任に就任

臨床検査技師村上かおり令和2年5月31日退職臨床検査技師森内 沙紀令和2年11月30日退職視能訓練士山名 裕子令和2年11月30日退職視能訓練士舘 友香子令和2年11月1日入職

<認定資格>

認定超音波検査士:佐藤 裕司 吉田 桂 元原 浩子 坂野 絵美 村上かおり

亀山 雅貴 森内 沙紀 駒井 裕子 荒木孝一郎

認定血液検査技師:大西美穂子 認定骨髄検査技師:大西美穂子 認定糖尿病療法指導士:土井 美都子 認定臨床微生物検査技師:扇田 裕允

感染制御認定臨床微生物検査技師 (ICMT):扇田 裕允

認定救急検査技師: 今井翔太郎 奥洞 智太

緊急臨床検査士: 奥洞 智太 認定心電図専門士: 駒井 裕子

<令和2年度活動実績>

	·
2020年4月1日~2021年3月31日	人 (延べ)
血液型	1,896
不規則抗体	2,248
関節クームス	37
直接クースム	44
交差試験	2,165
尿一般	23,441
末梢血算定	66,913
末梢血液像 目視	27,370
骨髄検査	281
生化学・免疫検査	64,106

一般細菌検査	9,582 件
抗酸菌検査	1,514件

心電図	10,250 件
心臓超音波	3,132件
腹部、血液、表在超音波	5,221 件

- ・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対応するため、PCR機器を導入し、5月から、SARS COVID-2 PCR 検査を院内化、8月から、高槻保健所からの要請で、高槻市内のPCR 行政検査を受託開始、令和2年度内で約12,000件のPCR検査を実施した。(件数詳細グラフ別紙)
- · 令和 2 年度 日臨技臨床検査精度管理調査 A+B 評価 100%
- · 令和 2 年度 日本医師会 臨床検査精度管理調査

評価 98.1 A 評価 113 個 B 評価 11 個 C 評価 0 個 D 評価 0 個

- ・臨床検査の標準作業書とマニュアルを更新。
- ・臨床検査適正化委員会を通じて検査セットを見直し、血液検査目視依頼数を昨年度比で 10% 削減。
- ・ポジティブレポート(インシデント)を 58 件報告(昨年度から倍増)、医療安全推進室と連携して、リスクマネジメントを強化。

<令和3年度活動目標>

- ・PCR 検査体制のさらなる充実。
- ・検査セット、項目を見直し、過剰な検査を削減。
- ・検査の適正化による検査委託費、試薬代の削減。
- ・超音波検査を行う技師の育成。
- ・部内ローテーションを行い、個々が検査できる範囲を拡大、部署間のサポート体制を強化。
- ・各種、認定資格を各自の目標通りに取得。
- ・勉強会や学会発表への積極的参加。
- ・精度管理向上、日臨技、日本医師会の外部サーベイの参加 医師会サーベイは目標オール A 評価。
- ・各部署マニュアルの更新、整備。
- ・検体提出や運搬のルールを整備し徹底する。
- ・他部署へのサポート、連携を強化。
- ・ポジティブレポート提出率の向上。
- ・毎月検査部内勉強会開催。
- ・年最低 10 日の休暇取得。

病理診断科部

<スタッフ>

医 師

渡邉 千尋 [病理診断部長]:病理専門医、細胞診専門医

山田 義博[非常勤] 松城 尚憲[非常勤] 白瀬 智之[非常勤] 奥野 知子[非常勤]

千葉 渉〔非常勤〕

臨床検査技師

荒木孝一郎 [病理検査課長]:細胞検査士、国際細胞検査士、

超音波検査士 (循環器、消化器)

廣田 智美 [組織形態検査係長]:細胞検査士

山本 翔:細胞検査士 山田 桂実:細胞検査士

後呂 純平

<異 動>

医師 千葉 渉 令和 2 年 4 月 1 日 入職 医師 松城 尚憲 令和 2 年 12 月 31 日 退職

<令和2年度年度活動実績>

- ·統計:組織診件数 3,816 件 細胞診件数 2,565 件 剖検件数 8 件
- ・症例検討会(CPC)を5回行う
- ・月4回、細胞診症例検討会を行う
- ・日本臨床衛生検査技師会コントロールサーベイに参加
- ・日本臨床細胞学会施設認定制度コントロールサーベイに参加

<令和3年度活動目標>

- ・学会発表、研修会への参加
- ・病理標本の染色、質的向上
- ・遺伝子検査のマニュアル整備
- 病理検体固定方法の整備
- ・ホルマリン管理の整備
- ・細胞検査士認定資格取得技師の育成
- ・EUS-FNA、CT ガイド下穿刺施行時、現場での検体適正評価の強化
- ・検査部業務のサポート(検体検査、生理検査、治験業務)

看護部

<スタッフ>

看護部長 :岸 恵美

看護副部長:西 ひろみ・高橋 晶子・原田かおる (兼)

看護師長 : 有持 由江 (3 病棟)・川崎 知子 (5 病棟)・門脇 寛子 (6 病棟)

南波 広美 (7 病棟)・髙田 佳織 (8 病棟)・依藤 里香 (9 病棟) 秋山 由依 (緩和ケア病棟)・福谷 裕美 (手術室/中央材料室)

奥田 唱子・原田 香織 (外来)・松浦 昭子 (HCU)

西浦 美香 (看護部/患者支援センター)

阿部 哲子(看護部/研修課)

石黒 早苗 (看護部/病床管理室)

看護係長 : 病棟 11 名・手術室 2 名・外来 2 名

藤原 和子(看護部/緩和ケア認定看護師/緩和ケアサポートチーム専従/看護係長)

西川亜紀子(看護部/がん専門看護師/緩和ケアサポートチーム専従)松下めぐみ(看護部/感染管理認定看護師/緩和ケア病棟/看護係長)

看護職員 : 今戸美奈子(看護部/慢性疾患看護専門看護師)

北田 千世 (看護部/皮膚・排泄ケア認定看護師/褥瘡管理者)

工藤ゆかり (看護部/退院調整看護師) 安倉 有沙 (看護部/退院調整看護師) 岩田 佳美 (看護部/入退院支援看護師) 矢野原綾香 (看護部/入退院支援看護師)

< 令和 2 年度看護部活動実績 >

- 1. 学会参加(新型コロナウイルス感染拡大により学会自体中止多数)
 - 1) 日本看護系学会参加人数:4名
 - 2) 日本看護協会主催看護学会:なし
 - 3) その他: なし
- 2. 認定看護管理者教育課程
 - 1) ファーストレベル修了者:福場久美子 辻 ちひろ 佐賀 昭子
 - 2) セカンドレベル修了者:南波 広美
 - 3) サードレベル修了者:岸 恵美
- 3. 認定看護師教育研修
 - 1)緩和ケア認定看護師教育課程:井上 寛子

4. 看護学生臨地実習受け入れ

1) 大学			
□ 梅花女子大学看護保健学部看護	学科	□ 大阪医科大学和	 」 養学部看護学科
□ 藍野大学			
2) 専門学校			
□ 高槻市医師会看護専門学校	□ 学材	沙法人日木教育財団	大阪医夷

令和2年度(2020年度)看護部・各看護単位の活動

【看護部の活動総括】

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大への対応のため陽性者の受け入れを開始する事から始まった。感染者のフェーズに合わせて陽性者用病床を変動させていく経過においては一時的に3病棟を休棟し、陽性者対応のための看護師を投入した。9病棟が陽性者専用病棟となる一方で一般病棟の稼働率が100%を超える事もあり病床管理室と共に病床の確保に努めた。また患者支援センターに看護師長を配置し退院促進のシステム構築に取り組んだ。本部管理病院となり看護職員の補充が出来ない中でも看護師のやりがいを高めるための取り組みとして係長会を中心にリフレクションに取り組み看護の意味を見出すかかわりを継続した。離職率が21.1%と上昇しており令和3年度は看護の効率化を目指し業務改善、クリニカルパスの推進を目指すとともに看護補助者や他職種とのタスクシェアに取り組む。

I. 看護部基本方針

- 1. 専門職業人として自発的探究心を持ち自律した看護実践を行います。
- 2. 病院で働くすべての職種に関心を寄せ多職種の専門性を尊重します。
- 3. 継続した医療が提供できるように、地域と連携した看護を展開します。
- 4. 社会の変化に柔軟に対応し、組織の発展と健全な経営に参画します。
- 5. 日頃から災害に備え、救護活動が実践できる看護師を育成します。

Ⅱ. 看護部目標についてのバランススコアカード (BSC)

財務の視点

- ・新型コロナウイルス感染患者の受け入れのための空床補償や陽性患者の HCU 入院料の算定などにより病院収益に貢献した。
- ・ICU 救急外来の一元化により緊急カテーテル検査への対応や救急看護の質向上に向け集中ケア認定看護師が貢献した。
- ・認定看護師、専門看護師、ケアチームお活動により診療報酬算定も診療単価の増加につながった。

顧客の視点

- ・感染拡大のため面会禁止の期間が長期に及び患者家族の不安が増大した。特に終末期の面会 やコロナ病棟での看取りなどについてはガイドラインや院内ルールを元にしながら患者家族 の意思決定支えるなど出来る限りの対応を行った
- ・レベルⅢ b 以上のアクシデントが散見されたため、転倒ワーキングでの活動を再開。新たに整形外科、血液内科の医師を加え要因分析、現場調査、履き物調査などを行い対応マニュアルの見直しを行った。

- ・インフルエンザ、MRSAのアウトブレイクに加えCOVID-19の感染症拡大に対して感染管理室との連携を強化し感染防止に努めた。また感染管理認定看護師が院内外の対応に尽力した。
- ・カンファレンスや事例検討を通じて認知症高齢者への対応の周知が図れた。今後も継続していく。
- ・患者サポートの活動より看護部に関連する患者からの意見を共有しシステムの見直しや接遇 の改善に努めた。

業務プロセスの視点

- ・アウトカム志向クリニカルパス作成・運用をすすめた。
- ・派遣看護助手の業務内容の見直しを行い、ベッドメイク以外に看護補助者の補助的業務を担ってもらうことを目的に仕様書を変更。フロア配置とした。
- ・ワークライフバランスを考え、妊娠した時点から復職への流れをつかみ休職中であても職場 とのつながりを持つことを目的にパンフレットを作成。2名のスタッフに配賦した。
- ・育児短時間取得者の90%以上が夜勤業務に入る事が出来るよう家庭内の調整に取り組んでくれた。

学習と成長の視点

- ・集合教育についてはコロナ感染防止の観点において実施方法の検討を重ねながら予定通り(新 人ローテーション研修は一部終始)開催する事が出来た。
- ・学会・研修会はコロナ感染拡大のためほぼ中止となった。
- ・改訂ラダーの手引きを作成した。レベルⅣ、管理者ラダー I II のバッチを作成。認定者のモ チベーションアップを目指している。
- ・大阪赤十字病院と合同で師長係長のリフレクション研修を行った。

【看護部院内看護研究発表会】

氏名(代表者)	テーマ
下井 優華	『ゼメックス止血システムとめ太くん』使用例における PCI 後の圧迫時
	間と水泡形成・出血の関連性について
大坂 昇子	病棟看護師の心不全指導に対する意識調査
勝部 絵里	肺癌術後患者のビノレルビン投与による静脈炎の実態
福谷 健也	新人看護師が起こすインシデントと効果的なフォロー方法の検討
中山つかさ	臍帯血移植後患者の再入院回数、再入院の理由 LTFU 外来の関連性
濱田 恵	他領域での看護師経験のない中堅看護師が血液疾患看護を通じて感じる
	感情
高田 佳織	当院における看護職者の離職意志に合わせた看護師長の就業継続支援の
	検討
諏訪亜希子	当院における抗がん剤を取り扱う看護師の暴露対策の実態

3病棟:有持 由江

財務の視点では、病床稼働率年間平均は85.0%、平均在院日数は15.4日となり、COVID-19の影響もあった。心不全患者などの薬剤調整や転院調整等で時間を要し、スムーズな退院促進に課題があった。またCOVID-19の影響にて病床の効果的な運用を行うことで、他科の受け入れも積極的に行った。一時期病棟を休棟して対応する時期もあったが他病棟に異動しても循環器科の患者を専門的にケアする事が出来た。高齢者患者の急増に伴い、フィジカルアセスメントと在宅を見据えた情報収集力、多職種連携の強化は今後の課題である。他科の入院における疾患においては学習会をもち、専門知識の向上をはかり看護の質の向上へつなげていきたい。

顧客の視点では、インシデント発生時は、必ずチームもしくは病棟でカンファレンスを実施し、対策にのみ走るのではなく、スタッフ全員で原因を考察、共有しチーム内での意識を高め、再発防止に努めた。今後はインシデント発生前に転倒など予測した看護を行い、安全面や確認行動など徹底していきたい。

業務の視点では、心臓リハビリテーション専任看護師を1名常駐し、患者に丁寧かつ分かりやすい指導を実践している。繁忙期には病棟看護師も協力しながら、患者の指導を行い、病棟全員で指導を行っていくことが課題である。また慢性心不全看護認定看護師と病棟看護師で連携し病棟と外来のつながりを強化して患者のサポートに努めていきたい。

学習の視点では、キャリア開発ラダーレベル I(取得 4 人)、レベル II(申請中 1 人)ともに評価会を開催することができた。循環器学会や心臓リハビリテーション学会など積極的に参加している。また心不全療養士 2 名も合格し、病棟の中心的役割を果たしている。係長が大阪府看護協会主催認定看護管理者教育課程ファースト研修も受講した。院内、院外ともに積極的に自己研鑽している。今後得た知識を現場で活かし、看護実践を積み、その中でやりがいと楽しさを実感でき、お互いに高め合う病棟を目指していきたい。

HCU:松浦 昭子

本年は「救急外来との一元化」「COVID 陽性重症患者受け入れ」の対応を行い、HCU にとって大きな転機の年となった。

「COVID 陽性重症患者受け入れ」は大阪府内が重症者病床の確保に対し逼迫している中、一人でも多くの重症患者の命を救う役割を担った。しかしながら、陽性患者対応中は HCU 病床の使用が6床から2床になった為、病床稼働率は66.8%まで低下する結果となった。

2020年11月「救急外来との一元化」が開始となった。この事で、HCUは「HCU」「アンギオ」「救急外来」の3部門を担う部署となった。3部門を従事できる為の教育体制の見直しを行い、計画的に3部門の業務の習得ができる教育プログラムへ修正していく。

学習に対する取り組みについては、部署内勉強会の参加率は常に 60%以上で、キャリア開発ラダーレベルⅢ取得 2 名、レベルⅡ取得 1 名であった。

HCU が担う部門の増加により、各部門の配置人数が減少している事でスタッフ 1 人当たりの業務量や負担が増加している傾向にある。退職や異動者が複数いる中、今後、業務改善を行い、働きやすい環境の整備と、安全の確保に繋げていく事が課題である。

5 病棟:川崎 知子

財務の視点

コロナ禍で全病棟入院停止や、病室利用制限の時期もあったが、病床確保としてリカバリーを

活用し運用した。一時循環器病棟の休棟により循環器科の患者を受け入れる事があったが異動したスタッフとの連携によって安全に対応する事が出来た。10時退院や3日前退院指示等は医師・看護師共に意識付けが進み、医師から病床状況や退院指示の調整可否について意見交換の機会が増えた。

介護支援連携指導料は関係者の訪問が行えず件数減であったが、退院調整カンファレンスを活用した加算獲得、RN 活動による DM 注射指導加算につなげている。

看護必要度評価不足の徹底や認知症ケア加算が漏れがちになる等、記録や監査の不備を改善していくことが課題である。

顧客の視点

感染防止のための環境清掃を強化し耐性菌のアウトブレイク発生はない。手指消毒の意識は高まったが使用量増加は課題。意識付けの声掛けは定期的に必要で防護具の適正使用を徹底したい。日々の環境整備は定着したが挨拶カードの使用は不十分であり、担当看護師の明確と責任の自覚を安全・安心な療養環境作りにつなげることが課題である。

認知症高齢者の事例カンファレンス実施、術前術後の譫妄対応について理解を深め日々のケア に繋げることができた。

業務プロセスの視点

看護助手の看護ケア参入計画は中断したが、後半に看護周辺業務参入として日勤助手によるクラーク業務を開始した。看護師の業務中断軽減に役立っている。ストマやリンパ浮腫等の指導用紙・ワードパレットの改訂により指導や記録の標準化を進め継続ケアに繋げた。年度末までにアウトカム志向型パスとして泌尿器パスを4件申請した。患者パス用紙のOP前後オリエンテーション活用は次年度に進めたい。

9病棟におけるコロナ対応として 1/29-2/7(10 日間) 3病棟との合同病棟として運営した。

学習と成長の視点

コロナ禍での学会・内外研修が中止となり希望者の参加はできなかった。病棟内学習会は、1年目対象の会を 2.3 年目がサポートを受けつつ開催することで専門職業人としての成長に繋がった。1月からはペア制を業務に取り入れ実践の中での指導・相談の場となっている。

実践者ラダー取得はレベルIが1名にとどまった、倫理カンファレンスの開催も課題である。

6病棟:門脇 寛子

新型コロナウイルスの感染拡大で9病棟が陽性者の受け入れにあたり、呼吸器内科の患者を受け入れる事が多くなった。慣れていないこともあり9病棟からの引き継ぎやマニュアルの見直しや今戸慢性疾患専門看護師に指導をもらいながら専門性を高めていった。当初、呼吸器内科の担当は呼吸器外科チームとしていたが、消化器内科と呼吸器内科は患者数が多く業務量や看護師の能力も踏まえ、両チームで対応するように体制を変更した。

結果として 6 病棟の病床稼働率 84.9%、回転率 2.5 と全病棟で稼働率が一番高かった。特に陽性解除後の患者を受け入れた。陽性解除後の患者は呼吸状態が悪化しやすいという特徴があり、個室やリカバリーのベッドをうまく活用し調整を行った。年間を通じて 6 病棟看護師は陽性者や濃厚接触者になるものもおらず、各自の健康管理が出来ていた。

インシデントは転倒・転落は70件(昨年度57件)レベル3b4件であった。特に高齢者や認知症の方はコロナ禍で、面会禁止の為家族と会えない厳しい環境となったことも転倒件数が多かったと一因と考える。高齢者は入院という環境変化に馴染めないため、家族にも協力してもらい、電話をして声を聴いてもらったり、時計やカレンダーなど環境調整を行った。着替えだけでなく、

写真や手紙等持参してもらい見える場所へ置くなど工夫をした。看護師は転倒のテンプレートを 作成し入院時からカンファレンスをして環境調整を行った。

学習に関しては、赤十字キャリア開発ラダー認定レベル I は 1 名、レベル II は 2 名取得することができた。肝炎コーディネーター 1 名取得した。

7病棟:南波 広美

令和2年度の移植件数は16件(臍帯血移植10件、末梢幹細胞移植1件、骨髄移植1件、自家移植4件)、骨髄バンクドナー受け入れ6件であった。クリーンルーム12床(個室クリーンルーム4床、総室クリーンルーム8床)の稼働率は83.5%であった。移植治療、化学療法を受ける高齢者が増加傾向にあり、造血機能回復に時間を要すためかクリーンルーム算定越えがある。入院時から転倒リスクに備え、早期にリハビリ介入しADL維持できるよう多職種で支援することが課題となる。移植後長期フォローアップ外来(LTFU)を担当する看護師は2名で、移植後患者指導管理料算定件数は273件であった。今後、LTFU看護師を増員させることで移植看護の質を高めることができる環境作りを課題とし、看護師のやりがい感に繋げたい。

入院時に、新型コロナスクリーニング検査を行い陰性確認していたが、陽性者3名発生した。いずれも同室患者であり痰吸引など曝露リスクのある看護援助が行われていたため看護師全員 PCR 検査を行ったが陽性者はいなかった。その後も、感染予防に努め病棟内で発生することはなく経過した。

アクシデント3 b 事例が1 件あり、療養環境を含め患者行動を予測する思考が必要とされた。 病棟全体で振り返り、看護師の気付きから患者の変化に対応するための情報共有に取り組んだ。

キャリア開発ラダー I を 2 名、 II を 2 名申請し認定された。赤十字近畿ブロック中堅職員研修 l 名が受講した。

8病棟:高田 佳織

令和2年3月で産科が休診となり、5月にCOVID-19 疑似症病棟となった。その後、7月の病床再々編成により整形外科、形成外科、婦人科、小児科の混合病棟となった。年間病床稼働率は、80.4%微増した。次年度は看護部目標の85%以上を目指す。平均在院日数は、13.0日であった。退院調整が難航した事例もあり、DPCⅢ期を超えた患者が4割程度であった。入院時から退院調整に着手し、他職種と連携しながらスムーズな退院調整が必要である。整形外科では、ほとんどパスが適応されていないため、既存のパスの修正や新規作成によりパスを活用し、効果的な病床運営と共にDPCⅢ期での退院を3割以内、平均在院日数短縮を目指したい。

医療安全に関しては、高齢者で認知症の患者も多く、整形外科術後に転倒し、レベル3b、3aの事例が数件あった。入院早期からせん妄予防や転倒・転落防止のカンファレンスを実施し、事例によっては他職種で実施し、次年度はレベル3b事例を0件にしたい。感染対策に関しては11月に入院患者でCOVID-19が1名発生した。入院時にPCR検査をスクリーングするようになったが、継続してCOVID-19の感染対策を徹底する必要がある。また、高齢者の入院が多くMRSA等、耐性菌を持ち込みで入院する患者も時々あり標準予防策の徹底をしていきたい。

産科休診に伴い、助産師が5名退職するなど離職率は10%を超えた。働きやすい職場環境の整備が急務である。互いに認め合い、意見が言いやすい職場の雰囲気作り、看護補助者と協働し、時間外削減に向けての業務整備、また、ケアカンファレンスやリフレクションを積極的に実施して看護の言語化、意味づけを行い、看護のやりがいにつなげ離職防止を図っていきたい。さらに

令和2年度はラダー申請ができなかったので、次年度は申請するとともに、コロナ禍ではあるが、 リモート研修等、受講しながら赤十字看護師の登録が数名できるようにしていきたい。

9病棟:依藤 里香

<財務の視点>

COVID-19 の流行拡大により 2020 年 4 月より 9 病棟は、COVID-19 受け入れ病棟となり軽症中等症の患者を受け入れた。2021 年 7 月末までに 306 名の患者を受け入れ、重症化し人工呼吸器管理が必要な患者 32 名に気管挿管を行い重症病院に搬送を行った。

<顧客の視点>

COVID-19 患者を受け入れるにあたり、感染対策が行えているかの指標に個人手指消毒剤使用量を見える化した。昨年度に比べると、使用量は確実に増加しており感染対策に対する意識が高まったと言える。職員の COVID-19 感染も起こらなかった。インシデントについてはレベル3 bが2件あり、2件とも転倒によるものであった。そのうち1件は、せん妄による転倒であり、せん妄スクリーニングをチェックするだけではなく要因に合った対策を行うことの重要性を病棟全体で共有した。また、第2波では高齢患者が多く、認知症認定看護師や臨床心理士のサポートを受けながら、患者個々に合った環境や関わりを学び日々カンファレンスを行い継続した看護が行えた。COVID-19にて亡くなった患者は12名。当初は感染対策上、家族が看取りに立ち会えず患者・家族だけでなく看護師もストレスを抱えたが、ガイドライン更新にて当病棟でも立ち合いを行えるよう変更し通常に近い看取りを行えることになった。

<業務の視点>

COVID-19 患者を受け入れるにあたり、感染管理認定看護師のアドバイスを元にゾーニングを行い環境を整ええることができた。また、入院受け入れや清掃、COVID-19 患者用の気管挿管手順など様々なマニュアルを作成し統一した業務が行えた。COVID-19 のガイドラインが更新される毎に業務変更を行い、看取り期の患者の面会や看取り時の立会いができるように手順を整えた。

<学習の視点>

COVID-19 についての学習会や防護具を確実に着脱できるトレーニングを繰り返し行った。また、救急認定看護師にて循環動態や呼吸器についてのアセスメント方法についてミニレクチャーを行ってもらい学びを深めることができた。

緩和ケア病棟: 秋山 由衣

財務の視点

今年度、コロナ窩の中、在宅や、一般病棟からの緊急入院を積極的に受け入れし、(入院内訳: 他施設から 66%当施設 34%)入院在院日数の短縮化に繋がった。入院 30 日以上患者を対象に、毎週金曜日に緩和ケア医と師長で、患者ラウンドを行いながら、今後の療養先や病状を含めた話し合いを意図的に行うことが出来た。

顧客の視点

褥瘡発生予防のためのマットレスの選択は、スタッフ間で話し合いを行い、予防ケアに努めることが出来た。STAS-Jを活用し、入院患者の全人的評価を行っているが、1度評価したままの状態となっており効果的な活用や評価に至っていなかった。次年度の課題として、質評価のためのツールを有効に活用し、記録の短縮化がおこなえるような取り組みを実践していきたい。

業務の視点

今年度の取り組みとしては、緩和サポートチームの看護師との連携を密に行い、緩和ケア病棟へ転棟となった際に、統一したフォーマットを使用して記録の統一化を行うことで、業務の短縮化に繋げることが出来た。また、外来患者の入院支援も積極的に行うことでアナムネ聴取時間の短縮が行えた。今年度はコロナによる影響で、面会制限の中でのボランティア活動であったため、季節毎のイベントは中止となった。緩和ケア病棟の面会方法の検討を緩和ケア医、認定看護師も含めて話し合いをおこない、看護師の業務負担を改善しながら、家族の時間を大切に過ごせる方法を模索しながら考えることが出来た。次年度の課題として、朝のミーティングの多職種カンファレンスの効果的な情報共有の場を作れるよう取り組みたい。

学習の視点

院内研修の参加は、30%と少なかったが、緩和ケアに関連した研修受講や、学会の web 参加 1 名おこなった。病棟内では、ポジショニングや、エンゼルメイクアカデミー受講者が研修を開催した。今年度スタッフの半数が入れ替わったため、症状マネジメントの基礎知識に関する勉強会を開催し、緩和ケアの症状マネジメント能力の強化への取り組みをおこなった。デスカンファレンスの場では、出来なかったことだけに焦点を当てるのではなく、出来たことも振り返るようにした。CN・CNS も同席し、助言を得ながら進めることが出来た。デスカンファレンスの中には、倫理的な問題も含めたものも存在したため、その対立を整理するために CN にも参加していただき、助言を得ることが出来た。

手術室・中央材料室:福谷 裕美

財務の視点

- ・予定手術・緊急手術の受け入れの強化、診療科や麻酔科との連携を行い、対応できる手術件数の増加を取り組んだ。しかし、新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、手術件数は 1,939件(2019年度 2,199件)と減少した。診療報酬点数(手術点数)も約500万点減となった。
- ・手術室で取得できる加算(褥瘡ハイリスク加算)については学習会を持ち、認定看護師や医事 課担当者と連携し申請漏れがない取り組みを行った。

顧客の視点

- ・医療安全・感染管理研修会開催時には参加を促した。全員が2回以上参加することができた。
- ・認知症高齢者の理解とアセスメント力を高めるために、病棟看護師との連携、認定看護師を含めたカンファレンスの実施を計画していたが、情報共有に留まった。今後は術前・術後訪問を活用し、実践につなげていく必要がある。

業務プロセスの視点

- ・手術室担当 ME が撤退したため、引き継ぎ・業務分担を関係部署で検討しスムーズに移行できた。
- ・手術業務手順の見直しを必要性の高いものから実施できた。今後も業務の見直しや医師の変更 等があり、定期的な見直しを行っていく必要がある。

学習と成長の視点

- ・研修会や学会参加の多くが中止となり Web 研修等に変更されたが、そちらへの移行すること は難しかった。院内研修やナーシングスキル動画視聴には参加できており、引き続き教育環境 を整えていく必要がある。
- ・今年度、クリニカルラダー取得者はいなかったが、次年度に向けて準備を進めていく。

・赤十字看護師登録(1名)は準備できていたが、次年度に持ち越しとなった。未登録者は3名(内2名は登録要件には満たさず)だが、登録を計画的に行っていく。

外来:奥田 唱子・原田 香織

外来では慢性疾患看護専門看護師、認知症看護認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、が ん放射線治療法看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、また、禁煙認定指導者、糖尿病療 養指導士が勤務しそれぞれに専門性を発揮し活動している。

看護専門外来は、看護師主体の外来でその療育で認定されている看護師が医師の指示のもとで、 患者の自己管理能力の向上や、家族を含めた患者のQOLの支援に努めている。

看護専門外来での療養指導料の算定などは病院経営に貢献している。

外来における診療報酬算定件数

· 禁煙外来: 初回 10 件 2-4 回 20 件 5 回目 6 件

・糖尿病合併管理:67件

· 糖尿病透析予防指導管理: 49 件 · 在宅自己腹膜還流指導管理: 137 件

・在宅療養指導:950件

・移植後患者指導管理:286件

·在宅自己注射指導管理 1:61件

・在宅自己注射指導管理(月27回以下)2-イ:1211件

・在宅自己注射指導管理(月28回以上)2-ロ:2491件

・がん患者指導管理イ:48件・がん患者指導管理口:181件

看護記録監查委員会:松浦 昭子

本年は、「アウトカム志向型パスを導入に伴う記録の簡素化に向けた取り組み」と、「看護記録の質の向上に向けた取り組み」を行った。

「アウトカム志向型パスを導入に伴う記録の簡素化に向けた取り組み」に対しては、まず「クリニカルパス適応患者の看護記録」について看護記録記載手順を作成した。クリニカルパス推進リンクナース会と協力し、アウトカム評価の周知を行った。アウトカム志向型パスは日々のアウトカム評価を行なう事で、看護計画やSOAP記録、看護サマリーを不要となり、記録に費やす時間の短縮につながった。

「看護記録の質の向上に向けた取り組み」に対しては、「看護過程監査表」を基に看護記録の評価を行なった。その結果、看護ケアプランが「看護処置指示」に記載され、看護計画のプランに立案されていない事が浮き彫りになった。従って、看護計画に立案された看護ケアプランが日々の看護行動を表示する「看護処置指示」に反映できる方法を検討し、ケアを提供した結果及び評価が看護記録に記載できるよう、「看護過程に沿った看護記録」の充実に取り組んだ。また、「看護過程監査表」の評価の結果、「形式監査と質監査」が混在した監査表であり、監査する人によって評価の指標が異なり監査の意義をみたされていないのではないかと問題視した。次年度の課題とし、看護記録の質の向上に繋げていく。

看護継続教育委員会:秋山 由衣

昨年度から、集合研修の参加率が低いこともあり、時短や育短の看護師も参加出来るように、受講者が研修に参加しやすいよう90分間から60分間の研修に短縮したが、参加率は伸び悩んだ。コロナ窩の影響を受け、集合研修への抵抗感なども要因になったかもしれない。看護師の離職率も15%を高く、日々の業務に追われ、時間外研修になかなか気持ちが向いていない現状もある。次年度の課題としては、ナーシングスキルの活用と、院内オンデマンドを活用した研修スタイルも組み立てることで、自分の好きな時間に研修を受けることの出来る仕組み作りを検討したい。地域包括ケアシステムの推進のための研修会を今年度実施したが、病床編成も伴い、より一層退院調整支援が必要となってきているため、来年度は、退院調整の基礎知識に関する研修もおこないたい。看護補助業務研修は全員参加することができた。今年度、リフレクション研修を外部講師に依頼し、ZOOMを活用した研修に師長・係長のほとんどが参加することができた。高齢者看護の強化における研修として、認知症出前出張研修をおこなった。良かった事例を振り返り、出来たことを承認する場となるよう企画・運営をおこなった。

今年度は、ラダー改訂期で、旧ラダーで実践者ラダーレベルⅡを取得する卒後2年目を対象に各部署の進捗状況の情報共有をおこなうことができた。取得は全員ではないが進めることができた。

新入職看護職員支援委員会:有持 由江

新入職看護職員(新入職者)を支援する体制を強化する実行力を考えて行動してきた。新入職者の"居場所づくり"にちからを注ぐため、日々の新人看護師とのコミュニケーションをはかり、新人を支える実地指導者とともに委員中心にサポートした。

各看護単位の新入職者の状況を常に把握し、委員会で共有し、話し合いを重ね、解決策を見出すようにし、研修や研修後の現場での関りに役立てることができた。そして研修での学びを委員が中心に病棟内に情報提供を行い、OJT と OFF-JT がつながるしくみをつくる努力を常に行ってきた。

委員会で研修企画・報告、新人看護師の様子の情報共有に時間を要することが多く、研修準備が時間外になることが多くあった。そのため、院内メールを活用し委員内で研修企画や研修評価を共有し、30分は報告時間や新人看護師の情報共有、30分は研修企画・準備に委員会の運営の方法を変更した。時間外の研修準備は減り、負担は軽減したと考える。

今年度の委員会は1例、新入職者を支援するための教育内容・方法など、最新の知見を共有することができた。その内容は新人研修において役立てることができたと委員からも発言がみられた。

『2020 年度新人看護職員教育計画』を実行し、研修準備は昨年度の研修企画を土台に、新人の傾向を踏まえ、企画を行った。COVID-19 の影響もあり、集合して研修企画に時間をかけることないように工夫し、研修準備の時間を決め、限られた時間で集中して企画していくこと、時間外拡大がないように準備にあたった。また演習室の効果的な運用を行い、新人研修において病棟現場に近い状況づくりを行うことで、研修と現場が乖離しないような工夫を行った。

研修終了直後に研修の振り返りを行い、研修評価も研修に参加していなくても、写真やグラフを挿入することで、わかりやすく伝わる研修評価を意識し作成にあたった。

キャリア開発ラダーレベル I の取得に向けて 2 月頃より呼びかけ、取得を 2 年目入ってすぐに ナラティブ作成し、委員より働きかけ、2 年目秋までには取得を目指している。

看護研究委員会: 髙田 佳織

看護研究発表を目指し、シリーズ研修は個別の受講を予定していたが、COVID-19の感染対策のため、オンラインでの1組15分程度の個別研修となった。計5回実施したが、最初は初めてのオンライン研修で緊張した受講生もいたが、外部講師と対面であってもリラックスして受講できたという意見があった。3月18日には看護研究発表会を開催した。シリーズ研修受講生計7組(10人)とがん化学療法看護CNの実践報告も含め計8組発表した。発表会は委員を含む約70名の参加があり、看護の意味ややりがいを考える発表となった。

看護職者の看護研究に関する知識・技術の習得・向上を図ることを目標に挙げていたがコロナ禍で学会・研修が中止となり、委員が部署や委員会で知識を還元することはほとんどできなかった。ナーシングスキルの看護研究に関する動画があり、委員も聴講して委員会で意見・感想を共有し、各部署で1つでも聴講するよう情報発信した。アクセス数は講義①79件、講義②33件、講義③9件、講義⑤14件、講義⑥13件で計153件であった。

また、看護研究につながる動機付けの一歩として、委員が日々の業務に関するデータの可視化、 実践の可視化を試みることになり、数カ所の部署は実践しデータ化した。日々の看護や業務に問題意識を持ち、可視化して看護の質の確保や業務改善につながり、引いては看護研究に少しでも 興味・関心を寄せることができるよう次年度も取り組んでいきたい。

臨地実習指導委員会:石黒 早苗

本年度は、コロナ禍の影響で臨地実習が7月で中止となり、計画通りの活動には至らなかった。しかしそのような中、臨地実習指導委員会として初めてとなるリモート講義を行う機会があり、事例の講義を通じて学生たちに役割モデルを示す事が出来たのではないかと思う。委員会活動では、実習同意書を作成し運用を開始した。また、オリエンテーションファイルを作成し、多忙な中でも統一したオリエンテーションを実施し、実習時間の有効活用に繋がった。学習面では、実習指導者に必要な基礎知識(「コブラにならない指導方法」)を各病棟の臨地実習の核となるメンバーを対象に出前研修で伝達。今時の学生を肯定的に捉え、指導者自身が積極的に学生に係る必要性を実感し、行動変容に繋がったとの声が聞かれた。

看護業務改善委員会:門脇 寛子

今年度から看護業務改善委員会が発足された。

業務手順の全般的な見直しを行った。現状に則したものであるのか業務手順の項目を4つのグループに分けて、ナーシングスキル(看護技術)に移行できる項目や現状の看護業務に則している項目の仕分けを行った。

ナーシングスキルの活用の啓蒙を行った。認知度を上げるため委員会から発信を行なう。

インターネット使用については、課題やチェックリストの使用を具体的に提案する。

「ナーシングスキル」の活用については各部署の周知したい項目を委員会メンバーが項目を提示した。インターネットを使用して、2020. 8月~2021.2月啓蒙し、看護手順、チェックリスト、映像、テストを課題として看護師長も含めて看護師全員を対象とした。アクセス件数 9329件(昨年:5947件)と昨年より使用率が上がった。(2020. 4~2021.2)ナーシングスキルの利用について管理者が閲覧できるように見方も師長会で周知できた。

医療社会事業部

社 会 課

「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります」という日本赤十字社の Mission statement のもと日々業務をおこなっており、赤十字運動の担い手として、人道の実現のために利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動しています。

<令和2年度スタッフ>

濵田 健司 (社会課長)

綱嶋 準 (社会係長) R2.9.30 まで

山崎 雅樹 (地域医療連携係長兼社会係長) R2.10.1 から

■令和2年度実績 (令和3年3月31日現在)

令和2年度日本赤十字社大阪府支部救護員(救護班要員)

救護班要員 44 名 医師 5 名、看護師長 5 名、看護師 10 名、助産師 2 名、 こころのケア 5 名、薬剤師 5 名、主事 10 名、補助 2 名

		a : 2100 14111 - a :				
	第1班	第2班	第3班	第4班	第5班	
医 師	岡本 文雄	平野 玄起	吉見 宏平	阪上 正英	小林 稔弘	
看護師長	南波 広美	橋本 龍	有持 由江	福場久美子	依藤 里香	
老 # 6	辻 ちひろ	仲砂 千代	関岡 薫	田中 智美	那須 まき	
看護師	里村 裕史	的場 加奈	勝部 絵里	金岡 裕美	永田 奈月	
- -	吉田 桂	松山 佳央	西村 大樹	今井翔太郎	阪本 達矢	
主事	中尾 功一	松宮 源朗	河野 博文	松井 里佳	河田希実子	
薬剤師	小西 史子	濵武 清範	宮西 將之	奥村 優介	松本 弘誠	
補助	瀬田 健司・山﨑 雅樹					
こころのケア要員	阿部 哲	「子・高田 佳織	・川﨑 知子・	門脇 寛子・谷	森 涼子	
助産師			原田 香織			

◆ 日赤災害医療コーディネーター 岡本 文雄、平野 玄起

> 日赤災害医療コーディネートスタッフ 濵田 健司、橋本 龍

◆ 国際活動 国際救援・開発協力要員の登録状況 原田 香織

◆ こころのケア指導者

阿部 哲子、髙田 佳織、川崎 知子、門脇 寛子、谷森 涼子

◆ 赤十字救急法指導員

高田 佳織、石黒 早苗、仲 砂千代、前田 敦子、南波 広美、村上美穂子、平田 俊介、 山﨑 孝子、和田 香織、吉川 三保、松岡 郷子、田渕 美世、濵田 健司、亀岡さつき、 谷森 涼子、友安 直美、有持 由江

◆ 健康生活支援講習指導員(年報には載せない) 工藤ゆかり、仲 砂千代、濱田 恵、末廣 悦子、橋本 龍

◆ 幼児安全法指導員(年報には載せない) 濱田 恵、亀岡さつき、濵田 健司

◆ 第2級陸上特殊無線技師

迫田 博史、篠田 隆史、佐橋 克哉、阪本 達矢、西村 大樹、山﨑 孝子、吉田 桂、河野 博文、濵田 健司、綱嶋 準

◆ 災害救護用トラック運転手22名 (年報にはのせない)

數 敏雄、片岡 幹夫、濵田 健司、篠田 隆史、山﨑 雅樹、中村 義隆、山﨑 孝子、吉田 桂、萩原 大介、迫田 博史、河野 博文、佐橋 克哉、大川 健、松山 佳央、富田 直樹、綱嶋 準、松宮 源朗、中尾 功一、仁志出裕介、松浦 裕司、平田 俊介、入江 琢士、岩見 知樹

●令和2年度災害等救護員派遣

月日	災害名 / 派遣場所	派遣者					人数
4月18・19日	新型コロナウイルス感染症対応にかかる軽症者収	医		師	野溝	岳	
	容施設への救護員派遣/スーパーホテル大阪天然	看	護	師	吉村	弥生	
	温泉	薬	剤	師	松本	弘誠	5
4月19日		医		師	後藤	健一	
4月20・21日		医		師	阪上	正英	
4月22・23日	新型コロナウイルス感染症対応にかかる軽症者収	医		師	澤井	俊幸	
4月23・24日	容施設への救護員派遣 / 大阪アカデミア	医		師	大中	玄彦	3
4月24・25日		医		師	片山	博視	
7月9日	7月豪雨災害 (避難所アセスメント)/阿武野コミ	主		事	濵田	健司	
	ュニティーセンター、磐手公民館、樫田支所、第	主		事	綱嶋	準	3
	九中学校 (各高槻市)、見山公民館、清渓小学校、	主		事	迫田	博史	3
	忍頂寺小学校、彩都西小学校(各茨木市)						

●令和2年度災害対策訓練研修会等

【救護員研修会】

月日	研修会名	参加者	人数
6月18日	令和 2 年度第 2 回日本赤十字社大阪府支部救護員 指導者協議会	救 急 部 長	4
		社会課長 濵田 健司 社会係長 綱嶋 準	
8月20日	大阪国際空港緊急計画連絡協議会第1回訓練担当 者会議(Web 会議)	社 会 課 長 演田 健司 社 会 係 長 綱嶋 準	2
9月8日	令和 2 年度第 3 回日本赤十字社大阪府支部救護員 指導者協議会(Web 会議)	救急部長 岡本 文雄 薬剤部長 小島 一晃 看護副部長 髙橋 晶子 社会課長 濵田 健司 社会係長 綱嶋	5
10月15日	第2回訓練担当者会議及び大阪国際空港航空機事 故医療医救護活動部分訓練	社会課長 濵田 健司	1
12月9日	第 26 回日本赤十字社第 4 ブロック合同災害救護訓練にかかる第 1 回第 4 ブロック救護員指導者協議会	社会課長 濵田 健司 医 師 阪上 正英	2
2月16日	第 26 回日本赤十字社第 4 ブロック合同災害救護訓練にかかる第 2 回第 4 ブロック救護員指導者協議会	救急部長 岡本 文雄 薬剤部長 小島 一晃 看護副部長 髙橋 晶子 社会課長 濱田 健司	4

【災害救護訓練】

月 日	訓練名	派遣先	参加者	人数
6月20日	日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練	奈良県田原元町	(COVID-19 感染対策のため中止)	
9月12日	第 15 回高槻市医師会災害医療救護訓練	市内小学校	(COVID-19 感染対策のため中止)	
9月29日	院内消防訓練	高槻赤十字病院	新入職員対象	25
10月1日	大阪赤十字病院院内災害訓練(環瀬戸内連携訓練)	院内対応	社会課長 濵田健司	1
10月20日	令和2年度第1回三島医療圏大規模災害時医療 連携強化研修会(オンライン研修)	院内対応	医事係長 篠田隆史	1
11月27日	院内災害訓練	高槻赤十字病院	職員	多数
3月11日	院内災害訓練(机上)	高槻赤十字病院	自衛消防組織本部要員	15

赤十字救急法指導員(職員)研修会(大阪府支部にて開催)

月日	研修会名	参加者	人数
7月18日	令和 2 年度赤十字救急法指導員指導伝達研修	看 護 師 松岡 郷子	1

●令和2年度赤十字救急法救急員基礎養成講習会(高槻赤十字病院開催)※☆は指導員リーダー

月日	受講生

赤十字救急法救急員指導員派遣(支部にて開催)※養成1→養成1日目、養成2→養成2日目

月日	参加者

幼児安全法講習指導員派遣

月日	参加者

健康生活支援講習 講師派遣

月日	参加者

(令和2年度糖尿病教室) 新型コロナウィルス感染防止対策のため休止

月日	テーマ	講師	参加者
4月14日	糖尿病との付き合い方 糖尿病について 食事療法 1 (ミニ健康講座) 糖尿病と運動	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 糖尿病療養指導士 管理栄養士 理学療法士	
5月12日	糖尿病とくすり 糖尿病の検査について 食事療法 2 (ミニ健康講座) 糖尿病と救急医療	薬剤師 臨床検査技師 管理栄養士 糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長	
6月9日	患者体験談 糖尿病を語ろう 食事療法 3 (ミニ健康講座) 糖尿病と循環器疾患	意見交換会 糖尿病療養指導士 管理栄養士 循環器科医師	
7月14日	糖尿病との付き合い方 糖尿病について 食事療法 1 (ミニ健康講座) 糖尿病と外科手術	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 糖尿病療養指導士 管理栄養士 消化器外科医師	
8月11日	糖尿病とくすり 糖尿病の検査について 食事療法 2 (ミニ健康講座) 糖尿病と運動	薬剤師 臨床検査技師 管理栄養士 理学療法士	
9月8日	患者体験談 糖尿病について 食事療法3 (ミニ健康講座) 糖尿病と呼吸器疾患	意見交換会 糖尿病療養指導士 管理栄養士 呼吸器内科医師	

月日	テーマ	講師	参加者
10月13日	糖尿病との付き合い方	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長	
	糖尿病について	糖尿病療養指導士	
	食事療法 1	管理栄養士	
	(ミニ健康講座)		
	糖尿病と網膜症	眼科医師	
11月10日	糖尿病とくすり	薬剤師	
	糖尿病の検査について	臨床検査技師	
	食事療法 2	管理栄養士	
	(ミニ健康講座)		
	糖尿病と運動	理学療法士	
12月8日	患者意見交換	参加者全員	
	糖尿病について	糖尿病療養指導士	
	食事療法 3	管理栄養士	
	(ミニ健康講座)		
	糖尿病と足病変	皮膚科医師	
1月12日	糖尿病との付き合い方	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部	
	糖尿病について	糖尿病療養指導士	
	食事療法 1	管理栄養士	
	(ミニ健康講座)		
	小児Ⅱ型糖尿病	小児科医師	
2月9日	糖尿病とくすり	薬剤師	
	糖尿病の検査について	検査技師	
	食事療法 2	管理栄養士	
	(ミニ健康講座)		
	糖尿病と運動	理学療法士	
3月9日	患者意見交換	参加者全員	
	糖尿病について	糖尿病療養指導士	
	食事療法 3	管理栄養士	
	(ミニ健康講座)		
	糖尿病について	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長	

医療社会事業部

患者支援センター

玉田 尚 (副院長兼患者支援センター長)

原田かおる (看護副部長兼患者支援副センター長)

福谷 裕美看護師長(看護部付) R3.1.31 迄

西浦 美香看護師長(看護部付) R 3.2.1 から

工藤ゆかり看護師 (看護部付) 退院支援担当 R 3.2.1 から

地域医療連携課

<スタッフ>

渡部 悟 (地域医療連携課長)

(地域医療連携係)

遠藤 美智子(地域医療連携係長)

大迫 明子 (主事)

永阪 彩加 (主事)

宮前 弥生 (嘱託主事)

川崎 清司 (主事)

(地域医療連携推進係)

仁志出 裕介(地域医療連携推進係長) R 2.9.30 迄 山崎 雅樹 (地域医療連携推進係長) R 2.10.1 から

(入退院支援係)

山本 裕恵 (入退院支援係長)

小石原 好江(主事)

五百井 栄実(主事)

河津 絵里 (パート主事)

(入退院支援看護師)

山本 裕恵 看護師 (兼任)

澄川 幸恵 看護師

岩田 佳美 看護師 (看護部付)

末廣 悦子 看護師 (看護部付) R 2.11.9 迄

矢野原 綾香 看護師(看護部付) R 2.11.1 から

松永 富美代 薬剤師係長(薬剤部付) R 2.12.31 迄

<令和2年度活動実績>

(地域医療連携係)

- ・紹介件数の目標を585件/月と決め、令和2年度は年間目標数(7020件)とした結果、7138件と目標を超えた。
- ・新型コロナ感染症の蔓延状況を鑑み、地域の共同利用項目にPCRオープン検査。
- ・断診リストの作成・報告
- ・断診の根絶を目指し、入院依頼及び他病院からの転医時、お断りされた場合、各科部長へ直接 副センター長及び課長が交渉を継続しました。
- ・紹介先への返書作成を徹底する為、毎月返書未作成リストを病院連絡会議へ提出
- ・登録医からの外来受診時は5分以内での応需を徹底
- ・係内ミーティングの定期開催

(地域医療連携推進係)

- ・近隣病院・登録医への年2回の定期訪問(7~8月、11~12月に各40病院、登録医30件訪問) の継続。年末には一部診療科部長の同行訪問営業を実施
- ・消防隊員向け勉強会の実施(年1回)
- ・未登録医への訪問(登録医増加対策)を実施
- ・山手台、日吉台、安岡寺方面への営業強化
- ・タクシー送迎の PR 強化

(入退院支援係)

- ・入退院支援業務の体制強化(患者支援センター新体制構築)
- · 入退院支援看護師 4 名配置
- ・入退院支援看護師の退院カンファレンス参加

(課全体の実施項目)

- · 入退院支援業務体制強化
- 営業強化
- ・大阪府がん診療連携拠点病院の現況報告

◆共同診療は、新型コロナ感染症対策の影響により合計2回となった。(昨年度63回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

令和2年度研修会等開催実績

- ・公開消化器カンファレンス 4回(7/8、9/9、10/14、11/11)
- ・公開呼吸器カンファレンス 4回 (7/21、9/15、10/20、11/19)

<令和2年度活動目標>

I、地域の人々に安全・安心な医療提供のために継続的に地域医療・院内の連携に努める

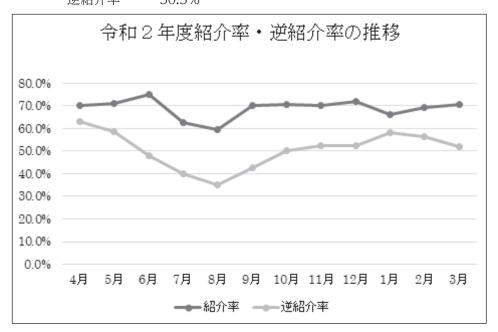
財務に関する	地域医療支援病院の継続	① 紹介率 65%以上・逆紹介率 40%以上
事項		② 地域支援病院に関する研修の実施
	登録医訪問の強化	① 紹介患者の増加
		② 当院の担当医師と共に訪問活動を強化
	がん診療拠点病院の獲得	① 承認事項の実施
		② がん患者・家族に沿って支援強化
	紹介率のアップ	① 未登録医への訪問
		② オープン検査項目の増加
		③ タクシー送迎の PR 強化
		④ 近隣病院・登録医への年2回定期訪問
	がん連携パスの増加	① 大阪府がん診療連携パス(肺・胃・肝・乳
		大腸)の増加
		② がん疼痛緩和ケア地域連携パス運用に関す
		る支援強化
顧客に関する	紹介された患者さんの受	① 予約依頼から5分以内返答の徹底
事項	入態勢の迅速化	
	登録医の期待に応える	① 100%返書を返す
内部プロセス	登録医からの紹介患者を	① 当日緊急依頼については、全て受け入れる
に関する事項	断らない	② オープン検査結果等の返書は 100%返す
		③ 月間紹介件数の目標を立て、紹介状況の打
		握を行う
	地域医療連携業務の強化	① 共同診療件数の前年度比 20%増
		② 開放病床利用率の増加

Ⅱ、個々の専門性を活かした質の高い情報の提供と自己研鑽を行う

戦略に関する	個々の専門性を発揮し医	① 院内院外への研修に積極的参加	
事項	療連携、患者支援の質の	② 患者支援サービスについて内容検討	
	向上を図る	③ 課内の情報共有強化の実施	

Ⅲ、令和2年度の紹介率と逆紹介率

年間 紹介率68.9%逆紹介率50.3%



地域医療連携課 医療福祉相談係

<スタッフ>

志水 陽子(医療福祉相談係長・社会福祉士)

信本 愛(医療社会事業司・社会福祉士)

大島由起子(医療社会事業司・社会福祉士)

中野 慶子(医療社会事業司・社会福祉士)

三好 里沙 (医療社会事業司・社会福祉士)

<特 色>

医療福祉相談係では、ソーシャルワークを担当しており、厚生労働省の業務指針に基づき、①療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助、②退院援助、③社会復帰援助、④受診・受療援助、⑤経済的問題の解決・調整援助、⑥地域活動を行っている。

具体的に MSW が行っている業務を以下に示す。

- * 患者・家族と面接しアセスメント、ニーズの把握をする。
- * 転院・入所先の担当窓口と連絡・調整を行う。
- * 在宅支援関係職種や行政と連絡・調整を行う。
- * 多職種カンファレンスの開催調整 (日時調整、司会進行、記録など)
- * 社会資源の紹介、情報提供を行う。
- * 社会資源活用にあたって、必要文書の作成依頼や処理、管理など
- * 社会資源活用にあたって担当窓口と連絡・調整を行う。
- * 院内各職種と連携(各種カンファレンスへの参加、患者・家族の通訳的役割や院外関係者と 院内関係者との仲介など

また、当院は府指定のがん診療拠点病院に指定されており、がん相談支援センターでの業務も、 医療ソーシャルワーカーが、がん看護専門看護師や緩和ケア認定看護師とともに、がん相談支援 センター相談員を兼務することで継続した。

医療ソーシャルワーカーは5名配置されており、原則、病棟ごとにケースを担当した。入退院 支援看護師や退院調整看護師とともに担当の病棟の退院支援計画カンファレンスに参加し、入退 院支援加算1を算定した。

また、地域との連携や自己研鑽のため、三島圏域リハビリテーション連絡会や、大阪医療ソーシャルワーカー協会、三島圏域ソーシャルワーカー連絡会、全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会等に所属し、研修活動などに参加しているが、2020年1月以降は、新型コロナ感染症の感染予防の対策のため、集合による活動は実施できておらず、書面やオンラインにて参加を継続した。

<令和2年度の活動実績>

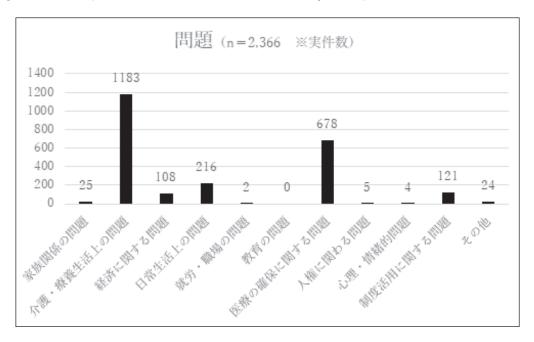
「全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会」の日報・月報様式を使用し、活動実績を集計した。 ◇年度実人数・・・計 1,846 名

◇対応した問題件数(1問題1ケースとしてカウントしたため延べ相談件数となる)

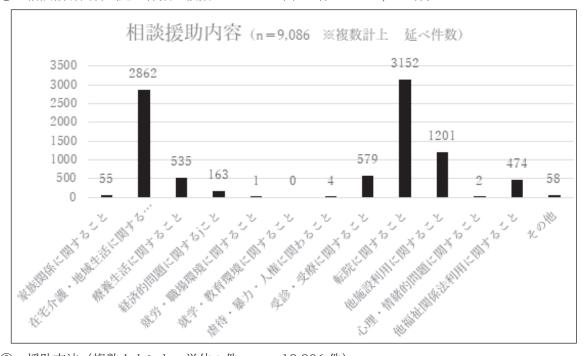
計 8,291 件

以下に、①問題件数、②相談援助内容、③援助方法、④新ケースの紹介経路をグラフに示す。

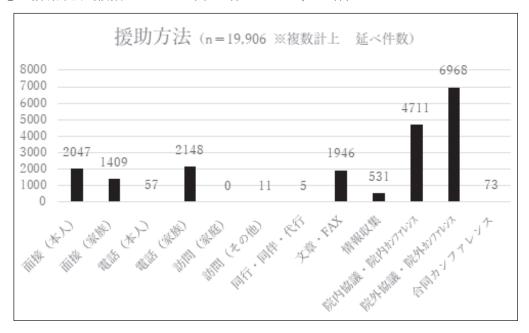
① 問題件数 (実件数として計上 単位:件 n = 2,366件)



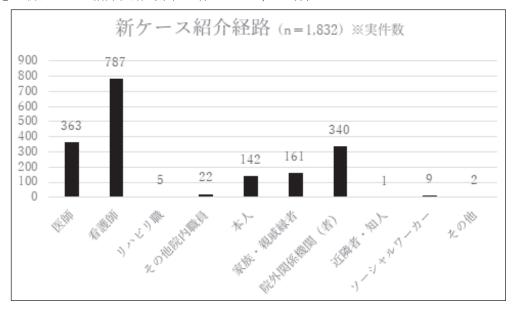
② 相談援助内容(延べ件数・複数カウント 単位:件 n = 9,086件)



③ 援助方法(複数カウント 単位:件 n = 19,906件)



④ 新ケースの紹介経路(単位:件 n = 1.832件)



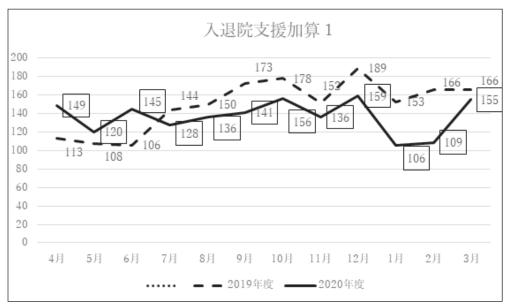
上記件数は、個別ケースとして取り扱った件数である。そのケースに費やされた時間が反映されていないため、数値だけで業務内容をあらわすことは難しい。対応した問題としては、介護・療養生活上の問題が約5割強を占めている。相談援助内容では、転院調整援助と他施設利用援助とで約5割、在宅介護・地域生活に関する相談援助が3割弱を占めており、例年この傾向である。このことは、医療ソーシャルワーカーの業務のうち退院支援にかかる業務の特徴や必然性を示している。援助方法の内訳からみてわかるように、患者本人・家族との直接的な面接や院内外の連絡調整が多くを占めている。合同カンファレンスは、令和2年度はコロナ禍における感染拡大防止対策の一環で、対面によるカンファレンス自体を開催が原則できない時期があり昨年度と比べると減っている(昨年度は111件)。しかしそういった中で必要な場合については十分な感染防止対策の下で73件実施することができ、かかりつけ医や訪問看護師、ケアマネジャーなど地域を支える社会資源と患者家族を橋渡しする場として重要な場であった。家庭訪問や同行ケースの件数は年々減少しているが、これまで医療ソーシャルワーカーが担ってきた役割を、ケアマネジャーをはじめとした院外の関係機関を連携し、引き継ぐことで分担している。必要時においては、家庭訪問や公的機関への同行は継続していく。

個別ケース以外に、ルーチンワークとして介護保険主治医意見書や身体障がい者診断書等、書類の管理や整備なども担当した。医療ソーシャルワーカーが、書類等の相談をきっかけとして患者の生活背景や家族の状況をアセスメントし、ニーズの把握につなげ、新たに問題解決のため調整するという機能は担えるが、社会資源の説明や書類管理に費やす時間も多く占めている。事務作業が他の事務担当者等に移行することによりカンファレンスやアセスメントに費やす時間がより確保できるため、引き続き他部署との役割分担を検討していきたい。

退院調整には院内外の関係者によるチームでのかかわりが不可欠であり、当院の中でも定着してきている。医療ソーシャルワーカーは地域連携の窓口という役割も果たしており、患者・家族と社会資源だけでなく、院内外の関係職種の連携そのものを橋渡ししているといえる。

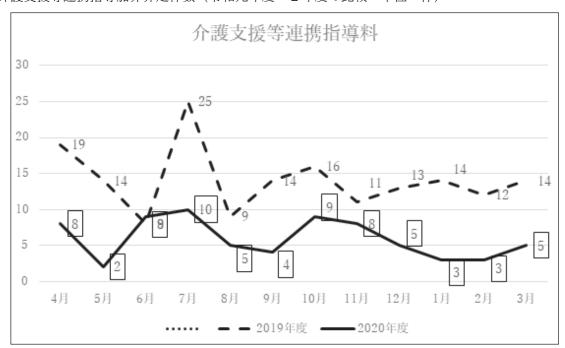
当院は2019年11月より、入退院支援加算1を適用しており、病棟の看護師・退院調整看護師・ 入退院支援看護師・医療ソーシャルワーカーが共同して週2回ずつ各担当病棟にて退院調整計画 カンファレンスを行い、該当患者に退院支援計画書を作成した。 介護支援等連携指導料は、病院を訪問したケアマネジャー等に情報提供を行うことで算定できるが、これについてはコロナ禍における感染拡大防止対策のためケアマネジャーの事業所自体が医療機関への訪問を禁止していたり、当院側としても外部からの訪問を原則禁止とした時期もあり、昨年度に比べると大幅に減少した。





総件数 令和元年度:1,798 件 令和2年度:1,640 件 点数 令和元年度:1,798 件×600 点=1,078,800 点 令和2年度:1,640 件×600 点=984,000 点

介護支援等連携指導加算算定件数 (令和元年度・2年度の比較 単位:件)



総件数 令和元年度:169件 令和2年度:71件 点数 令和元年度:169件×400点=67,600点 令和2年度:71件×400点=28,400点

入退院支援加算1の施設基準として、当院が連携医療機関または介護サービス事業所等の職員と退院支援、地域連携職員が、20か所以上の医療機関・介護事業所と年3回以上の頻度で面会し、転院・退院体制について情報の共有等を行う必要がある。この件についても令和2年度はコロナ禍での外部との対面を自粛せざるを得なかったことや、連携先においても訪問を自粛していたということもあり、前年度より大幅に件数が低下した。

また、当院は平成29年度より認知症ケア加算1の施設基準を取得しており、医療ソーシャルワーカーも2名、専任として認知症ケアサポートチームに所属し、週1回のカンファレンスに参加した。その他、心臓リハビリテーションカンファレンスにもチームの一員として参加した。

上記件数以外にがん相談支援センターの相談業務も兼務で行っているが、それについては「がん相談支援センター」の項目で活動報告を行う。

<令和3年度の活動目標>

新型コロナウイルス感染症感染対策を行いつつ、地域との連携も社会の情勢に鑑みて行っていく。

- 1. 社会資源の整備と開拓
 - 1) 社会資源(転院・入所先も含む)の新規開拓をし、患者・家族の選択肢を拡げる。
 - 2)変化し続ける制度の情報収集に努め、なるべく簡素に可視化し、関係者・患者・家族への 周知に努める。
- 2. 地域や院外関係機関との連携を強化する。地域の会議や活動についてはリモートでの参加も考慮していく。
 - 1) 地域の社会資源(かかりつけ医・ケアマネジャー・訪問看護師・ヘルパーなど)と常に連携をはかり、患者・家族と保健・医療・福祉の橋渡しとしての機能を果たす。リモートでのカンファレンス等についても検討していく。
 - 2) 地域関係機関の活動や会議に出席し、情報収集に努める。
 - 3) 近隣の関係施設や医療機関への訪問を随時行い、連携強化をはかる。
 - 4) その他、地域の活動に参加・協力を行い、連携をはかっていく。
- 3. 院内の連携を強化する
 - 1)院内他部門との連携をよりいっそうはかり、役割分担を明確にしていく。
 - 2) 退院調整看護師・入院支援の看護師と協力・連携し、各病棟における退院調整計画カンファレンスを継続していく。また個別ケースについても情報共有・役割分担を行いながらチームで支援していく。病床管理担当者とも連携していく。
 - 3) 認知症ケアサポートチームの一員として、対象患者のアセスメントや当該病棟へのコンサルテーションを行う。
 - 4) その他、院内の多職種カンファレンスに定期的に参加していく(心リハカンファレンス・ 外科カンファレンス等)
 - 5)地域医療連携係と地域住民の前方支援・後方支援について情報共有・役割分担を行いながら協力・連携に努める。

- 4. 業務の整理を行う
 - 1)記録の整備に努める。
 - 2)業務統計の整備に努める。
- 5. 個人情報保護法に基づいた相談援助活動の方法を検討していく。
 - 1) 院外関係機関との情報交換
 - 2) 記録・書類の管理におけるセキュリティ
- 6. 教育・養成活動
 - 1) 医療ソーシャルワーカー志望の実習生(社会福祉学系大学生)の受け入れ・教育・指導について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況と職員の行動規制等を確認しながら受け入れ体制を整えていく。
 - 2) 医療ソーシャルワーカーの現任研修の一環としての見学実習の受け入れについても同様に 対応する。
- 7. がん相談支援センター業務の一環を担う。
 - 1)緩和ケア病棟入院相談の窓口担当
 - 2) がん相談支援センターの相談業務を協力して担当していく。
- 8. 医療ソーシャルワーカーとしての資質向上・研鑚に努める。 大阪医療ソーシャルワーカー協会などの職能団体に所属し、会員との交流を図り研修等に参加 する。

【医療福祉相談係長 志水陽子】

訪問看護ステーション

<スタッフ>

看護師:原田かおる(管理者)、鈴木かおる、今村利恵、豊田典子、吉野咲絵、亀井由美、三宅光代、 小森万里子 森 彩子

理学療法士:行本鉄平 事務:本間幸美

※人事変更

入職 4月 亀井由美(部分出向) 6月三宅光代 部分出向 2月病院→訪問看護 ST へ異動 退職 11月 小森万里子

<特 色>

高槻赤十字病院は「大阪府がん診療拠点病院」「地域医療支援病院」であり、強いバックアップのもと緩和ケア病棟や緩和サポートチーム等と連携し、エンド・オブ・ライフ・ケアに取り組んでいる。専門看護師、認定看護師等と協働しながら、療養支援に取り組んでいる。

各種指定: [医療保険] 24 時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア加算機能強化型訪問看護管理療養費 3 (R2 年 3 月)

[介護保険] 指定訪問看護事業 (R2年4月~R8年3月) 指定予防介護訪問看護事業 (H30年4月~R6年3月) 緊急時訪問看護加算、特別管理加算、ターミナルケア加算、 サービス提供体制加算 公費負担制度:原爆医療、労災(H7年9月~)

生活保護医療(R2年4月~R8年3月) 難病指定医療(H27年1月~R8年12月)

指定小児慢性特定疾病医療(H27年1月~R8年12月)

指定自立支援医療(H27年8月~R9年7月)

< R2 年度の活動実績>

1. 利用者数統計 () 内前年度

(1) 営業日数 242日(前年度242日)

(2) 利用者実数 1154人(938人)

	医療	介護	合計
延べ訪問件数	1,755 (1,322)	4,215 (3,656)	5,970 (4,978)
リハビリ(再掲)	401 (296)	705 (810)	1,106 (1,106)

介護保険・予防給付内訳

介護保険	予防給付	介護給付	合計	
30 分未満	450 (396)	824 (379)	1274	(37%)
60 分未満	308 (448)	1,453 (1129)	1,761	(50%)
90 分未満	26 (15)	446 (487)	472	(13%)
合計	784 (859)	2,723 (1,995)	3507 (2854)	100%

(3) 新利用者数・終了者数

	医療	介護	合計
新利用者数	41(28)	53(37)	94(65)
終了者数	45(22)	31(31)	76(53)

(4) 終了者内訳

	医療	介護	合計
軽快	5(0)	15(10)	20(10)
医療機関入院	1(1)	1(4)	2(5)
施設等入所	4(2)	4(8)	5(10)
死亡	39(19)	9(9)	48(28)
その他	0(0)	2(0)	2(0)

在宅での死亡者 14名 (7名)

2. 24 時間体制利用

利用患者数	139(86)
利用延べ回数	316(175)
訪問回数	113(56)

- 3. 地域との連携
- (1) 連携している医師の所属先
 - ・地域の開業医 30 施設 ・他病院 10 施設 ・当院医師 49 名

- (2) 連携している居宅介護支援事業所
 - ・43 事業所
- (3) 他の病院 MSW、保健所等から 3名

4. 事業計画

<事業目標>

利用者数の安定化(増加)、新規獲得を継続する。病院併設の強味を活かした体制づくり、病院関係職種との連携強化、PR、地域関係職種との顔の見える関係づくりの元、地域に開かれた訪問看護ステーションを目指す。

<事業計画>

1) 新規利用者獲得、健全経営のための体制整備

MSW、退院支援 Ns と連携し病院発生の新規訪問全応需

- ・業務の効率化:効率的な訪問スケジュール調整、記録の見直し 支払い方式の変更 現金支払い→引き落としへ
- ・看護人員の出向体制の構築:4月1名(外来と兼務)、6月1名(病棟と兼務)
- 2) 病院関係職種との連携強化
 - ・緩和ケア病棟との連携 → 期間限定で退院する患者の利用 6件
 - ・循環器科との連携 → 心不全(重度者)の退院 6件
 - ・看護師長会で訪問看護の状況・ケース報告 実施
 - 外来看護師との連携
 - ・外来化学療法 (CN) と情報交換し訪問看護の導入促進 → 2件
 - ・外来通院中の患者の訪問看護依頼を促進 10件
 - ・病院看護師の訪問看護研修
 - ・1日訪問看護師見学研修を看護師長対象に実施 → 10月~看護師長 6名 感染拡大 にて休止中
- 3) 地域との連携強化
 - ・居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへの新規依頼 PR
 - ・阿武野・郡家・清水・高槻北・茨木北部地域に重点的に営業
 - ・依頼に対して即、管理者が動く
 - ・地域の医師とのつながりを強化:病院併設の強みを出す
- 4) 看護・リハの質の向上
 - ・ミーティング (毎朝)、カンファレンス1回/月の開催
 - ・研修・学会に参加、伝達、ステーション内学習会開催
- 5.後進の育成、訪問看護普及のための実習生等の受け入れ
 - ・大阪医科大学看護学部 在宅看護実習 2週間3クール 6名
 - ・大阪府立大学大学院 老年看護学 CNS コース 1名
 - ・藍野大学セカンドレベル研修 1名
- 6. 地域との連携、対外的な活動
 - ・大阪府訪問看護ステーション協会 三島ブロック理事

- ・高槻市障がい福祉課 第2審査部会委員 会議9回参加
- ·大阪府看護協会府北支部 施設代表者会議参加

7. その他

- ・車両関連:日産デイズ1台 新規リース契約、原付バイクタクト 1台(感染対策補助金)
- ・空気清浄機 2台・エアコン 1台 ・PC1台(感染対策補助金)

医療安全推進室

<スタッフ>

玉田 尚 (副院長兼医療安全推進室長)

後藤 公男 (放射線科部長兼医療安全推進副室長)

中田 祐二 (医療安全管理者)

西 ひろみ (看護副部長)

小島 一晃 (薬剤部長兼医薬品安全管理責任者)

竹下 祐一 (医療技術部課長兼医療機器安全管理責任者)

酒井 美幸 (事務副部長兼総務課長)

迫田 博史 (総務課総務係長)

三明 葵 (総務課主事)

<令和2年年度活動実績>

【活動目標】

- 1. 誤認ゼロを目指す
- 2. チーム STEPP 推進を図る。
- 3. グッドジョブ賞表彰の定着

【活動内容】

- ・チーム STEPPS 研修 6 回開催 (その他 1 回は新型コロナ感染症にて中止)
- ・医療安全研修会 8 項目開催 (各研修会でビデオ上映会及び e- ラーニング開催)
- ・リスクマネジメント部会9回開催
- ・ANZEN ニュース毎月発行
- ・安全メール配信 25 回
- ・安全ラウンド 全部署 43 部署実施
- ・毎月時計、PHS、医療機器などの時刻合わせ活動
- ・身長・体重誤入力防止に対してのシステム改善
- ・電子カルテ上輸血オーダーの確実な実施を目的にマニュアル、システム改善とそれらの周知
- ・医療安全地域連携 I I 連携 済生会茨木病院
 - Ⅰ-Ⅰ連携 愛仁会リハビリテーション病院
 - Ⅰ-Ⅱ連携 水無瀬病院

相互に訪問し評価を行った。

【院内研修会】

実施日	研修会名	対象	参加人数
5月	新採用職員研修	新入職者	4名
7~12月	チーム STEPPS	未受講者	64 名
6月	全職員が知っとくべし。 医療ガスの安全な管理と危険な取扱い。	全職員	400名
7月・3月	2019年度 ヒヤリ・ハット報告に 誤認防止も含めて。	全職員	303 名
8月・3月	なぜ高齢者は転ぶのか? 生理解剖学視点から考えよう。	全職員	337 名
9月・3月	麻薬の取扱い 2020 ~事故対応に強くなろう~	医療職	245 名
10月・3月	安全な輸血について教えてもらいましょう	医療職	205 名
11月	MRI における安全性について	医療職	159 名
12~3月	医療現場における個人情報の取り扱いについて	全職員	502 名

【患者相談・意見への対応】

- 1. 相談対応 (医療メディエーション)

 - ・患者側からの相談5件・医療者側からの相談3件

2. 意見・苦情の総数件

接遇、職員の対応(説明不足、態度が悪い、不信間等)	14件
施設、設備(病室、トイレ、備品、駐車場等)	27件
環境 (清掃、空調、臭気、騒音等)	5件
診療体制 (予約方法、待ち時間、逆紹介等)	36 件
受付体制 (受付処理、会計処理、案内等)	14件
その他 (売店、循環バス等)	8件
感謝、激励	4件

【保安、その他】

1. 暴力行為 3 件 (昨年度 7 件) 警察への通報 0 件 (昨年度 1 件) 発生場所:病棟3件

2. 盗難被害 4 件 (昨年度 1 件) 警察への通報 2 件 (昨年度 2 件)

発生場所:病棟4件

3. 紛失・破損・盗難被害 報告件数 1 件(前年度 8 件) 警察届出事案 0 件(前年度 2 件) 発生場所:病棟1件

4. 迷惑行為等 報告件数 2 件(前年度 0 件) 警察届出事案 2 件(前年度 0 件) 発生場所:病棟1件、外来1件

5. 虐待案件 1件

発生場所:外来1件

<令和3年度活動目標>

- 1. 患者誤認防止の取り組み 誤認ゼロを目指す
- 2. チームステップスの継続 レジリエンス力の強化
- 3. 転倒転落による有害事象の防止 有害事象ゼロ件を目指す
- 4. グッドジョブ賞、グッドプラクティス賞の継続

以上

教育研修推進室

<スタッフ>

玉田 尚(副院長兼教育研修推進室長)

松田 好正 (事務部長)

北 英夫 (呼吸器科部長)

小島 一晃 (薬剤部長)

岸 恵美(看護部長)

松原 健夫(放射線課長)

阿部 哲子(人事課 研修・厚生担当課長)

山﨑 雅樹 (人事課 研修厚生係長)

<異 動>

令和2年10月~

人事課 研修厚生係長 山﨑雅樹 → 人事課 人事係長兼研修厚生係長 佐橋克哉

<令和2年度活動実績>

- 1、初期研修医のマッチングはフルマッチし選考者上位内でマッチすることができた。受験者数 18名と定員の6倍の応募者を確保できた。
- 2、初期研修医獲得の際にも、内科に残すことを念頭に置いた選考はしていたが、内部からの就職希望はなかった。初期研修後の就職先は、大阪医科大学2名(消化器外科・消化器内科)、 北野病院1名(京都大学皮膚科医局)、名古屋医療センター1名である。結局2名枠を満たせず、 外部病院より1名の応募のみに終わったことは来年の課題として残った。
- 3、初期研修医の受け入れはなかったが、高槻病院から3年目と2年目の2名の内科専攻医の受け入れがあり、1名はそのまま当院血液内科に残った。
- 4、再来年度 JSEP 受審に向けて研修管理委員会開催を徐々に増やすために、今年度は、11 月に 書面会議1回行い3月は定例の管理委員会開催を1回行った。来年度は、7月と11月に書 面会議、3月に委員会開催とする予定である。
- 5、コロナの影響の為、12月の宮上病院の研修は中止となった。今後はワクチン接種の拡大により移動に制限はかからないかもしれないが、運営委員会として感染状況のフェーズに沿った対応を行なっていく。
- 6、EPOC2 の導入を開始し1年目研修医から適応した。手探りの状況であるが、指導医、研修医 双方の疑問点や意見を聞きながら進めている。レポートではなくサマリー記入であることの合意が得られるまでに時間を要したが、年明けからはサマリー確認のトラブルもなくなった。

<来年度活動目標>

- 1、専攻医確保を視野に入れた「初期研修医確保」(マッチング面接)を行い、昨年同様定員の3倍の応募総数で上位でのフルマッチを目指す。その中で2名は内科専攻医として残るような獲得をしたい。
- 2、 [SEP に沿った改善目標を定め 「卒後臨床研修機能評価」を受審し定員 4 名への復活を目指す。
- 3、EPOC2での評価を行うことが順調にできるように、更に調整、支援していく。
- 4、感染状況を見ながら、研修医研修の充実を図る。(北摂アカデミックフィールドの復活など)

事務部

<スタッフ> 令和2年4月1日付

事務部長 松田 好正

事務副部長 酒井 美幸(兼)

課 長 職 8名

人事課長 平田 俊介

総務課長 酒井 美幸(兼)

会計課長 片岡 幹夫

企画情報課長 杉山 乙矢

医事課長 浦手 悟

診療支援課長 眞清水 裕子

用度施設課長 萩原 大介

研修・厚生担当課長 阿部 哲子 (兼看護師長)

病床管理担当課長 日高 利明(新設)

係 長 職 13名

<組織編成>

総務課管理係を総務課広報・管理係に名称変更した。

経営企画課、診療情報管理課、情報システム課を廃止し会計課と企画情報課を新設した。 院長直轄に病床管理室を設置した。

<令和2年度活動状況>

- 1. 経営健全化に向けた取り組み
 - 1) 休床病床の返還によるダウンサイジングを実施(許可病床 446 床→ 335 床)
 - 2) 病床管理室を新設し担当課長を専従配置した。病床稼働の効率化をめざした。新型コロナウイルス感染症患者入院受入中の一般病床の調整が円滑にできた。
 - 3) 時間外勤務を前年度より31.4%削減できた。病院連絡会議の配布資料、事務通達の文書類をイントラ掲載へ変更しペーパーレス化により経費削減した。
- 2. 事務部の組織編成を行い人材の適正配置、生産性の向上を図った。
 - 1) 前年度に電子カルテ更新作業を完了したことにより情報システム課を廃止し、電子カルテの全般管理を企画情報課へ移管した。
 - 2) 経営企画課の廃止に伴い、広報係を総務課へ移管した。広報誌編集ワーキンググループにより休刊中の「地域医療連携だより」を再開した。外来の掲示物を一部デジタル化したことによりタイムリーな情報発信が可能となった。
 - 3) 診療情報管理課を廃止し、企画情報課に診療情報管理係として移管した。DPC データ抽出 等の関連業務の効率化を図った。

- 3. 新型コロナウイルス感染症対策
 - 1) 高槻市保健所との連携により「帰国者・接触者外来」「地域外来検査センター」を設置し受入を開始した。
 - 2) 大阪府からの病床確保要請により「重点医療機関」の指定を受け、「軽・中等症患者」を対象 に入院患者 183 人、延 2,445 人を受け入れた。
 - 3) 感染防護用具の確保、感染患者受入に伴う設備・機器・備品の整備を行った。

<令和3年度 重点課題>

- 1. 経営改善のために、医業収支におけるキャッシュの黒字化を継続する。そのためには、新規患者の獲得を費用削減への取り組みを強化する。
- 2. 病院の将来を担う事務職員の育成として係長級職員への研修、TQM活動を実施する。

以上

Ⅲ 委員会活動

DPC·診療記録管理委員会

目的

標準的な診断及び治療方法に基づいた適切なコーディング(適切な診断を含めた診断群分類の 決定をいう。)を行う体制を確保すること、及び、診療情報及び診療記録に関する事項を検討・討 議する。

委員会開催

第1回

開催日:令和2年4月7日

議 題:① 呼吸器科内科領域の代表的疾患について

② その他

第2回

開催日:令和2年5月26日

議 題:① 泌尿器科領域の代表的疾患について

② 入院診療計画書について

第3回

開催日:令和2年5月27日

議 題:① 周期性発熱の病名について

② 退院サマリについて

③ その他

第4回

開催日:令和2年8月20日 議 題:① DPC 制度について

②2型糖尿病のコーディングについて

第5回

開催日:令和2年10月5日

議 題:① インプラント周囲骨折について

以上

HCU運営委員会

目的

HCU 運営に関する諸問題の協議・調整を行い、HCU の効率的な運営に関し審議する。

委員会開催(令和2年10月29日(木))

議事内容

- ① HCU 稼働状況の共有
- ② HCU 疑似症対応について
 - ・感染管理の観点より1ベッドと2ベッドの間にカーテン設置についての検討
 - ・HCUの窓に影が写ることに対する対応(アクリル板等の設置)についての検討。
 - ・院内放送 (コードブルー) が聞こえないことに対する修繕予定についての確認・共有。
 - ・HCUの疑似症対応はCOVIDマニュアル通りとすることについての確認・共有。
 - ・ECMO 納品(院内発生でかつ受入れ先病院がない場合に使用)についての共有

令和2年度 HCU 稼働率は66.8%

ICT委員会

目的

院内分離菌の把握、抗菌薬使用状況の把握など院内感染防止対策の啓蒙活動。

毎週木曜日、約60分間のICT ラウンド(環境)を実施。

今年度目標 ① WHO 手指衛生のガイドライン 5 つのタイミングが周知・遵守できる

②接触感染予防策が遵守できる

委員会開催

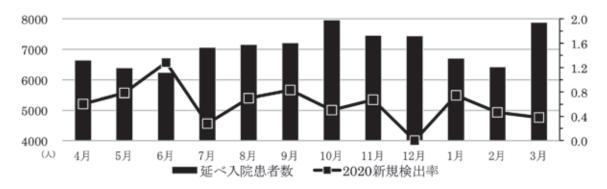
定例会議 毎月第1木曜日16時00分~(AST委員会と合同開催)

議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、環境調査、抗菌薬使用状況、その他

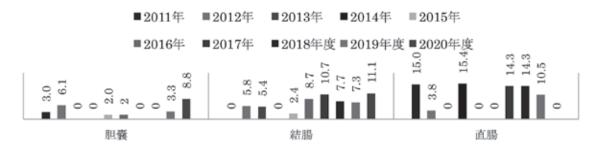
開催日	議 題	
令和 2 年 6 月 4 日	・令和 2 年度院内感染防止対策研修会について ・ICT ラウンドチェック項目の見直しについて ・COVID-19 について	
7月2日	・令和 2 年度院内感染防止対策研修会について ・ICT ラウンドチェック項目の見直しについて ・COVID-19 について	
8月6日	・自己点検について ・令和 2 年度院内感染防止対策研修会について ・感染防護具の在庫状況について	
9月3日	・令和 2 年度院内感染防止対策研修会について	
10月1日	・令和 2 年度院内感染防止対策研修会について ・手指消毒剤携帯用ポーチの運用について	
11月5日	・令和 2 年度院内感染防止対策研修会について ・感染防護具の在庫状況について	
12月3日	・感染防護具の在庫状況について・COVID-19 陽性患者発生後の対応について・COVID-19 陽性患者の受入病床について	
12月5日	・インフルエンザ発生状況と対策について ・来院者用の掲示物更新について ・院内研修会と参加状況について	
令和3年	・N95 マスクについて	
2月4日	・令和 2 年度院内感染防止対策研修会について ・COVID-19 について	
3月4日	・COVID-19 ワクチン接種について ・N95 マスクについて ・令和 2 年度院内感染防止対策研修会について	

◆各種サーベイランスの結果

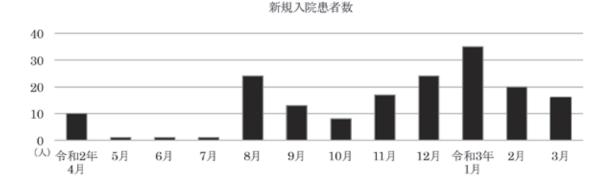
① MRSA 新規検出率 (延べ入院患者数と新規検出率の推移)



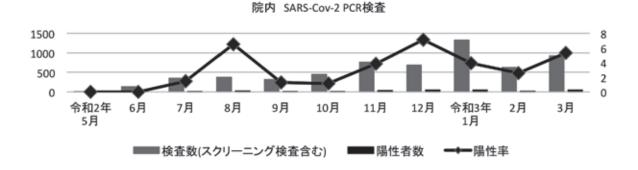
② SSI (手術部位感染) 年次推移



① 新型コロナウイルス感染症 入院患者数推移 (2020年1月~2021年3月)

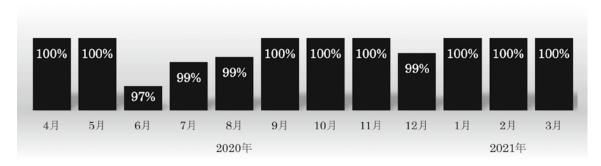


② SARS-CoV-2 PCR 検査 (2020年1月~2021年3月)

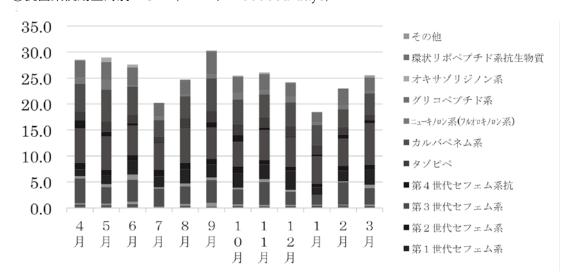


◆抗菌薬適正使用の推進結果

①抗菌薬使用報告書提出率(%)平均:100%



②抗菌薬使用量月別 AUD (DDD / 1000bed-days)



◆感染対策マニュアルの更新 (内容を見直し改訂した)

抗菌薬ガイドライン

◆院内研修会

開催日	テーマ	対象	参加人数
4月2日	新採用者研修会	新採用職員	32 名
4月	新人看護師研修会	新人看護師	21 名
5月1日	COVID-19 説明会	全職員	169名
7月30日、 8月6日、 オンデマンド研修	標準予防策と抗菌薬について	全職員	580 名
11月5日、 11月12日、 オンデマンド研修	COVID-19 治療と対策	全職員	511名

◆広報と啓蒙活動

ICT 院内ラウンド	週1回、全病棟と外来、その他の各部門

NST 委員会

目的

医療の質と向上のために、全ての治療の基盤である栄養管理を促進する。

委員会開催

なし

S P D・診療材料購入審査委員会

目的

新規診療材料の採用の可否・SPD活動(不動在庫削減・診療材料の購入コスト低減・業務の効率化)の推進による病院経営の合理化を目的とする。

委員会開催

第1回

開催日:令和2年4月7日(火)16時00分~16時30分

議 題:① 新規材料について

- ② サンプル品使用について
- ③ エム・シー・ヘルスケアから

第2回

開催日: 令和2年5月12日(火)16時30分~17時00分

議 題:① 新規材料について

- ② サンプル品使用について
- ③ エム・シー・ヘルスケアから

第3回

開催日: 令和2年6月2日(火)16時00分~16時30分

議 題:① 新規材料について

- ② サンプル品使用について
- ③ エム・シー・ヘルスケアから

第4回

開催日:令和2年7月7日(火)16時00分~16時30分

議 題:① 新規材料について

- ② サンプル品使用について
- ③ エム・シー・ヘルスケアから

第5回

開催日: 令和2年8月4日(火)16時00分~16時30分

議 題:① 新規材料について

- ② サンプル品使用について
- ③ 用度課からの報告(感染対策材料について)
- ④ エム・シー・ヘルスケアから

第6回

開催日: 令和2年9月1日(火)16時00分~16時30分

議 題:① 新規材料について

- ② サンプル品使用について
- ③ エム・シー・ヘルスケアから

第7回

開催日:令和2年10月6日(火)16時00分~16時30分

議 題:① 新規材料について

- ② サンプル品使用について
- ③ エム・シー・ヘルスケアから

第8回

開催日: 令和2年11月10日(火)16時00分~16時30分

議 題:① 新規材料について

- ② サンプル品使用について
- ③ エム・シー・ヘルスケアから

第9回

開催日: 令和2年12月1日(火)16時00分~16時30分

議 題:① 新規材料について

- ② サンプル品使用について
- ③ SPD・診療材料審査委員会規程、様式の変更について
- ④ マスク・ガウン・グローブ類の在庫量報告及び運用変更について
- ⑤ エム・シー・ヘルスケアから

第10回

開催日: 令和3年1月5日(火)16時00分~16時30分

議 題:① 新規材料について

- ② サンプル使用について
- ③ 感染対策材料の報告について
- ④ エム・シー・ヘルスケアから

第11回

開催日: 令和3年2月2日(火)16時00分~16時30分

議 題:① 新規材料について

- ② サンプル品使用について
- ③ エム・シー・ヘルスケアから

第12回

開催日:令和3年3月2日(火)16時00分~16時30分

議 題:① 新規材料について

- ② サンプル品使用について
- ③ 経腸栄養関連製品の切替期限の延長について
- ④ エム・シー・ヘルスケアから

がん診療関連機能充実委員会

目的

「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に則して、がん診療関連機能の充実を図ることについて討議する

活動実績

2020年度は計6回開催した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止ということもあり、上半期はほぼ開催できなかったが9月以降はほぼ毎月開催した。委員会開催日と議題は以下のとおりである。

委員会開催

第1回

開催日:2020年9月29日(火)

議 題:1 がん相談支援センターより 2019 年度のがん相談支援センターの活動報告を行った。

- 2 がん患者指導管理料算定について、イ・ロについては 2019 年度の実施報告と評価 について報告された。ハについては上半期の算定件数について報告された。
- 3 大阪府がん診療連携協議会(2020年8月31日 WEB 開催)の報告
- 4 その他
 - ・令和2年度がん検診受診率50%達成に向けて集中キャンペーン月間について検討。 ポスター掲示を起案していくこととなった。
 - ・がん診療連携拠点病院現況報告準備について、昨年度資料を委員に配布し、指定 要件の全体像を確認し、備えることとした。

第2回

開催日:2020年10月20日(火)

議 題:1 がん相談支援センターより 2019 年度のがん相談支援センターの活動報告の訂正を 行った。

2 がん患者指導管理料イ算定についての院内メールでのアナウンス文章(案)につい

て検討。

- 3 各部会の報告→がん研究会幹事会(2020年10月15日 WEB会議)報告。
- 4 その他
 - ・がん診療連携拠点病院現況届の進捗状況を確認した。
 - ・資料「府指定要件の改正の主なポイント」読み合わせ。

第3回

開催日:2020年11月24日(火)

議 題:1 がん相談支援センターより上半期の相談件数報告。

10月にがん検診受診率50パーセント達成に向けてのポスターを院内に掲示し、啓発活動を行ったとして大阪府に報告した。

2 がん患者指導管理料イ算定についての院内メールでのアナウンス文章 (案) について再検討。

イ・ロについては 4 月~ 10 月までの算定件数を報告、ハは 10 月 11 月の算定件数を報告。

- 3 各部会の報告、今後の部会及び研修会の予定確認を行った。
- 4 その他
 - ・「府指定要件の改正の主なポイント」診療従事者等の役割分担について確認。
 - ・「だから人生会議」のパンフレットの取り扱いについて。まずはポスター掲示から。
 - ・医療安全管理医師の受講報告について。

第4回

開催日:2020年12月22日(火)

- 議 題:1 大阪府がん診療連携拠点病院各部会の担当について、代表者・事務担当者の確認お よび見直しを行った。
 - 2 府指定要件の改正の主なポイントのうち、診療従事者について、昨年度の現況報告で提出した様式4の回答内容を振り返りながら確認を行った。
 - 3 その他
 - ・がん患者指導管理料イ算定についての強化案については、地域医療連携課とがん 相談支援センター間で引き続き検討していく。
 - ・がん患者指導管理料コスト算定のための処置指示入力について、医事課に確認し ながら確実にコスト算定していけるよう検討を継続。
 - ・現況届のデータ処理を効率的に行うためのシステム作成のため、カルテ閲覧の権 限がない職種が閲覧できるよう企画情報課と相談していく。

第5回

開催日:2021年2月9日(火)

議 題:1 各種報告

- ・2021年1月28日(木)の三島圏域がん診療ネットワーク協議会・各部会の報告を行った。
- 2 がん関連の近況報告および今後の日程について確認した。
- 3 各部会担当表の確認を行った(担当者・連絡先など)。

4 がん患者指導管理料について、イ・ロ・ハそれぞれ報告。

イについては昨年度が13件。今年度目標は70件としていた。2月で70件に達し、 目標達成となっている。

ハについては、2020 年 12 月から算定するようになった連携充実加算と同時に算定できている。12 月の連携充実加算は 80 件、がん患者指導管理料ハは 72 件。1 月は「ハ」が 69 件、連携充実加算が 100 件と順調に伸ばしていっている

第6回

開催日:2021年3月23日(火)

議 題:1 各種報告

- ・2021年3月12日(金)大阪国際がんセンターにてがん診療連携協議会が開催された。各部会、2次医療圏からの年間活動報告。
- ・2021年3月22日(月)、大阪府がん診療連携拠点病院の更新指定書が届いた。 令和3年4月1日~令和6年3月31日の3年間の更新。
- 2 大腸がん 5年生存率 (2012年~2013年症例)のデータまとめについて報告 当院のステージⅣ期の5年生存率は全がん協のデータと比較すると低いが(当院 4.5%、全がん協21.5%)、死因は問わない実測生存率であることや、当院はもと もと大学病院から手術できなかったり、腹膜播種を併発した状態で紹介されてくる 症例など、緩和に近い状況で受けていることも要因として大きいと思われる。
- 3 がん患者指導管理料の報告
 - イ) 2月6件 3月1日~3月23日2件 4月からの合計で71件算定されている。
 - ロ) 2月25件 3月1日~3月23日22件 4月からの合計で244件算定できている。
 - ハ) 2月44件 3月1日~3月23日46件 連携充実加算については2月97件、3月1日~3月23日90件
 - 二)が令和2年度の診療報酬改定から新設されている。当院ではまだ算定されていないため、届け出等について医事課に確認・相談していく。
- 4 緩和ケア部会より
 - ・三島医療圏のがん研究会を2022年1月27日(木)に予定している(当院が担当)。
 - ・PEACE の研修会を 2021 年 10 月 17 日 (日) に開催予定。E ラーニングと集合 形式だが、集合形式で現地で行わないと研修をやったことにならないため現地開 催が必須。
- 5 次年度からの委員会体制について

幹事=事務局となる。現事務局の異動により各部会連絡先や役割分担の変更について協議。

キャンサーボード委員会

目的

大阪府指定がん診療拠点病院として、患者に適切ながん診療を提供するためにキャンサーボードの体制を整備することを目的とする。

委員会開催

委員会/必要に応じて開催する。

キャンサーボードの開催/50回

検討症例 /3 名~ 10 名程度の新規治療開始患者、術後患者

内容 / 新規治療開始患者の治療方針の決定及び経過報告、術後患者の経過報告及び今後の治療方針の決定を行う

クリニカルパス委員会

目的

クリニカルパスを活用し、医療の質の向上、患者満足度の向上、EBM に基づいた標準的医療の 実施、資源の効果的使用を実現することを目的として、クリニカルパス委員会を設置する。

委員会開催

第1回

開催日:令和2年8月25日

議 題:1 アウトカム志向型パスへ修正終了報告及び使用開始時期について

2 移行期の旧パスから新パスへのオーダー変更業務について

3 アウトカム志向型パス作成・修正手順について

4 診療報酬改定後の影響と看護必要度 Ⅱ に向けたパス見直しの提案について

令和2年度クリニカルパス新規承認パス4件であった。

委員会開催(書面審議)月	No.	令和2度新規申請パス
令和3年3月	1	経尿道的膀胱尿道手術
	2	経尿道的上部尿路手術
	3	経尿道的前立腺手術
	4	泌尿器科小手術
合計	2件	

以上

ハラスメント防止委員会

開催実績

なし

業務改善委員会

目的

高槻赤十字病院における医療従事者の負担軽減及び処遇の改善を図り、医療事業の円滑な運営 及び推進に資すること。

委員会開催

第1回

開催日:令和2年9月4日(金)

議 題:1.委員の変更について

- 2. 「医療従事者にかかる負担軽減の取組計画及び経年評価(令和2年度)」について
- 3. その他

第2回

文書審議

議 題: 1. 「令和 2 年度の医療従事者にかかる負担軽減の取組計画及び経年評価」評価報告

2. その他

医療ガス安全管理委員会

目的

高槻赤十字病院において使用する医療ガス(診察の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素ガス等をいう。)設備の安全を図り、患者の安全を目的とする。

委員会開催

第1回

開催日:令和3年3月15日(月)16時00分~16時30分

議 題:1. 令和2年度医療ガス研修会実施報について

- 2. 令和2年度医療ガス保守点検実施報告について
- 3. 令和2年度高圧ガス管理組織について
- 4. その他

医療安全管理委員会

目 的

安全かつ適切な医療ができる体制を確立すること。

委員会開催

第1回:令和2年4月21日(火)

議 題:1.報告事項

①インシデント・アクシデントレポート(3月)

2. 検討事項

- ① 2020 年度 医療安全推進室目標について
- ② 2020 年度 医療安全研修会について
- ③ 2020 年度 安全ラウンド予定表について

第2回:令和2年5月19日(火)

議 題:1.報告事項

①インシデント・アクシデントレポート(4月)

- 2. 検討事項
 - ①グッドジョブ賞とグッドプラクティス賞について
 - ②リスクマネジメント部会について

第3回:令和2年6月16日(火)

議 題:1.報告事項

①インシデント・アクシデントレポート(5月)

2. その他

①初期研修医師の研修プログラムについて

第4回:令和2年7月21日(火)

議 題:1.報告事項

①インシデント・アクシデントレポート (6月)

- 2. その他
 - ①既読システムについて
 - ② 「医薬品の安全使用のための業務手順書」 改訂について
 - ③チーム STEPPS 研修会について

第5回:令和2年8月18日(火)

議 題:1.報告事項

①インシデント・アクシデントレポート (7月)

- 2. その他
 - ①「医薬品の安全使用のための業務手順書」改訂について

第6回:令和2年9月15日(火)

議 題:1.報告事項

①インシデント・アクシデントレポート(8月)

2. その他

①患者誤認防止について

第7回:令和2年10月20日(火)

議 題:1.報告事項

①インシデント・アクシデントレポート(9月)

- 2. 検討事項
 - ①転倒転落ワーキンググループについて
 - ② DNAR 記載場所について
 - ③医療現場における個人情報の取り扱い研修会について
- 3. その他
 - ①既読システムについて

第8回:令和2年11月17日(火)

議 題:1.報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート(10月)
- 2. 検討事項
 - ①輸血オーダー方法とその表現方法について
- 3. その他
 - ①研修会受講状況について

第9回:令和2年12月15日(火)

議 題:1.報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート (11月)
- 2. 檢討事項
 - ①身長・体重の誤入力を防ぐためのアラート値の検討について
- 3. その他
 - ①研修会受講状況について

第10回:令和2年1月19日(火)

議 題:1.報告事項

①インシデント・アクシデントレポート(12月)

2. 検討事項

①輸血オーダー方法変更について

第11回:令和2年2月16日(火)

議 題:1.報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート(1月)
- 2. その他
 - ①薬物禁忌管理システム更新の進捗状況について
 - ②転倒予防 WG について
 - ③令和2年度医療安全研修会について
 - ④医師のための院内ルール一覧について

第12回:令和2年3月16日(火)

議 題:1.報告事項

①インシデント・アクシデントレポート (2月)

2. その他

① 2020 年度医療安全研修会について

院内感染防止対策委員会

目 的

院内感染の防止対策及び予防活動に関する事案を審議する。実働部隊としてのICTから各サーベイランスの報告を受け、院内感染防止対策の監視と啓発活動を行う。

委員会開催

定例会議 毎月第4木曜日16時30分~

議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、抗菌薬使用状況について報告と審議

開催日	議 題
令和 2 年 5 月 28 日	① 手術部手洗い、パームスタンプ法について ② 令和 2 年度院内感染防止対策研修会について
6月25日	 感染症情報について COVID-19 について
7月30日	① COVID-19 について
8月27日	① 水痘感染症の院内発生について
9月24日	① 2020 年度クーリングタワー冷却水と水道水のレジオネラ菌検査について ② COVID-19 について ③ 令和 2 年度院内感染防止対策研修会について
10月22日	① 令和 2 年度院内感染防止対策研修会について ② 感染担当者不在時の連絡、相談系統について ③ 各病棟配置の環境クロスについて
11月26日	①「院内感染対策・知恵の輪!」への掲載について ② 令和 2 年度院内感染防止対策研修会について
12月24日	① 年末年始の救急外来体制について② COVID-19 について③ バンコマイシンの供給停止について
令和3年 1月28日	① 令和 2 年度院内感染防止対策研修会について② COVID-19 ワクチン接種について③ バンコマイシンの供給について
2月25日	① 抗菌薬ガイドライン更新について ② 令和 2 年度院内感染防止対策研修会について ③ 院内での COVID-19 発生状況について
3月25日	① COVID-19 について ② 結核について

化学療法委員会

目的

安全で効果的ながん化学療法を行うことを目的として、外来のがん化学療法に関する審議・検 討を行う。

委員会開催

第1回

開催日:令和2年9月10日

議 題:1) 外来化学療法室利用状況報告

- 2) 仮登録されたレジメンの報告
- 3) 新規や変更レジメンの承認と報告
- 4) その他

第2回

開催日:令和3年3月11日

議 題:1) 外来化学療法室利用状況報告

- 2) 仮登録されたレジメンの報告
- 3) 新規や変更レジメンの承認と報告
- 4) その他

救急委員会

目的

救急車搬送増加と、円滑な受入れ体制の強化、断診の防止対策の為検討・討議を行う。

委員会開催

12 回/年開催

救急委員会実績

- 月々の救急搬送件数や内容など統計データの共有や分析
- 救急診療管理加算データの共有(特に「加算1」算定への取り組み)
- 受入れ困難症例のデータ共有や分析
- 救急隊員向けの勉強会や懇親会の企画・実行

給食委員会

目的

患者の栄養管理ならびに給食サービスの円滑な運営とその向上を図る。

委員会開催

なし

健診事業運用委員会

令和2年度

健診事業休止に伴い委員会開催無

研修運営委員会

目的

「研修管理委員会」の下部委員会として、研修医師の研修内容及び関係部門並びに院外の関連施設との研修に関わる事項や運営について検討する。

委員会開催

開催日:令和2年4月8日(水)17:05~17:07

議 題:①1年目研修医紹介

- ②2年目研修レポートについて
- ③ EPOC2 の導入に関して
- ④研修医の外来診療について
- ⑤ その他

開催日:令和2年6月10日(水)17:00~17:20

議 題:①研修状況の確認

- ②2年目研修レポートについて
- ③1年目研修医進捗状況
- 4)その他

開催日:令和2年7月8日(水) 17:00~17:35

議 題:①研修進捗状況

- ②2年目研修レポートについて
- ③ 1 年目研修医の EPOC2 での進捗状況
- 4)その他

開催日:令和2年8月12日(水) 17:00~17:35

議 題:①研修状況の確認

- ②2年目研修医レポートの提出状況について
- ③ 1 年目研修医の EPOC2 での進捗状況
- ④その他

開催日:令和2年9月9日(水) 17:00~17:20

議 題:①研修状況

- ②2年目研修医のレポートの提出状況
- ③ 1 年目研修医 進捗状況
- ④来年度採用予定研修医の面接試験の終了について
- ⑤その他

開催日: 令和2年10月14日(水) 17:00~17:15

議 題:①研修進捗状況

- ②1年目研修医の面接結果
- ③宮上病院での地域研修に関して
- 4)その他

開催日:令和2年11月11日(水) 17:10~17:10

議 題:①研修進捗状況

- ②マッチング結果について
- ③ その他

開催日:令和2年12月9日(水) 17:03~17:10

議 題:①研修進捗状況

- ②次年度研修プログラム (案) について
- ③研修管理委員会について
- 4)その他

開催日:令和3年2月10日(水) 17:15~17:20

議 題:①研修進捗状況

- ②1年目研修医の面談報告
- ③来年度研修プログラムについて
- 4 その他

研修管理委員会

目的

臨床研修指定病院として研修医師の研修内容及び関係部門並びに院外の関連施設との研修に 関わる事項や運営について検討する。

書面会議

令和2年度 第1回研修管理委員会

開催日:令和2年10月(起案決済日:10月2日)議 題:①令和元年度臨床研修医 研修進捗状況

- ②令和2年度臨床研修医
- ③令和3年度の募集定員について
- ④令和3年度臨床研修医採用試験受験者数報告

委員会開催

令和2年度 第2回研修管理委員会

開催日:令和3年3月4日(木) 15時~

議 題:①令和元年度採用研修医の臨床研修修了について

- ②令和3年度 臨床研修スケジュールについて
- ③臨床研修費補助金の分配について
- ④令和3年度採用予定研修医紹介
- ⑤その他

個人情報保護委員会

目的

病院における個人情報保護の利用目的、運営及び管理に関すること、保有個人情報の開示等の 決定判断に関すること、その他病院における個人情報保護に関することを審議する。

委員会開催

開催せず

広報委員会

目的

病院の広報に関することを検討する。

主に院内広報誌、院外広報誌、ホームページの掲載内容について検討する。

委員会開催

第1回

開催日:令和2年10月23日

議 題:① 院外誌・院内誌の掲載記事について

- ② 当院WebサイトのSSL化について
- ③ 当院Webサイトのリニューアルについて
- ④ 外来デジタルサイネージについて

購買委員会

目的

各部署から提出された医療用機械備品・その他器械備品等(原則、購入予定価格が 160 万円以上の物品)の整備依頼調書に基づき、各部署のヒアリングを行い、購入の是非を検討する。

委員会開催

第1回(機種選定委員会)

開催日:令和2年7月17日(金)14:00~14:45

議 題:新型コロナウィウルス感染症各種補助金申請に伴う機種・仕様の選定 大阪府を窓口に下記2種類の補助金交付の可能性があり、申請するにあたり各物品の 機種(メーカー)選定を協議。

●新型コロナウィルス感染症重点医療機関等設備整備事業補助金

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果 (選定メーカー・機種名)
1	超音波診断装置	検査課	フィリップス EPIQ Elite DS
2	血液浄化装置	臨床工学技術課	メーカー3社のいずれかで決定
3	気管支鏡	_	オリンパス BF-Q290
4	CT 撮影装置	放射線科	キャノンメディカルシステムズ(株) Aquilion Prime SP/i Edition
(5)	生体情報モニタ	_	日本光電工業(株) ベッドサイドモニタ PVM-4763

●新型コロナウィルス感染症患者等入院医療機関設備等

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果 (選定メーカー・機種名)
1	人工呼吸器及び 付帯する備品	臨床工学技術課	ドレーゲル Savina300
2	個人防護具	_	エイブル山内 MAXGARD サージカルガウン型セット
3	体外式膜型人工肺 及び付帯する備品	循環器科	泉工医科工業 メラ遠心血液ポンプシステム

委員会開催

第2回

開催日: 令和2年9月25日(金)15:30~16:15

議 題:新規購入及び補助金申請物品について

【補助金申請】

連番	補助金内容	議題内容	申請部署	本委員会での結果
1	日本損害保険協会 寄付金	ベッドサイドモニター 7 式 (送信機 5 台含む) PVM-4763・ZS-630P	臨床工学技術課	承認
2	支部繰入金	超音波診断装置 (外科)	検査課	承認
3	"	超音波診断装置 (産婦人科)	検査課	承認
4	日赤大阪府支部 コロナ関連補助金	自動心肺蘇生装置 LUCAS3	救急部	承認
(5)	"	医用テレメーター WEP-1450	臨床工学技術課 (6 病棟)*	承認
6	//	セントラルモニタ CNS-6101	臨床工学技術課 (麻酔科)	承認

【申請内容(補助金外)】

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果
7	誘発電位検査装置 NeuropackS3	検査部	承認
8	診察券発行機 ① DP-3000A(外来受付) ② DP-3000M(救急受付)	医事課	承認

治験審査委員会

目的

新規治験の実施および進行中の治験の継続について、科学面・安全面・倫理面から適正に審議することが目的。

GCP (医薬品の臨床試験の実施に関する省令) に準拠した委員会であり、構成人員・審議書類・記録方法等が詳細に規定されている。

併せて、GPSP(医薬品の製造販売後の調査および試験の実施の基準に関する省令)に準拠した製造販売後調査・副作用報告に関する審議・報告等も必要に応じ実施している。

委員会開催

第1回

休会:令和2年4月

COVID-19 感染拡大による緊急事態宣言が発出されたことを受け、感染拡大防止の観点から外部委員のリスクを鑑み休会とした。

第2回

書類審議:令和2年5月15日

議 題:1. 迅速審査・報告

- 2. 委員会審議 (治験の継続を審議)
- 3. 安全性情報 (治験の継続を審議)

第3回

開催日:令和2年6月19日 議 題:1.迅速審査・報告

- 2. 委員会審議 (治験の継続を審議)
- 3. 安全性情報(治験の継続を審議)
- 4. 製造販売後調査の実施の可否を審議

第4回

開催日:令和2年7月17日 議 題:1.迅速審査・報告

- 2. 新規治験の実施の可否を審議
- 3. 委員会審議 (治験の継続を審議)
- 4. 安全性情報 (治験の継続を審議)

新規承認試験】

◇BAY94-8862 (20103) 第Ⅲ相試験 (循環器内科/心不全)

第5回

書類審議:令和2年8月21日

議 題:第2回と同様

第6回

書類審議:令和2年9月18日

議 題:1. 委員会審議(治験の継続を審議)

2. 安全性情報 (治験の継続を審議)

第7回

開催日:令和2年10月16日 議 題:1.迅速審査・報告

- 2. 新規治験の実施の可否を審議
- 3. 委員会審議 (治験の継続を審議)
- 4. 安全性情報 (治験の継続を審議)
- 5. 製造販売後調査の実施の可否を審議

【新規承認試験】

◇ NN1436-4477 第Ⅲ相試験(糖尿病·内分泌·代謝内科/糖尿病)

第8回

開催日:令和2年11月20日

議 題:第2回と同様

第9回

開催日:令和2年12月18日

議 題:1. 新規治験の実施の可否を審議

- 2. 委員会審議 (治験の継続を審議)
- 3. 安全性情報 (治験の継続を審議)
- 4. その他 (治験業務手順書・治験審査委員会業務手順書の改訂)

【新規承認試験】

◇ MR19D6A 第 I 相試験 (乳腺外科/がん性皮膚潰瘍)

第10回

開催日:令和3年1月15日

議 題:1. 迅速審査・報告

- 2. 委員会審議 (治験の継続を審議)
- 3. 安全性情報(治験の継続を審議)
- 4. 製造販売後調査の実施の可否を審議
- 5. その他(治験業務手順書・治験審査委員会業務手順書 補遺)

第11回

開催日:令和3年2月19日

議 題:第4回と同様

【新規承認試験】

◇LY3298176 (GPHZ) 第Ⅲ相試験 (糖尿病・内分泌・代謝内科/肥満症)

第12回

開催日:令和3年3月19日

議 題:1. 新規治験の実施の可否を審議

- 2. 迅速審査・報告
- 3. 委員会審議 (治験の継続を審議)
- 4. 安全性情報(治験の継続を審議)
- 5. その他(製造販売後調査・副作用報告 実施状況についての報告)

【新規承認試験】

- ◇ GSK3511294 (206785) 第Ⅲ相試験 (呼吸器内科/喘息)
- ◇ ETC-1002 第 Ⅱ 相試験(循環器内科/高コレステロール血症)

治験・製造販売後調査等の終了報告

【治験】

NN9535-4374 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・代謝内科 LY3298176 (GPGK) 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・代謝内科

【製造販売後調査】

オフェブカプセル 呼吸器内科 イムブルビカカプセル 140mg 血液内科 エムプリシティ点滴静注用 300mg・400mg 血液内科 リアルダ錠 1200mg 消化器内科 デファイテリオ静注 200mg 血液内科 コセンティクス皮下注 150mg 皮膚科 アメナリーフ錠 200mg 皮膚科

令和2年度の振り返り

昨年度に引き続き、委員の半数以上が、ここ数年、治験審査委員会に継続して参加していただいているので、継続的に倫理面・科学面で深い審議がされることにより、安全に円滑に被験者の方に治験を受けていただけると感じている。

幹事として、委員の方々や治験事務局員、治験コーディネーター、他のコメディカルから、力を借りながら、委員会を準備、開催し、大きな問題なく治験を進めることができた。

特に昨年度は、新型コロナウイルスの影響で、治験審査委員会の審議を書類審査や外部委員の方には web での参加等で対応した。初めての経験なので、不手際はあったが、委員の方々の協力やアドバイスを受けながら、少しずつ改善することにより乗り越えることができた。これらの経験を生かして、引き続き、どのような状況でも治験審査委員会を定期的に開催できるように努めていき、被験者の方への不利益を少しでも減らし、先端医療に貢献したい。

以 上 幹事 美和 孝之

手術室運営委員会

目的

高槻赤十字病院における手術室運営に関する諸問題の協議・調整を行い、安全かつ適切な手術が行える体制を確立する。

4月24日(金)	1. 統計報告 令和2年3月手術件数 2. 新型コロナウイルス対策について
5月22日(金)	 統計報告 令和2年4月手術件数 術前患者のPCR 検査運用について COVID-19に関するワーキンググループ立ち上げについて
6月26日(金)	1. 統計報告 令和2年5月手術件数 2. 手術のあり方委員会決定事項について
7月31日(金)	1. 統計報告 令和2年6月手術件数 2. 今後の手術のあり方について
9月25日(金)	1. 統計報告 令和 2 年 8 月手術件数 2. 膀胱留置カテーテル切り替え提案について
10月23日(金)	1. 統計報告 令和2年9月手術件数 2. 臨床倫理コンサルテーション運用について 3. 停電実施予定について
11月27日(金)	1. 統計報告 令和 2 年 10 月手術件数 2. 今後の手術のあり方について 3. リユースサージカルガウン検討について
12月25日(金)	1. 統計報告 令和 2 年 10 月手術件数 2. 年末年始の手術体制について 3. BGM(有線)について
3月2日 (火)	1. 統計報告 令和3年1月手術件数 2. 術前感染症検査について
3月26日(金)	 統計報告 令和3年2月手術件数 次年度の麻酔科非常勤医師について インシデント報告 術前 PCR 検査

図書委員会

目的

図書室の運用及びそれに関する事項について審議する。

委員会開催

第1回

開催日:令和2年10月6日(火)

議 題:

- I 来年度予算案について
 - 1. 洋雑誌の選定について
 - 2. 和雑誌の選定について
 - 3. 文献検索等データベースについて
 - 4. 文献取り寄せについて
 - 5. 臨時購入について
- Ⅱ データベース UP TO DATE 購入について

地域医療支援病院運営委員会

目的

委員会は、地域における医療の確保・向上のために必要な支援に係る業務に関し、当該業務が 適切に行われるために必要な事項を審議することを目的とする。

令和2年度 委員会開催

新型コロナウィルスにより開催なし

内 容

・紹介患者実績、紹介率・逆紹介率、救急搬入件数、セミナー開催など、地域医療支援病院承認要件の報告。その他、当院の現状・活動について、今後当院との連携強化に向けて各委員(外部委員)と意見交換を実施。

地域医療連携運営委員会

令和2年度の活動は、病院の組織改編に伴うワーキンググループによる検討に充当した。 患者支援センターの組織改正に伴い、「地域医療連携運営委員会」を廃止し、令和3年4月1 日付けで、「患者支援センター運営委員会」が新設された。

認知症ケアサポート委員会

目的

認知症ケアサポートチームは、病棟における認知症患者へのケアの実施状況を把握するとともに、専門スタッフが病棟職員、家族・家族等に助言等を行い、拘束患者の早期離脱をすすめ、認知症患者への理解を深めながら療養環境の改善を目的とします。

委員会開催

2回/年開催 (必要時に開催)

活動実績

- ・毎週火曜日にミーティング及び、各病棟のラウンドを行い状況の確認・対応方法の検討と対策を 行った。
- ・認知症患者の人数を把握し、各病棟の状況等の把握し、拘束患者の介入を行い拘束からの解放を 行っている。
- ・ミーティングなど認知症・せん妄の状況を把握し判定を行い、対応方法など検討を行った。 認知症ケア加算:4847件(令和2年度)

AST 委員会

目的

院内分離菌の把握、抗菌薬使用状況の把握など抗菌薬適正使用の推進。

毎週火曜日・木曜日、約30分間の抗菌薬ラウンド(カルテラウンド)を実施。

今年度目標 ①抗菌薬使用状況の把握

委員会開催

定例会議 毎月第1木曜日16時00分~(ICT委員会と合同開催)

議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、環境調査、抗菌薬使用状況、その他

◆院内研修会

開催日	テーマ	対象	参加人数
4月2日	新採用者研修会	新採用職員	32 名
4月	新人看護師研修会	新人看護師	21 名
5月1日	COVID-19 説明会	全職員	169名
7月30日、8月6日、 オンデマンド研修	標準予防策と抗菌薬について	全職員	580 名
11月5日、11月 12日、オンデマン ド研修	COVID-19 治療と対策	全職員	511 名

◆抗菌薬適正使用の推進に係る取り組み

抗菌薬ラウンド 週2回 抗菌薬長期使用患者、許可抗菌薬使用患者等のカルテラウンド

病床管理運営委員会

理 念

病床は経営における重要な資源である。原則、全病床は全科共通のものであることを認識し医師及び看護師は常に効率的な入退院を心掛けなければならない。

目的

病床を一元管理し、入院から退院まで円滑かつ効果的に運用することを目的とする。

日 時:令和2年5月25日(月)

議題

- 1 病床管理室の業務(役割)と方針について
- 2 病床管理運営委員会規程について
- 3 科別定床数(案)について
- 4 その他

日 時:令和2年6月18日(木)

議題

- 1 病床管理運営委員会規程(開催)第5条について
- 2 病床管理室規程について
- 3 業務手順書について
- 4 病床管理室施行細則について
- 5 電子カルテ内の病床管理情報ランチャーについて
- 6 その他

日 時:令和2年7月16日(木)

議題

- 1 前回委員会の継続審議事項について
- 2 共通認識について
- 3 入院患者増を想定した今後の病床管理について
- 4 その他

日 時:令和2年8月20日(木)

議題

- 1 コロナ専用病棟と一般病棟の病床について
- 2 イントラインフォメーションについて
- 3 共通認識について(退院予約ルール)
- 4 室料差額ベッド代について
- 5 その他

- 日 時:令和2年9月17日(木)書面開催
- 1 一般病棟の稼動及び利用の推移について
- 2 退院予約入力 (共通認識)の状況について
- 3 その他
- 日 時:令和2年10月15日(木)
- 1 一般病棟の稼動及び利用の推移について
- 2 当日指示退院改善必要件数調査について
- 3 室料差額ベッド代の取り扱いについて
- 4 その他
- 日 時:令和2年11月19日(木)
- 1 一般病棟の稼動及び利用の推移について
- 2 当日指示退院の状況について
- 3 入院中患者の DPC、看護必要度について
- 4 その他
- 日 時:令和2年12月17日(木)
- 1 新入院患者数について
- 2 一般病棟の稼動及び利用の推移について
- 3 入院中患者の DPC、看護必要度について
- 4 その他
- 日 時:令和3年2月18日(木)
- 1 新入院患者数について
- 2 一般病棟の稼動及び利用の推移について
- 3 入院中患者の DPC について
- 4 その他
- 日 時:令和3年3月18日(木)
- 1 病床の状況について
- 2 その他

保険委員会

目的

診療報酬請求の査定状況報告、返戻状況・再審査請求状況の報告、医師への情報提供、医事課 勉強会の報告等を行い、正確な診療報酬請求に繋げる。

委員会開催

第1回

開催日 令和2年6月24日

議 題 ①審査機関による審査結果集計等報告

- ②審査機関による審査結果分析
- ③再審查等対応状況(面談実績、復活率報告、既済対応策等)
- 4)その他

放射線安全委員会

目的

放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保する目的として、当委員会で放射線被ばく等に関する必要な事項を企画、審議する。

委員会開催

開催日:令和3年3月2日

議題:

- ①「ANTM 医用原子力だより 放射線医療について」
- ②「新型コロナウイルス感染症流行下の放射線治療について」

防火防災・災害対策委員会

目的

当院における防火防災の徹底を図り、火災その他の災害による人的及び物的被害を軽減すること、および日本赤十字社災害救護体制要綱、日本赤十字社大阪府支部災害救護体制要綱、高槻赤十字病院BCP災害対策ガイドライン及び高槻赤十字病院災害救護要綱の定めるところに基づき、災害時における災害救護体制に関する事項を審議することを目的とする。

委員会開催

開催日:令和2年7月7日(水)メール回覧 議 題:令和2年度消防訓練の実施について

実施日:令和2年9月29日(火)15時~16時

対 象:新採用職員 22名

看護師18名 薬剤師1名 ME2名 事務1名

内 容:消火訓練・避難 (搬送) 訓練

第2回

開催日:令和2年11月13日(金)メール回覧 議 題:令和2年度全体消防訓練の実施について 実施日:令和2年11月27日(金)15時~16時

対 象:全職員

内 容:出火場所5病棟トイレ

平日時間内に火災が発生し、自衛消防組織を立ち上げ、各地区隊から本部隊への現 状報告訓練及び火災エリアでの初期消火・避難誘導訓練及び本部通報連絡班による消 防署への通報訓練・本部消火班による屋内消火栓を用いた消火訓練等の消防活動が実 際の火災発生時に迅速に実施できるか、アクションカードが活用できるかを検証する とともに、その結果をもとに防火管理体制の改善を行うことを目的に訓練を実施する。

第3回

開催日:令和3年2月4日(木)メール回覧

議 題:令和2年度院内災害訓練の実施について 実施日:令和3年3月11日(木)15時~16時

対 象:対策本部事務職員

内 容:災害対策本部対象の図上訓練

消防訓練開催

『災害時安否確認用メール』テスト配信

実施日:令和2年6月25日(木)

対象者:71名(管理者かつアドレス提供があった者) 結果:返信55名(77.5%) 返信無 16名(22.5%)

第1回 新入職員対象消防訓練

開催日:令和2年9月29日(火)15時~16時

目 的:新入職員に対し消火・避難訓練を行い自衛消防意識の向上を図る

内 容:①消火器を使用しての消火訓練

②屋内消火栓を使用しての放水訓練

③担架・毛布を使用しての応急救護・避難訓練

第2回 全職員対象消防訓練(高槻北消防署予防係)

開催日:令和2年11月27日(金)15時~16時

- 目 的:①火災発生時に適切で迅速な対応ができるよう訓練を行い、併せて職員の防火意識 の向上を図る。
 - ②自衛消防組織の運営及び、各地区隊作成のアクションカードの検証を行い防火活動の改善を図る。
 - ③自衛消防本部の情報をWebで地区隊へ配信するテストを行い情報伝達の効率を 検証する。

④エアストレッチャーを用いた避難を行い機材の習熟を図る。

内 容: I. 通報連絡訓練 (院内通報・消防署 119 番通報)

- Ⅱ. 初期消火訓練(消火器・屋内消火栓)
- Ⅲ. 避難誘導訓練(エアストレッチャー)
- Ⅳ. アクションカードの検証
- V. We b配信テスト (本部⇒1 F診療部門

第3回 本部要員対象災害訓練(図上訓練)

開催日:令和3年3月11日(木)15時~16時

目 的:①地震により発生した災害及び閉じ込め等被害を想定し災害対策本部活動の図上訓練 を実施し手順の確認を行う

②災害対策本部の運営を通じ行動チェックシートの検証を行う

内容:大阪府北部で最大震度6強 30分後に震度5弱の余震が発生

- I. 災害対策本部設営
- Ⅱ.病院の被害状況確認
- Ⅲ.インフラ状況確認
- Ⅳ.院外負傷者など外部状況確認

薬事委員会

目的

医薬品や検査試薬等の採用や削除について、医師の依頼に基づいて適正に審議することが目的。 不良在庫の見直しによる採用薬品数の削減も、薬剤部の提案により本委員会で検討される。

後発品への切り替えは、DPC 導入もあり病院経営の観点からも重要である。後発品の品質・供給体制等を考慮し、薬剤部より提案のうえ本委員会にて審議している。

委員会開催

<第1回>

開催日 令和2年6月5日

議 題 1. 仮採用依頼品目の審議

- 2. 院外採用依頼品目の審議
- 3. 採用中止候補品目の審議
- 4. 仮採用品目の本採用審議
- 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
- 6. その他の報告・審議・承認依頼事項
- 7. 6ヶ月院内処方がない品目の採用中止報告
- 8.5ヶ月院内処方がない品目の報告
- 9. 国内承認薬の適応外使用についての審議 [消化器内科]議

<第2回>

開催日 令和2年7月3日

議 題 1. 仮採用依頼品目の審議

- 2. 院外採用依頼品目の審議
- 3. 採用中止候補品目の審議
- 4. 仮採用品目の本採用審議
- 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
- 6.6ヶ月院内処方がない品目の採用中止報告

- 7.5ヶ月院内処方がない品目の報告
- 8. 国内承認薬の臨床試用薬品の使用申請について [糖尿病内分泌生活習慣病科]
- 9. 国内承認薬の適応外使用についての審議 [整形外科]
- 10. 国内承認薬の適応外使用についての審議 [消化器内科]

<第3回>

開催日 令和2年8月7日

議 題 1. 仮採用依頼品目の審議

- 2. 院外採用依頼品目の審議
- 3. 採用中止候補品目の審議
- 4. 仮採用品目の本採用審議
- 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
- 6. その他の報告・審議・承認依頼事項
- 7.6ヶ月院内処方がない品目の採用中止報告
- 8.5ヶ月院内処方がない品目の報告
- 9. 後発品切替についての審議

<第4回>

開催日 令和2年9月4日

議 題 1. 仮採用依頼品目の審議

- 2. 院外採用依頼品目の審議
- 3. 採用中止候補品目の審議
- 4. 仮採用品目の本採用審議
- 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
- 6.6ヶ月院内処方がない品目の採用中止報告
- 7.5ヶ月院内処方がない品目の報告
- 8. 後発品切替についての審議
- 9. 国内承認薬の適応外使用についての審議 [消化器内科]

<第5回>

開催日 令和2年10月2日

議 題 1-9 第3回と同様

10. インフルエンザワクチンの供給状況について

<第6回>

開催日 令和2年11月6日

議 題 1. 仮採用依頼品目の審議

- 2. 院外採用依頼品目の審議
- 3. 採用中止候補品目の審議
- 4. 仮採用品目の本採用審議
- 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
- 6.6ヶ月院内処方がない品目の採用中止報告
- 7.5ヶ月院内処方がない品目の報告
- 8. 後発品切替についての審議

<第7回>

開催日 令和2年12月4日

議 題 1-8 第6回と同様

<第8回>

開催日 令和3年1月5日

議 題 1-8 第6回と同様

9. 国内承認薬の臨床試用薬品の使用申請について [糖尿病内分泌生活習慣病科]

令和2年度の振り返り

令和2年度は、新型コロナウイルスの診療に関連した医薬品の供給量増加と製薬会社の自主回収に伴う出荷制限等が数社で起こり、医薬品の在庫確保や代替薬の決定等に苦慮したが、通常診療への影響は最小限に留めることができた。これは、委員会等で医薬品の供給状況を報告し、医師の協力が得る事ができたことが大きかった。

また、今まで採用薬品数の増加を抑える為、1 薬効 1 品目が妥当と考えていたが、この 1 品目が出荷停止になった場合、同効薬を扱う他社は既存先の安定供給を確保する為、出荷制限・新規の取引を中止する対応をとる。今回、1 薬効 2 品目を採用していた為、出荷制限が出されても、もう 1 社で対応することができ、患者への不利益は回避することができた。今後は、出荷制限になった時を考慮して、医薬品の安定供給につながるよう、リスク分散しながら、採用品目数の適正化を目指していきたい。

後発品への切り替えは引き続き行い、使用量ベースで85%以上を維持することにより、後発品使用体制加算1の取得も維持できた。引き続き、後発品使用体制加算1の取得維持と、医薬品購入額の抑制に努めたい。

以上

幹事 美和 孝之

輸血療法委員会

目的

適正かつ安全な輸血療法の推進を目的とすること。

委員会開催

第1回

開催日:2020年4月8日

議 題:① 2019 年度 輸血用血液製剤損失額報告

- ②アルブミン、FFP の使用について
- ③輸血副作用報告件数

第2回

開催日:2020年5月13日

議 題:①アルブミン、FFPの使用について

②輸血副作用報告件数

③「新型コロナウイルスと輸血に関する現時点での知見」お知らせ

第3回

開催日:2020年6月3日

議 題:①アルブミン、FFPの使用について

- ②輸血副作用報告件数
- ③重症輸血副作用報告(血液センターへ詳細調査依頼事例)

第4回

開催日:2020年7月1日

議 題:①アルブミン、FFPの使用について

②輸血副作用報告件数

第5回

開催日:2020年8月5日

議題:①アルブミン、FFPの使用について

- ②輸血副作用報告件数
- ③輸血用血液製剤に対する HEV-NAT 導入のお知らせ
- ④血液センターからの輸血副作用詳細調査報告

臨時委員会開催

開催日:2020年8月13日

議 題:AML 患者の治療における大量輸血依頼からの過剰在庫の報告

第6回

開催日:2020年9月2日

議 題:①アルブミン、FFPの使用について

- ②輸血副作用報告件数
- ③ B 型輸血用血液製剤過剰在庫の現状について

第7回

開催日:2020年10月7日

議 題:①アルブミン、FFPの使用について

- ②輸血副作用報告件数
- ③土日祝日の輸血依頼について
- ④異型輸血実施と製剤廃棄の報告
- ⑤輸血後感染症検査について
- ⑥輸血マニュアル改訂案
- ⑦輸血依頼指示について
- ⑧輸血勉強会のお知らせ

第8回

開催日:2020年11月4日

議 題:①アルブミン、FFPの使用について

- ②輸血副作用報告件数
- ③血液センターからのお知らせ (緊急輸送依頼証明書の変更について)
- ④輸血マニュアル改訂案
- ⑤輸血依頼指示について(前回の続き)

第9回

開催日:2020年12月2日

議 題:①アルブミン、FFP の使用について

- ②輸血副作用報告件数
- ③輸血に関するインシデントの改善策について

第10回

開催日:2021年1月6日

議 題:①アルブミン、FFPの使用について

- ②輸血副作用報告件数
- ③インシデント改善策を受けての輸血マニュアル改訂案

第11回

開催日:2021年2月3日

議 題:①アルブミン、FFPの使用について

- ②輸血副作用報告件数
- ③重症輸血副作用報告(血液センターへ詳細調査依頼事例)

第12回

開催日:2021年3月3日

議 題:①アルブミン、FFPの使用について

②輸血副作用報告件数

輸血勉強会の開催

第1回

テーマ:輸血副作用や製剤の取り扱いについて

開催日:2020年10月12日(月)

倫理委員会

目的

当院で行われるヒトを対象とした医学の研究及び臨床応用についての「医の倫理」に関する事項をヘルシンキ宣言(2013年WMAフォルタレザ総会修正)の趣旨に添い審議することを目的とする。

委員会開催

第1回

開催日:令和2年6月26日

議 題:①一般病棟入院患者に対する看護ケアとしてのアロマセラピーマッサージの実施 (承認番号 H29-28 の部分変更) (看護部)

- ② HER 2 陽性癌に対する Nab-paclitaxel+Pertuzumab+Trasyuzumab followed by Anthracycline based regimen 併用術前化学療法臨床第 II 相試験(多施設共同 第 II 相臨床試験) (乳腺外科)
- ③少量 ATG とステロイドを用いる HLA 半合致移植 (血液腫瘍内科)
- ④コロナウィルス肺炎(CoVP)とインフルエンザウィルス肺炎(InVP)非ウィルス 性市中肺炎(n VCAP)の臨床像に関する多施設共同研究 (呼吸器科)

第2回

開催日: 令和2年10月20日

議 題:①COVID-19 後遺症に関する実態調査 (呼吸器科)

②骨髄腫関連疾患患者の臨床データおよび治療経過に関する疫学観察研究の登録に関する許可(H29-44の部分変更)(血液腫瘍内科)

第3回

開催日:令和3年2月16日

議 題:①全自動遺伝子検出システム クリニカル PCR(c PCR) の性能評価 (呼吸器科)

- ② SARS-CoV-2 疑似症患者における SARS-CoV-2 抗体価の検討 (呼吸器科)
- ③ 2021 年に外科治療を施行された肺癌症例のデータベース研究:

肺癌登録合同委員会第11次事業 (呼吸器外科)

④総胆管結石に対する CT、MRCPEUS (超音波内視鏡) (消化器科)

⑤京都造血幹細胞移植グループの造血幹細胞移植データを用いた移植成績の解析 (血液腫瘍内科)

書類審議

実施日:令和2年4月10日

議 題:①新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するヒドロキシクロロキン硫酸塩の有効性・安全性の検証 (感染管理室)

- ②コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する抗ウイルス薬の有効性・安全性の検討 (感染管理室)
- ③ Japan Endoscopy Datbase (消化器内視鏡に関連する疾患、治療手技データベース構築) への参加について (消化器科)
- ④胃 ESD (内視鏡的粘膜下層剥離術)、非治癒切除後の長期予後と年齢、e-Cura System, Charlson Risk Index, Prognostic Nutritional Index との検討 (消化器科)
- ⑤マルチベンドスコープを使用した胃・食道・大腸の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) の有用性・安全性の検討 (消化器科)
- ⑥大腸 T 1 癌の予後に関する多施設共同前向きコホート研究(H29- 1 の期間延長) (消化器科)
- ⑦『H29-31』日本人2型糖尿病患者および非糖尿病患者における栄養知識のアンケート調査の解析にあたってオプトアウトを行なう (糖尿病・内分泌・代謝内科)
- ⑧胆道狭窄に対するステント留置術の合併症、ステント開存率、予後についての retorospective な解析 (消化器科)
- ⑨ EUS-FNA の診断能、合併症率やそれらに関連する因子についての retorospective な解析 (消化器科)
- ⑩「単一遺伝子異常による糖尿病の成因・診断・治療に関する調査研究」について、調査研究施設及び事務局の変更についてと分担責任者の追加 (糖尿病・内分泌・代謝内科)
- ①「ウイルス性肝炎の薬剤耐性が及ぼす病態変化に関する研究(多施設共同)」に関する一部変更に関して (消化器科)

実施日:令和2年9月28日

議 題:①臍帯血移植後患者の再入院率、再入院の理由と LTFU 外来の関連性 (血液腫瘍内科)

- ②肺がん患者のロゼウス投与による静脈炎の実態 (看護部)
- ③ CAG、PCI 後「ゼメックス止血システムとめ太くん」使用例における圧迫時間と水 疱・出血の関連性について ~新旧プロトコールの比較検討~ (看護部)

実施日:令和2年12月9日

議 題:①特発性肺線維症における白血球テロメア長と血中バイオマーカーおよび臨床指標の 関連についての検討 (呼吸器科)

- ② Edwardsiella tarda は細胞内寄生菌か。 (救急部)
- ③めまい診断における眼球運動解析の有用性についての検討 (耳鼻咽喉科)

- ④京都造血幹細胞移植グループの造血幹細胞移植データを用いた移植成績の解析 (血液腫瘍内科)
- ⑤大腿筋膜の採取が股関節周囲筋に与える影響 (整形外科)
- ⑥肺癌・中皮腫症例レジストリ研究 (呼吸器科)

実施日:令和2年12月16日

議 題:① COVID-19 感染が拡大する状況において訪問看護ステーションの管理者が感じている課題 (看護部)

臨床検査適正化委員会

目的

臨床検査の適正なる運営を推進すること。

第219回

開催日 2020年4月14日

- 1. 3月分 院内測定項目 実績件数
- 2. 新型コロナウイルス陽性 (疑い患者含む) の外部委託検査の出検不可
- 3. アルカリフォスファターゼ (ALP) と乳酸脱水素酵素 (LD) の移行作業が完了
- 4. 電子カルテ報告の HIV 閲覧制限の解除
- 5. 乳び表記の見直し
- 6. 外注検査の変更項目
 - ・カンジダ抗原検査の中止カンジダマンナン抗原開始
 - ・総ホモシステイン検査法の変更

第 220 回

開催日 2020年5月8日

- 1. 4月分 院内測定項目 実績件数
- 2. 新型コロナウイルス陽性 (疑似症含む) の外部委託検査の出検制限
- 3. 新型コロナウイルス PCR 検査の院内導入
- 4. 複数科の採血オーダーについて

第 221 回

開催日 2020年6月8日

- 1. 5月分 院内測定項目 実績件数
- 2. 新型コロナウイルス陽性(疑似症含む)の外部委託検査の出検制限
- 3. 新型コロナウイルス PCR 検査の院内導入
- 4. 日本臨床衛生検査技師会(日臨技)の精度管理調査
- 5. 新規外部委託検査項目
 - ・ラコサミド血中薬物濃度
 - ・組織トランスグルタミナーゼ IgA
- 6. 血液ガス分析による乳酸 (ラクテート) 測定について

第 222 回

開催日 2020年7月13日

- 1. 6月分 院内測定項目 実績件数
- 2. 尿中レジオネラ抗原検査の試薬変更について

現行試薬:レジオネラ 血清型1型(9型の一部)のみ

新規試薬:レジオネラ 血清型1型~15型

3. 新型コロナウイルス抗原検査の院内導入

第 223 回

開催日 2020年8月11日

- 1. 7月分 院内測定項目 実績件数
- 2. 新型コロナウイルス抗原検査の報告時間短縮について
- 3. 新規の外部委託項目

寄生虫症免疫診断検査

受託先: 宮崎大学医学部 寄生虫学講座寄生虫学分野

第 224 回

開催日 2020年9月8日

- 1. 8月分 院内測定項目 実績件数
- 2. 日本臨床衛生検査技師会 精度管理調査 結果報告
- 3. 新規の外部委託項目
 - ・ロイシンリッチ α 2 グリコプロテイン (LRG)
 - ・赤血球・好中球表面抗原検査 (PNH:CD59 × CD55)
 - ・HLA 抗体スクリーニング検査
- 4. 中止の外部委託項目
 - ・下垂体抗体、ヒトヘルペスウイルス6型抗体 IgG、IgM
- 5. 年間の検査件数の現状把握について
- 6. 末梢血液像目視検査の実施基準の変更案について

第 225 回

開催日 2020年10月14日

- 1. 9月分 院内測定項目 実績件数
- 2. 新規の外部委託項目
 - ・多発性骨髄腫マルチパラメーターフローサイトメトリー
- 3. 末梢血液像目視検査の件数抑制のための取り組み
- 4. NT-Pro-BNP の新規院内化の要望について
- 5. 経時変化の顕著な院内項目の追加懸念ついて
 - ・アンモニア、BNP、プロカルシトニン

第 226 回

開催日 2020年11月10日

- 1. 10月分 院内測定項目 実績件数
- 2. 新規の外部委託項目
 - TGF- β 1
- 3. 基準範囲変更の項目
 - ・総プロテイン S、遊離型 PS
- 4. 末梢血液像目視検査の件数抑制のための取り組み
- 5. SARS-CoV-2 PCR 法の検査試薬変更
- 6. NT-Pro-BNP の院内化について
- 7. 保険未収載項目の個別申請の免除申請について

第 227 回

開催日 2020年12月8日

- 1. 11 月分 院内測定項目 実績件数
- 2. 新規の外部委託項目
 - ・GM-CSF 抗体
 - ·KMT2A(MLL)11q23.3 転座
- 外注検査(便中カルプロテクチン)の報告日数短縮のため検査法を変更 採便容器変更、基準範囲変更 240mg/kg → 300 μ g/g
- 4. 2020年度 年末年始体制について
- 5. 保険未収載項目の個別申請の免除申請について
- 6. COVID-19 患者(疑似症)採血検体の保管について 血清に限り24時間保管
- 1月の委員会は新型コロナの影響で中止

第 228 回

開催日 2020年2月9日

- 1. 12月分 院内測定項目 実績件数
- 新型コロナウイルス抗体 院内測定について SARS Cov2 抗体 N-IgG、S-IgM
- 3. 血液ガス検査トラブルについて
- 4. 新型コロナウイルス予後予測因子として2項目が保険収載
 - ・IL-6 (インターロイキン -6)
 - IFN- λ 3 ($4 \times 9 7 \times 10^{2} \times 10$
- 5. 外部委託検査 中止
- 6. 可溶性 IL-2 レセプター (sIL-2R) の院内化検討について
- 7. TSH の調和化:ハーモナイゼーションの取り組みについて
- 8. BRCA 1/2 切除不可膵癌にも保険適応

第 229 回

開催日 2020年3月9日

- 1. 1月分 院内測定項目 実績件数
- 2. 新規の外部委託項目

IFN- λ 3 (インターフェロン - λ 3)

- 3. 可溶性 IL-2 レセプター (sIL-2R) の院内化について
- 4. BRCA 1/2 遺伝子解析の進捗について
- 5. 医師会精度管理調査の結果について
- 6. 腹水検査におけるインシデント発生による再発防止策の検討

労働安全衛生委員会 (令和2年4月~令和3年3月)

- 日 時 令和2年4月20日(月)16:00~16:20
- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 - 2.6月職員定期健康診断について
 - 3. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者報告
 - (2)産業医1名追加報告
 - (3)昨年のストレスチェックの部署別結果を各部署上長へ順次報告
- 日 時 令和2年6月15日(月)16:00~16:07
- 議 案 1.新委員挨拶
 - 2. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 - 3.6月職員定期健康診断について
 - 4. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者報告
- 日 時 令和2年7月27日(月)16:00~16:25
- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 - 2.6月職員健診受診報告について
 - 3. ストレスチェックについて
 - 4. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者報告
- 日 時 令和2年8月17日(月)16:00~16:15
- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 - 2. ストレスチェックについて
 - 3. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者報告
 - (2)職員の年次有給休暇取得状況について

- 日 時 令和2年9月28日(月)16:00~16:15
- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 - 2. ストレスチェックについて
 - 3. インフルエンザワクチン予防接種について
 - 4. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者報告について
 - (2)職員健診結果配布について
- 日 時 令和2年10月19日(月)16:00~16:17
- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 - 2. ストレスチェックについて
 - 3. インフルエンザワクチン予防接種について
 - 4. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者報告について
 - (2)改正電離放射線障害防止規則ついて
- 日 時 令和2年11月16日(月)16:00~16:30
- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 - 2. ストレスチェックについて
 - 3. インフルエンザワクチン予防接種について(報告)
 - 4. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者報告について
 - (2)改正電離放射線障害防止規則ついて(松原課長より)
- 日 時 令和2年12月22日(火)16:00~16:15
- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 - 2. ストレスチェックについて
 - 3. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者報告について
 - (2)冬の健康診断について
 - (3)研修医の日当直回数について
- 日 時 令和3年1月18日(月)16:00~16:32
- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 - 2. 冬の健康診断について
 - 3. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者報告について
 - (2)健康情報等の取扱規程について
 - (3)頭頸部ガラスバッチについて
 - (4)新型コロナウイルス感染症ワクチン接種について

- 日 時 令和3年2月15日(月)16:00~16:26
- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 - 2. 冬の健康診断について (報告)
 - 3. 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種について
 - 4. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者報告について
- 日 時 令和3年3月15日(月)16:00~16:10
- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 - 2. 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種について
 - 3.休職者のしおりについて
 - 4. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者報告について
 - (2) 電離放射線障害防止規則改定に伴う契約変更結果について

褥瘡委員会

目的

高槻赤十字病院において褥瘡対策を円滑に推進するため、院内褥瘡対策について討議検討し、 その効果的な推進を図ることを目的とする。

委員会

褥瘡対策の実際としては毎週、褥瘡対策チームが回診を行い、ベッドサイドカンファレンスでケアの評価、及び処置を実施・指導している。褥瘡委員会の下部組織として、褥瘡リンクナース会を設置し、各病棟にリンクナースを配置して褥瘡対策に取り組んでいる。

院内発生褥瘡について DESIGN-R で深さ d2 以上の褥瘡発生件数は 24 件で、推定発生率は 0.8%、褥瘡有病率は 2.2%であった。深さ d2 以上の持ち込み褥瘡は 44 件あり、部位は仙骨部が 1 番多く、次いで踵部が多かった。

MDRPU(医療関連機器圧迫創傷)に関しては6件で、うち NPPV マスクによるものが3件であった。

また、COVID-19 関連の褥瘡は 4 件あり、院内発生 2 件、持ち込み 2 件であった。 褥瘡ハイリスク患者ケア加算は 901 件算定した。

患者サービス向上委員会

目的

患者サービス向上委員会は医療や患者へのサービスの充実を図り、患者の満足度や職員のモラルを高めることを目的とします。

委員会開催

原則月1回、第4水曜日16時

- ○第22回患者サービス向上委員会(今年度1回目) 令和2年5月27日(水) 今年度の計画・委員会の運営について検討
- ○第23回患者サービス向上委員会(2回目) 令和2年6月24日(水) 満足度調査実施・修繕対象・研修会実施について検討
- ○第24回患者サービス向上委員会(3回目) 令和2年7月29日(水) 満足度調査実施・修繕対象について検討
- ○第25回患者サービス向上委員会(4回目) 令和2年9月30日(水) 満足度調査実施・検尿室の修繕内容について検討
- ○第26回患者サービス向上委員会(5回目) 令和2年10月28日(水) 満足度調査実施時期・内容および役割分担について検討
- ○第27回患者サービス向上委員会(6回目)令和2年11月26日(木)中止
- ○第28回患者サービス向上委員会(7回目)令和2年12月24日(木)令和3年1~3月委員会の活動内容について検討
- ○第29回患者サービス向上委員会(8回目) 令和3年2月25日(木)入院および職員満足度調査の実施について (満足度調査役割分担の決定)
- ○第30回患者サービス向上委員会(9回目) 令和2年3月24日(水) 入院および職員満足度調査の結果(速報)の報告 今年度の振り返り

その他の活動実績

- ○令和3年2月12日 1階女子検尿室トイレ リニューアル
- ○入院満足度調査の実施

調査期間 :令和3年3月3日(火)~令和3年3月9日

調査対象者:令和3年3月3日時点の在院患者

○職員満足度調査の実施

調査期間 : 令和3年3月8日(月)~令和3年3月14日(日)

血液浄化療法委員会

目的

血液浄化療法室および病棟等で行われる血液浄化療法の運営と管理に必要な事項を審議する。

委員会開催

第1回

開催日 令和2年7月29日

議 題 ①「血液浄化療法における収益について」報告

②「血液浄化療法室の今後の運用について」 審議

病院新築移転構想検討委員会

目的

当院の将来構想に基づき、病院の新築または移転について検討し構想を策定する。

委員会開催

令和2年度は開催なし

臨床倫理委員会

目的

臨床における倫理的な判断が困難な症例、病院としての見解が必要と判断されること、その他、 臨床における倫理的判断が困難事例に関することを審議する。

委員会開催

開催日 令和2年4月15日

議 題 新型コロナウイルス感染症の診療における倫理的課題について

医療放射線管理委員会

目的

医療法施行規則 第一条の十一に則り、放射線に関わる検査の適正な運用を推進する。

委員会開催

開催日 令和2年3月2日(月)

議 題 1. 医療法施行規則改正について (スライドで説明)

- 2. 医療安全研修会を1で使用したスライドを用いて行うことについて
- 3. 放射線課 WG で作成した
 - ①診療用放射線安全管理指針
 - ②医療放射線管理委員会規定
 - ③検査前被ばく説明書

についての承認

開催日:令和3年2月24日(水)

議題:1. 医療被ばく管理についての現状報告 (DRL s 2020)

- 2. 令和2年度当院の管理状況報告(記録・管理)
- 3. 令和2年度の研修についての承認
- 4. その他

病床再編成検討・検証委員会

目的

当院の将来構想に基づき、短期・中期の病棟再編成を検討・検証する。

委員会開催

第1回

開催日:令和2年5月26日

議 題:① 2020年5月入院患者数推移及び病棟別稼働率集計について

- ②各病棟の診療科編成について
- ③2病棟の返還時期について
- ④4病棟の取扱いについて
- ⑤その他

第2回

開催日:令和3年2月17日

議 題:①病床稼働状況(統計報告)について 統計資料(コロナ禍での稼動状況検証)

- ②病床規模の検討について(104床返還について)
 - 2.1 現状の許可病床数と稼動病床数
 - 2.2 新たな病床機能の再編支援について
 - 2.3 2020年度(令和2年度)決算見込み
- ③その他

「茨木市病院誘致のあり方検討委員会」動向(報告)

Ⅲ 誌上・講演発表

《誌上》

糖尿病・内分泌・生活習慣病科

原 著

著者	題名	誌名・巻 (号):頁	発 行
Mitsuhisa Komatsu Hirotaka Watada, Shizuka Kaneko, Bue F Ross Agner, Tomoyuki Nishida, Kohei Kaku	Efficacy and safety of the fixed-ratio combination of insulin degludec and liraglutide by baseline HbA1c, body mass index and age in Japanese individuals with type 2 diabetes: a subgroup analysis of two phase 3 trials.	Journal of Diabetes Investigation 12(9):1610-1618 DOI: 10.1111/jdi.13525	2021年2月 Epub 2021年 3月24日
Tomoyuki Katsuno Toshihiko Shiraiwa, Shingo Iwasaki, Hyohun Park, Nobuaki Watanabe, Shizuka Kaneko, Jungo Terasaki, Toshiaki Hanafusa, Akihisa Imagawa, Iichiro Shimomura, Hiroshi Ikegami, Hidenori Koyama, Mitsuyoshi Namba, Jun-Ichiro Miyagawa, TRUST2 study group	Benefit of Early Add-on of Linagliptin to Insulin in Japanese Patients With Type 2 Diabetes Mellitus: Randomized-Controlled Open-Label Trial (TRUST2).	Advances in Therapy 38(3):1514-1535 DOI: 10.1007/s12325-021-01631-y.	2021年3月 Epub 2021年 1月28日
Shizuka Kaneko João Diogo da Rocha Fernandes, Yuiko Yamamoto, Jakob Langer Mads Faurby	A Japanese Study Assessing Glycemic Control With Use of IDegAsp Co-Formulation in Patients With Type 2 Diabetes in Clinical Practice: The JAGUAR Study	Advances in Therapy 38(3):1638-1649 doi: 10.1007/s12325-021-01623-y.	2021年3月 Epub 2021年 2月9日

総 説 等

総 祝 守			
著者	題名	誌名・巻 (号):頁	発 行
金子 至寿佳	体と心	保健総合大百科 2020 中・高校 編 P77、78	2020 年 4 月 少年写真新聞社
金子 至寿佳	特集 糖尿病の合併症(腎・眼・心血管疾患) - 新しい抗糖尿病薬で予後は変わるか - 『GLP-1 受容体作動薬と 腎・眼疾患』	Current Therapy vol.38 No.4 P354-360	2020年4月
金子 至寿佳	特集「糖尿病診療 update- 最新 の診断と治療 -」 進化するインスリン治療	日本臨牀 78巻7号 P1158-1166	2020年7月
出口 真弓 野村 真美、和田 勝行、 上家 和子、金子 至寿佳	ビッグデータからみた生活習慣 病 (NCD) の実態 〜匿名レセプト情報・匿名特定 健診等情報データベース (NDB) による臨床像の解析〜	日本医師会総合政策研究機構 ワーキングペーパー No.451	2021年1月

著者	題名	誌名・巻 (号):頁	発 行
上家 和子 和田 勝行、野村 真美、 出口 真弓、金子 至寿佳	健康リテラシー涵養のための試 行 ~何を伝えるか、どのように 伝えるか~		2021年3月

緩和ケア

総説等

著者	題 名	誌名・巻 (号):頁	発 行
橋本 典夫	「泰然自若」を目指そう	LiSA 27 巻別冊 2020 春号 P7-10	2020年4月

血液内科

原 著

原 省			
著者	題名	誌名・巻 (号):頁	発 行
Matsui H Arai Y, Imoto H, Mitsuyoshi T, Tamura N, Kondo T, Kanda J, Ishikawa T, Imada K, Ueda Y, Toda Y, Anzai N, Yago K, Nohgawa M, Yonezawa A, Tsunemine H, Itoh M, Yamamoto K, Tsuji M, Moriguchi T, Takaori-Kondo A, Kyoto Stem Cell Transplantation Group (KSCTG)	Risk factors and appropriate therapeutic strategies for thrombotic microangiopathy after allogeneic HSCT	Blood Advances 4(13):3169-3179	2020年7月
Mizuki Watanabe Kanda J, Arai Y, Hishizawa M, Nishikori M, Ishikawa T, Imada K, Ueda Y, Akasaka T, Yonezawa A, Nohgawa M, Kitano T, Itoh M, Takeoka T, Moriguchi T, Yago K, Arima N, Anzai N, Watanabe M, Kondo T, Takaori-Kondo A, Kyoto Stem Cell Transplantation Group (KSCTG)	Impact of Donor Source on Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Mature T Cell and Natural Killer Cell Neoplasms in the Kyoto Stem Cell Transplantation Group	Biol Blood Marrow Transplant. 26(12):2346-2358	2020年12月

呼吸器科

原 著

著 者	題名	誌名・巻 (号):頁	発 行
後藤 健一 鳳山 絢乃、野溝 岳、 長谷川 浩一、深田 寛子、 中村 保清、北 英夫、 松下 めぐみ	当院におけるインフルエンザ入 院診療、および抗インフルエン ザ薬の影響		2020年7月

著者	題名	誌名・巻 (号):頁	発 行
Murase K Tanizawa K, Minami T, Matsumoto T, Tachikawa R, Takahashi N, Tsuda T, Toyama Y, Ohi M, Akahoshi T, Tomita Y, Narui K, Nakamura H, Ohdaira T, Yoshimine H, Tsuboi T, Yamashiro Y, Ando S, Kasai T, Kita H, Tatsumi K, Burioka N, Tomii K, Kondoh Y, Takeyama H, Handa T, Hamada S, Oga T, Nakayama T, Sakamaki T, Morita S, Kuroda T, Hirai T, Chin K	A Randomized Controlled Trial of Telemedicine for Long-Term Sleep Apnea Continuous Positive Airway Pressure Management	Annals Of the American Thoracic Society 17(3):329-337	2020年3月
Hasegawa K Toriyama A, Nomizo T, Fukata H, Goto K, Nakamura Y, Hamada T, Kanda N, Kita H	Bilateral pleural empyema by Enterobacter infection secondary to pancreaticopleural fistula	Clinical Case Reports 8(12):3328-3332	2020年10月
Sunadome H Matsumoto H, Tohda Y, Horiguchi T, Kita H, Kuwabara K, Tomii K, Otsuka K, Fujimura M, Ohkura N, Iwanaga T, Hozawa S, Niimi A, Kanemitsu Y, Nagasaki T, Tashima N, Ishiyama Y, Morimoto C, Oguma T, Tajiri T, Ito I, Ono J, Ohta S, Izuhara K, Hirai T	Assessment of serum periostin level as a predictor of requirement for intensive treatment for type-2 inflammation in asthmatics in future: A follow-up study of the KiHAC cohort	Allergology International 70(2):252-254 doi: 10.1016/j.alit.2020.10.006	2021年4月 Epub 2020年 11月
Tsuji T Ozasa H, Aoki W, Aburaya S, Yamamoto Funazo T, Furugaki K, Yoshimura Y, Yamazoe M, Ajimizu H, Yasuda Y, Nomizo T, Yoshida H, Sakamori Y, Wake H, Ueda M, Kim YH, Hirai T	YAP1 mediates survival of ALK-rearranged lung cancer cells treated with alectinib via pro-apoptotic protein regulation	Nature Communications 11(1):74"	2020年1月
Tanimura K Sato S, Sato A, Tanabe N, Hasegawa K, Uemasu K, Hamakawa Y, Hirai T, Muro S	Low serum free light chain is associated with risk of COPD exacerbation	ERJ Open Research 6(2):00288-2019"	2020年7月

著者	題 名	誌名・巻 (号):頁	発 行
Yoshida H Nomizo T, Ozasa H, Tsuji T, Funazo T, Yasuda Y, Ajimizu H, Yamazoe M, Kuninaga K, Ogimoto T, Hosoya K, Itotani R, Sakamori Y, Kim YH, Hirai T	PD-L1 polymorphisms predict survival outcomes in advanced non-small-cell lung cancer patients treated with PD-1 blockade	European journal of cancer 144:317-325 doi: 10.1016/j.ejca.2020.11.035	2021年2月 Epub 2020年 12月

消化器外科

企 画

著者	題名	誌名・巻 (号):頁	発 行
平松 昌子	理想の男女共同参画を目指して 日本外科学会女性理事としての 役割	日本外科学会雑誌 122 巻 1 号 P5-6	2021年1月

症例報告

著者	題名	誌名・巻 (号):頁	発 行
坂根 純奈 小林 稔弘、平松 昌子、 恒松 一郎、サンフォード 舞子、 鈴木 悠介、園村 純	放射線脳壊死に対し bevacizumab が有効であった 乳癌脳転移の 1 例	日本臨床外科学会雑誌 82 巻 2 号 P367-372	2021年2月

特別寄稿

著 者	題 名	誌名・巻 (号):頁	発 行
小西 敏郎	外科医減少に対する具体的な戦	日本臨床外科学会雑誌	2021年2月
平松 昌子	略	82 巻 2 号 P309-310	

皮膚科

原 著

著者	題 名	誌名・巻 (号):頁	発 行
Kuninaka Y Ishida Y, Nosaka M, Shimada E, Kimura A, Ozaki M, Hata S, Michiue T, Yamamoto H, Furukawa F, Eisenmenger W, Kondo T	Forensic pathological study on temporal appearance of dendritic cells in skin wounds	Int J Legal Med. 134(2):597-601 doi: 10.1007/s00414-019- 02185-z	2020年
Nosaka M Ishida Y, Kuninaka Y, Taruya A, Kimura A, Shimada E, Yamamoto H, Michiue T, Furukawa F, Kondo T	The application of autophagy to thrombus age estimation in murine deep vein thrombosis model	Int J Legal Med. 134(3):1061-1066 doi: 10.1007/s00414-019- 02168-0	2020年
Okuhira H Nakatani Y, Furukawa F, Kanazawa N	Anaphylaxis to ginger induced by herbal medicine	Allergol Int. 69(1):159-160 doi10.1016/j.alit.2019.08.009	2020年

著者	題名	誌名・巻 (号):頁	発 行
Ishida Y Kuninaka Y, Yamamoto Y, Nosaka M, Kimura A, Furukawa F, Mukaida N, Kondo T	Pivotal involvement of the CX3CL1-CX3CR1 axis for the recruitment of M2-TAMs in skin carcinogenesis	J Invest Dermatol. 140(10):1951-1961.e6 doi: 10.1016/j.jid.2020.02.023	2020年
Elman SA Joyce C, Braudis K, Chong BF, Fernandez AP, Furukawa F, Hasegawa M, Kim HJ, Li SJ, Lian CG, Szepietowski JC, Werth VP, Merola JF	Creation and validation of classification criteria for discoid lupus erythematosus (DLE)	JAMA Dermatol. 156(8):901-906 doi:10.1001/ jamadermatol.2020.1698	2020年
Hirakawa Y Futaki S, Furukawa F, Kondo Y, Moriwaki S	Acute changes in nidogen - 1 expression in the epidermal basement membrane of a 3 - dimensional cultured human skin model after ultraviolet B irradiation	Photodermatol Photoimmunol Photomed. 36(6):499-502 doi: 10.1111/phpp.12607	2020年
Ikeda T Kawakami T, Arimura Y, Ishiguro N, Ishizu A, Ito F, Ito-Ihara T, Okiyama N, Ono S, Suzuki K, Sugawara K, Seishima M, Kodera M, Tanaka M, Hasegawa M, Furukawa F, Yamaguchi Y, Yoshizaki A	Revised committee for guidelines for the management of vasculitis and vascular disorders of the Japanese Dermatological Association: Survey of Japanese dermatological vasculitis specialists on cases of cutaneous arteritis (cutaneous polyarteritis nodosa)	J Dermatol. 47(5):534-537 doi: 10.1111/1346- 8138.15273	2020年
Ayaki T Murata K, Kanazawa N, Uruha A, Ohmura K, Sugie K, Kasagi S, Li F, Mori M, Nakajima R Sasai T, Nishino I Ueno S, Urushitani M, Furukawa F, Ito H, Takahashi R	Myositis with sarcoplasmic inclusions in Nakajo-Nishimura syndrome: a genetic inflammatory myopathy	Neuropathol Appl Neurobiol. 46(6):579-587 doi: 10.1111/nan.12614.	2020年
Morino I Okuno A, Hirakawa Y, Saya Y, Murakami Y, Furukawa F, Matsunaka H	Epidermal Growth Factor Inhibitor-induced Cutaneous Toxicity Improves with Moisturizers	Trends Immunother. 4(2):81-86 doi:10.24294/ti.v4.i2.1187	2020年
Inaba Y Furukawa F, Azuma S, Baba K, Taniguchi M, Murakami Y	Evaluation of the safety and usefulness of Citrus jabara fruit peel powder cream for patients with atopic dermatitis	Trends Immunother. 4(1):42-46 doi:10.24294/ti.v4.i1.1230	2020年
奥野 愛香 平川 結賀、道祖 友美子、森 野 伊知子、村上 有美、松中 浩、古川 福実	EGFR 阻害薬の皮膚障害に対するノブ® スキンクリームDの有用性評価	皮膚の科学 19(1):38-46	2020年

原 著(令和二年度和歌山県皮膚科医会医学奨励賞受賞論文)

Γ		題名	誌名・巻(号): 頁	発 行
ŀ			日本皮膚科学会雑誌	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
	古川 福実	ハンセン病をテーマとした和歌 山県立医科大学の人権教育にお ける学生レポートの解析	口本反膺怀子云雅誌 130 (13):2689-2697	2020年

分担執筆

著者	題 名	誌名・巻 (号):頁	発 行
木村 文子古川 福実	美容成分の経皮吸収促進法(普及版)ケミカルピーリング	機能性化粧品と薬剤デリバリー、 杉林 堅次、正木 仁、市橋 正光 監修 174-177	シーエムシー 出版 2020 年
古川 福実	接触皮膚炎、光線過敏症、蕁麻疹、 水疱症、乾癬、 病気とくすり 2020 基礎と実 践	薬局増刊号、 1199-1200, 1220, 1194-1195, 1196, 1197-1198	南山堂 2020年
古川 福実	アレルギーの子どもの食と栄養 「食べ物をさける」ことから「食 べて治そう」に劇的に変化	子供の食と栄養―「生きる力」 を育むために、青木 三恵子編 171 ~ 188	講談社 2020 年
高山 かおる 横関 博雄、松永 佳世子、 片山 一朗、相場 節也、 池澤 善郎、足立 厚子、 戸倉 新樹、夏秋 優、 古川 福実、矢上 晶子、 乾 重樹、池澤 優子、 相原 道子	日本皮膚科学会ガイドライン接触皮膚炎診療ガイドライン 2020		

総 説

著者	題名	誌名・巻 (号):頁	発 行
古川 福実本田 哲也、椛島 健治	マルホ皮膚科セミナー 「(座談会) 生物学的製剤の功と 罪」 (ラジオ NIKKEI 令和元年8月 29 日放送)	マルホ皮膚科セミナー内容集 No.263:4-12	2020年

雑誌・挨拶等

著者	題名	誌名・巻 (号):頁	発 行
関東 裕美 舘田 一博、古川 福実、 山本 有紀、吉住 あゆみ、 鷲崎 久美子、渡辺 麻衣子	エステティックサービスにおける健康被害の実態把握及び原因 の究明及び衛生管理に関する研究	厚生労働科学研究費補助金 (健康安全・危機管理対策総合研究事業)令和元年度総括研究報告書	2020年
関東 裕美 古川 福実、山本 有紀、 鷲崎 久美子、村上 義孝	エステティックサービスにおけ る健康被害の実態把握及び原因 の究明	厚生労働科学研究費補助金 (健康安全・危機管理対策総合研究事業) 令和元年度分担研究報告書 エステティックの施術の安全対策及び衛生管理手法の構築のための研究	2020年

著者	題 名	誌名・巻 (号):頁	発 行
古川 福実	アクアポリンを新規指標とする 皮膚損傷受傷後経過時間判定法 の樹立	科学研究費助成事業研究成果報告書 基盤研究 (C) (一般) 17 K 09274	2020年
古川 福実	IgA 血管炎	健 49 (通巻 571 号):64-67	2020年
古川 福実	水のお話―紀州和歌山と高槻	院長連盟通信 69 (600 号): 46-48	2020年
古川 福実	北野天満宮→阿武山神社→紀州 紀三井寺詣で	2018-2019 年度京都大学大学院 医学研究科皮膚科学年報 4:117-118	2020年
古川 福実	紀州和歌山と高槻の水のお話	2019-2020 年度京都大学大学院 医学研究科皮膚科学年報 5:103-105	2020年
古川 福実	病院紹介 File No.038 高槻赤十字病院	大阪府病院協会ニュース 595:20- 21	2020年
古川 福実	外用貼付剤による皮膚バリア機 能への影響 [監修] 高槻赤十字 病院 院長 古川福実	第一三共株式会社	2020年
古川 福実	仕事人田島教授と褥瘡学	和歌山県立医科大学リハビリ テーション医学講座 20 周年記 念誌 9ページ	2020年
古川 福実	和歌山県立医科大学みらい医療 推進センター開設時の思いで	和歌山県皮膚科医会会誌 13:6-8	2020年
古川 福実恒松 一郎、佐賀 昭子、江口 英希	高槻赤十字病院 第一波の総括	院長連盟通信70(601号):58-63	2020年

Web メディア

著者	題名	誌名・巻 (号):頁	発 行
古川 福実	家族性良性慢性天疱瘡(ヘイ リー・ヘイリー病)	メディカルノート https://medicalnote.jp/diseas es/%E5%AE%B6%E6%97%8F %E6%80%A7%E8%89%AF%E 6%80%A7%E6%85%A2%E6% 80%A7%E5%A4%A9%E7%96 %B1%E7%98%A1	2020年
古川 福実	蕁麻疹	メディカルノート https://medicalnote.jp/diseas es/%E8%95%81%E9%BA%BB %E7%96%B9	2020年

看護部

総 説 等

著 者	題名	誌名・巻 (号):頁	発 行
今戸 美奈子	スペシャリスト Ns が行う看護 の技 セルフマネジメントの継続を支 える看護	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 29 巻 1 号 P24-27	2020年8月

患者支援センター

著 者	題名	誌名・巻 (号):頁	発 行
原田 かおる	認知症	プチナース BOOKS 病期・発達段階の視点でみる 疾患別 看護過程 P195-214	2020年12月

《講 演》

糖尿病・内分泌・生活習慣病科 学会発表

一般演題 (口頭・ポスター)

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
金子 至寿佳 Bue Ross Agner、 西田 朋由、駒津 光久	日本人2型糖尿病患者における、ベースラインHbA1c別およびBMI別のインスリンデグルデク/リラグルチドの有効性・安全性の検討	第63回 日本糖尿病学会年次学術集会	大津市 Web開催	10月5日~ 10月16日
杉島 涼音 本橋 和也、徳本 信介、田原 裕美子、大杉 友顕、金子 至 寿佳	超高齢者におけるデュラグル チドの長期にわたる効果と安 全性の検討	第63回 日本糖尿病学会年次学術集会	大津市 Web開催	10月5日~ 10月16日

講 師

再 即	Nels Hirt	70. 44. 177. 44	BB //////	
氏 名	演題	発表場所	開催地	月日
金子 至寿佳	令和2年度 第1回学校薬剤師 部会研修会	糖尿病予防~子どものころに 身に着けたい健康教育~	京都市	4月12日
金子 至寿佳	糖尿病治療の医療連携	Diabetes WEB講演会	大 阪 Web開催	4月20日
金子 至寿佳	糖尿病関連製品ラインに関す る医学的指導および助言	PIONEER Advisory Board 2020	大 阪 Web開催	4月26日
衣斐 菜々本橋 和也、徳本 信介、大杉 友顕、田原 裕美子、金子 至寿佳	糖尿病治療の医療連携	Diabetes WEB講演会	大 阪 Web開催	8月3日
金子 至寿佳	糖尿病治療に関する講演	Changing Diabetes Forum in Osaka	大 阪 Web開催	8月27日
金子 至寿佳	糖尿病治療薬の情報提供	GLP-1 Analog Expert Meeting WEB講演会	大 阪 Web開催	10月13日
金子 至寿佳	糖尿病治療のクリニカル・イナーシャについて考える~「GLP-1受容体作動薬をはじめる」	Diabetes & Incretin Seminar in 北摂	大 阪 Web開催	10月24日
金子 至寿佳	ゾルトファイ適正使用	ゾルトファイ®配合注 Web 講演会	大 阪 Web開催	10月26日
金子 至寿佳	糖尿病の最新情報提供	Incretin Seminar	大 阪 Web開催	11月5日
金子 至寿佳	オゼンピックに関する講演	GLP-1 WEB講演会	大 阪 Web開催	11月12日
金子 至寿佳	糖尿病治療薬の適正使用推進	Teams Diabetes Conferece in 長岡	大 阪 Web開催	11月16日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
金子 至寿佳	人生100年時代を見据えて- 糖尿病と循環器病対策推進基 本計画を読み解く-	高槻市地域連携オンライン講演会	大 阪 Web開催	11月25日
金子 至寿佳	GLP-1に関する講演	GLP-1 Teams Live 講演会	大 阪 Web開催	11月27日
金子 至寿佳	糖尿病治療に関する講演	Diabete Web Meeting in kyoto	京都市 Web開催	12月12日
金子 至寿佳	メトホルミンの適正使用の推進	Metformin Web Seminar	大 阪 Web開催	12月19日
金子 至寿佳	ゾルトファイ適正使用	姫路聖マリア病院 Open Seminar	姫 路 市 Web開催	1月14日
金子 至寿佳	糖尿病の最新情報の提供	Online Incretin Seminar in 北河内	大 阪 Web開催	1月19日
金子 至寿佳	コロナ禍における糖尿病医療 と、これからのSGLT2阻害 剤の心不全治療の適正使用	第7回結果にコミットした チーム医療	大 阪 Web開催	1月28日
金子 至寿佳	健康リテラシーをつちかおう	【読売健康講座】子どもたち の未来の健康を守るには	大 阪 Web開催	2月1日
金子 至寿佳	糖尿病治療の医療連携	Diabetes WEB講演会	大 阪 Web開催	2月8日
金子 至寿佳	糖尿病医の働き方と糖尿病治 療に関する最新情報提供	Diabetes&Incretin Seminar	大 阪 Web開催	2月26日
金子 至寿佳	香川県内の医師・薬剤師に向 けた糖尿病治療知識向上	メトホルミンファーマシーセ ンター	大 阪 Web開催	3月4日
金子 至寿佳	糖尿病治療に関する講演	Teams Diabetes Conferece in Chiba	大 阪 Web開催	3月24日

座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
金子 至寿佳	SGLT2 阻害薬 11	第 63 回 日本糖尿病学会年次学術集会	大津市 Web開催	10月5日~ 10月16日
金子 至寿佳	糖尿病の最新情報提供	T2DM Online Forum	大 阪 Web開催	11月30日

緩和ケア科

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
橋本 典夫	全人的苦痛に関する緩和ケア	大阪医大附属病院緩和ケア研 修会	高槻市	2020年 10月
辻 宏明 橋本 典夫	当院における在宅緩和ケアの とりくみ	月1緩和ケア勉強会	Web 開催	2021年 3月

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
住谷 昌彦橋本 典夫	地域でがん性疼痛を支えるためのプライマリ緩和ケアの重要性	緩和ケア web セミナー	高槻市	2020年 12月

血液内科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
丹羽 諒太郎 恩田 佳幸、坂本 宗一郎、 岡田 睦実、岡野 晃、 髙橋 良一、安齋 尚之、 田嶌 政郎、小川 啓恭	化学療法抵抗性FLT3/ITD 陽性AMLに対してギルテリチ ニブによる腫瘍コントロール後 に同種移植施行しえた2症例		京都市 Web開催	2020年 10月10日 ~ 2020年 11月8日

ポスター

岡田 睦実 丹羽 諒太郎、恩田 佳幸、 坂本 宗一郎、安齋 尚之	臍帯血移植(CBT)後に発症し た移植後の食物アレルギー (TAFA)	第 43 回日本造血細胞移植学会総会	東京都	2021年 3月5日~ 2021年 3月7日
--	---	--------------------	-----	---------------------------------

消化器内科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
中森 翔平 神田 直樹、奥野 岳、 矢倉 伊織、松村 大志郎、 池田 宗弘、吉岡 拓人、 玉田 尚	大球性貧血を手掛かりに Trisomy8陽性骨髄異形成症 候群(MDS)を診断したベー チェット病(BD)の1例	第 113 回日本消化器病学会 近畿支部例会	大阪市	2020年 10月
中森 翔平 神田 直樹、奥野 岳、 矢倉 伊織、松村 大志郎、 池田 宗弘、吉岡 拓人、 玉田 尚	ステロイドと凝固第13因子 の補充が著効したIgA血管炎 の一例	日本内科学会第 230 回近畿地方会	Web 開催	2020年 12月

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
吉岡 拓人 松村 大志郎、池田 宗弘、 神田 直樹	当院における膵悪性腫瘍に対 するEUS-FNAの正診率およ び組織採取困難例の検討		大阪市	2020年 10月

呼吸器科

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
菅 理晴 康 あんよん、鳳山 絢乃、 長谷川 浩一、野溝 岳、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清、北 英夫	当科における85歳以上超高 齢者に対する胸腔鏡下肺悪性 腫瘍手術例の検討	第43回日本呼吸器內視鏡学会学術集会	旭川市 紙上開催	2020年 6月

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
今戸 美奈子 北 英夫、鳳山 絢乃、 長谷川 浩一、野溝 岳、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清	在宅酸素療法患者における災害の備えのパターンと大阪北部地震時の行動	第 60 回日本呼吸器学会総会	Web 開催	2020年 9月
野溝 岳 鳳山 絢乃、長谷川 浩一、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清、康 あんよん、 菅 理晴、北 英夫	小細胞肺癌術後再発症例の治療で免疫チェックポイント阻害薬単剤を用いた17症例の検討	第61回日本肺癌学会学術集会	岡山市	2020年11月
李野 美友子 野溝 岳、村山 恒峻、 鳳山 絢乃、長谷川 浩一、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	特異な進展を示した甲状腺未 分化癌の1例	第 230 回内科学会近畿地方会	Web 開催	2020年12 月

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
北 英夫	"呼吸不全治療の変遷 『在宅酸素、長期TPPV,長期 NPPV,長期HFNC治療の変遷』"	第30回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	京都市	2021年3月

小児科

一权供越				
氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
片山 博視 宇津野 秀夫、根本 慎太郎、 岸 勘太、津川 凌太郎、 尾崎 智康、小田中 豊、 蘆田 温子、小西 隼人	波動解析法を用いた肺動脈閉 塞度の新たな非侵襲的評価〜 超音波speckle tracking法を 用いて〜	第 56 回日本小児循環器学会	京都市	2020年 11月22日 ~ 24日
尾崎 智康 蘆田 温子、小田中 豊、 岸 勘太、片山 博視、芦田 明	鈍的な胸部打撲により失神を 来した2例	第 56 回日本小児循環器学会	京都市	2020年 11月22日 ~ 24日
岸 勘太 蘆田 温子、小田中 豊、 尾崎 智康、芦田 明、 片山 博視、小西 隼人、 根本 慎太郎	18トリソミーにおける心内 修復術に関連した死亡症例の 肺循環の特徴	第 56 回日本小児循環器学会	京都市	2020年 11月22日 ~ 24日
小田中 豊 蘆田 温子、尾崎 智康、 岸 勘太、片山 博視、 小西 隼人、根本 慎太郎、 芦田 明	拡張型心筋症(DCM)を合併した肺動脈閉鎖を伴う心室中隔欠損症(PAVSD)にCarvedilolが著効した1例	第 56 回日本小児循環器学会	京都市	2020年 11月22日 ~ 24日
中村 道子 片山 博視、田辺 敦子	当院で経験した組織球性壊死 性リンパ節炎の症例	第 11 回ポンポンフォーラム 三島小児救急医療勉強会	大 阪 Web開催	2020年 12月
中村 道子 片山 博視、奥野 愛香、 古川 福実、大関 ゆか	当院における皮膚科・小児科 合同アトピー外来の取り組み について	第 44 回小児皮膚科学会学術 大会	大 阪 Web開催	2021年 1月

消化器外科

一般口演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
鈴木 悠介 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、駕田 修史、 有馬 純、坂根 純奈	SMV血栓症を併発した膿 瘍形成性虫垂炎にInterval appendectomyが有用で あった一例	第 56 回日本腹部救急医学会 総会	名古屋市 Web開催	2020年 10月8日 ~ 2020年 11月2日
園村 純 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、サンフォード 舞子、 坂根 純奈、鈴木 悠介	急性胃拡張による胃壊死・穿 孔に対し、胃全摘にて救命し 得た1例	第82回日本臨床外科学会総会	大阪市 Web開催	2020年 10月29日 ~ 2020年 10月31日
鈴木 悠介 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、サンフォード 舞子、 坂根 純奈、園村 純	腸間膜腫瘍として切除後に診 断が確定したCastleman病 の1例	第82回日本臨床外科学会総会	大阪市 Web開催	2020年 10月29日 ~ 2020年 10月31日

ポスター

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
小林 稔弘 坂根 純奈、平松 昌子	BRCA2変異を有し、治療過程でHER2発現変化を2回呈した乳癌症例	第 28 回日本乳癌学会学術総会	名古屋市 Web開催	2020年 10月9日 ~ 2020年 10月31日
坂根 純奈 小林 稔弘、平松 昌子	実臨床下のCDK4/6阻害剤2 剤の使用経験	第 28 回日本乳癌学会学術総会	名古屋市 Web開催	2020年 10月9日 ~2020年 10月31日

座 長

氏 名		演 題	発表場所	開催地	月日
平松 昌子	ポスター	吻合法2	第74回日本食道学会学術集会	徳島市	2020年 12月10日
平松 昌子 小西 敏郎	総会特別企画OI	外科医減少に対する具体的な 戦略	第82回日本臨床外科学会総会	大阪市 Web開催	2020年 10月29日 ~ 2020年 10月31日
平松 昌子 永安 武	特別企画8	女性外科医から見た内視鏡外 科の未来への期待 【男女共 同参画企画】	第 33 回日本内視鏡外科学会 総会	横浜市	2021年3月11日

コメンテーター

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	要望演題4「その他2」	第 56 回日本腹部救急医学会総会	名古屋市 Web開催	2020年 10月8日 ~ 2020年 11月2日

CST 推進委員会・厚生労働班会議合同企画

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
七戸 俊明 伊達 洋至、平野 聡、 小林 英司、伊澤 祥光、 白川 靖博、平松 昌子	献体を使用した臨床医学研究 において,新たに医療機器開 発を行う場合の留意点	第 120 回日本外科学会定期 学術集会	東京都 "Web開催"	2020年8月15日

形成外科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
田辺 敦子 渡邉 千尋、櫛田 哲史	眼瞼・眼窩から頭蓋内に増大 した増殖性外毛根鞘性嚢腫症 例の治療経験	第38回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会	東京都	2020年 11月12日
櫛田 哲史 田辺 敦子	5 flap Z-plastyによる巻き 爪手術	第 38 回日本頭蓋顎顔面外科 学会学術集会	東京都	2020年11月12日

皮膚科

一般講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
金田 一真 黒川 晃夫、森脇 真一、 古川 福実	Narrow-band UVB 療法が 奏効した急性痘瘡状苔癬状粃 糠疹の小児例	第 113 回近畿皮膚科集談会	神戸市	2020年 7月
古川 福実 稲葉 豊、神人 正寿、 村上 能庸、吾妻 正章、 馬場 きみ江、谷口 雅彦	ジャバラの抗アレルギー作用 について	第 126 回日本皮膚科学会静岡地方会	浜松市	2020 年 7月
古川 福実 奥野 愛香、道祖 友美子、 森野 伊知子、村上 有美、 松中 浩	EGFR阻害薬の皮膚障害に対 する保湿化粧品の有用性評価	第 464 回京滋地方会田中俊 宏教授退任記念地方会	大津市	2020年 10月
久保 良美 金澤 伸雄、神人 正寿、 三木田 直哉、古川 福実、 吉原 重美、福田 啓伸、 カマーゴ カルロス	乳児期の噛み与えと生活関連 因子による革新的アレルギー 予防法の疫学研究	第 50 回日本皮膚免疫アレル ギー学会総会学術大会	高知市	2020年 12月
中村 道子 片山 博視、奥野 愛香、 大関 ゆか、古川 福実	当院における皮膚科・小児科 合同アトピー外来の取り組み について	第 44 回日本小児皮膚科学会 学術大会	大阪市	2021年 1月
矢野 翔也 奥野 愛香、古川 福実	抗PD-1抗体薬投与による多 形紅斑重症型(EM major) が出現した2例	第 484 回大阪地方会 錦織千 佳子教授退官記念地方会	神戸市	2021年3月

特別講演

氏 名	演題	発表場所	開催地	月日
古川 福実	アトピー性皮膚炎の治療 ステロイド後の新たな展開	京都府女性薬剤師会主催の研 修会	京都市	2021年 2月
古川 福実	俄か法医学者が考えた「紀州 ならでは」の褥瘡学の和	第18回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会	和歌山市	2021年 3月

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
古川 福実	新型コロナ対策	第 126 回日本皮虐科学会静岡地方会	浜松市	2020年 7月
古川 福実	COVID-19とアレルギー診療 皮膚科から	第5回日本アレルギー学会 近畿地方会	和歌山市	2021年 3月

生涯教育講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
古川 福実	Cセッション 7.日常診療でよく遭遇する皮膚疾患	2020 年度日本内科学会生涯 教育講演会	札幌市	2020年 11月

麻酔科

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
澤井 俊幸	TEEセミナー 弁膜症手術後 SAM	日本心臓血管麻酔学会第 25 回学術集会	札 幌 市 Web開催	2020年9月20日

薬剤部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
福井 美礼 橋本 典夫、金村 誠哲、 西川 亜紀子、岩井 真里絵、 通山 由香、濵武 清範、 中西 輝、小島 一晃	ヒドロモルフォン塩酸塩持続 皮下注入で注射部位反応を起 こしモルヒネ塩酸塩持続皮下 注入への変更で改善された 2 症例	第 25 回 日本緩和医療学会 学術大会	Web開催	2020年 8月
濵武 清範 小西 史子、松田 ちひろ、 野間 敏也、奥村 優介、 橋本 浩明、北 英夫、菅 理晴、 小島 一晃	免疫チェックポイント阻害剤 併用療法の有効性と安全性	第 30 回 医療薬学会年会	Web開催	20220年 9月
小島 一晃 松永 富美代、山村 裕佳子、 森川 智子、林 愛華、 松本 弘誠、小西 史子、 仲 忠士、美和 孝之	疑義照会簡素化プロトコルは 有用か?	第 30 回 医療薬学会年会	Web開催	2020年 9月
通山 由香 中西 輝、奥村 優介、 宮西 將之、仲 忠士、 美和 孝之、小島 一晃	食思不振のある患者に高カロ リー輸液を投与し低リン血症 を呈した一例	第 42 回 日本病院薬剤師会 近畿学術大会	Web開催	2021年 1月

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
濵武 清範	がん化学療法におけるレジメ ン管理	第1回 高槻赤十字病院がん 化学療法レジメン研修会	Web開催	2020年 12月
小島 一晃	高槻赤十字病院	大阪薬科大学合同説明会	Web開催	2021 年 3月

座長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月	日
小島 一晃	シンポジウム6 入退院	支援 第 42 回日本病院薬剤師会近 畿ブロック学術大会	Web開催	2021 1月	年

看護部

一般演題

氏 名	演題	発表場所	開催地	月日
今戸 美奈子 北 英夫、鳳山 絢乃、 長谷川 浩一、野溝 岳、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清	在宅酸素療法患者における災害の備えのパターンと大阪北部地震時の行動	第60回日本呼吸器学会学術講演会	Web開催	2020年9月22日
諏訪 亜希子 成相 朋子	A病院における抗がん剤を取り扱う看護師の曝露対策の実態	第 35 回 日本がん看護学会 学術集会	Web開催	2021年 2月27日 ~ 2021年 4月30日
毛利 貴子 今戸 美奈子、池田 由紀、 河田 照絵、竹川 幸恵、 本城 綾子、森 菊子、 森本 美智子	息切れマネジメント支援に関する看護師教育プログラムにおける課題-プログラム終了後のアンケート調査による検討-	第30回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	Web開催	2021年 3月19日 ~ 2021年 3月20日

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
今戸 美奈子	臨床実践と研究をつなぐ	2020年度日本赤十字看護学会 看護研究セミナー	Zoom会議	2021年3月13日

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
今戸 美奈子		第30回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	京都市	2021年3月19日

患者支援センター

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月日
原田 かおる 篠崎 千浪、長畑 多代	短期入院で手術・検査を受け る患者に認知症ケアチームが 入院直後から介入する取り組 み	日本老年看護学会第 25 回学術集会	松江市→ 誌上開催	2020年 6月
原田 かおる 川﨑 知子、工藤 ゆかり	外来での入院前支援を病棟で の退院支援に活かす取り組み	第51回 日本看護学会 - 看護 管理 - 学術集会 (分科会 急性 期看護・慢性期看護)	Web開催	2020年 11月

令和2年度 病院年報

発行日 令和4年3月

発行者 高槻赤十字病院

院長 古川 福実

〒 569-1096

高槻市阿武野一丁目1番1号

5 (072) 696-0571

編集者 企画情報課

印刷所 株式会社 一心社